

松本市文化財調査報告 No.47

松本市赤木山遺跡群Ⅱ

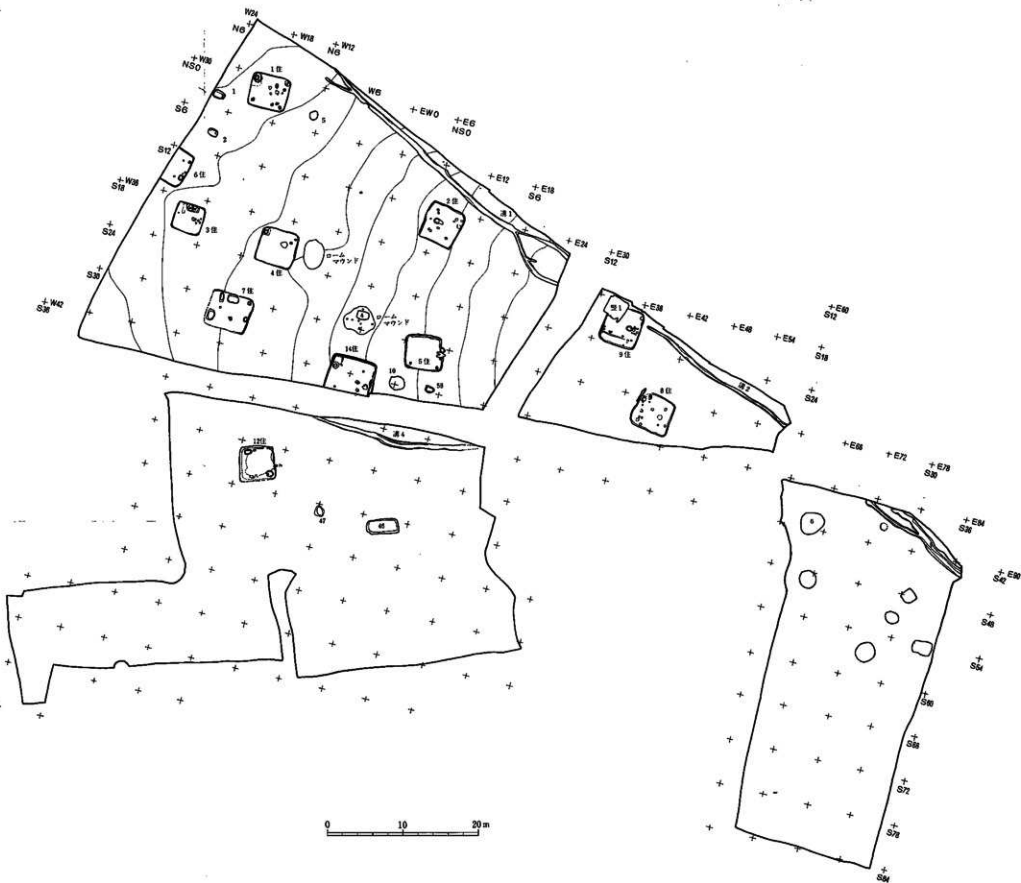
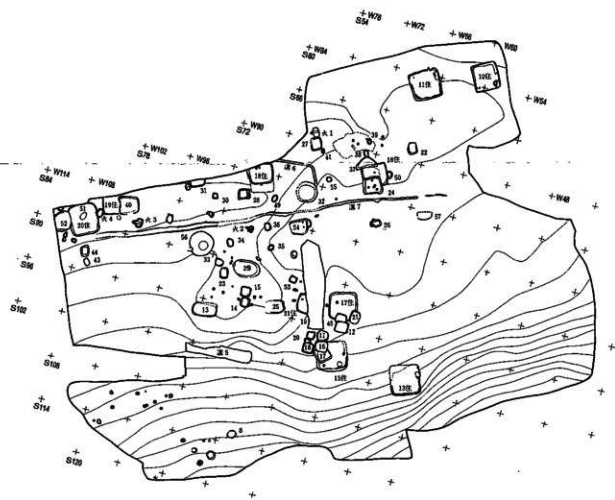
——緊急発掘調査報告書——



1987・3

長野県松本地方事務所
松本市教育委員会

石行遺跡全体図



松本市赤木山遺跡群Ⅱ

——緊急発掘調査報告書——

1987・3

長野県松本地方事務所
松本市教育委員会

序

この遺跡は昭和55年度に着工しました、県営は場整備事業小赤地区にあり、当初から埋蔵文化財の存在が確認され、その規模においても松本平で最大級の遺跡であります。今回畑地の区画整理工事の着手にあたり、県・市教育委員会の担当者と事前に調査方法等について綿密な検討をいただき、発掘調査による記録保存の方針を決定しました。

調査の実施は、松本市教育委員会で全面的に受託していただくことになりました。その結果縄文晩期の土器、石器をはじめ古墳時代の土師器、平安時代の土師器等貴重な土器、石器類が出土しました。なお古墳時代前期の集落址は、松本平でもめずらしく歴史を知るうえで貴重な資料となることと思います。

この調査が計画どおり完了できましたことは、県・市教育委員会の適切な御指導とお忙しい中、調査団として発掘調査にあられた皆様の御尽力のたまものと感謝しております。

なお遺跡発掘にあたり、5月より12月までの長期に亘り支障なく調査が行なわれましたことは寿土地改良区の役員、地元関係者のご協力とご理解によるものであり心から感謝の意を表します。

昭和62年3月

松本地方事務所長 佐藤善處

序

寿地区の南端に位置する赤木山には、赤木山遺跡群と総称される十数箇所の遺跡があり、先土器時代から近代にわたる各種の遺物を出土するところとして関心を集めておりました。ところが、昭和55年から進められている県営ほ場整備事業がこの遺跡群の周辺にも及んだため、松本市教育委員会では長野県中信土地改良事務所の依頼を受けて、昭和57年度から埋蔵文化財の発掘調査を行いました。今回の調査はその4年目にあたり、2遺跡を対象とした規模の大きいものとなりました。

発掘調査は市教委職員を中心に地元考古学研究者の先生方等で組織した調査団により、5月21日から12月6日というこれまでにない長期間にわたって実施され、多大な成果をおさめて無事終了いたしました。調査内容は本文で詳述してあるとおりですが、縄文時代の土器棄て場や、古墳時代から平安時代以降にわたる住居址、墓址などと、それらに伴う土器、石器が多数発見され、この地が古くから人々の生活の根拠地となっていたことが証明されました。特に、石行遺跡から出土した縄文時代晩期の土器、石器は、きわめて多量多種で、松本平の縄文時代から弥生時代への変化をさぐる上で今後大いに注目されるものと思われます。

今回の発掘は、記録保存とよばれ、開発のために遺跡を破壊するがその前に記録をとっておくという性格のもので、本書を残して遺跡は消え去る運命にあります。せめて、本書に記された調査結果が十分に活用され、郷土や先祖の歴史を探る一助となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、この調査にあたり多大な御理解と御協力をいただきました寿史談会、寿土地改良区、炎天の下、発掘に従事された地元の皆様に関心と敬意を表して序といたします。

昭和62年3月

松本市教育委員会教育長 中 島 俊 彦

例 言

- 1、本書は昭和60年5月21日から12月6日にわたって実施された、松本市大字寿に所在する赤木山遺跡群の内、石行遺跡、原度前遺跡の緊急発掘調査報告書である。ただし原度前遺跡は遺構・遺物の発見がなかったため、本文中で特に断りのない場合は石行遺跡の記述となっている。
- 2、本調査は県営は場整備事業に伴う事前の緊急発掘調査であり、長野県中借土地改良事務所より委託をうけ、松本市教育委員会が調査を行なったものである。
- 3、本書の構成については、各遺構の説明は挿図と表により行い、それらでは表現できない事項に限り、挿図の下段に項目別に要約して記す形をとった。また遺物についても表などで説明した他は本文で触れなかったものがある。
- 4、出土遺物は極力、図化提示に努めたが、数量が多く、一部を一覧表に譲ったものがある。
- 5、周辺遺跡の説明は、『赤木山遺跡群Ⅰ』と同様なので省略した。
- 6、提示した各遺構断面図の標高は調査地に任意に設定したBMIとの差で示した。尚、BMIの標高は海拔675.219mである。
- 7、調査の委託契約書、作業日誌等や事業の経緯を示す事務的な記録は、調査結果の提示を重視したため文章として掲載できなかったが、出土遺物および図類と共に松本市教育委員会が保管している。
- 8、本書の執筆・一覧表等作成の分担は次の通りである。

太田守夫	I	関沢 聡	Ⅱ-2-2-(2)・(3)・(4)
神澤昌二郎	Ⅱ-4-2-1(4)		Ⅱ-3-2-1(2)
竹原 学	Ⅱ-2-2-1(i)、Ⅲ-1		Ⅱ-4-2-1(2)・(3)
宇賀神敏司	Ⅱ-3-2-1(i)、Ⅲ-3	松本建速	Ⅱ-2-2-1(3)

上記以外については 直井雅尚

9、調査体制

調査団長：中島俊彦 調査担当：神澤昌二郎

調査員：太田守夫 西沢寿晃 石上剛藏 田中正治郎

協力者：青木彌志 赤羽包子 阿久澤昌子 浅田勝夫 飯田竜一 五十嵐周子 石合英子 乾博子 岩崎豊美 内山尚哉 江渡敏宏 大石英 大出六郎 大谷成基 岡野路子 奥河隆一 小口妙子 岡島八重子 上藤茂一 倉科由加理 小沢仁可 小島健一 小林敬一 小林敏男 小林美弥子 小松史子 近藤晴一 斉藤明也 酒井保久 佐々木謙司 佐藤文雄 島田忠美 白川繪實 住田祐子 瀧川長広 曾和希代子 竹内靖長 竹原学 滝沢智恵子 高橋裕保 土橋久子 土屋君子 鶴川登 徳永文和 戸塚亮 友田哲弘 内藤貴久 中垣内薫 中島新嗣 中島智朗 中野明子 中野芳治 野々山敏雄 原田啓二 藤田英博 古原人兄 細口喜則 湖内いくみ 牧藤一 松本建速 丸山愛菊 丸山更志 丸山友子 丸山誠 丸山正吾 三沢元太郎 宮坂てるみ 宮澤富美恵 向山かほる 村山正人 森光 藤星博之 山田真也 山本淳子 山本直樹 横山信七 横山保子 吉岡文 直井メガ子

目次

I 遺跡付近の自然環境	4
II 調査	
1 調査の概要	9
2 縄文時代の遺構と遺物	
1. 遺構	11
(1) 土壇	12
(2) ロームマウンド	13
(3) ビット群	14
(4) 焼土面	14
(5) 土器集中区	15
2. 遺物	
(1) 土器	16
(2) 土製品	66
(3) 石器	78
(4) 石製品	133
3 古墳時代の遺構と遺物	
1. 遺構	135
(1) 竪穴住居址	136
(2) 土壇	145
2. 遺物	
(1) 土器	146
(2) その他	153
4 平安時代およびそれ以降の遺構と遺物	
1. 遺構	163
(1) 竪穴住居址	164
(2) 土壇	173
(3) 火葬墓・墓址	180
2. 遺物	
(1) 土器	181
(2) 金属製品	185
(3) 石製品	188
(4) 銭貨	190
III 調査のまとめ	
1 縄文時代の土器について	194
2 古墳時代の遺構について	206
3 古墳時代前期の土器について	207
IV 結語	212

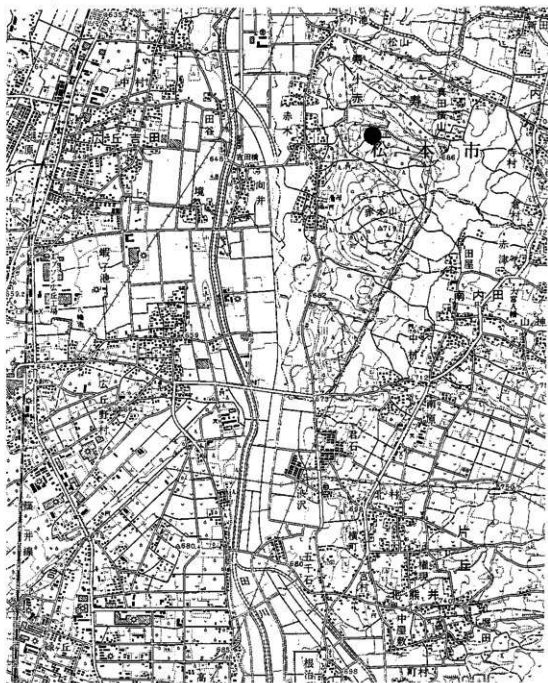
付 図 石行遺跡全体図

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置..... 3	第92図 第9号住居址143
第2図 土層断面図..... 6	第93図 第14号住居址144
第3図 周辺地形と調査範囲 8	第94図 古墳時代の土壌145
第4図 グリット設定及び遺構配置模式図.....10	第95図 古墳時代土器 (1)154
第5図 縄文時代の遺構分布.....11	} } }
第6図 縄文時代の土壌.....12	第100図 古墳時代土器 (9)162
第7図 ロームマウンド.....13	第104図 平安時代及びそれ以降の遺構分布 ...163
第8図 ビット群.....14	第106図 第5号住居址164
第9図 焼土面.....14	第108図 第10号住居址165
第10図 土器集中区分分布及び層位模式図.....15	第109図 第11号住居址166
第11図 晩期土器分類模式図.....25	第110図 第12号住居址167
第12図 第1類土器口径分布.....26	第108図 第13号住居址168
第13図 第1類土器整形方向.....26	第110図 第15号住居址169
第14図 第1類土器底部の整形.....26	第111図 第16・17号住居址170
第15図 縄文晩期土器組成表.....27	第112図 第18・19号住居址171
第16図 縄文時代土器 (1).....33	第113図 第20・21号住居址172
} } }	第114図 平安時代以降の土壌 (1)174
第48図 縄文時代土器 ③.....65	} } }
第49図 土製品 (1).....70	第119図 平安時代以降の土壌 (6)179
} } }	第120図 火葬墓、近世墓の分布180
第56図 土製品 (8).....77	第121図 平安時代土器 (1)182
第57図 石器 (1)107	} } }
} } }	第123図 平安時代土器 (3)184
第82図 石器 ②132	第124図 鉄器 (1)186
第83図 石製品134	第125図 鉄器 (2)187
第84図 古墳時代の遺構分布135	第126図 砥石189
第85図 第1号住居址136	第127図 古銭 (1)192
第86図 第2号住居址137	第128図 古銭 (2)193
第87図 第3号住居址138	第129図 針塚遺跡出土土器 (1)197
第88図 第4号住居址139	} } }
第89図 第6号住居址140	第130図 針塚遺跡出土土器 (9)205
第90図 第7号住居址141	第132図 古墳時代の住居址一覧206
第91図 第8号住居址142	

表 目 次

表1 晩期土器観察表.....28	表7 土壌一覧表173
表2 土製品一覧表.....68	表8 平安時代土器一覧表181
表3 石器一覧表.....87	表9 金属製品一覧表185
表4 石製品一覧表133	表10 砥石一覧表188
表5 古墳時代土器一覧表146	表11 銭一覧表190
表6 礫石鑑一覧表153	



1 : 25,000



第1図 遺跡の位置

I 遺跡付近の自然環境

1. 位置

石行遺跡は赤木山丘陵の中央やや北寄りの西斜面(標高675~680m)に位置している。赤木山丘陵を切る三つの河流(南洞・中洞・北洞川)と顕著な空谷及び塩沢川・小場沢川によって分けられた六つの小地形の南から四番目の小地形上にある。遺跡の北は北洞川によって切られ、南側は空谷に臨んでいる。ただこの空谷は上流への浸食が少ないため、丘陵の東側では赤木山山頂(標高719m)を含む小地形と連なっている。したがって一見同じ平坦面上の起伏と感ずる。

2. 周辺の地形

赤木山の地形と地質については、すでに松本市文化財調査報告No23、27、30、34等で述べてきたので、ここでは省略し、石行遺跡と関連をもつ周辺の事項だけ報告する。石行遺跡のある地形面は、赤木山丘陵形成の最終段階における地形である。前に述べたように、この丘陵は六つの小地形に分けられ、その最頂面は赤木山山頂を含む面(700~719m)を除き、いずれも690mである。また最高所を連ねた線はほぼ一直線で、丘陵全体の東側に片寄っている。それだけ西斜面は長く、東斜面は短い。その比は南部・中部でほぼ2:1、北部で3:1である。ここで注目されることは、前述の河流や空谷の谷頭(浸食の先端)が大体この線に並んでいることである。現在河流の谷頭は丘陵の東斜面に近づいているが、かつてはずっと西にあり、そこまで小流が曲流していた。すなわち現在の空谷の谷頭がこれを示していると考えられる。

また各小地形の最頂面には厚いローム層(波田ローム)が残存し、空谷の様子と合せる、浸食堆積を繰返した赤木山の最終地形である残丘状の地形面をうかがえる。したがって最終地形の後に働いた大きな地形形成は、西側からの現河流にみられる新しい浸食と、東側に発達した湿地性の堆積(特に横山付近に発達)である(赤木山の丘陵形成に働いた構造運動は省略)。最終地形の平坦面の起伏を地質的にみると、深さ2~3mまでの地層の状態は共通している。またこの状態は東の南内田や北熊井の県道沿い(標高710~750m)の地形の起伏とも共通している。すなわち前に述べたローム層の地域の外に、二次堆積のローム質土壌や石英閃緑岩の角礫~亜角礫を多く含むローム質土壌からなっている。ただこれらの土壌は、その当時の堆積環境により堆積の状態を幾分異にしている。

3. 石行遺跡の地形と地質

石行遺跡はこのような起伏面上にあり1・2区はその高所に、4・5区は低所(浅い谷)にのっている。この地形も形成後における土層の風化・土砂の移動により次第に状態を変えている。特に

4・5区の低所(浅い谷)は、土砂の移動により形成当初の凹地形を埋積してきている姿がわかる。高所は平坦面と緩い斜面からなり、果樹(リンゴ)や野菜の耕地に利用され、土砂の移動の供給地である。低所は極めて浅い谷で、左右からの土砂の供給により埋積され、やはり果樹や野菜の耕地となっている。谷は走向N-65°-E、南西へ傾斜20°、谷幅およそ30m、谷底までの深さ4区~50cm、5区東半~1m、5区西半~1.5mほどの凹地形である。凹地形の原形は地形面形成時のものと考えられるが、その後の土砂の移動により第2図(A)のような埋積が行なわれたものであろう。その土砂の移動の仕方は、左右の高所から低所の中心線へ向けて運ばれたものである。さらに中心線にそい下方に運ばれたものが、末端の5区に堆積されたものであることが観察される。

第2図は、高所と低所の一般的土層を示したものである。明らかに低所には付加された土層~黒色土層が存在する。今その堆積の順序をみると下部より黄土色土層(二次ローム・含角礫)、その上に黒色土層(層の下部に角礫多数)、褐色土層~黄褐色土層(層の下部に砂・細礫層)、表土となっている。

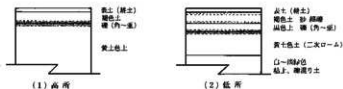
次に堆積の状況を土層ごとみていくことにする(第2図B)

褐色土層:褐色土層は部分的に赤褐色土や黄褐色土がある。表土に続く土層で、黄土色土層の風化あるいは移動したものと考えられる。黄褐色土、褐色土、黒色土、黄土色土を風乾したり、沈澱法によって粒子や色の状態をみると、すべて同じであり、最終的の沈澱物質(土)の色は共通して黄土色である。これによって色は異にしているが、黄土色土を起源とする土と考えられる。谷の中央や末端では砂質になっている。

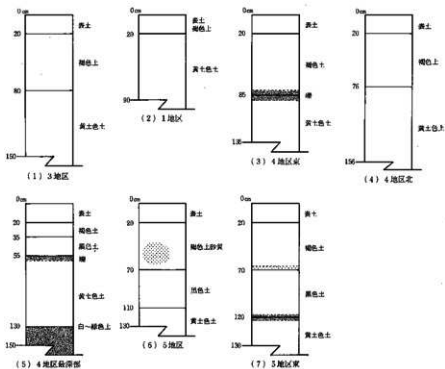
砂層:砂層(砂・細礫)の存在は谷の堆積の特徴であって、上部~表土と褐色土層の間と、下部~褐色土層と黒色土層の間の二層がみられる。この土砂の移動の原因は、風と匍行による外、降雨の影響が大きいと考えられる。地表面に降った雨は斜面に雨裂、雨溝を生じ、土層中の砂質分、細礫を洗い出し、次第に低所へ低所へ運んだことが観察される。したがって谷の下方へ行くほど雨溝の幅が広くなり、砂の堆積が厚くなっている。上層も谷の上方より砂質分が多い。5区西半の雨溝は幅3m、厚さ5~10cmわん状の堆積を示し、細砂、微砂からなり、石英閃緑岩の細礫や径3cmほどの小礫を含んでいる。堆積が乱堆積やラミナ状を示すところから、何回かの雨による流れによったものと考えられる。

黒色土層:黒色土層は前述のように斜面では薄かったり、あるいは欠いている。谷の中心線に近くなるほど厚くなり、4区では60~70cm、5区東半50cm、5区西半60cmとなっている。特に谷下方に当る5区では黒色土層の範囲も広く厚い。

黄土色土層:黄土色土層は遺跡の基底となる層である。ローム質土壌を主とした土層であるが、砂質で礫の多い部分と少ない部分さらにほとんどない部分からなる。高所では褐色土層に覆われ、低所では褐色土・砂層・黒色土・礫の堆積の下層となって存在している。二次的なロームと考えられるが、一部に風成ロームの存在があるかもしれない。



A 一般的土層の概念図



B 各地区の土層断面

第2図 土層断面図

土層中の礫：以上の土層に含まれた礫は、角礫が主で細礫に亜角礫がみられる。礫の種類は石英閃緑岩が多数で、ひん岩・緑色火山岩のホルンフェルス・礫岩、砂岩のホルンフェルスなど、いずれも鉢伏山地起源のものである。礫径は65×30cmの石英閃緑岩、30×50cmの礫岩が大きなもので15×7cmぐらいが多数である。礫岩は石英閃緑岩について多く、特に大礫が遺跡に多い。石英閃緑岩は風化して、土層中に粗砂となっているものもある。これらの礫は黄土色土層の上部、黒色土層下部に多数みられ(黒色土層を欠くところでは褐色土層下部に)、黄土色土層と黒色土層とに不整合的關係を思わせる。礫の堆積がどのような働きでなされたかは、あまりはっきりしない。ただ北部の空谷や白神場等でみられる、二次ロームの上部礫混りローム質土壌、あるいは二次ロームを挟ん

だ礫混りローム質土層からみて、赤木山の起伏の原地形をつくった風成ローム層、二次ローム（黄土色土層）の堆積を削いだ流れ、雨堀、雨溝状の働きによる礫の移動とも考えられる。その後黄土色土層の風化、表層土の移動、続いて黒色土層の生成の順を経て、さらに表層土の移動（褐色土）が行われたものと考えられる。この時黒色土層は褐色土に埋積され、雨溝と考えた下部の砂層もこの間の生成とみられる。

最下層と透水層：黄土色土層の下部は4区東で一個所しか得られなかったが、表土から約130cmの底部に白～淡緑色、礫混り（石英閃緑岩・緑色火山岩）、粘土性の土層を発見した。上記のものとは異なる、水分をもつ礫混り土層であった。このタイプの土層（地層）の発達しているのは、横山集落の東側と南側（北洞川の谷の東口）である。垂角礫とローム質土の混合土が粘土化し、白色～褐色（一部に淡緑色）、明らかに湿地性を示す土層である。南洞川などの壁面の地層でもみられたタイプであって、赤木山丘陵の透水層に当たっているように思われる。石行遺跡では湧水は現在発見されていない。土地の人は湧水はなかったが、降雨の場合4・5区が湿地になることはあったという。

ただ遺跡の南に当り、遺跡の谷（N-65°-E）が交わる、赤木山山頂の北、山頂付近より西へ下る深い空谷（N-70°-W・N-40°-W）には流水の跡がある。現在N-40°-Wの空谷の下流には小流がある。この空谷の入口にある社祠の裏には現在湧水があり、さらに約5～10m上のリンゴ園の草むら中に、湧水性と思われる湿地が存在する。この湧水は標高670mで遺跡の4・5区と標高が同じである。一方湿地は標高およそ680mで、遺跡の4区東部と標高が同じである。遺跡と湧水・湿地との距離はいずれも60～70mに過ぎない。現在湧水・湿地付近とも地層の露頭がないため、確かなことは言えないが、前記の不透水層が存在していると考えられる

4. 遺跡と地形

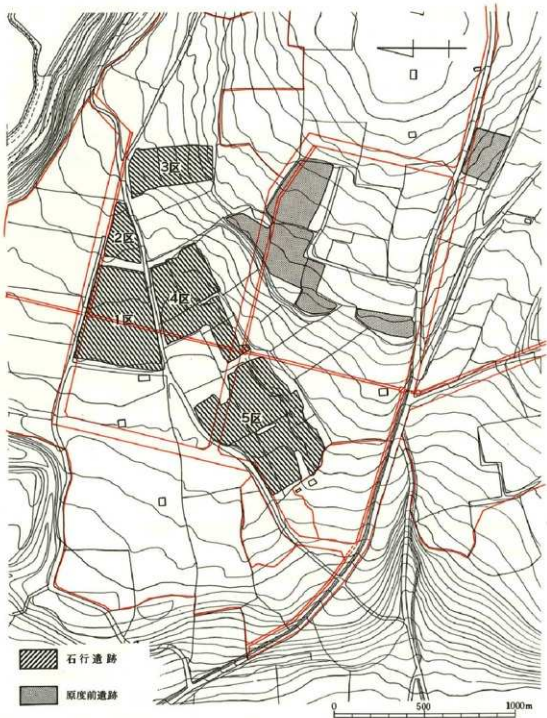
次に遺構の時期と遺構の地形面の土層との関係をみると次のようである。

縄文時代—3区 褐色土層・黄土色土層

古墳時代—1・2区 薄い褐色土層・黄土色土層

平安時代—4・5区 褐色土層・黒色土層・黄土色土層、砂層、礫

これを地形面の起伏からみると縄文・古墳時代の遺構は起伏の高所に、平安時代の遺構は低所（谷）にあることになる。一方縄文・古墳時代の遺構は褐色土層、黄土色土層に、平安時代の遺構は黒色土層に切りこんでいる。中世の遺構は黒色土層上に留まっているという。この状況から考えられることは、大まかにみて黒色土層は、縄文時代以降古墳時代頃までに形成され、平安時代にはすでに安定していたことになる。したがって縄文時代や古墳時代には南の谷にある湧水や流水の水を利用するほか、この谷の水も利用した可能性もあり、黒色土層の生成もこのあたりにあるかもしれない。黒色土層はその後褐色土により埋没土となったことになる。



第3圖 周辺地形と調査範囲

Ⅱ 調 査

1 調査の概要

調査地は松本市大字寿小赤2270番地の一帯に位置し、調査前の地目は畑地と果樹園であった。地形的にはこの周辺は先述の様に浅谷状の部分と小高い丘陵が連なっており、石行遺跡はこの浅谷状部分を中心に、また原度前遺跡はその南方の高地を対象として調査を実施した(第3図)。面積は石行遺跡8000m²、原度前遺跡3000m²である。

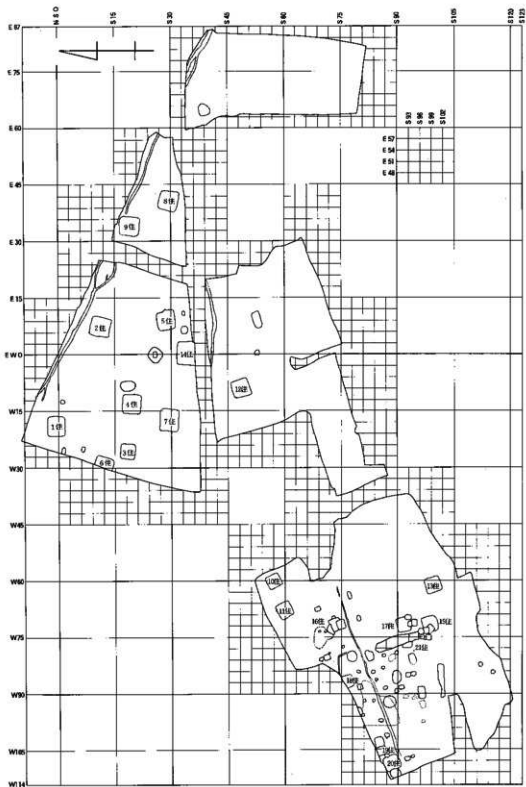
石行遺跡の調査は重機による表土剥ぎの後、人力により遺構の検出を行ない、確認できた遺構から順次掘り下げを進めた。

ただ4・5区については、浅谷状地形の底部にあたるため、表土下に厚い黒色土が形成されており、しかも、この層中に平安時代以降の遺構が掘り込まれていた。このため測量用の3×3mのグリッドを用いて、遺構の有無を確認しながら人力で慎重に掘り下げた。調査中の労力の大半はこの作業に費やされた。測量は1区北端に設けた基準点から3m間隔のラインを南北と東西に順次掘り出して調査地全体をおおった3m方眼により簡易な遠り方測量を行った。

原度前遺跡の調査は、遺構検出の結果、遺構の存在が認められなかったため、今回の調査地は遺跡の範囲から若干はずれるものと判断しその段階で打ち切った。本文において特に断りのない場合はすべて石行遺跡での成果を指している。

石行遺跡における調査成果の概要は次の通りである。発見された遺構は、縄文時代のものでは土壇5基、ローマウンド2基、ピット群1ヶ所、焼土面1ヶ所、晩期土器集中区7ヶ所、古墳時代のものでは竪穴住居址9軒、土壇4、平安時代およびそれ以降のものでは竪穴住居址12軒、土壇46基、火葬基4基、墓址17基である。この他層位的にみて溝7本も平安時代以降のものであろう。

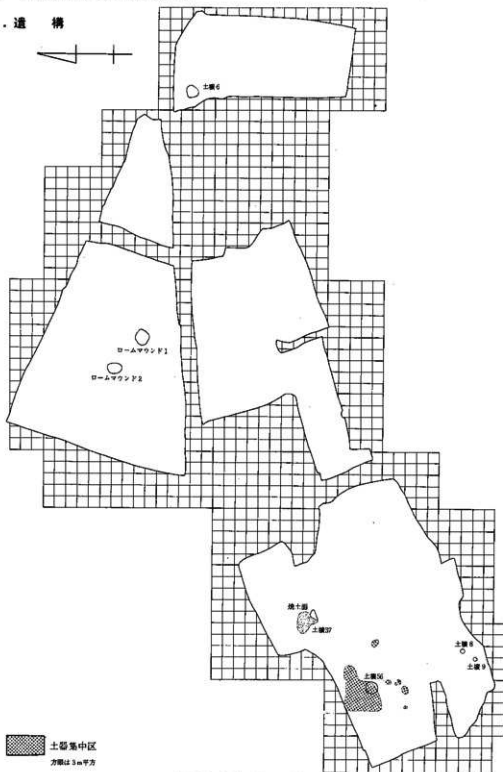
これらの遺構に伴い、あるいは検出面、遺物包含層から出土した遺物は、多量の縄文晩期土器・石器・土製品・石製品・古墳時代土器・平安時代土器・鉄器・および銭貨である。以上のうちで特に注目すべきは第1に、縄文時代晩期の土器が大量に廃棄されていた土器集中区の発見があげられる。土器は晩期末葉のもので、整理用コンテナ100箱に及ぶその膨大な量は該期土器の多様性をあますところなく示していた。またこれらの土器に混じって、石鏡250本、打製石斧500本余が出土したのも驚異である。次に注目すべきものとしては古墳時代の竪穴住居址とそこから出土した土器があげられる。これらは古墳時代前期のもので、今まで松本平においてこの時期の資料がとりわけ僅少だったため、今回の発見は当地方における古墳時代前期の遺構や遺物の様相を探るのに格好の材料を提供したといえよう。



第4図 石行遺跡グリット設定及び遺構配置模式図

2 縄文時代の遺構と遺物

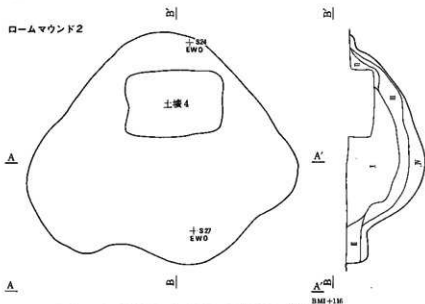
1. 遺 構



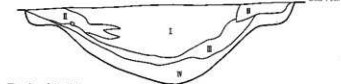
第5図 縄文時代の遺構分布

(2) ロームマウンド

ロームマウンド2

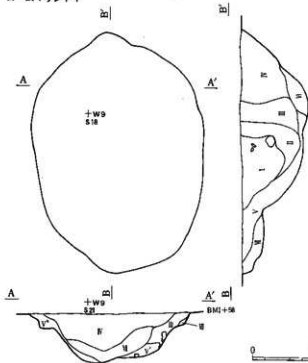


ロームマウンド1



- I. 黄土
- II. 暗褐色土 (少礫少量混入)
- III. 暗褐色土
- IV. 暗黄褐色土 (ロームブロック少量混入)

ロームマウンド1

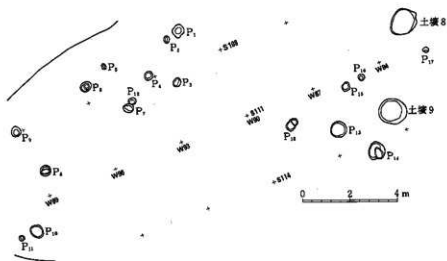


- I. 黄土
- II. 暗褐色土 (少礫少量混入)
- III. 暗褐色土 (ロームブロック少量混入)
- IV. 暗褐色土
- V. 暗黄褐色土 (ロームブロック混入)
- VI. 暗黄褐色土 (ロームブロック、黒色土混入)
- VII. 暗黄褐色土 (ロームブロック、暗褐色土混入)
- VIII. 暗褐色土

0 1 2 m

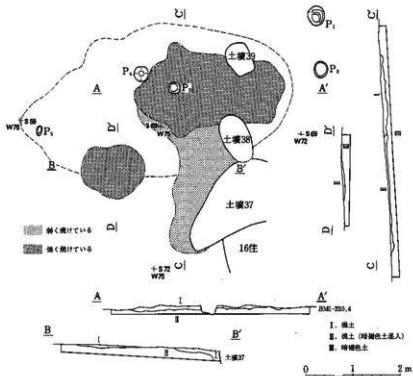
第7図 ロームマウンド

(3) ビット群



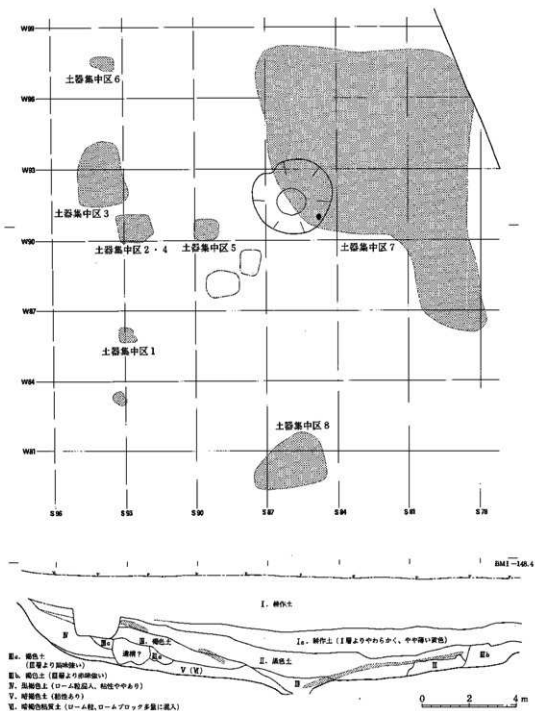
第8図 ビット群

(4) 焼土面



第9図 焼土面

(5) 土器集中区



第10図 土器集中区分布及び層位模式図

2. 遺物

(1) 土器

今回出土の縄文土器はおよそコンテナ100箱近くあり、その殆どが晩期末葉である。短期間の整理ではその全てを扱う事は不可能で、実際に整理出来たのは土壌・焼土面等の遺構と、土器集中区下面出土の土器のみ1000点あまりである。

①縄文時代晩期土器

ここでは基本的な分類・観察点を記し、詳細は分類観察表に譲る。尚分類に当たっては御社宮可遺跡・梨久保遺跡等を参考とした⁽¹⁾。

i) 第1類土器

本類は浮線網状文を指標とする土器群で、晩期土器の9割以上を占める。

器種 浅鉢・甕・深鉢・壺・舟形土器・耳付筒形土器・注口土器⁽²⁾がある。(第11図)甕・深鉢は本類の主体であり、舟形土器・耳付筒形土器・注口土器はごく僅かで、特殊な器種といえる。

類型 各器種は文様帯の有り方に共通性があり、同じ基準で類型が設定できる。(A~D)しかし器種によっては固有の類型も存在する。

浅鉢 A~Dがある。Aは浮線網状文等の文様帯を有する。Bは隆線帯・沈線帯を有するもので、B1彫刻による隆線帯・B2陰刻による沈線帯(彫刻的)・B3非彫刻的な沈線帯に細分できる。Cは無文のものを一括する。Dは非彫刻的な沈線帯により文様帯をおくもので、1点のみ見られた。

A~Dには口外帯を有するものと有さないものがあり、前者をA~D、後者をA'~D'とする。

甕 浅鉢と同様にA~Cの類型があるが、Dは見られない。口外帯をもつものをA~C、ないものをA'~C'とする。

深鉢 甕と同様、A~C・A'~C'が存在する。

壺 A~Eがある。A~Cは他器種と同様である。Eは無文の壺のうち、口縁端部を外方に屈曲させるか、突帯を付加するもので、大型品が多い。突帯は1条の場合と2条の場合があり、それぞれE1、E2とする。壺Dは僅かに存在する。

その他 舟形土器・耳付筒形土器はいずれも無文で、上記の分類には当てはまらない。注口土器は体部不明である。

浅鉢・甕・深鉢・壺については口縁部の有り方にいくつかの形があり、a~fで表示する。いずれも口外帯をもたないものである。(第11図)aは単純な口縁で、貼付をするものも含む。bは端部上方にのびる突起をもつもの。cは端面或いは端部側面に圧痕を連続させるものである。圧痕はなんらかの工具を使ったものが多い⁽³⁾。dは端部を外側に肥厚させ、玉縁状にするもの、eは口縁を外側に折り返して肥厚させるものである。d・eは深鉢にのみ認められる技法である。

口外帯の有無については、第11図に示した特徴を備えるものを有とした。口端側面を肥厚させる

か口端面を外側に向け、面取りをするものである。いずれも刻目や貼付を施すが、沈線と組合せるものも多く存在する。

器形 各器種ともいくつかの器形を含んでいるが、器形の把握できるものが少なく、口頸部の形態により区分せざるを得なかった。(第11図)

浅鉢 1～6の器形がある。1は浅く皿状に開くもの。2は外傾する口縁部を有し、3は口縁部が直立的か、内傾している。4は口縁部が外傾するか直立し、肩が張る。5は強く外反する口縁部に、肩の張る体部が取り付く。口縁部内面には弱い稜が走る。6は平面形が楕円形を呈するものである。

壺 肩が段をなして張り、上下で整形を変えるものを一括する。口頸部破片の中には深鉢と區別できないものもあり、多少の誤差を含む。

1は口頸部が外傾又は外反し、口径が体部径を上回るもの。体部には張りをもつものと、肩部以下直線的に収束するもの等がある。2は口頸部が直立又は内傾して立ち上り、体部径が口径と等しいか上回るもの。3は口縁部が直線的に外傾して開き、肩は張らずゆるく開き、体部中央かやや上方で最大径となるもの。全体に細長い器形となる。

深鉢 肩が張らないものを一括する。1口縁部が外傾又は外反するもの。2直立する口縁部をもつもの。3やや内湾する口縁部を有する。4は口縁部が強く外反し、頸部でくびれるものとする。1・2が主体で、3・4は少ない。

壺 1～4があるが、体部は不明である。1は壺を細身にした形態で、肩に段をもつ。2は肩の張る体部から屈曲して口頸部が取り付くもので、2a口頸部が外傾・外反するもの。2b直立するもの。2c内傾する口頸部をもつものに細分される。底部は口径に比してかなり小さく、体部上位に最大径をとる。3は短く直立又はくびれる口縁部に外開する体部が取り付く、無頸壺形。4は体部よりくびれながらカーブを描いて収束し、外反して開く口縁部をのせるものである。

舟形土器 小破片が出土したのみだが、類例に従えば¹⁰カヌー形をしたプロボーションをとる。

耳付筒形土器 ゆるく外傾して開く円筒状の体部を呈する小形品である。口縁及び体部下位に縦方向に穿孔を施した耳が取り付く。

注口土器 形態不明である。注口は斜めに取り付くようである。

口径 実測資料のうち、浅鉢・壺・深鉢・壺について口径の分布をグラフ化した。(第12図)容量は未計測のため、御社宮司遺跡報告と対比して見てゆく。

浅鉢 10～40cmに分布する。15～20cmが主体で、30cm以上は少ない。小形10～20cm・中形20～30cm・大形30cm以上とすると、小形1～2ℓ・中形2～5ℓ・大形は5ℓ以上と推察される。

壺 15～25cmを小形・25～30cmを中形・35～45cmを大形・50cm以上を特大とする。小形は2～10ℓ・中形は10～30ℓ・大形30ℓ以上と推定され、超大形は不明だが50ℓ以上はあろう¹⁰⁾。

深鉢 15～20cmを中心に5～50cmに分布する。壺と同じく小形・中形・大形に分ける。容量は

壺と同じか、やや下回ると思われる。

壺 3~45cmに分布する。10cm未満のものを小形とするが、3~5 cmのものはミニチュアかもしれない。10~20cmのものは一般的で、中形とする。25cmを超える大形のもの、壺Eに限られる。

口縁部・底部の形態と手法 口縁部の形態は、浅鉢・甕・深鉢とも御社宮可遺跡でみられた各形態が存在する。浅鉢はa 1がA・Cに多く、a 2はCに見られる。bはA~Cの器形5に固有の形態であり、dは浅鉢Aに1点認められたのみである。

甕・深鉢もa 1~eまでみられる。このうちb 1は口外帯を有するものに固有である。

底部の形態は詳細に観察をしていないが、浅鉢にはa 1~a 3が認められる。浅鉢A・C 5にはa 3が多いようである。甕・深鉢はa・bが多い。壺は底部不明のものが多いが、甕と同様の形態(とりわけb)のものと、小形品に限って丸底や浅鉢のa 2が認められる。

整形の技法 各器種とも、基本的にケズリ・ナデ・ミガキ・細密条痕により整形を行っている。

浅鉢 内外面ともに横方向のケズリを行い、後にミガキを加える。ミガキは横方向又はラセン状に施す。浅鉢Aには徹底して行われるが、Cにはミガキ不十分でケズリ痕を残すものも多い。底部はケズリにより造りだし、さらにミガキをかけている。

甕 外面の整形は基本的に、①ケズリ②ナデ・細密条痕等③ミガキ・ナデ・底部及び底部付近のケズリの順に行う。

ケズリは大部分の個体に認められ、その方向には規則性がある。体部下位は縦位(下→上)、中央では斜位(右下→左上)、体部上位・口頸部は横位(右→左)に行う。

ナデの方向は縦位から斜位が多く、ケズリの方向とはほぼ一致させる。

細密条痕は肩部以下に行われ、その方向には規則性がある。(後述)また、器体を数段に分割して整形するのを常とする。原体ははっきり捉えられるものは少ないが、幅5~25mm(10~15mmが主体)、1 cm当たりの条数は3~4本を中心として1.8~8本までみられる。中には条間隔がばらつくものや、明瞭な条を示さず、土師器の板ナデに似たものもある。(11, 147等)逆に櫛歯状に条を深く刻むものも認められる。(深鉢C'cに顕著)

細密条痕の他に、棒或いはヘラ状の工具により施す、「整わない条痕」も少数存在し、(81, 153, 293)又櫛状具によると思われるものも見られた。(35, 151等)この他少数だが縄文や燃糸文を細密条痕の代わりに施すものも見られる。

ミガキは仕上げの整形として行われる。比較的多くの個体に見られるが、精粗に差がある。一般に口頸部では丁寧で、下半部では雑になる。細密条痕やナデとともに、その方向には規則性がある。

底部付近は最後にケズリを行い、形を整えている。

内面の整形も外面と同様、①ケズリ②ナデ・ミガキの順に行われるが、外面より徹底されず雑なものが多い。ケズリやナデは体部では斜位(右下→左上)、口頸部では横方向(右→左)に施す。

深鉢 基本的には甕の肩部以下の整形と同じである。細密条痕は甕と比べ、条間の大きなものが多い。仕上げのミガキを外面に施すものは、小形のものを除き少ない。

壺 全体像の把握が困難なため不明な点が多い。どの器形においても、口頭部は基本的に①横方向のケズリ②横方向のナデ・ミガキを行う。ミガキ・ナデは甕・深鉢より丁寧である。体部の整形も甕・深鉢同様細密条痕を施すものや、ナデ・ミガキを加えるものが多い。(小形品)

その他の器種 舟形土器はケズリ・ナデにより整形する。耳付筒形土器は雑なナデで仕上げる。注口土器は体部は不明で、注口部はミガキ・細密条痕を用いる。

甕・深鉢の整形方向には規則性があることを述べた。御社宮司遺跡では3類型が示されているが、本遺跡ではそのうちA型とB型が認められた。集計結果を第13図に示す。数量的な問題は厳密には問えないが、おおむね傾向は把握できよう。

整形の方向A型(縦位→斜位→横位)には細密条痕を施すものよりも、ナデ・ミガキで仕上げるものの方が多く、逆にB型(縦位)には細密条痕を施すものが多い。これは甕・深鉢とも同じ傾向にある。全体的にはA型・B型ともほぼ同数存在する。御社宮司遺跡でもこの傾向は同じである。

壺の整形方向については不明なものが多いが、ケズリ・ナデ・ミガキともに縦位に加えるものが多いようである。しかし例外的に、底部からラセン状に施すものもあり、(247)第3類土器と関連するかもしれない。

ここで底部の整形について再度触れておく。甕・深鉢・壺の底面には網代・木葉等の圧痕を残すものも多く見られ、また圧痕をケズリ・ナデ・ミガキで消すものも多数ある。第14図に全底部の観察結果を示した。数量を見ると、圧痕の有無にかかわらず、最終的にナデ・ミガキを加えるものが過半数を占める。基本的には体部の整形と同じく、ケズリの後ナデ・ミガキを行うものと言えよう。圧痕は網代が大半であり、その編み方は多様である。今回は詳細に観察できなかった。

施文技法(第11図) 類型Aは器面を陽刻し表出させる「細隆線」⁽⁶⁾により網状文を描く。技法的には工具による彫刻の後、彫刻面やその周囲にミガキを加えることにより細い隆線を造り出す。本遺跡出土例では彫刻面のミガキが徹底されないうえに、細隆線の上端面は幅広である。また彫刻面のミガキが省かれる例もある。(36)類型B1・B2も基本的には同様の手法により施文される⁽⁷⁾。B1の場合は、隆線帯両側の器面も削り取り浮き出させるが、B2では省略される。またB2は沈線幅(B1でいう隆線の間隔に相当)が大きく、浅い。沈線内はナデを行い、陰刻の痕跡を消している。沈線間にはミガキを施すものも多く、沈線内両側線にも及んでいる。B2はB1の省略形と言えそうで、本遺跡では顕著に見られる。B3はへら状の工具による沈線帯で、一般的に幅が狭く深い。沈線内はミガキ・ナデを施すことはなく、沈線間も未処理のものが多いいわゆる「幅狭沈線」⁽⁸⁾か、それに近似するものと考えられる。

文様モチーフ 浅鉢 浅鉢Aの浮線文は、量の少なさに加え、小片のためモチーフの不明なものが多い。判明するものを御社宮司報告に従い分類した結果、網状文Aのモチーフb~dが確認できた。

モチーフbではb1・b4又はその変形、モチーフcはc1・c2、そしてモチーフdでは区画線を有するd1・d2がある。量的に比較できないが、モチーフdが多いようだ。

浅鉢Dは1点しかなく、モチーフの具体像はつかめない。浮線文のモチーフとは異なるようだ。

壺・深鉢 Aは2点あり、網状文Aのモチーフaに近似した構図をとるものが見られる。(348) 73は肩部に隆線帯をおくもので、隆線間を連繋している。同様の手法はB1にもみられ、刻目をいれたこぶ状の貼付をする。

壺体部の文様は分類に当たって考慮しなかったが、いわゆる雷文を施文するものがある。工具は幅の狭い板状のもの・櫛状具・ヘラ状具があり、施文法も直線をジグザグに繋ぐものと、S字状に蛇行させるものがある。その他、壺Dと関連するが、ヘラ状の工具による細い沈線を集合させ、三角形の構図を連ねたり雷文を描くものが少量ある。

壺 浮線文はモチーフb7が1点ある。B1・2の文様は壺と変わらないが、口頸部全体に多条の沈線帯をおくものが少数見られる。Dは頸部～肩部に文様帯をもち、三角形の構図を描く。

その他 特殊な文様として刺突による施文がある。刺突文は土偶に多く見られる施文法であるが、稀に土器にも使用されるようだ。基本的には刺突を一定の幅に集合させた帯を用い、絵画様の構図を描く。全体像の把握できるものはない。壺・深鉢もしくは壺に認められる⁽⁹⁾。

本類の土器には少数ながら、赤色塗彩するものが認められる。特に浅鉢の内面に多いが、壺や壺にも見られる塗料の材質については不明であるが、全て焼成後に塗っている。

その他、浅鉢・壺・壺・深鉢には穿孔が認められる。浅鉢・壺の場合は口縁下にあり、焼成前に刺突穿孔しているものが多い⁽¹⁰⁾。当初から意図された穿孔といえる。壺・深鉢は口縁部付近のものに加え、体部に穿孔するものも認められる。多くは焼成前乾燥段階に回転穿孔しており、孔より1～2cmのところを破断面が縦方向に走る。200は破断面に沿い、口縁下3.3cm・11.4cmに2孔を外側より穿つ。口縁寄りのものは焼成後回転穿孔を行い、他方は焼成前乾燥段階に回転穿孔をする。さらに特記すべきこととして、焼成前に破断面とその内外側縁に粘土を塗っている。特に内面側には、指で塗付けミガキを加えた痕跡が生々しく残る。おそらく土器整形後の乾燥段階に口縁部に亀裂が入り、粘土を塗って接合、下方の孔を穿って補修孔とした。さらに焼成後にもう1孔設けたものと推察される。縄文時代の各期を通して見られる穿孔、いわゆる補修孔の意味を示す稀有な例と言えよう⁽¹¹⁾。

ii) 第2類土器

体部に沈線による大柄の渦文を数段に配し、無頸壺形を呈する類を一括する。

器種 無頸あるいは短頸の壺形のみ認められる⁽¹²⁾。

類型 分類は第1類浅鉢に準ずる。文様帯を有するAのみ認められ、口外帯と同様、口端部に三角形の貼付文を有するものをA、ないものをA'とした。

器形 器形の判明する個体は少ないが、口縁部の形態により、1口縁部が内傾する無頸壺形、2口

縁部が短くくびれて直立する短頸壺形に分けられそうだ。体部は両者とも肩が丸く張り、径の小さな底部が取り付く。(第11図)

口端部は1・2とも、端面を水平に広く造り出し、沈線を配する。従って御社宮司報告の端部形態c 1・c 2とは異なる。底部はb 1形が認められる。

整形技法 外面の整形は、ナデ・ハケ状工具による整形・ミガキによる。第1類に一般的なケズリは行わず、指で押さえた後ナデやハケ状工具により整える。従って器面の凹凸は完全には消されず、器厚も一定しない。ハケ状工具は条が細かく、細密条度よりもハケ目に近い痕跡を残す。ミガキは肩部以上の文様帯に施されるが、ほとんど加えないものもある。下半部は仕上げのナデ・ミガキ等徹底されないものが多い。底部は削り取りを行い、若干上げ底にするものがある。

内面の整形も外面と同様だが、一層凹凸や輪痕が顕著である。259は内面下半部を中心に爪形(半円形)の圧痕が多数残される。おそらく外面調整の際に当てた爪によると思われるが、或いは工具かもしれない。

整形方向のわかるものは1点のみである。(259)外面は肩部以下が縦位、口頸部は横位に加える
胎土 本類の胎土は白色の砂粒がやや目立ち、色調も灰色系統を示す、第1類とは異なる傾向を示す。整形技法・器形・施文も第1類には見られないものである。

文様 文様帯は大まかに口頸部文様帯と体部文様帯に分けられる。

口頸部文様帯には2者が認められた。類型Aは口頸部外面に粘土帯を貼付し、三角形の連続文を彫刻、さらに無文帯をおいて肩部にレンズ状の付帯文をおく。A'は肩部にやはりレンズ状付帯文をおくが、口縁部外面は沈線帯を設けている。両者とも1例ずつしか確認していないが、Aはミガキが徹底され、付帯文も彫刻的であるのに対し、A'は徹底されず、沈線・付帯文とも非彫刻的かつ立体感を失っている。

体部文様帯は、各個体ともよく似た構図をとる。3～4条の沈線帯により2段前後に区画された内部には、非彫刻的な沈線による大柄の渦文・円文が配される。渦文は2単位を連結して1対とするようだ。沈線帯・渦文に囲まれた三角形の空白部は、器面を彫刻しくぼめるが、雑で徹底しない。

iii) 第3類土器

貝殻条度及び「東海系胎土」⁽¹⁴⁾に表徴される土器群である。

器種 壺・甕・鉢がある。さらに細分でき、類型とした。

類型 分類は第1・2類と観点を変え、器形により類型を設定した⁽¹⁴⁾。甕A～C・壺A～C・鉢がある。さらに細分できる要素をもつが、個体数が少ないので考慮しない。(第11図)

甕 Aは直立又は外傾する口縁部を有する。Bは内湾、Cは外反する。

壺 Aは口縁部が直立するか、ゆるく外反するものを一括した。最も多く見られる類である。Bは頸部がしまり、強く外反する口縁部となるもの。Cは無頸壺で、口縁部は内側に折り返す。

鉢 1点のみで、口縁部の形態から鉢としたが、異なる可能性もある。口縁部が内湾して開く。

体部の器形は不明なものが多いが、壺の場合肩が張るものが多いようだ

胎土 いわゆる「東海系胎土」の特徴を示し、石英・長石等の粗粒を多く混入する。素地の質には軟質で脆いものと、密でしまるものがあるが厳密に区別はできない。380は明らかに第1類の胎土だが、器形・整形等は本類の特徴をもつ。

色調は明黄褐色～茶褐色を呈するものが一般的である。

整形の技法 基本的には①器体内外のナデ②外面の条痕の順に整形する。

ナデは押さえの後行われ、工具の圧痕を残すものもある。ケズリは行われず、従って器表の砂粒は沈められず、器厚も一定しない。口端部は強くナデをし、上向きの端面を造る。端面はややくぼむものもある。(壺A・B・壺A) また、端部は丸くおさめるものも存在する。(壺A・B) 内面のナデは横位ないし斜位に加える。

外面調整は、大半が貝殻による条痕を施すが、櫛状工具や半割竹管状の工具によるものや、一部又は全体をナデて仕上げるものも僅かにある。原体には条の密なもの、幅広のものがあり、壺Bに前者が多いようだ。同一原体でも引き方により条の太さが変わるようであり、壺の下半部では粗く、上半部では細目に引く。

外面整形の方向は、壺の場合下半部では左上がり斜位(ラセン状)に下→上へ施し、体部最大径以上では水平かやや左上がりに整形する。壺には口頸部だけ条痕を省くものも存在する。(65)貝殻条痕は原則として外面の整形手法であるが、少数の個体には内面にも施すものがある。(379)

底部の形態は壺・甕ともに小径でやや突出し、不安定である。底面中央部は若干くぼませる。

文様 口縁部の突帯と条痕文のパラエティーについて触れておく。

壺口縁下の突帯は殆どが1条で、いずれも端部直下に設ける。断面形は三角形を呈し、刻目を入れる。刻目にはへら状工具を縦に押し付けるもの(62・272)・条痕と同一の原体を用いるもの(260・422)・指によると思われるもの(373)があるが、中には二枚貝の背面を押し付けるものがある。(377・465・471) この種に限って口端部は丸く、突帯も低く丸い。壺Bでは突帯は下向きに付く。

2条以上の突帯を付すものは3点しか認められない。379は3条有するもので、指?による押さえを行う。164は断面形がF字状に突帯を取り付け、推定4単位耳状に大きく突出する突起を付す。

壺・甕のとりわけ上半部に、縦方向の羽状構図をもつ貝殻ないし櫛状工具による条痕や、波状文を施すものが少数ある。波状文は壺肩部に見られ、羽状条痕とともに文様帯を形成している。(467) 口縁部の形態は不明であるが、おそらく類型Cとなろう。壺Cにも羽状条痕が認められ、口縁直下より施される。波状文・羽状条痕ともに右→左に施文される。第1類胎土の380も同様である。

iv) 各類土器の組成 (第15図)

各類の土器について、最も出土量の多かった土器集中区7を例にとり、土器組成の算出を行った。方法は口縁部の破片数によったが、細片が多いため誤差を含む。

結果は全体では、第2・3類は3%にも満たず、極めて少ない。第1類においては壺・深鉢が75%

を占め、壺・浅鉢は僅かである。

器種別に見ると、各類ともA（浮線文）は無に等しく、B（とりわけB1）も僅かである点が指摘できよう。主体となるC（無文）も、大半がC'で占められ、最も主体的な土器といえる。

v) 各類土器の位置づけ

第1類土器はおおむね水I式の特徴を備えているが、浮線文が僅かで、口外帯も少ない点水遺跡や御社宮可遺跡と異なる。逆に甕3・深鉢4のような器形や、C'c類の存在が目立つ。水II式の特徴に似たものも（D類等）僅かだが認められる。

第2類土器は水I式や樞王式に客体的に存在する。本遺跡出土のものは整形・施文等やや省略傾向にある。

第3類土器は大半が搬入と思われるが、地域の限定はできない。多くは樞王式の特徴を備えると思われるが、羽状条痕や波状文を施す水神平式の特徴もある。特に在地で模倣したらしいものが存在する点、注意される。

以上の点を総合すれば、本遺跡の土器群は水I式の終末段階のものが中心で、少数次の段階のものを含むものと言えよう。条痕文系土器との並行関係もおおむね上記の通りと言える。

第1類土器は従って2時期に分離できる可能性をもつが、大半は無文の甕・深鉢であり、その作業は困難と言わざるを得ない。量的にも水I式以後のものは少ないと思われる。

②その他の土器

i) 土壇6

縄文中期～晩期の土器が出土している。このうち図示できたものは4点である。

2・4は後期前葉の土器で、1は粗製の深鉢である。口縁端部は内側に若干折り曲げ肥厚させる。外面の整形は横位のケズリのち同方向にナゲを行う。内面は横位のナゲ整形である。胎土は粗く茶褐色を呈する。4は注口土器の破片で、大きく集約する体部の上端を短く折返し、外傾する面を取る。把手は1対になると思われ、板状の粘土を楕円形に貼付する。上端には溝文を施した突起を設ける。注口は把手下端より取り付くが接合部より欠損する。整形は雑なミガキを行い、胎土はやや粗い。茶褐色を呈する。

1・5は晩期後半の土器である。1は浅鉢C'aで、器形は2に属する。内外面ともケズリの後ミガキを行う。5は深鉢又は甕B2'aで、外面口縁下に2条、内面に1条の細目の沈線をおく。内外面ケズリの後横位にナゲを行う。1は基本的に土器集中区のものと思われない。5は内面に沈線文を有する唯一のもので、水I式前半に位置づけられよう。

ii) ロームマウンド2

晩期土器が1点ある。3は甕口縁部～肩部の大形の破片で、丸く張る肩部に短く外反する口縁部が取り付く。外面は無文で横方向にナゲ仕上げする。内面はナゲの後口縁下に2条の太い沈線文を引き、再び周囲をナゲる。本土器の器形・施文は佐野遺跡の資料中に見られ、佐野II式に比定でき

よう¹⁵⁾。

iii) 土器集中区

ここでは第1～3類土器の規格から外れたものを一括する。300は台付の皿形土器になろうか、接合部の破片である。脚部外面には三叉文モチーフの磨消縄文が施文される。縄文は無節Jの原体を横位に転がす。三叉文は全容が不明だが、陰刻された沈線により描かれる。胎土は砂粒を含むものの良好で、内外面十分なミガキがなされる。脚部内面もケズリの後ミガキを行うが、外面より雑である。佐野I式に比定される土器と思われる。

472・473は弥生時代中期前半のもので、深鉢の口縁部・体部破片である。口縁直下には楕円の波状文・直線文が左→右に施文される。口縁端部内面には2本1対のヘラによる刻目が加えられる。

註1 本稿での分類は基本的に百瀬長秀氏の考え方を踏襲しているが、筆者の浅学無知により誤解も多々生じていると思われる。その点についてお詫びするとともに、誤り御表示頂いたことに対し、謝意を申し上げます。また、下記の方々にも有益な教示を頂いた。

石川日出志 石黒立人 桑畑良 吉沢英利 大森義一 神村達 鈴木博己 (五十音順 敬希時)

2 耳付筒形土器・注口土器はこれまで認識のされなかったものである。前者は文島羽川遺跡に1点あるが、注口土器については初見である。

3 百瀬長秀氏が文献の中で「藤原田尻」手法としたものも多く認められる。前による押圧の可能性を指摘されているが、本遺跡出土例のには、小さく深い圧痕もあり、多くは工具を用いているようだ。

4 脚部宮町遺跡(文献4)など。

5 脚部宮町遺跡では極大形のみみられない。本遺跡では残存の良好なものもあり、数も多い。口徑計測の誤差を考慮しても、確實に存在するとしてよいだろう。

6 文献1

7 百瀬長秀氏は両者を一括して楕円としたが(文献5)、ここでは誤差が多く、時間的な問題を勘案して区別した。

8 文献5

9 外面の整形：ガキ・総密条痕両者に見られる。

10 築地が柔らかい段階に施す。

11 石川日出志氏の教示によれば、新潟県村尻遺跡でも底部の亀裂に粘土を詰めるものがあるという。

12 形質的には無節型・短線型といえるが、形質としてよくわからない。

13 文献10

14 文献8の分類を用いた。

15 文献9によった。

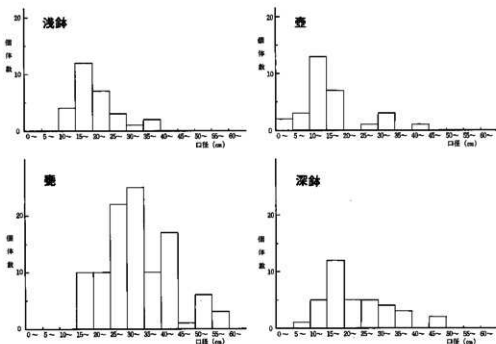
参考文献(本文・考察で参考としたもの)

- 1 桑塚光一 『水道跡の調査とその研究』『石器時代』9 1969
- 2 鈴木博己 『中部地方における弥生式土器の成立過程』『環遊』34-4 1982
- 3 石川日出志 『中部地方以西の縄文時代晩期磨消縄文土器』『環遊』37-4 1985
- 4 百瀬長秀氏 『脚部宮町遺跡』『長野県中央部縄文文化財包蔵地発掘調査報告書』茅野市その5 1982
- 5 百瀬長秀 『縄文時代晩期末～弥生時代中期初葉土器の分類と検討』『聖久保遺跡』1986
- 6 百瀬長秀 『浮城文系土器の変遷と分布』『歴史学』14-2 1986
- 7 鎌口昇一他 『長野県松本市女島羽川遺跡緊急発掘調査報告書』1972
- 8 愛知考古学談話会 『縄文文化をめぐる諸問題 資料編1』1985
- 9 桑塚光一 『佐野 長野県考古学会研究報告書3』1967
- 10 神村達他 『十二の遺跡』『長野県中央部縄文文化財包蔵地発掘調査報告書 諏訪市その4』1975

第1類土器				
浅鉢	甕	深鉢	甕	舟形土器
1	1	1	1	舟形土器 C
2				
3	2	2	2	耳付甕形土器
4				
5	3	3	3	注口土器
6				
第2類土器		第3類土器		
1	2	深	甕	鉢
		A	A	
		B	B	
		C	C	

口外帯	口外帯類	
浮線文(A)・隆線帯(B1)	沈線帯(B2)	沈線帯(B3)
<p>①隆線 ②ニガキ</p> <p>ナゲ ニガキ</p> <p>隆線 ニガキ</p>	<p>①隆線 ②ナゲ ③ニガキ</p> <p>ナゲ ナゲ・ニガキ</p> <p>ニガキ ナゲ ニガキ</p>	<p>①凸凹調整 ②沈線隆文</p>

第11図 晩期土器分類模式図



第12図 第1類土器口径分布

整形方向	A		B	
整形	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ+細密条痕等	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ+細密条痕等
壺	25	16	4	24
深鉢	6	7	6	12
合計	31	23	10	36
	54		46	

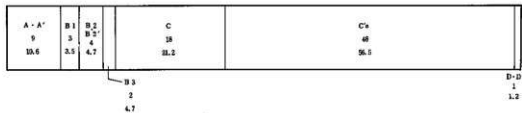
第13図 第1類土器整形方向

圧痕のまま			圧痕→ケズリ			圧痕→(ケズリ)→ナデ・ミガキ			ケズリ	(ケズリ) + ナデ ミガキ
網代	木葉	その他	網代	木葉	その他	網代	木葉	その他		
56	25	4	5	1		35	10		33 (11.2%)	125 (42.6%)
85 (28.9%)			6 (2.0%)			45 (15.3%)				

第14図 第1類土器底部の整形

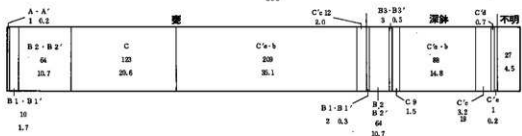
浅 鉢

85



壺・深鉢

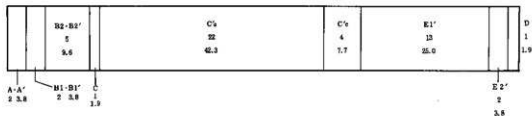
596



壺 52

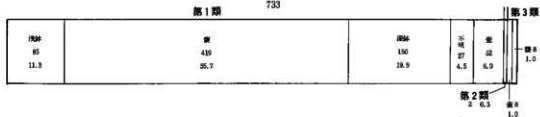
壺

52



総 合

733



第15図 縄文晩期土器組成表

表1 晩期土器観察表

第1類土器

器型	器形	器形	文様	使用痕等	図
洗鉢 A・A'	○2-5があり、4・5が主体となる。 ○2(341)・3(396・339・467)・ 4(40・342)・5(6・36・93・330・ 344)	○一般に丁寧なイガキ仕上げをする。	○細線織による網状文を付す。 ○モチーフb(40・93・339)・C(86・344) d(6・36・68)・b又はd(303・341) (モチーフは脚土官町遺跡報告参照) ○細線織は市販のものが多い。302は細線織 間の矩形面がV字状を呈し、工具痕が残る。 2面に分けるか、先端V字状の工具を用い るか。(仕上のイガキは見えていない)	○93は内面に赤色塗 彩をする。	6・36 40・68 93・96 330・339 341 342-344 467
洗鉢 B1・B1' B3・B3'	○50がほとんどである。 ○2(7)・5(28・92・106・319・ 345)	○A・A'と同様して丁寧なイガキ を施す。B3・B3'はやや粗で ある。 ○106は内外面ナデ(仕上げ)する。	○B1は3条前後の隆線が一般的と思われ る。38は2本の隆線を確定4ヶ所で結実させ る。319は趾付による隆線と考えられる。 ○B2はB1同様赤糸のもの、430のような 口縁下に太い1条の隆線を付すものがあり、 後者はC型型部後の変化かもしれない。 ○B3は3条前後の細い隆線を施す。洗 鉢には粘土のほみだしが残る。	○B1(318・319・ 345・38) B2(7・456) B3(92・105)	7・38 92・105 318・319 345・456
洗鉢 C・C'	○Cは25のみ認められる。 ○C'は23・50が主体となる。 ○1(71・98・296)・2(259・484) 3(87・94・95・103・106・282) 4(66・280)・5(72・97・99・101・ 102・106・110)・6(85) ○67は隆線の小さい皿状口縁と なる。	○Cは丁寧にイガキを加える。 ○C'は横ナズリ一筋イガキが基 本だが、イガキ不足でナズリ感を 残すものや、ナデ仕上げのもの が多い。 ○器部5の底面はナズリイガキ により仕上げられるものが多いよう だ。 ○器形1・2の輪郭は内傾する面を もつものが多い。	○Cの口外側は刻目付ナズリ付を行う。 (110) ○C'は一旦口縁下に粗い隆線をおくよ うに見えるが、器部4-5の変化と考えたい。	○282・296は赤色塗 彩をする。 ○111は内面に黒 色ナズリ状の付着物 が認められる。	34・66 67・71 72・94 95 97-99 101-104 106-108 110・111 282・296
洗鉢 D'	○2のみ存在。	○内外面ナデ整形する。 ○脚部に丸くおさめる。	○口縁は小突起を付す。 ○口縁に凸って2条、さらに下に3条の浅 い隆線の下部に深い、下向きの隆線を連続 させる。浮線文とはモチーフが異なる。	○282は赤色塗 彩をする。	346
甕 A・A'	○1・2がある。 ○348は甕の可能性もある。 ○1(73)・2(348)	○口縁部は内外面全面に横イガキ を行う。	○348は器部にモチーフAに近似する網状 文を施す。 ○73は器部と肩部に文様をもち、 ○器部はB2'と同じ構成をとる。 ○隆線は連続しない大横の隆線を設け、 肩部位か上下を連続させる。 ○肩以下は細密条痕を施す。器形方向はA である。	○73は口縁下に網状 筋の凹線穿孔を行な う。 ○全面にヌスが付 着する。	73 348
甕 B1・B1'	○16が多い。 ○1(44・61・141・293)・2(13・ 75) ○142・293は肩の傾りが弱い。	○口縁部内面はイガキが多い。 ○器部外面はイガキ・細密条痕の ほか、ヘラ削整形による整わな い条痕がある。(293) ○整形方向はAが多い。	○隆線は口縁下に1条付す。 83・282は隆線をイガキし、口縁からも やや下がった位置に設ける。 44・142は仕上げナデを行い、取付位置も 隆部に近い。B2の隆線1条のものに近い。	○12は口外側下に網 状凹線穿孔する。 ○142・293は外面に ヌスが付着する。	12・44 83・142 293
甕 B2・B2'	○1・2に属される。 212少ない(B2に属れる5) ○114・112は肩の傾りが弱い。 ○114口縁に比して器高が小さ い器形となろう。 ○294は隆線の可能性もある。 ○1(11・33・39・70・74・77・ 78・112・116・125)・2(34・75・ 117)	○口縁部はナデないイガキで仕 上げる。 ○器部以下はナデイガキ仕上げ が多い。 ○整形方向A(14・49・116・117) ・B(11・70・78・112) ○117の器部条痕は右下一定上、右 一左に高すようである。	○117は口外側に隆線を引く。 ○B2は趾付を器部にもつものが多く(▲) 小突起も見られる。 ○沈線は116(11・14・119)のものは少なく、 2-3条(とりわけ2条)が大横である。117 は多条の隆線を引く。沈線は細く、側面 であるが、内面はイガキをする。 ○1条の沈線は以下の器部が消失されずB1 とは区別される。 ○11の器部には3本の隆線により、大横の筋 文が3条位施される。 ○347は器部よりやや下って隆線を施し、フ ズ状の趾付を行う。	○大平の土器に、ヌ スの付着が見られ る。 74・75 77・78 112・116 119・117 125・347	
甕 C	○1のみ認められる。 ○器部の傾りは緩して斜く、116 は底が消失、器形を歪みさせて 口部を区切る。 ○113は口縁に比して器高が小 さい。	○口縁部はナデイガキにより仕 上げる。 ○器部の整形はナデイガキと細 密条痕があり、後者が主体となる。 ○ナデイガキ(9・57・109・124・ 129・132・139・150)・細密条痕(16・	○口外側には4條ある。 ○口外側を肥厚させ取捨するもの ・沈線有(114・115・120・123・127・128・ 131・138・297) ・沈線無(16・57・76・109・113・122・ 124・125・132・134・136・137・146・150)	○ほとんどの器部に ヌスの付着が見られ る。 109 113-115 118・120 122-124	

図型	図形	条件	文庫	使用図書	図
		76・113・114・123・126-128) ○彫形方向はA・B型が見られ、後者はすべて細密糸織を調す。 ○A(9・109・114・123・124・127・128・131) B(42・76・98・134・160・185・192・199・272・341) ○細密糸織には糸が不規則で、縞模様になるものがある。(76)	○は縞面を肥厚させ、縞幅の小さい状態をなすもの(9・294) ○口端を外方に向け面をとるもの(118・130・138)		126-132 134 136-139 146・150 267・294
裏 C'a	○16が計的多数を占め、2-341 わずかである。 ○2(21・25・83・105・157・267・ 168・178)・3(79・160・274) ○1・2には両面の縞が消失しか かったものがある(13・144・ 149・152・155・176・286)。特に 286は基本的に縞糸の彫形と 実らず、口端部に糸織を及ばさ ない点に縞の名織をとどめる。	○口端部はナデ・イガキを施し、 前者が多い。 ○体部の彫形はCと同様である。 ○ナデ・イガキ(13・21・25・79・ 83・121・144・148・149・152・ 156・158・160・162・164・168・ 176・276) ○縞糸織(16・45・59・90・91・ 135・140・141・147・154・155・ 163・174・274) 縞状具?による糸織(131) ○彫形方向 A(13・25・79・83・135・140・144・ 149・152・154・180・188・176) B(10・21・45・59・80・141・147・ 153・163・270・274・288)	○は縞部の彫形は、彫形1には外反気味に丸 くおさめるものが多い。2は水中かやや外傾 する面をもつ。3には両者がある。 ○口外側の退化と思われる彫付が少い認め られる。彫付には正度を付すものが多い。 (8・10・21・25・59・80・135・143・149・ 151・155)彫形3には認められない。 ○10は両部に原文の一画と思われる沈線が 基される。	○多くの縞部の外面 にはススの付着が見 られる。 ○45は口端部外面と 内面に赤色糸織を施 す。 ○10は両部に原文の一画と思われる沈線が 基される。	8・10・13 21・25 37・45 58・59 79・90 93・91 121・135 140・141 143-145 147-149 151-158 160・162 163-168 174・178 270・274 288
裏 C'b	○1が多い。C・C'aと変わらない。	○C・C'aと同様である。 ○ナデ・イガキ(133・174・178・ 186) ○縞糸織(177) ○彫形方向はAが認められる。 ○174・178は比較的丁寧なイガキ を行う。	○小突起は2者がある。 小突起に正度を付すもの(174・175・178) しないもの(133・177・ 180)	○他と同様。ススの 付着が見られる。	133・174 175・177 178・180
裏 C'c	○1が認められる。	○口端部は内外面ナデを行う。 181・189は体部もナデで仕上げ る。	○正度の付く位置には2者がある。 185は端部に行い、他はは端部面に加え る。 ○正度はハビキ工具を用いる。46は正度の 中央に爪形の痕跡がある。「口縁部厚織も手 織」である。工具を用いるようだ。	○ススの付着が 185・189に見られる。	46・181 185・189
縞糸 B1・B1' B3・B3'	○全部糸の別開するものは少な い。1・2が認められる。 ○1(35・188・350・392・393・ 464) 2(183・252・355)	○口端部はナデ・イガキを行う。 B3にはナデのみ認められる ○体部の彫形は不明である。183は ナデの後ナデを行うが、細かい 糸を有する原糸を用いている。縞 糸織とナデの中間的なあり方であ る。	○B1は252の1点のみで、口縁下に1本の縞 線を掘削する。縫線の上にヘラ状工具によ る刻目が付される。 ○B2は2者がある。 ○口縁下に3糸前後の沈線が付すもの (351・350・352) ○1糸の太く浅い沈線が付すもの (180) 前者は沈線内をイガキ、後者はナデで仕 上げる。 ○B3は口縁下に4糸前後、ヘラ状工具によ る沈線を調す。(186・355・464) 186は口端外面にコブ状に突出する彫付 をする。 314は小突起を削け、端部に刻目を加える (B3'c)	○B3は外面にスス が付着する。	183・186 260・306 351-353 355・464
縞糸 C・C'a	○1・2のみ存在する。 ○1(19・20・29・42・52・81・ 90・173・179・187・275・276・ 450) 2(36・41・169-172・182・188・ 194) ○36・171・172・188は両部にお わずかな数を有するが、裏とは区 別した。	○ナデ・イガキによるものと、縞 糸織によるもの大別される。 ○ナデ・イガキ(19・20・29・41・ 52・169-171・179-187・188-275) 縞糸織(36・42・81・90・173・ 182・194・276・356・450) ○彫形方向は、Aはナデ・イガ キ以上に法は測定される。(29・ 171・172・179)Bには両者がある	○Cは276の1点である。小突起、縞部は面 取りをし、突起上に刻目を入れた。	○ススの付着する個 体が多い。	19・20 29・30 41・42 52・81 90 169-172 179・182 187・188 194・275

群 型	器 形	器 形	文 様	使用状況	図
	<ul style="list-style-type: none"> ○276は小形で浅い鉢形を呈する。 ○296はクニヤム土器か。 	<ul style="list-style-type: none"> が、小形品はナゲ・イガキが多い。(30・41・42・50・81・90・169・173・182・187・188・194・275・278・356・490) ○Bのうち42・90・182・194・356は口縁直下まで赤道が及び、他は肩方向にナゲ溝を呈する。 			356・450
器 形 C・C	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2・46あり、2が大半を占める。 ○1(199・201)・2(202・203・209・215・217)・4(35) ○263は小形品。 ○4は頸3線彫Cに形制が似る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○器形はすべて細密赤道等による。(203はナゲ) ○器形方向も全てA型である。 ○赤道線体はこの類に属して最大なものも多く、頸状に近い風貌を呈す。 ○25は明らかに頸状工具によると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部の圧痕はヘラ状の工具によると思われる風貌を呈す。307は口縁部圧痕4手組である。全て上向きに頸部に属す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○184はススの付着が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 35・196 202-203 209 215-217
器 形 C'd	<ul style="list-style-type: none"> ○424の1点のみ存在する。 ○形制は頸3線彫A又はBに似る。(頸3線にすべきか) 	<ul style="list-style-type: none"> ○内外器ナゲ形される。外器のナゲは短く、凹凸がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部は肥厚し、外側は玉縁状に突出する。幅広い両面を有している。 		424
器 形 C'e	<ul style="list-style-type: none"> ○225の1点のみ存在し、器形は1に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部は折り返して肥厚させ、外側には縦位に筋状文を付す。 ○体部は密な細密赤道を呈す。器形方向はA型である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部には圧痕を数ヶ所付す連続させている。 ○ケチーフは胴状文AのB7である。 ○体部は鐘形蓋を嵌めたような器形で大柄S字状の肩文を施す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁より斜めに生じた硬断面に起因し、焼成前、焼成後の回転穿孔を行っている。 	225
器 A・A'	<ul style="list-style-type: none"> ○190・205・304の3点がある。 ○190・304は器形1。205は不明だが、おそらく1であろう 	<ul style="list-style-type: none"> ○190・205は口縁部イガキを行う。 ○190の体部は縦方向の細密赤道を呈す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○205は胴状文を胴部に施す。 ○ケチーフは胴状文AのB7である。 ○190・304は肩部に筋線をもち、304は頸部間に縦状の筋状文を加える。 		<ul style="list-style-type: none"> 190 205 304
器 B1・B2 B3・B'	<ul style="list-style-type: none"> ○器形122を主体とする。 ○2(46・195・199・296・297・302)・3(197) ○2には肩部の開きの強いもの(195・199)がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部は、197・295は縦方向、他は横方向にイガキもしくはナゲ調整を行う。 ○体部は195・199・295を抜き不明である。195は縦方向のイガキを肩部に付し、199は縦方向に細密赤道を呈す。295は体部下半は縦方向ケチーフ、上半は横方向ナゲを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○B2は沈線の有り方に2型がある。46・197・295は頸B2と同様。口縁下に太極の浅い沈線1条引き、内部をナゲす。199・302は口縁部全面にやや粗目の沈線を10本前後引くもので、平坦部の断面を呈す。沈線内外はナゲを行うが、器土のみ出しは完全には消されない。 ○B3は器部にヘラ状工具による細い沈線を3-4条引く。297は口縁下に太極1本の沈線を施し、内部をナゲす。口縁部の沈線の粗さはB2となっている。 ○口外帯は46を除きもない。(B')197はB'8で、他は4条筋状付を行う。B'8の285・297は工具による圧痕をそれぞれ頸部、口縁部に連続させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○295は外面にススの付着が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 46・195 197・199 296・297 302
器 C・C'	<ul style="list-style-type: none"> ○12・4・6があるが口縁部の破片のみでは判別が難しいものが多い。大まかに以下のように分類されるが、1・2については判別が曖昧である。 1(43・195・288)・2(18・46・82・191・192・205・210・213・277・301)・3(17・207・298)・6(299) ○288は丸底を呈する。196は筒形部の口縁部であろう。 ○205・301は球状の突起を有する小形品だが、変の特徴を呈している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部は193・239を除き、横位イガキ・ナゲを行う。イガキが主体となる。193は縦方向イガキ・239は工具によるナゲを行う。 ○体部は、205・210・301が横位ないし斜位イガキ・ナゲ。239・288は縦方向の細密赤道を呈す。268は上半は上下、下半は下→上に属している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○268は頸部に突帯を付し、上部にヘラ先?により斜交文を連続させる。(196も同じか?) ○口外帯(43)は小粒状帯をめぐらす。 ○C'は3点ある。26・183は口縁外部に粘土帯を付し、ヘラ又はロビによる押圧を加える。191は境目外側に、浅いコビないしヘラの押圧を呈す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○48・196・205・268は口縁下に鋭角状突帯を行う。 ○193・232・298には赤色塗彩が認められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 17・18 43・48 82・191 192・196 205・207 210-213 230・277 298・301
器 D	<ul style="list-style-type: none"> ○369は口縁部欠損し、器形不明である。口縁部は深くくびれ、体部はゆるく開いて張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外側に丁寧な仕上げ、ナゲ-筋状文→イガキの順に行われる。 ○内面もナゲ→イガキで、頸部以上は丁寧なイガキをする。 ○他の壺類に対し薄す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部・体部の境界にはヘラ指の横交沈線を1条付し、その上下に並して文様帯をおく。口縁部、肩部とも三角形のケチーフを先の細い工具により掘く。(右→左へ) ○沈線は非彫形的だが、いわゆる「編み沈線」とは異なるようだ。 		369

類型	形 形	製 形	文 様	使用段階	図
底 E1	○2のみみられる。 ○254は局部以上が大きく集約する。 ○255・366はE2かもしれない。 ○体部は不明だが、裏の張る長大なものとなる。	○口縁部は内外面ナゲ仕上をする。 ○口縁部以上は長大な鋸歯状を縦位に付する。背には施さない。 ○本底の土縁は他と比べてかなり厚い。	○端部側面の突帯には圧痕等が施される。(裏の口縁部と同様) ■単純で列目・貼付を数単位付すもの。(251・253) ■圧痕を連続させるもの(51・254) 圧痕は深く深く、51は口縁部圧痕も手前の痕跡を残す。 ○背面には突帯を付すものが見られる。(51・254・366)突帯上には口縁部と同手前の圧痕が施される。	51 251~253	
底 E2	○E1と同じ特徴を有す。	○E1と同じ整形手法による。	○口縁部には圧痕を施す突帯が必ず付加されるが、口縁部側面には突帯を省略する場合がある。(367) ○圧痕は364・365は工具を用い、174はロビ押えとも知られない。	363 364 367	
舟形 土縁	○352は小片だが、湖比古河遺跡 報告書P92No415と同様な形跡となる。	○穴ケズリ・ナゲの後、羅くナゲを行う。	○無文		302
耳付舟 形土縁	○261・346がある。 ○346はやや舟形し、336より僅 の大きいものとなる。	○穴ケズリ・ナゲにより整形される が、雑である。 ○把手は平行形の断面を呈し、羅 くナゲ仕上げる。 ○穿孔は線状工具により、縦位に 行われる。	○349は前尖する沈線(非彫刻的な沈線)が 施される。	○穿孔部の使用によ る磨耗等は見られな い。	271 340
体部の 破片	○311・323・331・357~360・371・ 421・463・468・469は蓋・保鉢、 337・354・365・366は蓋の破片 と考えられる。 ○354は無蓋の蓋(3)となるか。 ○337・365は蓋と思われるが第 1~第3層に当てはまらないもの かもしれない。	○421・468は蓋文である。421は蓋 口と同手法の、細いヘラ柄により ジグザグに施文、468は線状工具を 5字状に引く。 ○311は断面文を縦位に施す。 ○323は広く太い隆線(貼付)によ る歯縁を体部に施し、ヘラによる 刻みを入れる。(蓋体部) ○333・357は列文文により輪縁 の横溝を施す。 ○371は蓋AかB1になるものか、 列目を付した隆線より彫刻的な沈 線が施される。	○358・360・463は蓋Dの手法により三角形 の横溝が施されるが、彫形は不明である。 念入りにダイヤが行われる。359は横溝が施 されるが、両手による。 ○366は369と似た彫形となるものか、太く 浅い沈線文が施される。 ○337は内面にヘラ柄の細い沈線が施され、 365は端部に列目を付す。	○469は蓋・保鉢の体 部破片だが、部分的 に赤色彫形がなされ る。	
穿孔	○414・415・418・439は蓋口縁 付近の穿孔。 ○417・419は蓋体部である。 ○420は保鉢、416・460は沈線 である。	■蓋および419は全て突起前に 施す穿孔する。 ○460は突起前に刺突穿孔する。			414~420 450・460
底面	○59・69・47・151・204・206・ 208・223・231・240は底面と 考えられるが、あるいは小形の 保鉢を含むかもしれない。 ○他は蓋・保鉢と思われる。	○底面は本文で述べた各種がある。 ○大平の器体は外側面を縦方向に ケズリ、形を整えているが、49・ 86・222・229・240・241は行わず、 鋸歯状等が下層まで及ぶ。 ○50・69・204・206・208は沈線の 技法により底面を作り出す。 ○体部下位の彫形は、蓋・保鉢の 場合おむね彫形の方角A・Bの 特徴を示す。	○439は蓋文の一部とみられる蓋文をもつ。	○内面は保鉢の刺帯 や、炭化物の付着が 見られる。 ○外面は二次火熱の ため灰色。磨面処理 をおこなっているもの が多い。	
底面 の彫形	○28・47・229・284・476は彫代 圧痕のまま未調整である。 ○475は中央部を若干ナゲ削し、 802にガケ落す。	○119はケズリを行う。 ○229・263は木葉圧痕をとどめる。			28・47 85・119 225・229 263・284 475・476

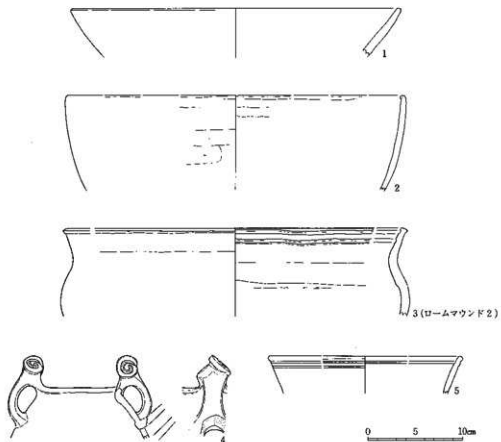
第2類土器

器名	器形	特徴	文様	使用痕等	図
A・A'	<p>○1・2があるが、判明するものは256・259の2点のみである。</p> <p>○1・2とも適用は水平に広くとり、沈線文は1条付加する。</p>	<p>○内外面ケズリは行わず、ナデで仕上げたものが多い。</p> <p>○259は内外面にハケ状の細かい条が走り、何らかの工具を用いて整形する。内側は下半部を中心に爪?の圧痕が多数残される。</p> <p>○口縁部の沈線帯・レンズ状付帯文は259はメダカがほとんどなされず、薄な仕上りをみせる。116は逆に最長して行う。</p> <p>○腹して再手である</p>	<p>○口縁部</p> <p>○A(256)は口縁側面に筋上帯を貼付し、三角形を連続させるモチーフを施す。A'は滑らかな沈線帯(3条)をおく。</p> <p>○A・A'ともに、器部は無文帯をおき、肩部にレンズ状付帯文を貼付により施す。(259)</p> <p>○器部は沈線帯により器部2段前後に区画し、内面に沈線による幾何文を施すのを通例とする。(非典型的な沈線)</p> <p>○305は3条の沈線を山形に連続させ、木の葉状のモチーフを描く。</p>		<p>256・259</p> <p>305・303</p> <p>370・372</p> <p>374・376</p> <p>63</p>

第3類土器

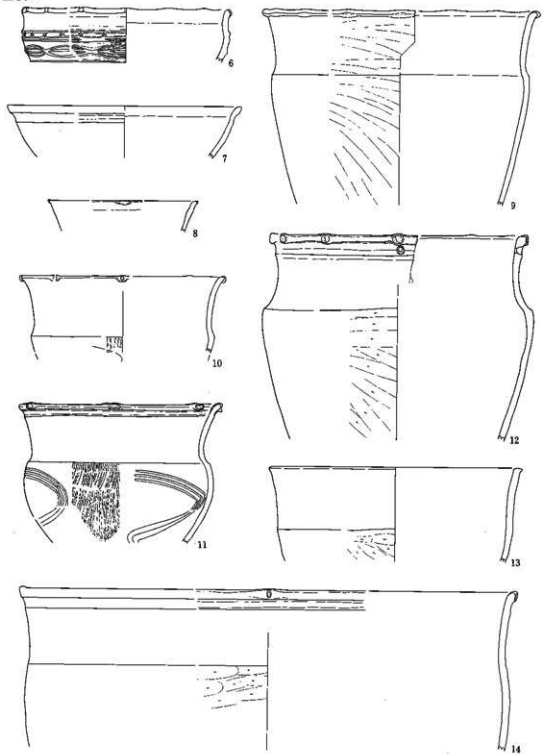
器名	器形	特徴	文様	使用痕等	図
歌	<p>○口縁はまっすぐに直立・外傾するもの(62・257・266・373・422)ゆるく外傾するもの(262・377・465・470)がある。A2(378・379)は外傾する。</p> <p>○縁部は取取りをするものが一般的だが、丸くおさめるものがある。(377・465・470)</p>	<p>○口縁及び内面はヨコ方向のナデを行う。外側は突帯以下を横ないしやや左上より左へ貝殻条痕を施す。</p> <p>○379は口縁内面に横位の貝殻条痕を施す。</p> <p>○378は突帯以下の整形は貝殻条痕か?</p>	<p>○突帯は断面三角形を呈し、へら・条痕厚保・メドにより押圧する。押圧は深く、接ぎ部近くまで行う。</p> <p>○377・465・470は断面丸く低い突帯下に二枚貝背面により圧痕を加える。</p> <p>○A2のうち378は突帯は断面下字状に高く貼付し、耳状の突起を付す。</p>		<p>62・257</p> <p>260・272</p> <p>373</p> <p>377-379</p> <p>422</p>
壺	<p>○やや短い器部に強く外反して開く口縁部が取り付く。(255)</p> <p>○287は木曜か。</p>	<p>○器人と基本的に同じである。</p> <p>○縁部は丸くおさめている。(265)</p>	<p>○突帯は、口縁の幅が大きいので、下向きになる。圧痕は貝殻による。(265)</p> <p>○287はA2と思われ、下方の突帯を施す。突帯は短く丸く、四角いへら先状の工具により圧痕を連続させる。</p>		<p>255</p> <p>287</p>
甕	<p>○382の1点のみ存在。</p> <p>○内傾する口縁は折り返して微近く肥厚させる。断面は外方が突出する(強く外側をつまむ)。</p>	<p>○右へらに横位貝殻条痕を付す。</p> <p>○内面は口縁肥厚部分を押えのちナデを行う。</p>			382
壺	<p>○一般的な特徴を示す。(口縁部)</p> <p>○縁部は不明</p>	<p>○横位ないし斜位の貝殻条痕を外側に引く。(322は斜位)</p> <p>○内面・端部はヨコ方向ナデを行う。</p>			321・322 <p>383・451</p>
壺	<p>○258の1点のみ判明した。</p> <p>○一般的な特徴を備える。</p>	<p>○内面・端部はナデ(横位、右へら)整形。</p> <p>○縁部はやや内傾し、若干くぼませている。</p> <p>○外側は横位(右へら)に貝殻条痕を施す。原体の条は細いものを使用。</p>		<p>○外面にヒススの付着が認められる。</p>	258
壺	<p>○389・384の2点のみ判明した。</p>	<p>○内面はナデを行う。</p> <p>○外側は部状工具により右へらに羽状の条痕を施す。</p> <p>○粘土は在地(水3%)の特徴を示す(389のみ)</p> <p>○384の内面はハケ状工具により整形。</p>		<p>○器部は強く筋を受けたためか、灰色～黄褐色に灰色し、やや歪む。</p>	380
鉢	<p>○381の1点のみ確認される。</p>	<p>○横ないしやや左上りの強く細い条痕(貝殻)を施す。内面は横位ナデ、口縁部は外方につまんでナデする。</p>	<p>○389は壺Cないし壺Cの体部破片で、羽状の貝殻条痕を施す(右へら)</p> <p>○467は壺Cの体上部で、貝殻による横位付帯文を2等、右へらに施す。以下は破片の小さい羽状に貝殻条痕を施す(右へら)</p> <p>○その他器部(破裂)した多くの破片は、大半が型・鋳と考えられる。ほとんどのものは整形、整形の方向等一致的な特徴を示している。</p>		381
体部の破片	<p>○65・266は型がしまり、肩が強く張る型である。最大厚は肩部(体部上位)にある。特に65の肩部は厚層より厚直して開き、水平に近く開いた後下方に厚直する。</p> <p>○273・283は器下半部である。273は突出した小径不安定の長柄より丸くもって開く。</p> <p>○264・281は器底部と思われる。</p>	<p>○60は横位(右へら)に貝殻条痕を施すか、器部は脱方向の工具によるナデにより仕上げ上げる。</p> <p>○266は下半部では左上りラテナ状に、粗く貝殻条痕を施し、中央以上ではほぼ水平、条が細くなる。</p> <p>○273・283も266同様の整形を施す。</p> <p>○281は器状具による条痕かもしれない。</p>			<p>65・264</p> <p>266・273</p> <p>281・283</p> <p>265・309</p> <p>312・317</p> <p>324・329</p> <p>330・336</p> <p>338</p> <p>384・413</p> <p>423・429</p> <p>452・455</p> <p>457・458</p>

土壇6・ロームマウンド2



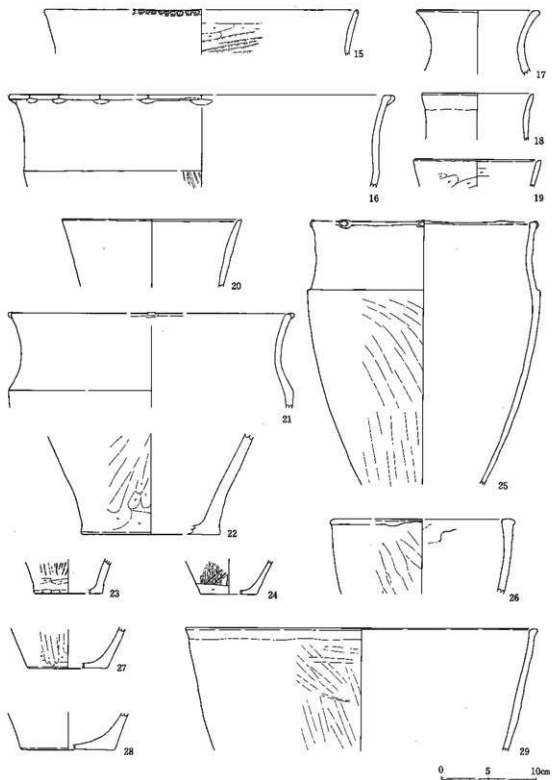
第16図 縄文時代土器 (1)

土城37



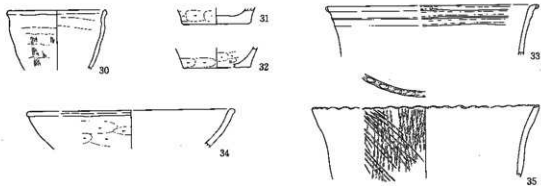
第17図 縄文時代土器(2)

0 5 10cm

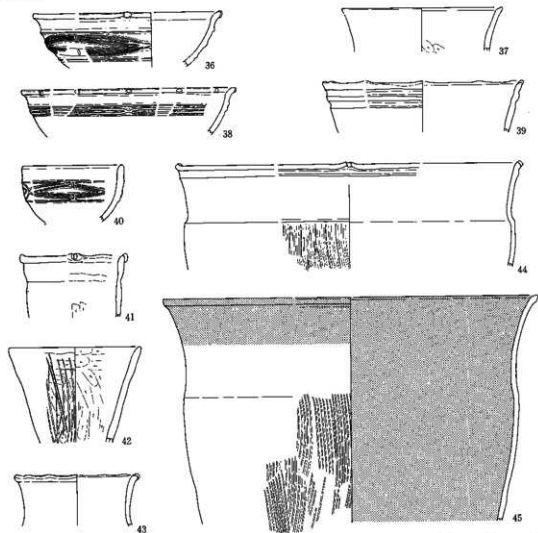


第18図 縄文時代土器(3)

土壇56

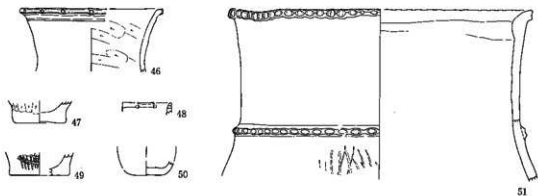


焼土面

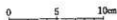
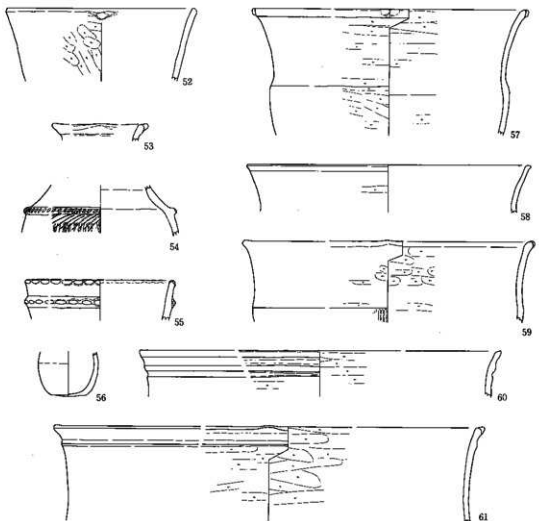


第19圖 縄文時代土器(4)

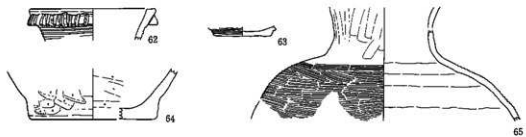
0 5 10cm



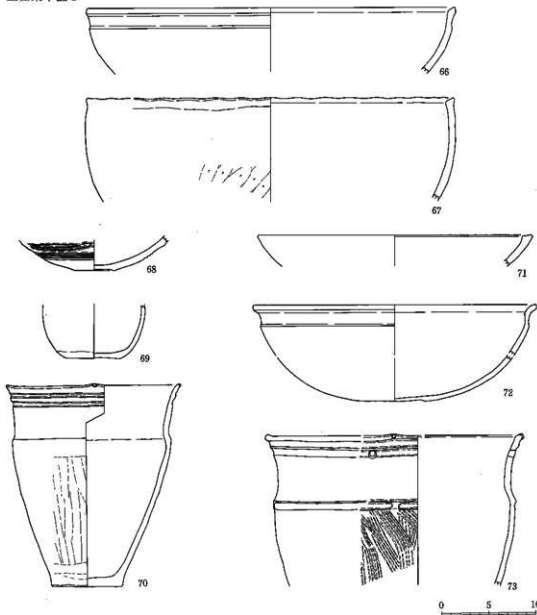
土器集中区 3



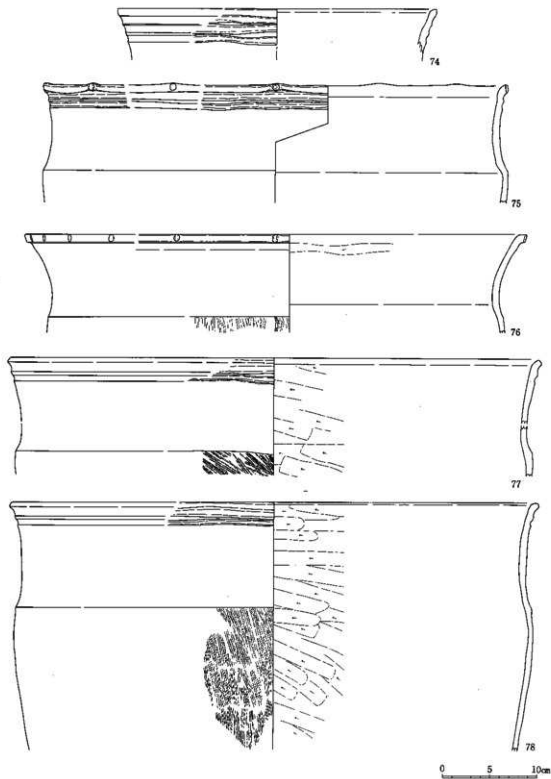
第20図 縄文時代土器(5)



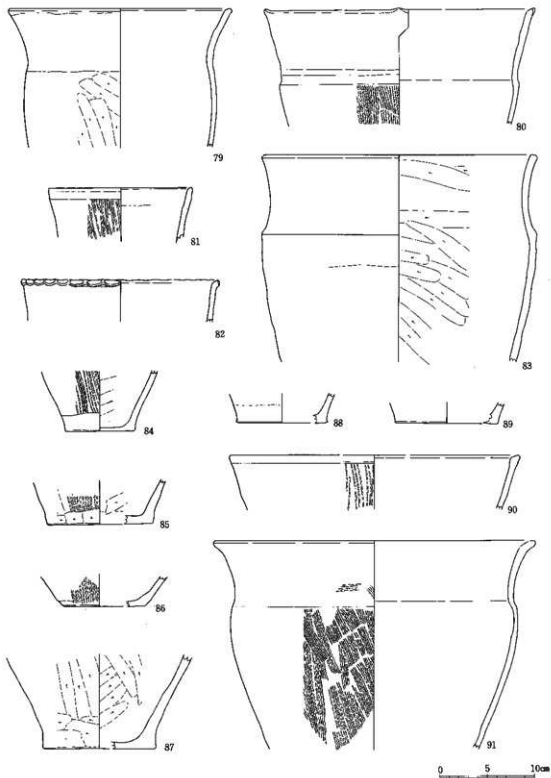
土器集中区 8



第21図 縄文時代土器(6)

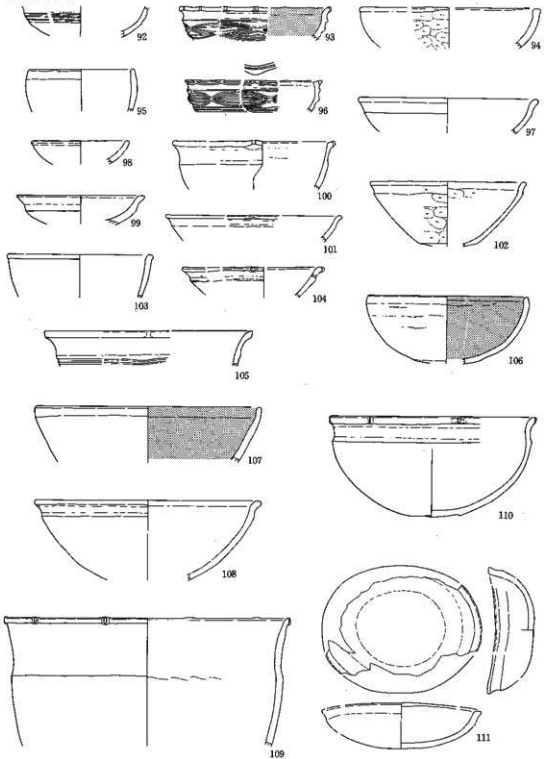


第22図 縄文時代土器(7)

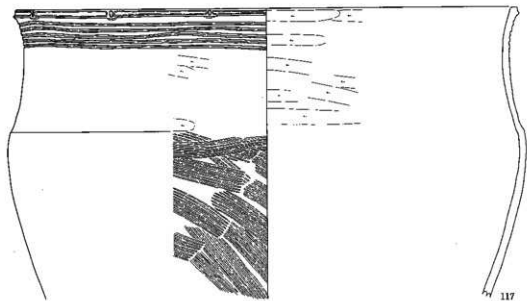
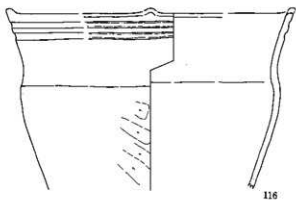
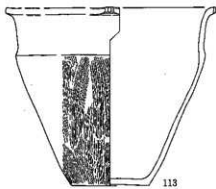
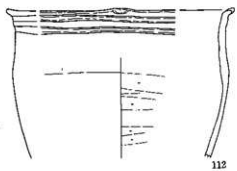


第23図 縄文時代土器(6)

土器集中区7

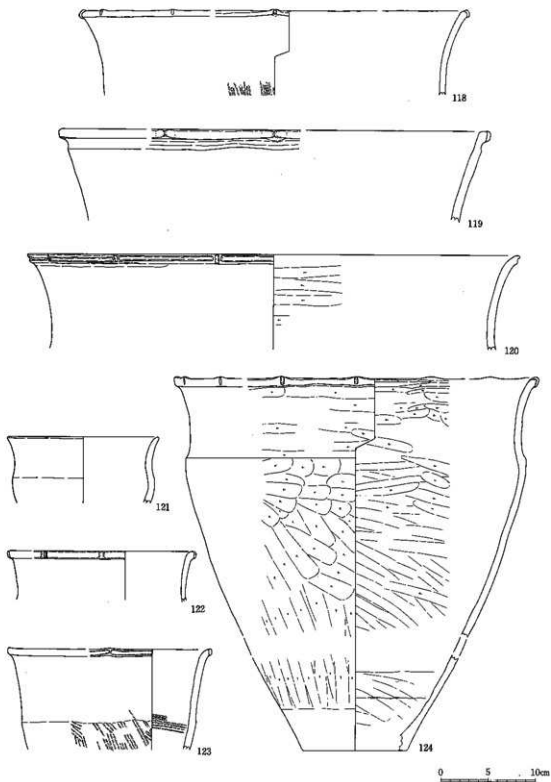


第24図 縄文時代土器(9)

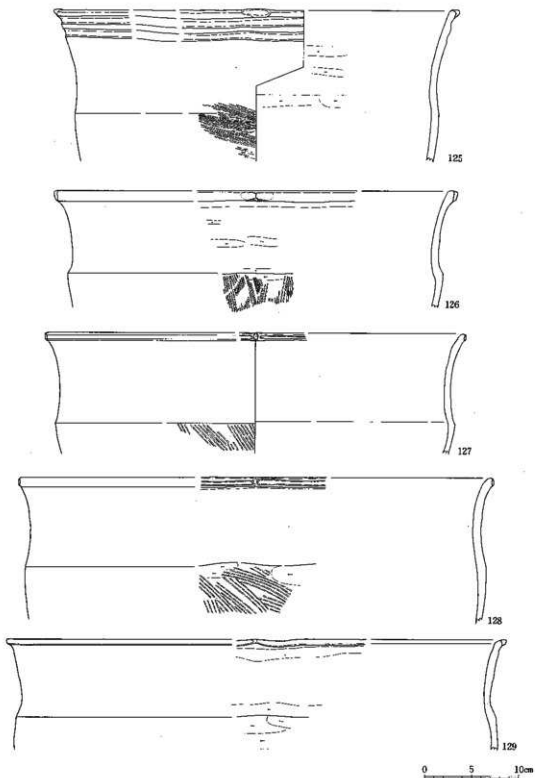


0 5 10cm

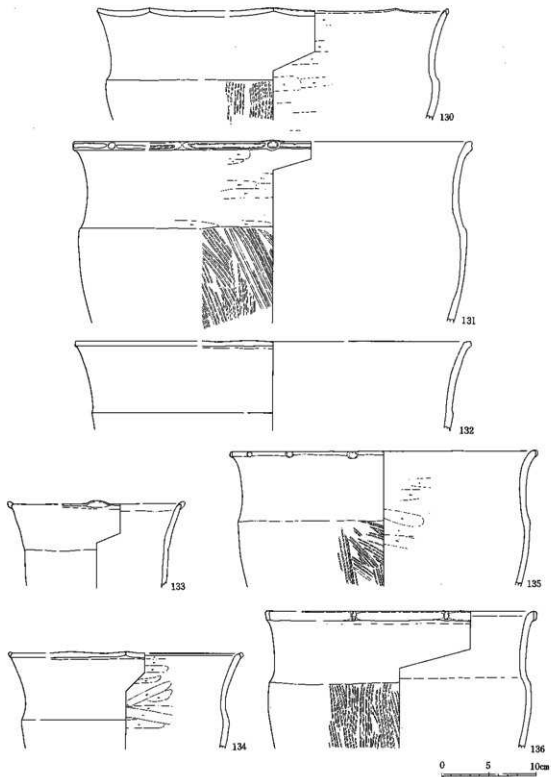
第25図 縄文時代土器10



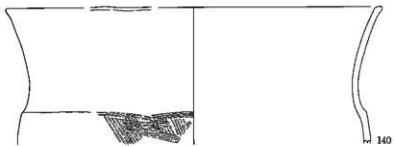
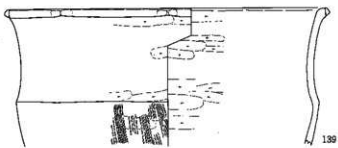
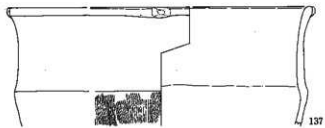
第26図 縄文時代土器(1)



第27図 縄文時代土器12

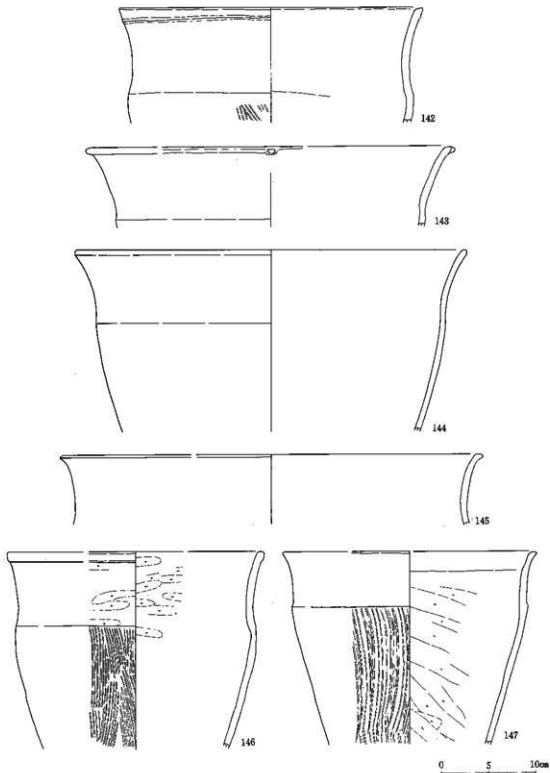


第28図 縄文時代土器(3)

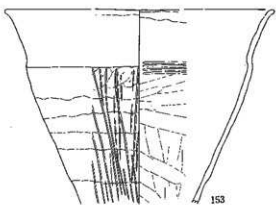
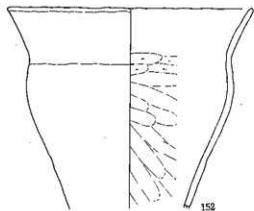
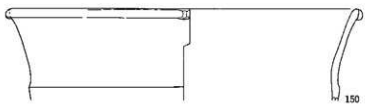


0 5 10cm

第29図 縄文時代土器14

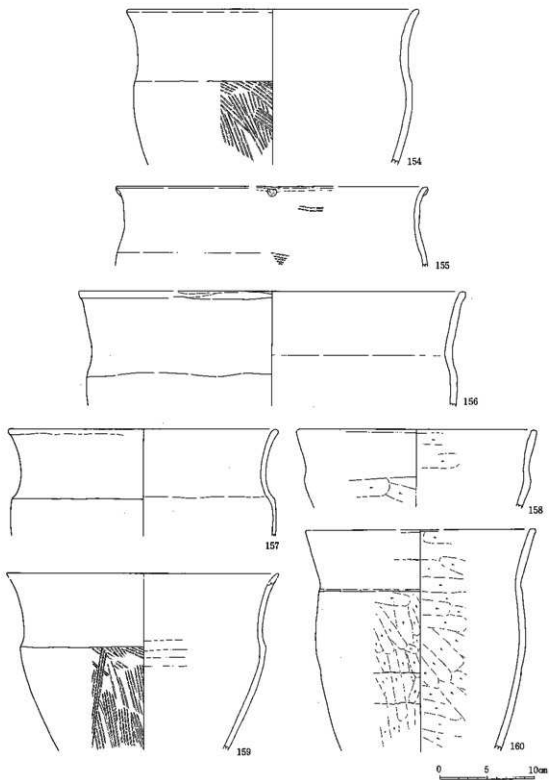


第30図 縄文時代土器(5)

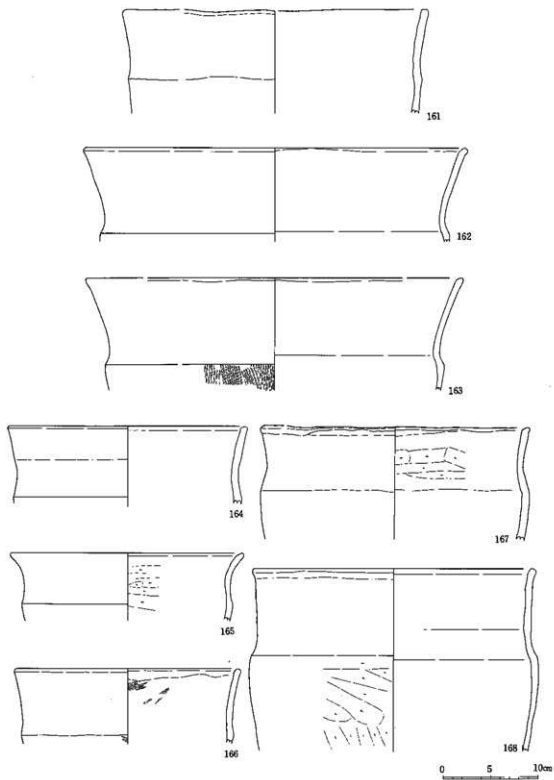


0 5 10cm

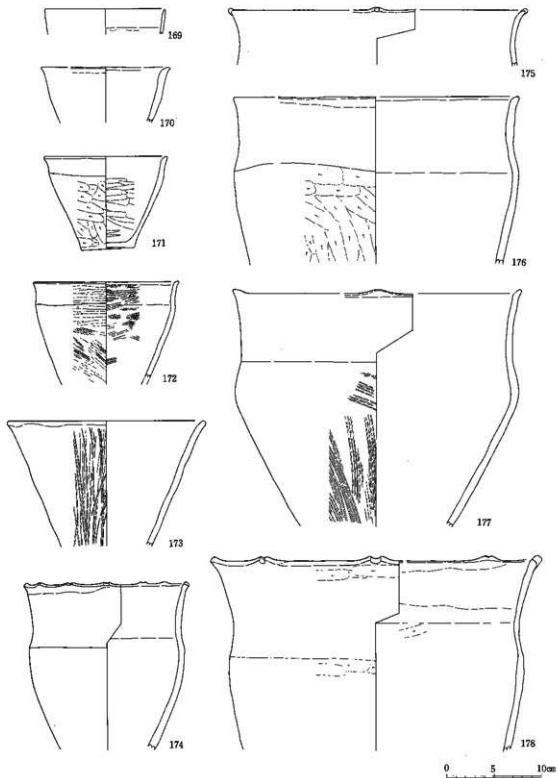
第31図 縄文時代土器⑩



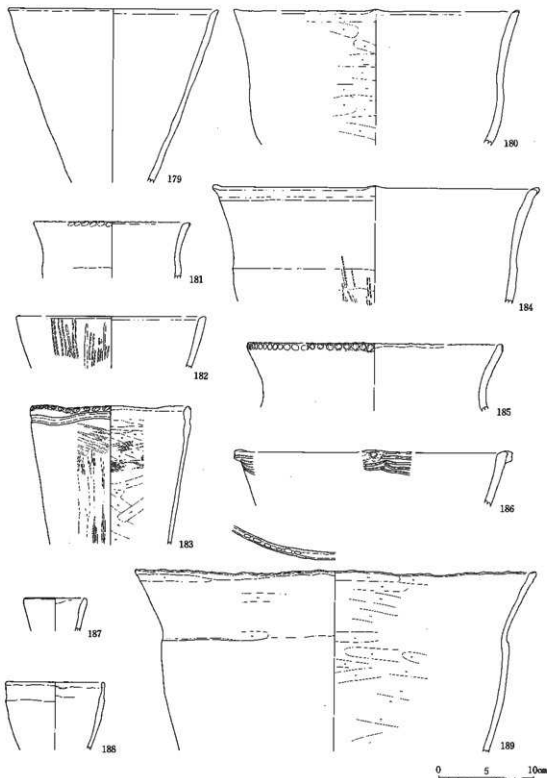
第32図 縄文時代土器(17)



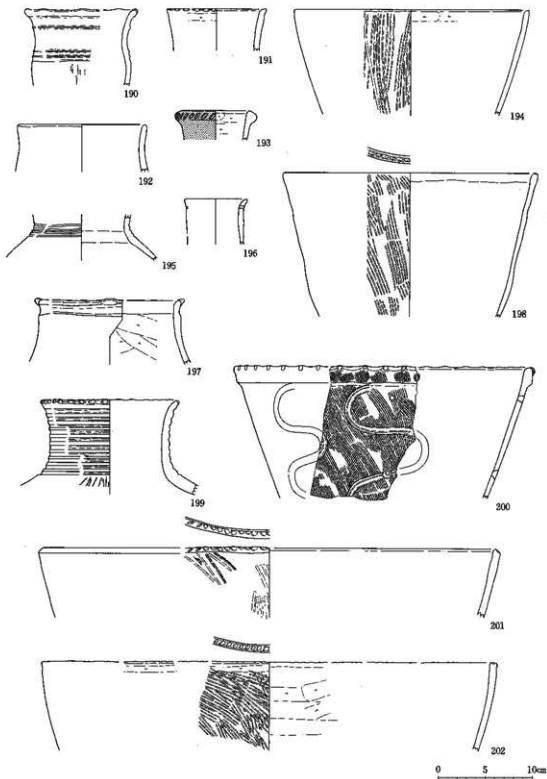
第33図 縄文時代土器(16)



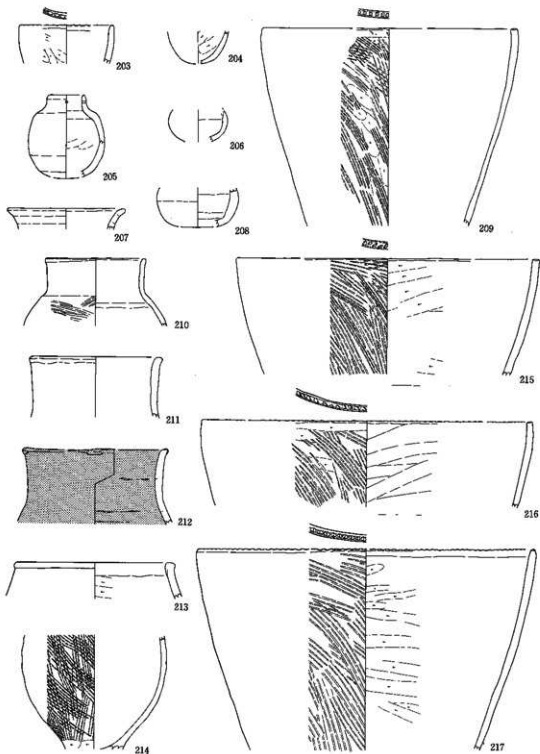
第34圖 縄文時代土器(9)



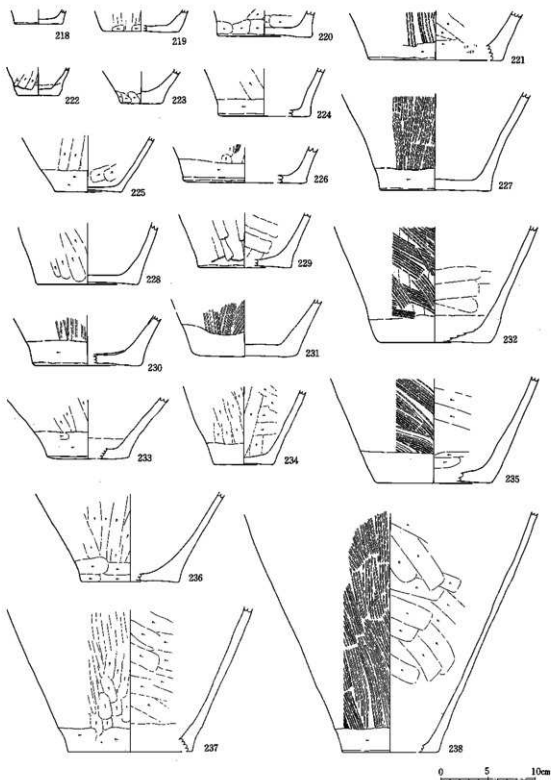
第35図 縄文時代土器20



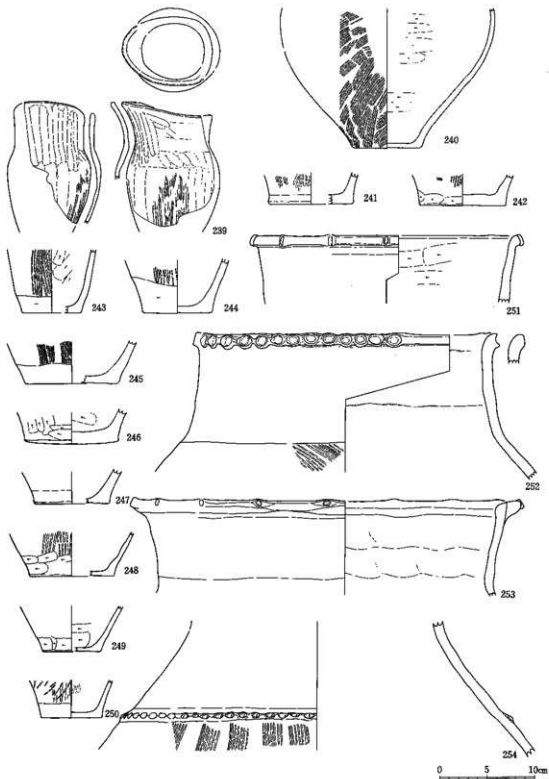
第36図 縄文時代土器(2)



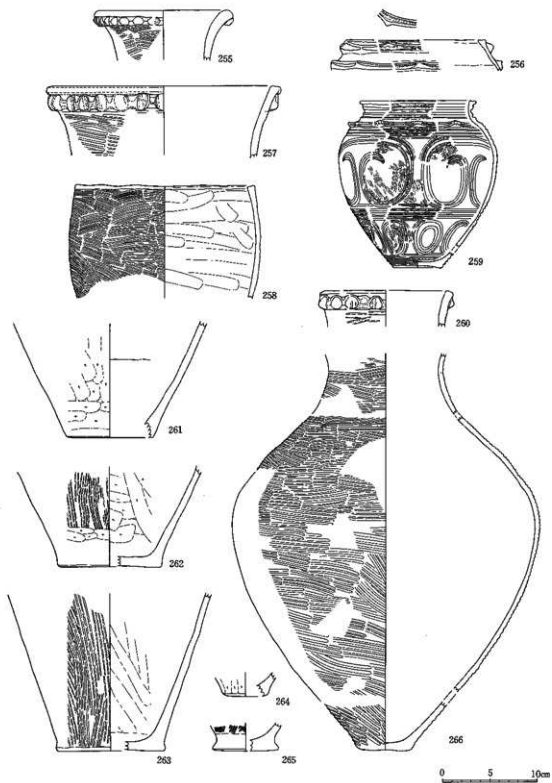
第37図 縄文時代土器(2)



第38図 縄文時代土器(20)



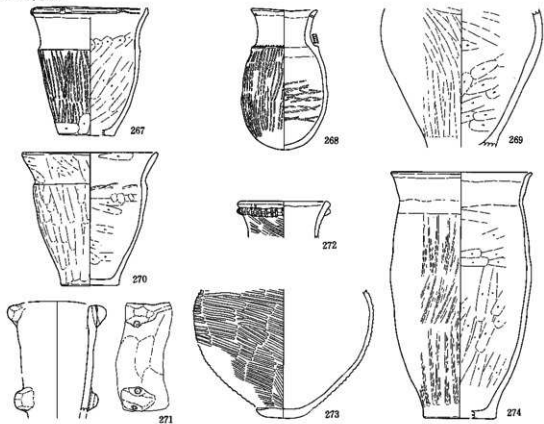
第39図 縄文時代土器24



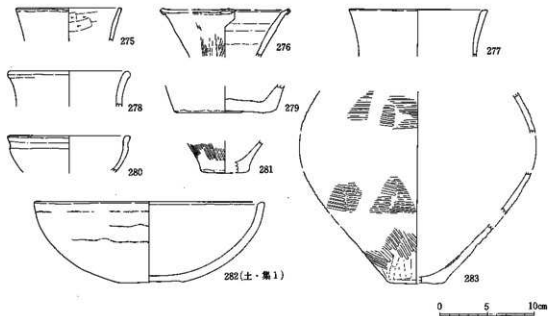
0 5 10cm

第40図 縄文時代土器25

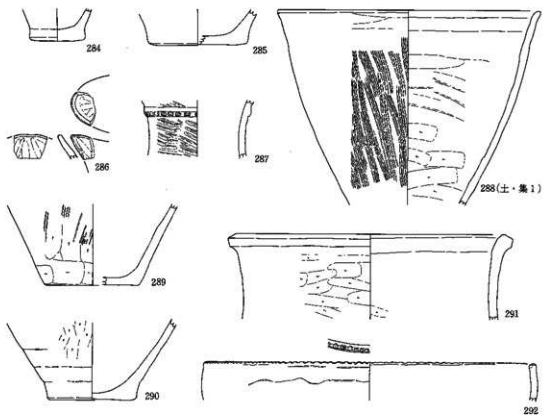
土器集中区 6



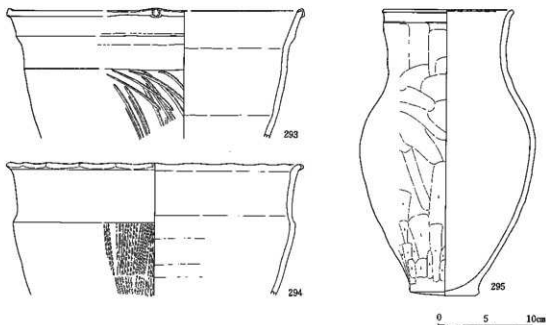
S90-W84区(土器集中区1含)



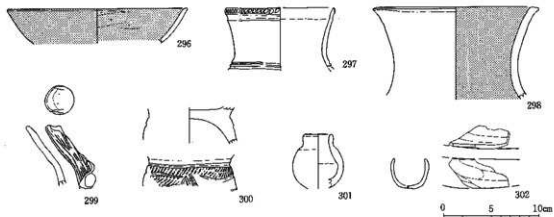
第41図 縄文時代土器26



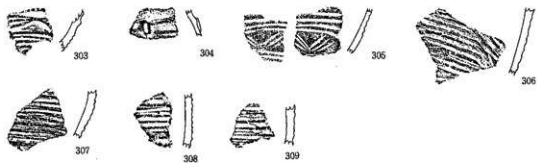
その他の遺構



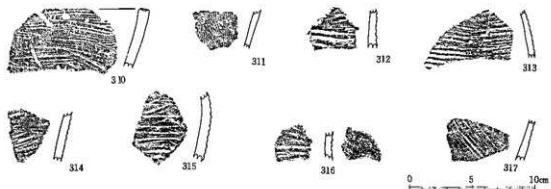
第42図 縄文時代土器(27)



土壞37

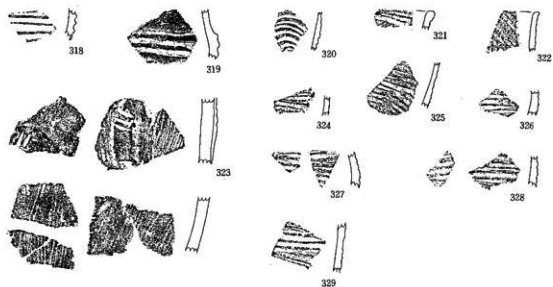


土壞56

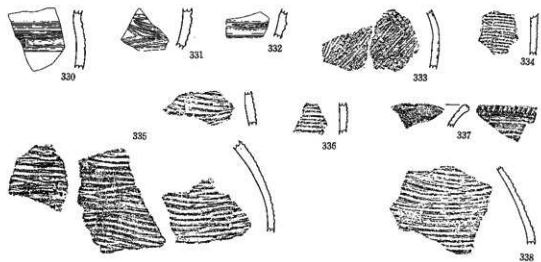


第43圖 縄文時代土器20

烧土面



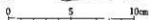
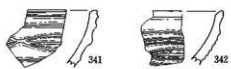
土器集中区 3



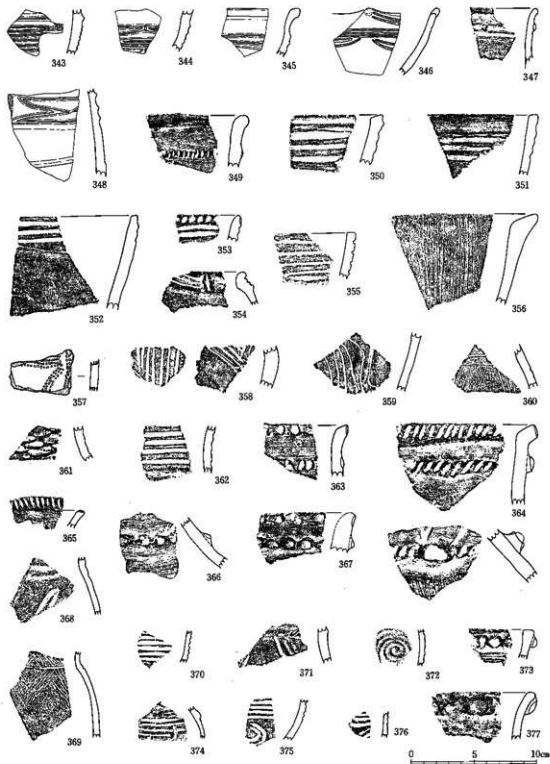
土器集中区 8



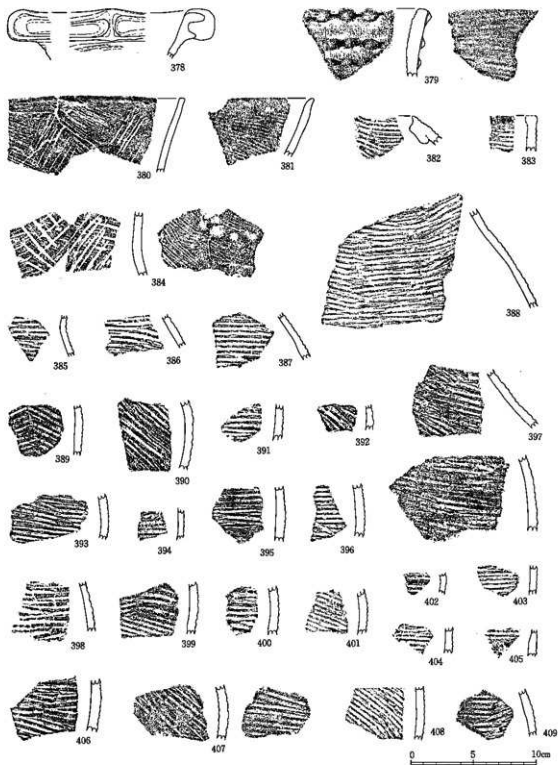
土器集中区 7



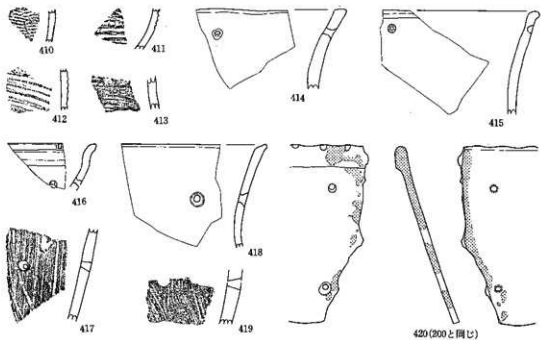
第44图 縄文時代土器(29)



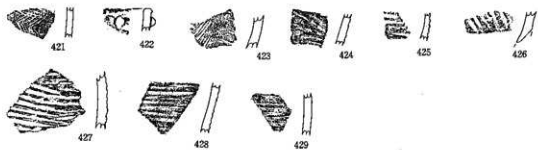
第45圖 縄文時代土器30



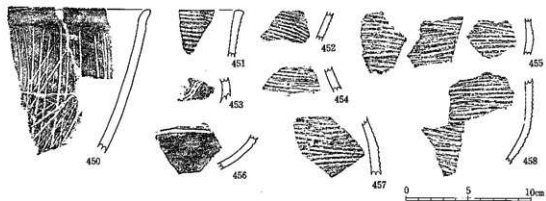
第46図 縄文時代土器30



土器集中区 6

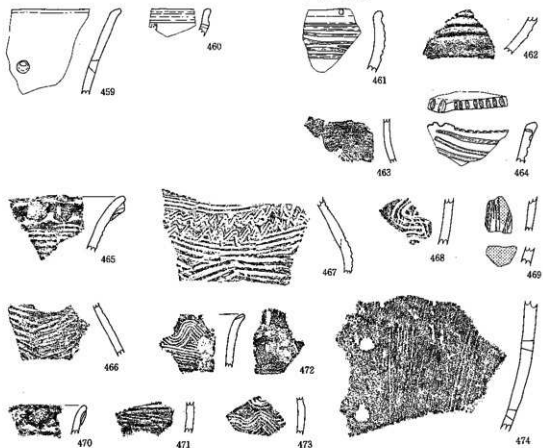


S90—W84区

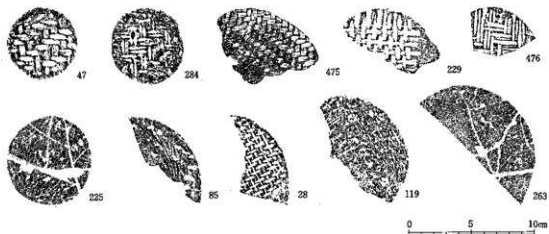


第47図 縄文時代土器32

その他の遺構



第1類土器底部拓影



第48図 縄文時代土器33

(2) 土製品 (図49-56)

石行遺跡からは、71点が出土し、実測不可能なものを除き、67点を図化した。なお、これらの中には土器と土製品の区別がつかない物を一部含んでいる。

土 偶 (1-29) 32点出土している。このうち、形態・文様の表現方法によって、頭部が2又は、3類、胸部が2類に分類できる。しかし、頭-胸部がわかる土偶は、発見されていないので、両者の関係を把握することはできなかった。

頭部1類(1-4)は、顔面が偏紡鐘形、側頭部が三角形を呈し、刺突によって、髪を表現しているものである。後頭部の横への張り出しは、結髪の表現と考えられる。1-3は、両側(耳)、後頭部、頭頂部に貫通孔をもち、紐通しにより、吊り下げられて用いられた可能性をもつ。なお、1の後頭部のみ、茎又は細竹などの中空の施文具の刺突が施されている。頭部2類(5-8)は、いわゆる有髻土偶で、目の下、鼻から頬にかけて3-5条の沈線が施しているものである。5・7は、顔面と頭部を別にして作りつけたもので、7には、赤色顔料の塗布がみられる。なお、9-11は、大きく横に張り出す耳をもつもので、耳の上下に貫通孔があるもの(9、11)である。顔面は、失われているが、2類の一部が該当する可能性をもっている。

胸部1類(12-17・18)は、肩-上腕部が2段に張り出しているもので、12は、赤色塗彩され、13以下は、張り出し部に刺突が施されている。18は、足の付根の部分に、刺突が施されている。胸部2類(19-21)は、やや幅広い胸部を持ち、片面に、1本の沈線が施されているものである。

22-27は、肩・腕・脚部の小片である。28は貼り付け痕のある顔の部分である。29も顔を表現しているものだが、裏面には貼り付け痕もなく円盤状の土製品であるが、一応土偶のなかで扱った。

頭部1・2類・胸部1類は、水遺跡⁽¹⁾のほかでも出土しており、本遺跡の時期に各地でみられるようである。なお、石行遺跡では、頭部と胸部の関係はつかめなかったが、胸部1類には、有髻土偶が伴う例があるようである⁽²⁾。こうした、土偶の違いは、目的による使い分け、使用法による違いなども考えられるが、今後の類例の増加をまちたい。

土製円盤(30-38) 土器片の周囲を打割して、(不整)円形に仕上げているもの。剝離の多くは、土器の内面から6-8回行われている。30-34は、剝離後に剝離面を研磨している。特に、33はよく研磨が施され、断面が台形に面取りされている。土器片は、30が口縁部で、あとは、鬚又は深鉢の体部が利用されている。なお30は、網状浮線文が施され、土器の96と、38は、貝殻条痕文が施され、土器の457と同一個体である。

有孔球状土製品⁽³⁾ (39-45) 8点出土し、7点を図化した。形態でみると、樽状(39・42・44・45)、球状(40・41・43)の2種がある。41-45は孔軸上で破損している。器面調整は、39に指頭圧痕が顕著にみられたほか、40・43は、ミガキ状の調整、その他は、ナデ調整が施される。なお、41の下部には、網代の圧痕が観察された。

その他の土製品(46-47) 上記以外のものを「その他の土製品」として扱った。

46は、中空の円盤のもので、上方に孔をもち、片面には、線刻が施されている。47は、円盤に、1ヶ所孔があげられている。49～57は、棒状土製品である。50以外はすべて破損している。断面円形で、湾曲するものが多い。49・50は、貫通孔をもつもので、胎土・色調から同一個体と考えられる。53は、把手の可能性をもつものである。57は、土偶の一部の可能性をもつものである。58は、球状土製品で、外面を丁寧にナデている。59は土器の把手と考えられるもので、先端が2つに割れた施文具で3列に刺突を行っている。60は、土偶の可能性をもつもの。

61～63は、土偶・土版あるいは土器の可能性をもつもの。61・62は、1本の施文具で2例1単位の刺突を施して、文様を施しているもの。63は、刺突と沈線によって文様を構成している。64は、土版もしくは、装身具の一種と考えられるもの。表面には、刺突が施されている。裏面の先端は、土器のような形状を呈しているが、下端で粘土を折り返しており土器ではない。貫通孔が2ヶ所にみられる。

65は、筒形土製品である。口縁は斜めに傾斜し、下方の口縁付近口に相対する位置に孔が空けられており、紐通しの穴と考えられる。外面は、ケズリののち口縁付近をナデている。内面はナゲによる調整である。

66・67は、土版である。66は上方を失っているが人字状に浅い沈線が施されている。67は、大形の土版で、断面が上方で長方形、下方で偏楕円形を呈し、下方は、やや広がっていく。両面に沈線で施文している。1面は、蕨手文と2単位の弧線から文様を構成している。裏面は、 $\frac{1}{2}$ 近く剝落しているが、渦巻文が下方に配されている。

註(1) 水軍光一 「水遺跡の調査とその研究」 『石器時代』No. 9 1969, 6

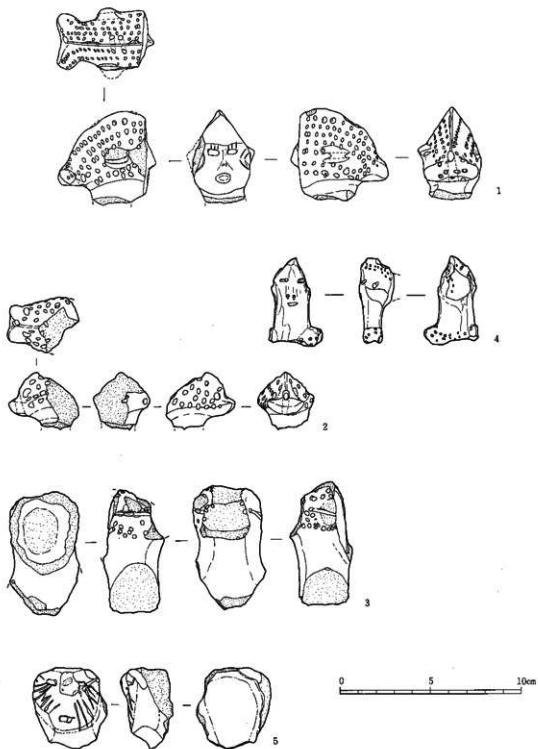
(2) 野口義賢 「土偶から埴輪へ」 P. 111 『古代史叢書』3 雄辯社 1981, 12

(3) 小島俊彰 「有孔球状土製品」 『縄文文化の研究』9 鹿山閣 1983, 8

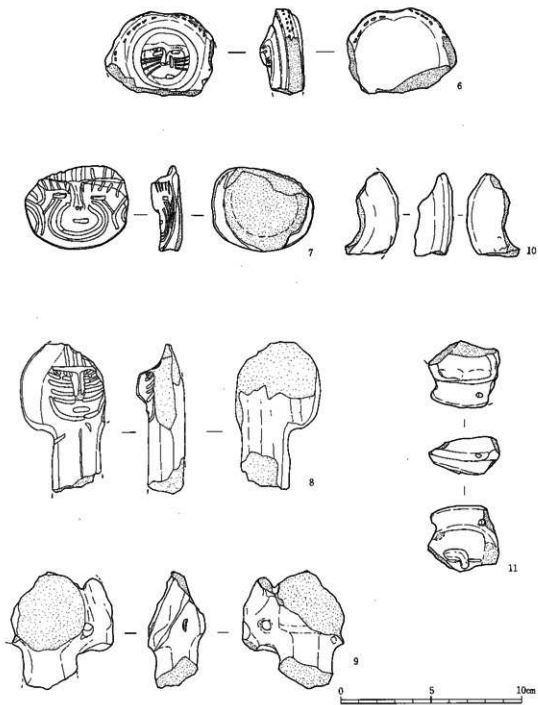
表2 土製品一覽表

品	陶	器	出	土	土	長	幅	厚	重	備	考
	系	種	土	層	さ	(cm)	(cm)	さ	さ		
					(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(g)		
1	1	土偶(頸)	S75	W81	Ⅱ	(5.21)	(3.51)	5.31	(56.61)		
2	2	*(頸)	S90	W90	I・Ⅱ層上	(3.15)	(3.11)	(3.76)	(19.09)		
3	3	*(頸)	S72	W72	I	(6.76)	(3.85)	(3.37)	(75.41)	顔面貼りつけ	
4	4	*(頸)	土塚	23		(4.85)	(2.95)	(1.91)	(15.09)		
5	5	*(頸)	S87	W81	Ⅱ・SW	(4.45)	(4.08)	(2.85)	(33.63)	顔面貼りつけ、鼻部貼りつけ	
6	6	*(頸)	S54	W15		(4.68)	(5.95)	(2.38)	(51.00)		
7	7	*(頸)	S84	W90		(4.66)	5.59	(1.73)	(25.19)	顔面貼りつけ、赤色顔料塗彩	
8	8	*(頸)	S78	W84	Ⅱ	(8.18)	(4.62)	(2.68)	(57.75)		
9	9	*(頸)	S84	W93		(6.45)	(5.60)	(3.16)	(59.33)	顔面貼りつけ	
10	10	*(耳)	S81	W93		(4.48)	(2.91)	2.09	(14.90)		
11	11	*(頸)	S84	W90	Ⅱ(最下)	(3.62)	(3.82)	(2.06)	(16.06)		
12	12	*(胴)	溝7・N-1・実			(5.61)	(6.06)	(2.53)	(57.86)	赤色顔料塗彩	
13	13	*(胴・腕)	土器集中区3			(6.19)	6.93	2.30	(68.17)		
14	14	*(肩・腕)	17 住	覆		(3.51)	(3.14)	(2.47)	(17.19)		
15	15	*(肩)	20 住	覆		(2.89)	(3.01)	(2.08)	(12.61)	赤色顔料塗彩	
16	16	*(肩)	S75	W87	Ⅱ下	(3.18)	(3.43)	(2.48)	(22.48)		
17	17	*(肩)	土器集中区5			(2.02)	(4.65)	(2.18)	(22.54)		
18	18	*(胴)	S87	W93	Ⅱb	(7.47)	(4.13)	2.94	(73.28)	刺突文	
19		*(肩)	S87	W81	Ⅱ	(2.55)	(2.66)	1.49	(7.31)	刺突文	
20	19	*(胴)	S84	W87	Ⅱ中	(3.28)	(4.15)	(1.91)	(27.74)		
21	20	*(胴)	S81	W81	Ⅱa	(6.64)	(5.65)	(2.91)	(96.79)		
22	21	*(腕)	S84	W90		(5.79)	(5.21)	2.80	(87.78)		
23	22	*(腕)	S81	W93	Ⅱ	(4.07)	(3.13)	1.03	(11.45)		
24	23	*(腕)	S81	W89	Ⅱ・中	(3.65)	(3.39)	(2.95)	(29.04)		
25	24	*(足)	S84	W96		(2.49)	(2.57)	(1.30)	(7.22)		
26	25	*(脚)	S66	W75		(5.60)	(3.75)	(2.83)	(52.35)		
27	26	*(脚)	S87	W78	Ⅱ	(3.08)	(3.02)	(2.63)	(21.13)		
28	27	*(顔)	S78	W96	Ⅱ	(2.44)	(3.41)	(2.80)	(18.99)		
29	28	*(顔)	S84	W93		(2.11)	(1.98)	(0.76)	(2.22)	顔面貼りつけ	
30	29	*(顔)	S81	W96		(3.43)	(2.29)	(0.99)	(6.06)		
31		*(腕)	S87	W90	Ⅱb下	(3.41)	2.92	2.31	(5.68)		
32		*(腕)	20 住	覆		(2.43)	2.46	2.55	(12.85)		
33	30	土製円盤	S81	W90		3.38	3.10	0.51	(5.69)	(外)浮線刺突文 (内)ミガキ 土器96と同・備作	
34	31	*	S81	W93		3.77	3.83	0.70	(3.89)	(外)細密条痕 (内)ナデ	
35	32	*	S96	W105	I	2.62	2.57	0.78	(5.82)	(外)ミガキ (内)*	

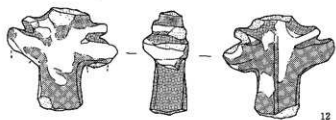
36	33	土製円盤	土 壙 37	覆・中	2.95	2.87	0.88	(7.92)	(外) ミガキ	(内) ナデ
37	34	*	S81 W93		3.53	3.84	0.96	(12.95)	(外) *	(内) *
38	35	*	S87 W96	Ⅱ b	4.41	4.45	0.62	(16.67)	(外) *	(内) *
39	36	*	S81 W90		4.68	4.10	0.90	(9.02)	(外) *	(内) *
40	37	*	S84 W96		(5.09)	(5.10)	(0.94)	(29.51)	(外) 細密条痕	(内) *
41	38	*	S81 W39		(5.50)	(5.49)	0.70	(23.73)	(外) 貝殻条痕 土器457と同一個体	(内) *
42	39	有孔球状 土製品	S90 W96	Ⅱ b	5.97	6.55	8.02	(376.21)		
43	40	*	S90 W102	Ⅱ	(6.35)	7.25	5.75	(245.96)		
44	41	*	S75 W78	Ⅱ 中	(5.73)	(5.54)	4.85	(109.98)		
45	42	*	S81 W99	Ⅱ 上	7.31	6.21	2.52	(127.22)		
46	43	*	土 壙 29		5.87	5.59	3.74	(92.28)	赤色顔料塗彩	
47	44	*	S81 W99	Ⅱ 中	4.26	4.49	3.12	(59.03)		
48	45	*	20 住	覆	4.29	4.79	2.81	(47.41)		
49		*	S63 W66	Ⅱ	(4.89)	4.39	3.79	(50.85)		
50	46	不 明	不 明		(1.85)	(2.65)	1.39	(4.83)		
51	47	*	S84 W93		(3.09)	(3.05)	(1.52)	(12.04)		
52	48	球状土製品	S69 W72	I	(2.30)	(1.51)	(1.07)	(3.82)	49と同一個体	
53	49	*	S84 W93		(4.00)	(1.44)	(1.57)	(8.52)		
54	50	*	S90 W108	Ⅱ 中	(2.97)	(0.86)	(0.79)	(1.95)		
55	51	*	S90 W81	Ⅱ	(3.44)	1.39	0.80	(4.19)		
56	52	*	S78 W81	Ⅱ 中・上	(4.65)	(1.75)	1.24	(8.37)		
57	53	*	土 壙 38		(5.89)	1.22	1.57	(13.69)		
58	54	*	S66 W69	I	(4.49)	(1.35)	(0.82)	(5.44)		
59	55	*	S84 W90	Ⅱ (最下)	(2.49)	(1.05)	0.89	(2.11)		
60	56	*	S90 W78	I・Ⅱ上	(1.73)	(1.24)	(0.99)	(1.88)		
61	57	土偶?	S78 W90	Ⅱ 上	(2.79)	(1.30)	(2.05)	(4.44)		
62	58	球状土製品	11 住		2.01	2.17	-	(8.15)		
63	59	把手?	S84 W90		(3.57)	1.17	1.05	(7.97)		
64	60	土偶?	S84 W93		(2.80)	(3.24)	(1.54)	(5.58)		
65	61	不 明	S78 W96	Ⅱ	(3.80)	(4.57)	0.97	(16.84)		
66	62	*	S78 W90		(3.98)	(3.02)	1.21	(10.70)		
67	63	*	土 壙 58		(2.97)	(2.99)	1.04	(6.43)		
68	64	土版?	S90 W78	I・Ⅱ上	(3.83)	(2.63)	(0.78)	(8.1)		
69	65	不 明	S78 W84		(9.95)	(3.66)	(4.21)	(68.11)		
70	66	土 版	S84 W90		(6.31)	3.95	1.92	(53.97)		
71	67	*	S84 W90		(9.97)	(5.38)	4.63	(180.90)		



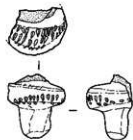
第49圖 土製品 (1)



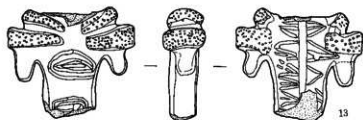
第50图 土製品 (2)



12



14



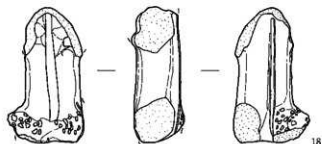
13



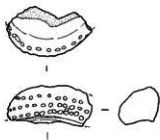
15



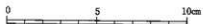
16



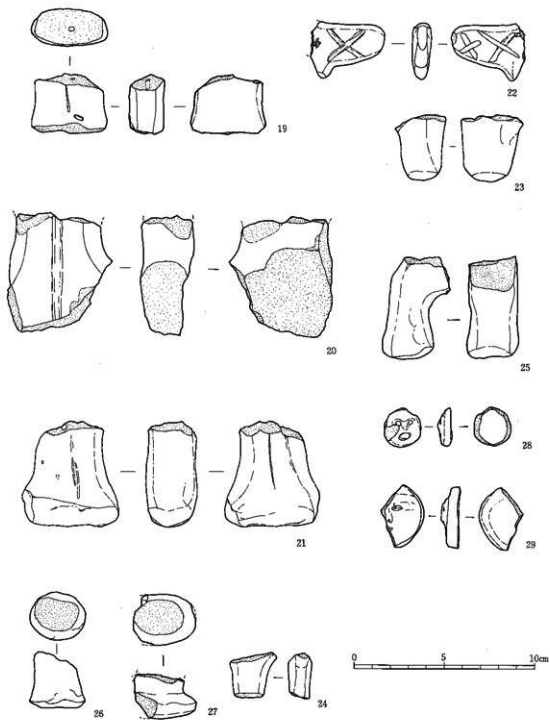
18



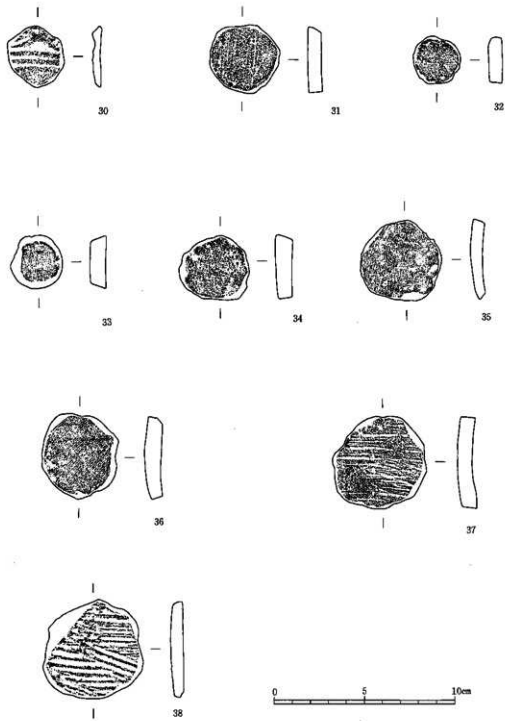
17



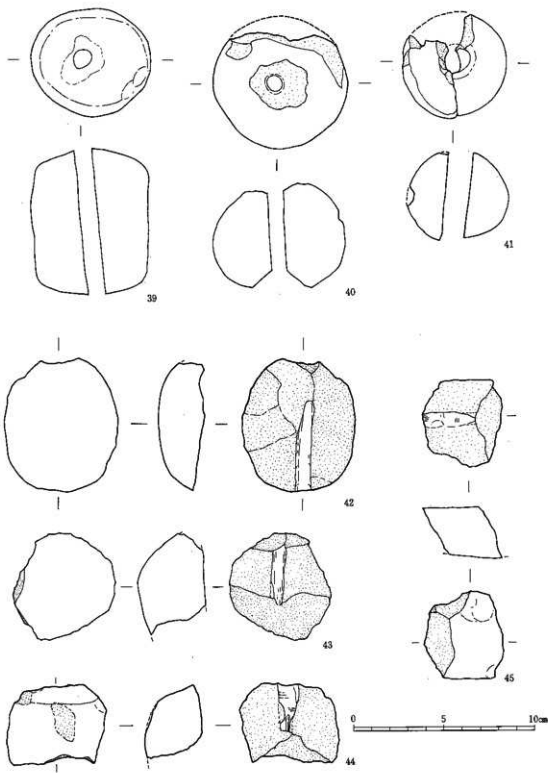
第51圖 土製品 (3)



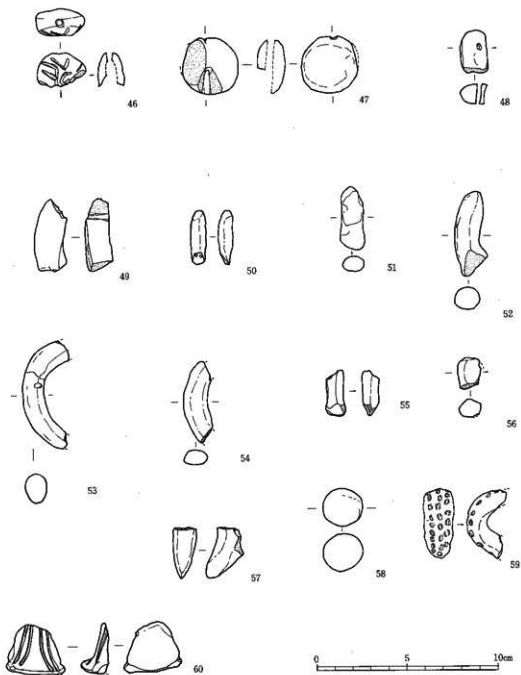
第52图 土製品(4)



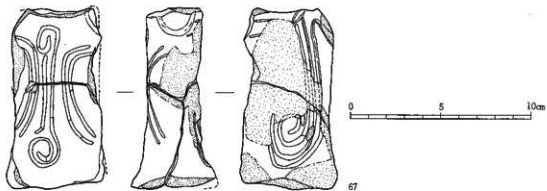
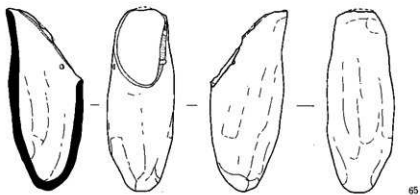
第53圖 土製品 (5)



第54図 土製品 (6)



第55図 土製品 (7)



第56圖 土製品 (8)

(3) 石器 (図57~82)

石行遺跡の発掘では多数の石器が出土した。しかしながら、限られた整理時間のなかで、すべての資料を分析することはできなかった。今回の報告のなかでは、1) 石器の素材としての黒曜石・チャートの剥片、2) 2次加工を有する剥片、3) 使用痕をもつ剥片、4) 定形的な石器を扱っている。なお、本遺跡では、打製石斧、敵・磨・凹石などの素材や製作・破損に伴う剥片類も多く出土していると思われる。しかし、これらについては、今回扱うことができなかった。実測図については、定形的な石器のうち完形(に近いもの)、特徴的なものを中心に図化している。また、定形的な石器については、すべて石器一覧表のなかにデータを提示している。本文中の石器の記述には、図番号を用いず、器種別の通し番号を用いている。なお、石質の鑑定については太田守夫氏の御教示を受けた。

1) 黒曜石・チャートの剥片

石行遺跡においては、小形の定形的な石器の素材として黒曜石とチャートが石材選択されている。本遺跡では、黒曜石の剥片・破片が5,560点、8,617.19g、チャートが128点、470.8g出土している。黒曜石は原石も数点出土しているが破片が多い。

2) 2次加工を有する剥片

黒曜石・チャートの剥片で2次加工をもつ剥片は111点、311.43g出土している。これらのなかには、定形的な石器の破損品の一部、未製品などを含んでいると思われる。

3) 使用痕をもつ剥片

黒曜石・チャートの剥片の縁辺部に連続する微細な剝離痕をもつものを「使用痕のある剥片」とし、1つの剥片にみられる使用痕の数、その形状から分類を行った(下表参照)。

1つの剥片にみられる使用痕は1ヶ所のものが約85%を占めている。素材である剥片そのものが小さく、複数の使用に適さないためと考えられる。使用痕の形状は、1・2ヶ所の使用痕をもつ剥片は、直・内彎・外彎の順で使用され、1片に3ヶ所の使用痕をもつものは、内彎・直・外彎の順となっている。次に、使用痕の剝離痕を刃こぼれ(片面)、刃つぶれ(両面)でみると、刃こぼれのものが圧倒的に多い。これらから、使用痕をもつ剥片は、連続する小剝

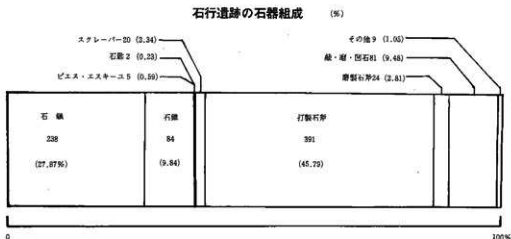
使用痕のある剥片一覧表

区分 使用痕数	内 彎		直		外 彎		剥片数	
	刃こぼれ	刃つぶれ	刃こぼれ	刃つぶれ	刃こぼれ	刃つぶれ		
1	数	3 9 5	4 7	8 8 3	1 3 0	1 5 7	5 5	1667
	%	23.70	2.82	52.96	7.80	9.42	3.30	
2	数	1 5 9	3 0	2 0 3	5 4	8 6	1 8	275
	%	28.91	5.45	36.91	9.82	15.64	3.27	
3	数	1 2	3	1 0	3	1 1	3	14
	%	28.58	7.14	23.81	7.14	26.19	7.14	
合計	数	5 6 6	8 0	1 0 9 6	1 8 7	2 5 4	7 6	1956
	%	25.06	3.54	48.52	8.28	11.24	3.36	

難度が直線的な刃部を呈するものが典型的なものといえるだろう。

4) 定形的な石器

1)～3)を除いたものを定形的な石器として扱った。石器の組成・出土点数・比率は下記のグラフの通りである。



石行遺跡では、総数854点の定形的な石器が出土している。そのうち、石鎌と打製石斧が特に多く、二者で全体の7割以上を占めている。この石器の組成のあり方は、石行遺跡とほぼ同時期にあたる御社宮司遺跡の石器組成と非常によく似ている。

以下、器種別にみていくことにする。

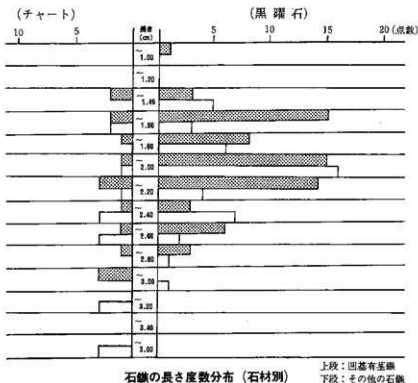
①石鎌 (図57～61)

238点出土し、107点を図化した。石鎌は基部により分類が可能である。基部が識別できる199点のうち、凹基有茎128点、同無茎25点、凸基有茎10点、同無茎3点、平基有茎9点、同無茎18点、円基8点である。凹基有茎鎌が64%を占めている。こうしたあり方は、御社宮司遺跡などと同じである。

凹基有茎鎌のなかには、一般的なものほかに、その時期にしばしばみられる側縁に段をもつタイプや飛行機鎌と呼ばれるタイプが混在している。形態的には非常にバラエティーに富んでいる。

凹基無茎鎌は全体の12.5%を占めている。このなかには、いわゆる5角形鎌(2・31)も含まれている。残りの凸基・平基・円基はいずれも少数であるが、そのなかでも平基無茎は多い。また、平基・円基のなかには、器厚の厚い大形品がいくつかみられる。

石鎌の石材としては、黒曜石・チャート・安山岩が使用されている。安山岩製2点、チャート製37点、残りは黒曜石製である。次に、黒曜石・チャートと石鎌の基部・大きさとの関係調べたのが、次頁のグラフである。黒曜石を素材とする石鎌では、長さ2cm前後に集中しているが1.6cmにも1つのピークをもつ。一方、チャート製の石鎌は、凹基有茎鎌でないもの(円基・平基など)



が多く、しかも大形品が多い。石錐の製作にあたっては石材による規制があったことも考えられよう。なお、209は先端破損後に再調整を施しているもの。103は、先端がふたまたに分れている特殊な石錐である。

②石錐 (図61～63)

調整剝離によって先頭部を作り出している石器のうち、石錐を除いたものを石錐として扱った。石錐は84点出土し、52点を図化した。

石錐の石材は、黒曜石製79、チャート製3、砂岩製1、安山岩製1点である。石錐以上に、石材選択が行われている。

石錐はつまみの有無によって大きく2種類に分けられる。つまみを有するもの(1類)は、指で保持し突き錐又は回転錐として使用したものだろうし、つまみをもたないもの(2類)については指による保持のほかに、着柄による棒錐一握み錐が考えられるだろう。石行遺跡についても両者は混在する。つまみの有無が不明な13点を除くと、1類13点、2類56点である。

1類ではつまみが錐部からしだいに幅をひろげていくものが大半である(16・32・34など)。11はく字状につまみと錐部が屈曲している。錐部の調整剝離が念入りに行われているのに対して、つまみ部は素材の主要剝離面を大きく残し、調整は雑なものが多い。概して、1類の方が2類より大きい。錐部の断面は三角形・ひし形を呈するものが混在している。前者は片面加工(又は片面に調整

剝離が集中している)の石錐、後者は両面加工の石錐が多い。

2類は両面加工の棒状を呈するものが大半である。これらの中には磨耗痕を伴うものが26点ある(他に1類で錐部に磨耗痕を多すもの—70が1点出土)。磨耗痕は錐部先端と頭部の2ヶ所に集中している。その内訳は、錐部先端21点、頭部1点、2ヶ所にもつもの4点(2・3・56・83)である。錐部の磨耗痕は剝離面のなかにみられることはなく、剝離面の切り合いによって生じた稜線上にみられる。しかも、最も突出している部分に顕著に磨耗がみられる点が共通している。これらのことから、この磨耗痕は石錐を回転させて使用していること一円運動の場合は先端と突出部が加工対象と接触することになる—によって形成されたものと考えられる。頭部の磨耗痕は、頭頂部にも顕著にみられる。また、錐部のような尖頭状を呈さないもの(1・36)にもみられる。磨耗の度合は錐部のそれよりは激しくない。頭部の磨耗痕は石錐の両端を錐として使用された結果とも考えられるが、棒錐として使用する際の着柄痕の可能性を考えたい。その場合、磨耗痕が頭頂部にもみられることから、差し込み式の着柄が考えられよう。

なお、本遺跡では石錐を除く尖頭状を呈する石器を石錐としたため、突孔具でないものも混在している可能性がある。今後の分析課題である。

③石匙(図64)

2点出土している。1はやや片側につまみがよっている、刃部が外彎する横形の石匙。風化が激しいが、横長剝片を素材にしていると考えられる。主要剝離面側は、つまみと上辺のみが剝離を加えられている。そのため、刃部の調整は背面側に集中し、片刃を呈している。硬砂岩製。

2はほぼ中央につまみを有し、刃部が内湾する横形の石匙。刃部はつまみに対してわずかな傾斜をもつ。黒曜石製。

④ピエス・エスキーユ(図64)

5点出土している。1・2・4は平面が方形、断面が紡錘形を呈するもの。1は上方からの加撃によって、上半が大きく厚さを減じている。4は、両面に90°直交する両極剝離をもつもの。腹面は4辺にわたって剝離がみられるのに対して、表面は上下方向の剝離のみである。3は截断により平面形は不明、断面は紡錘形を呈するもの。5はおそらく平面は方形を呈していたと考えられる。背面左側縁に2次加工を有している。1・3・5は截断面をもつ。すべて黒曜石製である。なお、本遺跡では石器の観察を十分に行えなかったので、2次加工・フレークのなかにピエス・エスキーユが混在していると思われ、実際の数はもっと多いと考えられる。

⑤スタレーパー(図65~66)

20点出土し、17点を図化した。石材は主に(硬)砂岩が用いられている。形態・大きさなどから2類に分類できる。

1類(1~5・8・9)は、平面が長方形を呈し、下端に直線的な刃部をもつ打製石包丁様の石器。素材は、3で縦長剝片が用いられている他は、横長剝片を使用し、剝片の末端を刃部としてい

る。2～4は自然面を残している。調整剥離は上下の側縁部に集中している。3・4の縦断面は紡錘形を呈し、上下端とも薄く仕上げている。1・2・5・8・9は、上側面の剥離は下側面の刃部調整に比べて荒く、おそらくは形を長方形に成形するための剥離であろう。また、1の上側面の剥離は弥生時代の打製石包丁の背つぶしの調整に類似している。左右側縁の調整は、剥離を1・2回施すだけである。

2類(7・11・12・14・16)はいわゆる横刃型石器と呼ばれるものである。いずれも、背面に自然面を残している。14は成形剥離が丁寧に行われ平面が三角形に仕上げられている。刃部は階段状剥離により、厚さを減じている。16は刃部を欠いているが、14と同類のものであろう。

そのほかに、剥片の末端部を利用した刃部をもつものが数点出土している。

なお、18は上半を欠損しているが、周囲を方形に成形剥離し、側縁から幅3～5ミリを研磨しているものである。研磨は両面に施され、刃部のある下辺では稜がつくり出されている。厚さが余りないことや、他に類例をみないのでこの項で扱ったが、磨製石斧の可能性もつものである。

⑥打製石斧(図67～73)

本遺跡の定形石器中、最も多く出土した。総数は400個を超えた。完形品は98点である。以下に資料数が多いので、完形品を中心に、総合的に記述する。製作面からは、平面形、大きさ、自然面、石材について、使用面からは使用痕と破損についての若干の観察、分類を行った⁽¹⁾。個々の遺物の特徴については一覧表を参照されたい。

a 平面形

側縁形と刃縁形との組み合わせにより、以下のように分類した。側縁形、I：撥型、II：胴膨短冊型、III：平行短冊型、IV：分鋸型、刃縁形、A：直刃、B：円刃、C：偏刃である⁽²⁾。

右表に全416点の平面形別個体数を示した。刃縁形では、刃縁形の明確な個体総数中、B型が167点(68%)を占める。側縁形ではI型が最も多く、IV型は非常に少ない。また、完形のみを見た場合、II、III型を短冊型として一括した場合、I型とはほぼ同数となる。

打製石斧の平面形別個体数

	I	II	III	IV	不明	計
A	11	6	7	0	5	29
B	74	24	42	1	26	167
C	20	8	17	1	4	50
不明	44	5	13	0	103	165
計	149	43	79	2	138	411

b 大きさ

完形品のみでは、長さ5.5cm～18.69cm、幅2.83cm～8.91cm、厚さ0.94cm～3.2cm、重さ14g～452gの範囲におさま

る。しかし、破損品の中には、長さ20cm以上、幅9cm以上のももあり、大きさにより、使用目的が異なると考えられる。大きさの把握可能な遺物のみから、以下のように4つのグループに分けることが出来る。

1：長さ9cm以下、幅3cm前後以下、厚さ1cm前後のもの

2：長さ9cm以上12cm未満のもの

3：長さ12 cm 以上15 cm 未満のもの

4：長さ15 cm 以上のもの

側縁形別に大きさを比較すると、長さに関しては各型ともそれほど違いはない。しかし、大型品はI型に比較的多い。III型にもN0. 10のような大型品はあるのだが、I型に比べて、III型は平均して、幅が小さい。また、最小のものもI型に属する。

またN0. 74のように、一度石斧中央付近で折れたものにわずかに調整を加え、再利用したと考えられるものもいくつかある。

c 自然面

完形品のみで自然面のあり方を観察した。少しでも自然面を残すものは全体のおよそ66%を占めている。側縁形別にまとめたものが右表であるが、自然面の有無は側縁形によってそれほど差があるものではない。自然面の残り方はN0. 61、N0. 71のように背面一面に残っているもの、N0. 16のように基端面にのみ残っているもの、側面にのみ残っているものなど、様々である。

打製石斧の側縁形別自然面数

側縁形 自然面	I	II	III	IV	計
無	22	6	10	0	38
有	33	13	12	2	60
計	55	19	22	2	98

次に、本遺跡では、反っている打製石斧はあまり無かったが、反りと自然面との関係について見てみると、N0. 80のように外湾している自然面を持つもの、N0. 90のように、内湾している自然面を持つものがある。

本遺跡の遺物を見た限りに於ては、自然面を利用する為に意図的に選び、残す場合もあるが、加工し易い石の部位を選び、加工した結果、意識するしないに関わらず自然面が残った、という場合が多いようである。また、両面に自然面を残すものもあり、一枚の平な丸石を材料に打製石斧を製作することもあったようである。

d 石材

右表は本遺跡打製石斧の原材料とした岩石の種類と、遺物製作に使用された個々の岩石種の遺物全体量に占める割合を表わしたものである。表中に示されている岩石はすべて、本遺跡付近で普通に手に入れられるものばかりである。2点蛇紋岩製のものがあるが、この石材は本遺跡近辺では産出しない。

岩石名	全遺物中の割合
砂岩	31.1%
硬砂岩	28.2%
ホルンフェルス	22.6%
安山岩	3.4%
珪岩	3.4%
千枚岩	2.2%
石英閃緑岩	2.2%
その他	7.9%

e 使用痕

刃縁部が磨耗しているものがいくらか見られた。

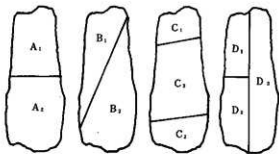
また、刃部付近に線条痕を残すものもいくつかある。線条痕の方向

には二種類ある。一つは刃部線と直交しているもの(N0. 29、41、46、56)他の一つは、刃縁に平行しているもの(N0. 88、230)である。前者はI、II、III型に比較的普通に見られる。後者はIV型の一つ、III型の一つ見られる。この方向に走る使用痕は、打製石斧を土掘具以外の用途に使用

した場合もあったことを示している。

f 破損

破損部位を右図のように類型化し、統計をとった。破損していないものは106点と、全体の25.8%のみである。部位別ではA₁（上半部）の破損が目立つ。またC₁C₂（基部から胴部）の破損が次に多い。基端を含む部位と刃部を含む部位の破損量を比較すると、前者が192点、後者が88点と、前者は



打製石斧の破損部位

後者のはば2倍の量となる。小田の述べるように⁽⁴⁾基端部を含む部位は、器が破損した後、その柄と共に持ち去られ、刃部のみが使用された場所に残されると考えるならば、以上に述べたことは、本遺跡の性格を考える上での一つの重要な資料となるであろう。

打製石斧破損部位別個体数

	なし	A ₁	A ₂	B ₁	B ₂	C ₁	C ₂	C ₁ C ₂	C ₁ C ₂	C ₂ C ₃	D ₁	D ₂	D ₃	D ₁ D ₂	D ₁ D ₃	D ₂ D ₃	その他	計
個体数	106	73	40	2	0	26	24	29	48	23	2	0	0	0	1	0	37	411

⑦磨製石斧（図74～76）

24点出土し、23点を図化した。その内訳は、定角式磨製石斧2点、乳棒状石斧19点、その他1点、不明2点である。定角式の割合が非常に少ないのが特徴である。なお、定角式磨製石斧は弥生時代中期前半までは残るようである。

定角式磨製石斧—1・7とも刃部のみが出土している。研磨は丁寧に施され、1は両刃で珪長岩製。7は片刃で、刃端部に使用の際に生じたと考えられる刃こぼれがみられる。閃緑岩製。

乳棒状磨製石斧—長い棒状の体部をもち、刃部が蛤刃状を呈するもの。頭部は細く、刃部に近づくにつれ幅広になる。断面は楕円形である。刃部の形状は、幅がせまく平行する側縁をもつタイプ（11・24・17）と、幅広で側縁が平行かわずかに八字状に広がるタイプ（5・13・15・18・24）がある。特に、後者は弥生時代の太形蛤刃石斧と極似している。乳棒状磨製石斧の多くは体部にアバタ状の敲打痕を残している。石材としては閃緑岩が選択されている。なお、4は1度破損した石斧の両側に成形刻線を施し、体部に敲打を加えはじめた段階と考えられるもの。本遺跡の乳棒状石斧は頭部が細く棒状を呈する点で太形蛤刃石斧と断絶を持つが、閃緑岩系統の石材を選択する点で継がりをもっているといえよう。

20は刃部を欠いているが、反りをもつノミ状の磨製石斧。敲打痕を残しているが両面ともに刃部のある下方はよく研磨され、敲打痕のみられない平坦な面を形成している。特に、片面は幅1~1.8cmで頭部近くまで面とりされている。

3・10は磨製石斧の可能性をもつもの。3は欠損部分がいわゆる折れではなく平坦になっている。両面に研磨痕が観察されることから一応磨製石斧として取りあげた。雲母片岩製。10も研磨痕がみられる刃部片である。石墨片岩製。

⑧ 敲・磨・凹石・石皿 (図77~81)

82点出土しており、完形・残存部分の大きいものを中心に39点を図化した。実測図では、磨面を……(平面)、←→(断面)で、敲打痕は←→で表現している。これらの石器は凹石や一部の石皿を除いて、自然石を積極的に加工することなく、そのまま使用されることが多い。そのため、使用頻度が多ければ磨面・敲打痕(面)が形成され、石器として識別しやすいが、使用頻度の少ないものは石器と自然石の区別がむずかしい。したがって、実際の数量はもっと多いと考えられる。

敲石・磨石・凹石とされているものは、単独で敲打痕・磨面・凹部をもつものもあるが、複数の組み合わせをもつものも多い。そのため、器種として敲石・磨石・凹石と区別しないで、自然石に観察された敲打痕・磨面・凹部を一覧表で表した。

磨面は、敲打痕・凹部に比べて単独でみられることが多い。敲打痕は、単独でみられることもあるが、磨面・凹部との組み合わせでみられるものも多い。凹部は磨面・敲打痕との組み合わせでみられるのが大半である。このうち、磨面と凹部は、平坦な面にみられ、敲打痕は、礫の上下端、側縁部に観察される。これらの石器は、平面形、断面形、使用痕の組み合わせなどで分類が可能であり、今後の課題である。石材としては砂岩が大半であるが、石英閃緑岩も利用されている。7は乳棒状の磨製石斧の可能性をもつもの。15は、偏平な円礫を素材としたもので、両面中央に凹部をもち、さらに円礫の周囲から剝離を加えている。剝離面の1枚が凹部を切っている。環状石斧の未製品(の放棄されたもの)の可能性をもつものである。

石皿としては38・49が出土している。

⑨ その他の石器 (図82)

上記以外の定形的でない石器を一括して、「その他の石器」として扱った。9点出土している。

1は、石楯様の尖頭部を上下にもつもの。背面は自然面を有し、主要剝離面側から調整剝離を施して尖頭状に仕上げている。砂岩製。2は、破損した磨製石斧を再加工したスクレーパー状のもの。下方には磨製石斧の刃部だった研磨痕をわずかに残している。両側を調整剝離により直線状に体部を整えている。特に、右側縁は連続する小さな剝離が施され、刃部を形成している。この剝離は上方の破損面を一部切っており破損面は磨製石斧として使用された際のものと考えられよう。玢岩製。3は浅い弧状を呈するもの。両面にわたって細かな調整剝離を施して形を整えている。特に、片面は中央に稜が作りだされ、そのため断面は下辺がややふくらむ三角形を呈している。なお、縁辺の

全体にわたってつぶれがみられる。黒曜石製。4は、2次加工を有する縦長刮片である。背面はほぼ平行する2条の稜があり石刃状を呈している。腹面は上からの加撃による1枚の主要剥離面で、さらに両側に剥離が加えられている。特に、主要剥離面の右側辺に連続する剥離が施されている。この間には、さらに小さな剥離面がみられ、刃部としての調整剥離、もしくは使用痕として考えられよう。黒曜石製。

5～9は、円又は楕円形の自然礫の両面の中央に凹みを施しているもの。5点とも凹部のところで破損している。この凹部は敲打によってつくり出され、6・8・9は敲打の際による破損と考えられる。5・7は両面の凹部が中央で貫通しており、さらに凹部の敲打痕が研磨されている。さらに、5では貫通部分が円形になるよう面取りされている。このことから、凹部の形成は環状の石器を製作する工程の一部と考えられる。なお、これらは楕円形の礫も石材選択されていること、小ぶりのものがあること、貫通孔が小さいことなどから、環状石斧とは別のものと考えられ、環状石製品などと呼ばれるものである。5が花崗閃緑石、他は砂岩製。

註1) 本遺跡は茅野市御社官町遺跡とはほぼ同時期にあたり、打製石斧の出土量も類似する。よって遺物の観察、分類にあたり、和田(1972)を参考にした。

註2) 平面形の分類基準は、和田(1982)に採択したが、IV分類型について今報告では若干基準を変えた。石器長軸に対し、斜めもしくはそれに直交する形で磨削されたと考えられるほどの深いえぐりが基部中央付近にあるものを、IV型とした。

註3) 小田静夫 1976『縄文中期の打製石斧』『どももん』10号

参考文献

本軍光一 「本遺跡の調査とその研究」 『石器時代』第9号 1969.6

和田博秋ほか 『長野県中央道環状文化財包蔵地発掘調査報告書—茅野市その5』昭和52・53年度— 1972.2

『縄文文化の研究』7 道具と技術 雄山閣 1983.5

表3 石器一覧表

石 鏃

No	図 No	出土	土層	基部	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1		S90・W87	II	凹・有	(1.61)	1.57	0.34	(0.55)	黒曜石	基部先端欠	
2	1	S87・W90	II c	凹・無	3.28	1.8	0.38	1.8	チャート	先端欠	5角形鏃
3	2	S66・W72		凹・有	1.57	1.02	0.28	0.35	黒曜石	完	鏃
4		S90・W81	II・上	凹・有	1.48	(1.15)	0.24	(0.25)	黒曜石	片割端欠	
5	3	S63・W66		凹・有	1.06	0.89	0.18	0.1	黒曜石	完	
6	4	IV区葬No.3		平・有	2.31	1.51	0.42	1.51	黒曜石	*	
7	5	S69・W69	II	凹・有	1.69	1.09	0.27	0.35	黒曜石	*	
8	6	S63・W72		凹・有	2.01	1.41	0.34	0.65	黒曜石	*	
9	7	S63・W72		凹・有	1.98	(1.3)	0.32	(0.55)	黒曜石	片割端欠	
10	8	S87・W90	I・下(II)	凹・有	2.07	1.37	0.33	0.55	黒曜石	完	有段
11	9	S87・W90	I・下(II)	凹・有	1.93	(1.3)	0.41	(0.7)	黒曜石	片割欠	
12	10	S63・W72		凹・有	1.77	1.19	0.27	0.55	黒曜石	先端欠	未製品
13	11	S72・W69	I	円	1.5	1.41	0.47	0.75	チャート	完	
14	12	S87・W81	II	凸・有	2.71	1.17	0.41	1.15	黒曜石	*	石鏃か?
15	13	S87・W81	II		(2.01)	1.47	0.3	(0.5)	黒曜石	基部欠	有段
16		S87・W81	II	凹・有	(1.29)	1.05	0.32	(0.35)	チャート	先端・基部欠	
17		S90・W84	II	不明	2.34	1.77	0.47	1.53	黒曜石	一	未製品
18		S87・W81	II	不明	(1.11)	(0.69)	0.25	(0.1)	黒曜石	下部欠	
19	14	S66・W69	I	平・無	1.59	1.03	0.3	0.35	黒曜石	完	
20	15	S87・W72	I	凸・有	1.94	1.99	0.38	0.55	チャート	*	
21	16	V区葬土		凹・有	2.13	1.17	0.28	0.35	黒曜石	*	
22	17	S93・W72	I	凹・有	1.99	1.37	0.36	0.65	黒曜石	*	
23	18	S87・W90	I・下(II)	不明	(1.94)	(0.95)	0.3	0.65	黒曜石	片割・基部欠	
24	19	V区土鏃14		凹・有	2.19	1.5	0.46	1.65	黒曜石	完	
25		S84・W90	II・b	凹・有	(1.86)	1.22	0.3	(0.5)	黒曜石	基部欠	
26	20	S72・W69	I	凹・有	(1.73)	(1.17)	0.36	(0.55)	黒曜石	片割・基部欠	
27	21	S66・W66	I・II・上	凹・有	1.84	1.41	0.35	0.65	黒曜石	完	
28		S66・W66	I・II・上	凹・有	1.43	(0.98)	0.37	(0.4)	黒曜石	片足欠	
29	22	S87・W84	II・上	平・無	(1.9)	1.59	0.58	(1.15)	黒曜石	先端一部欠	
30	23	S84・W90	II・b	*	1.91	1.4	0.52	1.1	黒曜石	完	
31	24	S84・W90	II・b	凹・無	1.74	1.36	0.28	0.55	黒曜石	*	5角形鏃
32		S66・W72		不明	(2.9)	(1.69)	0.32	(0.95)	チャート	先端片割欠	未製品
33		S84・W90	II	凹・有	(1.44)	1.48	0.24	(0.4)	黒曜石	上半部欠	
34	25	S69・W69	I	凸・無	(1.94)	1.51	0.35	(1.05)	黒曜石	先端部欠	
35	26	IV区12住葬土内		平・無	2.02	1.23	0.28	0.5	黒曜石	完	
36	27	S90・W90	I・II・上	凹・有	2.15	1.22	0.27	0.4	黒曜石	*	有段
37		S90・W81	II	凹・有?	(1.93)	(1.4)	0.3	(0.6)	黒曜石	片割(蓋)欠	
38	28	S87・W72	I	凹・無	2.21	1.51	0.4	0.75	黒曜石	完	
39	29	S69・W66	I	凹・有	1.81	1.09	0.23	0.3	黒曜石	*	
40										欠番	
41		S90・W87	II・上	凹・有	(1.76)	1.45	0.35	(0.65)	黒曜石	基部先端欠	
42		S87・W57	I	凹・無	(1.87)	(1.7)	0.32	(0.55)	チャート	先端・片割欠	
43		S63・W75		凹・有	1.35	(0.96)	0.24	(0.25)	黒曜石	片割欠	有段
44		S63・W75		不明	(1.99)	(0.79)	0.34	(0.4)	黒曜石	先端・片割欠	
45		S87・W90	II・b・c	凹・有	(1.6)	1.09	0.37	(0.55)	黒曜石	先端基部欠	

No.	図 No.	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
46		S87・W90	II・bc・上	凹・有	2.15	(1.53)	0.36	(0.75)	黒曜石	片割基部欠	
47	30	S87・W90	II・c・下	凹・無	1.69	1.15	0.36	0.5	黒曜石	完	
48		S87・W90	II・c	凹・有	1.44	(1.06)	0.28	(0.25)	黒曜石	片割欠	
49		S87・W84	II・上	凹・有	1.6	(1.18)	0.3	(0.35)	チャート	片割欠	
50		S87・W84	II・上	凹・有	1.85	(1.13)	0.33	(0.5)	黒曜石	両割欠	
51		S87・W81	II	凹・有	(3.18)	(1.72)	0.48	(1.65)	黒曜石	片割、基部欠	
52	31	S69・W69	II	凹・有	1.94	1.27	0.29	0.4	黒曜石	完	
53	32	S69・W69	II	凹・有	(1.57)	1.52	0.36	(0.45)	黒曜石	先端欠	有段
54		S90・93・W84		凹・無	2.21	(1.55)	0.46	(1.0)	黒曜石	片割欠	
55		S84・W90	II・上(I・F)	凹・有	(1.61)	1.07	0.24	(0.25)	黒曜石	基部欠	
56		S84・W66	I	凹・無	2.42	1.14	0.23	0.45	チャート	片割欠	
57		S84・W90	II・b	凹・有	(1.38)	1.21	0.27	(0.45)	黒曜石	基部欠	
58		S84・W90	II・b	凹・有	(1.63)	0.94	0.27	(0.45)	黒曜石	基部欠	
59		S84・W90	II・b	凹・有	(1.66)	1.15	0.29	(0.45)	黒曜石	先端欠	
60		S84・W90	II・b	不明	(1.6)	(1.68)	0.51	(1.1)	黒曜石	先端・下半部欠	
61		S90・W90	II・上		(2.06)	(1.44)	0.35	(0.8)	黒曜石	片割欠	
62		S90・W90	II・上	凹・無	(1.97)	(1.59)	0.33	(0.85)	黒曜石	先端・片割欠	
63	33	S72・W72	II	凹・無	2.28	1.63	0.45	1.0	黒曜石	完	
64	34	S84・W90	II	凹・有	1.36	1.32	0.37	0.6	黒曜石	*	
65	35	S66・W72		凹・有?	(2.1)	(1.62)	0.59	(1.5)	黒曜石	片割(基部)欠	飛行機線有段
66	36	S69・W69	I	凹・無	1.3	1.25	0.32	0.35	黒曜石	完	未製品
67	37	S69・W72	II	円	1.95	1.23	0.3	0.7	黒曜石	*	
68	38	S66・W72		凸・無	2.73	1.42	0.74	3.05	黒曜石	*	
69	39	S66・W69	II・上	平・無	1.86	1.75	0.6	1.8	黒曜石	*	
70		S90・W90	I・II・上	不明	2.95	(1.95)	0.65	(2.5)	黒曜石	片割欠	未製品か?
71		S81・W96		凹・有	1.64	1.56	0.32	0.6	黒曜石	基部欠	
72	40	S81・W72	II・中	凹・無	2.18	1.04	0.32	0.5	チャート	完	
73		S75・W72	II・中	凹・有	1.96	1.33	0.25	0.45	黒曜石	基部欠	
74	41	S90・W102	II・中(II b相当)	凹・有	2.64	1.53	0.38	0.95	黒曜石	完	
75		S87・W87	II・b相当	凹・有	(1.83)	(1.1)	0.31	(0.35)	黒曜石	先端・片割、基部欠	
76		S87・W87	II・b相当	凹・有	(1.03)	1.21	0.35	(0.3)	黒曜石	上半部欠	
77		S84・W90		凹・有	1.88	(1.1)	0.34	(0.4)	黒曜石	片割欠	
78	42	S69・W63	II・中	凹・有	2.25	1.32	0.4	1.0	黒曜石	完	
79	43	S78・W93		凹・有	2.09	1.46	0.45	0.85	黒曜石	*	
80		S84・W108	II・上	凹・有	(1.55)	1.37	1.34	(0.3)	黒曜石	基部欠	有段
81		S84・W96		凹・有	(1.38)	(1.25)	0.23	(0.3)	黒曜石	片割、基部欠	
82		S84・W93		凹・有	1.88	(1.31)	0.31	(0.55)	黒曜石	片割、基部欠	
83	44	S78・W69	II・中	平・有	1.33	1.13	0.22	0.2	黒曜石	完	
84		S84・W93		凹・有	(1.74)	1.18	0.38	(0.45)	黒曜石	基部欠	
85	45	S72・W81	II・中	凹・有	2.55	1.13	0.33	0.5	黒曜石	完	
86		S84・W102	II・中(II b)	凸・有	2.02	1.05	0.28	0.3	黒曜石	*	有段
87	46	S72・W66	II	凹・有	2.81	1.31	0.31	0.9	チャート	*	
88		S72・W66	II・中	凹・有	1.61	(1.33)	0.37	(0.45)	黒曜石	片割欠	
89	47	S66・W78	II	凹・無	(1.67)	1.98	0.57	(1.4)	チャート	上半部欠	特殊形
90		V区		凹・無	(1.58)	1.51	0.28	(0.4)	黒曜石	先端部欠	
91		S93・W105	II	凹・有	1.78	(1.2)	0.24	(0.35)	黒曜石	片割欠	

No	岡 No	出土	土層	基部	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
92		S78・W75	II・中	凹・無	(2.9)	(1.33)	0.39	(0.9)	黒曜石	先端、片脚欠	
93	48	S78・W75	II・中	凹・無	2.21	1.69	0.4	1.05	チャート	完	
94		S72・W75	II・中	凹・無	(2.23)	(1.31)	0.35	(0.7)	黒曜石	先端、片脚欠	
95		S84・W96		凹・有	(1.84)	(1.26)	0.36	(0.55)	黒曜石	先端、片脚基部欠	
96		S81・W96		不明	(1.59)	(1.42)	0.34	(0.7)	黒曜石	下半部欠	
97		S75・W72	II・中	凹・有	(1.31)	1.45	0.27	(0.45)	黒曜石	先端、基部欠	
98	49	S84・W105	II a 相当	円	2.45	1.68	0.47	1.45	黒曜石	完	
99		S84W105	II・a 相当	凹・有	(1.63)	(1.32)	0.33	(0.35)	黒曜石	基部、片脚欠	
100		S84W105	II・a 相当	凹・有	1.5	(1.5)	0.3	(0.35)	黒曜石	片脚欠	
101		S84W99	II	凹・有	2.48	(1.11)	0.41	(0.6)	黒曜石	片脚欠	
102	50	S84W99	II	凹・有	(1.25)	1.4	0.34	(0.4)	黒曜石	先端、基部欠	有線
103	51	S72W72	II・中	凹・有	2.06	(1.25)	0.26	(0.4)	黒曜石	片脚欠	
104	52	S87W99	II・中(II・b)	凹・無	1.34	1.26	0.19	0.25	黒曜石	完	
105	53	S75W72	II・中	凹・無	1.84	1.61	0.33	0.7	黒曜石	〃	
106		S81W93		不明	(1.24)	(1.25)	0.28	(0.3)	黒曜石	下半部欠	
107		S93W90	II・中	凹・有	(2.47)	1.66	0.43	(1.0)	黒曜石	基部欠	
108	54	S84W93		凹・無	2.37	1.56	0.25	0.9	チャート	完	
109	55	S87W108	II・b 相当	凹・有	2.44	1.43	0.39	1.05	黒曜石	〃	
110	56	21住		凹・有	2.75	1.39	0.42	1.25	チャート	〃	
111		S83W93		凹・有	1.68	(1.23)	0.28	0.35	黒曜石	片脚欠	
112	57	S83W93		凹・有	1.43	1.14	0.41	0.45	黒曜石	完	
113	58	S78W81	II・中	凸・有	1.72	1.19	0.31	0.4	黒曜石	〃	
114		S78W81	II・中	不明	(2.83)	(2.32)	(0.59)	2.7	黒曜石	下半部欠	未製品か?
115		S93W105	II・上	凹・有	(1.52)	(1.02)	0.14	(0.2)	黒曜石	先端、片脚欠	
116		S84W99	II・上	凹・有	(1.67)	1.07	0.31	(0.4)	黒曜石	先端欠	
117	59	S78W90		凸・無	2.16	(1.04)	0.49	1.0	黒曜石	片脚辺欠	
118		S93W87	II・上	不明	(2.1)	(1.7)	0.49	1.3	黒曜石	(縦割)半分欠	
119											欠番
120		S78W96	II	凹・?	(1.86)	(1.52)	0.44	0.9	黒曜石	両脚欠	
121	60	S84W96		凸・有	2.6	0.93	0.5	0.85	黒曜石	完	
122	61	S90W108	II	凹・有	(4.14)	(1.35)	0.56	2.3	チャート	片脚、基部欠	
123	62	S78W93	II・上	凹・有	1.98	1.54	0.47	0.8	黒曜石	完	
124		S90W78	I、II・上	凹・有	1.96	(1.12)	0.26	(0.35)	黒曜石	片脚欠	
125		S78W90	II・上	凹・有	(2.31)	1.38	0.5	(1.05)	黒曜石	先端欠	
126		土塊32		凹・有	1.4	(1.01)	0.21	(0.2)	黒曜石	片脚欠	
127	63	S69W75	II・下	平・無	1.91	1.12	0.42	0.7	黒曜石	完	
128		S87W96	II b・上	凹・有	2.16	(1.36)	0.44	(1.0)	黒曜石	片脚欠	
129	64	S87W96	II b・上	凸・有	1.37	0.83	0.3	0.25	黒曜石	完	
130	65	S75W84		凹・有	(2.63)	(1.34)	0.31	(0.8)	黒曜石	片脚、基部欠	特殊形
131	66	S87W93	II・上	凹・有	1.54	1.29	0.27	0.4	黒曜石	完	
132		S81W87	II	平・有	(1.9)	1.25	0.4	(0.7)	黒曜石	片脚、基部欠	
133		S90W87	II	凹・有	2.23	(1.41)	0.44	(1.15)	チャート	片脚先欠	
134	67	S90W87	II	円	2.15	1.53	0.38	1.1	黒曜石	完	
135		S81W96	II・上	凹・無	(2.35)	(1.48)	0.38	(1.25)	黒曜石	先端、片脚欠	
136		S81W96	II・上	平・有	(2.05)	(1.7)	0.38	(1.0)	黒曜石	片脚、基部欠	
137		S87W87	II	凹・有	(1.88)	(1.33)	0.31	(0.75)	チャート	先端、片脚欠	

No.	図 No.	出 土	土 層	高 部	長 さ (cm)	幅 (mm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
68	S78W90		II・上	凹・無	2.77	1.57	0.5	1.85	安山岩	完	
69	S81W90		II・上	円	1.65	1.32	0.38	0.65	黒曜石	〃	
70	S78W93		II・上	円	1.85	1.28	0.34	0.7	黒曜石	〃	
71	S84W90		II c	凹・無	1.99	1.59	0.35	0.8	黒曜石	〃	
72	S84W90		II c	凸・有	1.66	(1.06)	0.28	(0.3)	黒曜石	片脚、基部欠	
72	S78W81		II・上	平・有	3.19	1.83	0.52	1.85	チャート	完	
73	S75W87		II・上	平・有	2.98	1.78	0.58	2.6	チャート	〃	
74	土溝37			凹・無	2.33	2.11	0.34	1.55	チャート	〃	
76	土溝37			凹・有	(0.83)	1.1	0.23	(0.2)	チャート	基部上半欠	
77	土溝37			凹・有	1.9	(1.15)	0.28	(0.45)	黒曜石	片脚欠	
75	土溝37			平・有	1.43	0.85	0.27	0.25	黒曜石	完	
76	S75W84		II・上	凹・有	2.54	1.43	0.43	1.2	黒曜石	〃	
77	溝7 (M-3)			平・無	(1.69)	1.4	0.44	(0.8)	黒曜石	先端欠	
77	S72W75		I・II・上	凹・有	(1.76)	1.38	0.31	(0.56)	黒曜石	片脚辺欠	
77	17住			凹・有	1.52	0.88	0.22	0.2	黒曜石	完	
78	土器集中区3			凹・有	(2.35)	(1.18)	0.37	(0.7)	黒曜石	片脚、基部欠	
78	土器集中区3			凹・有	2.09	1.11	0.31	0.65	チャート	完	
79	S87W93		II b・上	不明	(1.71)	(1.89)	0.48	(1.25)	黒曜石	下半分欠	
79	S90W93		II・上	凹・有	1.94	1.34	0.27	0.4	黒曜石	完	有段
80	S72W84		I	凹・有	2.61	1.58	0.4	1.3	黒曜石	〃	
81	S81W84		II a	凹・有	(1.57)	(1.1)	0.24	(0.3)	黒曜石	片脚先、基部欠	
81	S93W105		II・上	凹・有	(1.82)	1.65	0.34	(0.6)	黒曜石	先端欠	
81	S78W90		II・上	凹・有	1.88	1.33	0.4	0.95	黒曜石	完	
82	S81W93			凹・無	1.91	1.37	0.38	0.5	黒曜石	〃	
82	S81W93			凹・有	(1.61)	1.19	0.41	(0.7)	黒曜石	先端欠	
82	土器集中区3			凹・有	(1.65)	(1.22)	0.24	(0.25)	黒曜石	片脚先、基部欠	
82	S87W87		II	不明	(2.36)	(1.42)	0.42	(1.05)	黒曜石	片脚(基部)欠	
83	S90W87		II	凹・有	1.57	1.08	0.34	0.35	黒曜石	完	
84	S90W87		II	凹・有	20	1.38	0.4	0.8	黒曜石	〃	
85	19住			不明	(1.62)	(1.46)	0.24	(0.45)	黒曜石	下半部欠	未製品か?
85	19住			不明	(1.15)	(0.97)	0.22	(0.2)	黒曜石	下半部欠	
85	S96W96		II・上(IV・上)	凹・有	2.26	1.41	0.23	(0.4)	黒曜石	片脚欠	特殊形
86	溝7			凹・有	1.9	(1.32)	0.36	(0.5)	黒曜石	片脚欠	
86	溝7			凹・有	(1.39)	1.13	0.34	(0.3)	黒曜石	基部欠	
86	S72W84		I	不明	(1.2)	1.34	0.26	(0.25)	黒曜石	下半部欠	
85	S73W75		II・中	凸・有	1.98	1.12	0.58	1.25	黒曜石	完	
84	S84W84		II・上	凹・有	(2.28)	1.52	0.48	(1.15)	黒曜石	基部欠	
86	S90W96		II b・上	凹・有	1.46	1.15	0.33	0.35	黒曜石	完	
87	S84W84		I	平・無	2.25	1.7	0.41	1.55	黒曜石	〃	未製品か?
87	S84W84		I	円?	1.84	(1.37)	0.26	(0.5)	黒曜石	片脚欠	
87	S90W108			円	(2.46)	1.44	0.58	(1.75)	安山岩	先端欠	
87	S78W87			不明	(2.24)	(1.25)	0.44	(1.0)	黒曜石	両脚欠	未製品
87	S90W78		I・II・上	平・無	2.14	1.22	0.5	1.2	黒曜石	完	
87	S87W93		II b	不明	(1.3)	(1.05)	0.14	(0.15)	黒曜石	両脚欠	
88	S66W72			凹・有	1.98	1.57	0.46	1.0	黒曜石	完	
89	S84W90		II c	凹・有	2.65	1.36	0.32	0.75	黒曜石	〃	

No.	図 No.	出 土	土 層	基 部	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 さ (g)	石 質	欠損状況	備 考
90		S84W90	II c	凹・有	2.33	1.56	0.43	1.05	黒曜石	*	
91		S69W75	II	凹・有	1.39	1.32	0.31	0.4	チャート	*	
92		18住		平・有	(2.5)	1.72	0.31	(1.06)	黒曜石	先端欠	
92		土壌27		凹・有	1.83	1.15	0.28	0.4	黒曜石	完	
93		S87W87	II	平・有	2.8	1.22	0.6	0.96	不明	*	
93		S87W87	II	凹・有	(1.74)	(1.37)	0.27	(0.5)	チャート	先端、片脚欠	
93		S87W87	II	凹・有	1.47	(1.14)	0.28	(0.3)	黒曜石	片脚欠	
93		S93W93	II	凹・有	(1.69)	1.14	0.36	(0.5)	黒曜石	先端欠	
93		S78W96	II・中	凹・有	(1.63)	1.18	0.2	(0.25)	黒曜石	先端、基部欠	有段
94		S96W87	II	凹・有	2.11	1.41	0.44	1.05	黒曜石	完	
95		S90W87	II	凹・有	1.61	1.46	0.35	0.8	チャート	*	
95		S69W75	II・上	凹・有	(1.15)	(1.13)	0.28	(0.25)	黒曜石	上半部片脚欠	
96		S84W87	II・上	凹・有	1.86	1.31	0.29	0.5	チャート	完	
97		土跡集中区		凹・有	1.88	(1.26)	0.2	(0.35)	黒曜石	片脚欠	
98		S87W84	II・上	凹・有	(1.83)	1.53	0.35	(0.7)	黒曜石	片脚欠	
98		辨土内		凹・有	1.9	(1.05)	0.31	(0.45)	黒曜石	片脚欠	
99		S90W87	II	凹・有	(1.65)	1.5	0.33	(0.6)	黒曜石	先端欠	
99		土跡集中区2		凸?	(3.51)	1.78	1.12	(6.4)	チャート	基部 or 下先端欠	石槍か?
99		S87W87	II	凹・有	2.05	1.26	0.36	0.75	チャート	完	
99		S87W87	II	凹・有	1.51	1.24	0.24	0.4	チャート	*	
99		S87W87	II	凹・有	(2.06)	(1.45)	0.36	(0.65)	黒曜石	片脚、基部欠	有段
99		S87W87	II	凹・有	(1.54)	1.17	0.26	(0.4)	黒曜石	先端欠	
99		S66W69		凸・有	(2.02)	1.46	0.44	(0.95)	黒曜石	基部欠	
99		S66W69		凹・有	1.51	0.97	0.3	0.2	黒曜石	完	
99		S90W87	II	凹・有	1.31	1.27	0.32	0.35	黒曜石	*	
99		土壌24		凹・無	(1.26)	1.54	0.34	(0.55)	黒曜石	先端欠	先端部剥離
99		S96W105	I	凹・有	(1.8)	1.2	0.39	(0.65)	黒曜石	先端欠	
99		土壌34		凹・有	2.03	1.41	0.52	1.25	黒曜石	完	
99		S69W69		凹・有	1.3	1.04	0.28	0.25	黒曜石	*	
99		S75W63	I	平・無	1.79	1.51	0.39	0.75	黒曜石	先端欠	
99		S78W84	II・上	平・無	2.51	2.1	0.56	3.15	チャート	完	未製品か?
99		S78W90		平・無	1.57	1.21	0.36	0.75	チャート	*	未製品か?
99		S93W105	I・II・上	円	(2.79)	1.4	0.79	(2.95)	黒曜石	先端欠	
99		S90W81	II・上	平・無	3.47	1.58	0.85	4.25	黒曜石	完	石槍か?
99		S87W99	II・上	凸・?	(1.85)	0.89	0.32	(0.35)	黒曜石	下半部欠	
99		S81W96	II・上	不明	(1.42)	(1.74)	0.26	0.55	チャート	下半部欠	
99		S90W87	II	平・無	1.74	0.91	0.36	0.55	黒曜石	完	
99		土壌37		円	2.11	0.9	0.45	0.8	黒曜石	*	挟りこみ有り
99		S78W93	II	凸・無?	(1.87)	1.37	0.43	0.92	黒曜石	先端、片脚欠	
99		S78W69	II	不明	(3.88)	(1.95)	1.0	(6.55)	黒曜石	両脚欠	石槍か?
99		S81W87	II	不明	(2.2)	(1.02)	(0.23)	(0.45)	黒曜石	片脚欠	
99		S69W63	II・上(I)	平・無	(2.15)	(1.22)	(0.4)	(1.62)	黒曜石	片脚欠	
99		辨土		凸・有	1.76	0.92	0.42	0.65	黒曜石	完	
99		土壌23		凹・無	1.58	1.29	0.41	0.76	黒曜石	*	未製品
99		土壌13		凹・無	2.48	1.34	0.32	0.97	黒曜石	*	未製品
99		S66W69	I		(2.38)	(1.91)	0.82	4.75	チャート	上半部欠	石槍か?

No	図 No	出土	土層	基部	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
28		S 90W84	II	凹・有	1.32	1.27	0.22	0.3	チャート	完	
29		S 90W84	II	不明	(1.01)	(1.22)	(0.34)	(0.31)	チャート	下半部欠	
30		S 87W90/S 84W90		平・無	2.6	(1.88)	0.45	(1.78)	チャート	片舞欠	
31		土壌38		円	2.06	1.07	0.44	0.78	黒曜石	完	
32		S 72W69	I	凹・有?	1.98	1.55	0.38	0.87	黒曜石	側面欠	
33		S 90W84	II・上	不明	1.96	1.22	0.38	(0.84)	黒曜石	下半部欠	
34		土壌38		平・無?	1.7	(1.6)	0.4	(1.52)	黒曜石	片舞欠	
35		S 90W87	II	不明	(2.03)	(1.75)	0.39	(1.23)	黒曜石	片舞欠	
36	10	S 90W84	II	凹・有	2.18	(0.96)	0.35	(0.61)	チャート	片舞欠	
37		S 90W84	II	凹・無	(1.74)	(1.35)	0.38	(0.53)	黒曜石	両側先端欠	
38		S 66W69	I	平・無	3.55	2.79	0.66	(9.45)	チャート	完	未製品か?

石 錐

No	図 No	出土	土層	長さ (cm)	錐部幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	S 69W66	I	2.76		0.6	1.25	黒曜石	完	錐部磨耗
2	2	S 69W66	II・上	3.01		1.16	3.1	黒曜石	✳	頭部、錐部共に磨耗
3	3	S 72W72	I	2.58		0.58	1.55	黒曜石	✳	頭部、錐部共に磨耗
4		S 87W90	II c・F	(2.0)		0.69	(0.9)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
5		S 66W75	I	(1.69)		0.49	(0.5)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
6	4	S 90W81	II・上	3.01		0.65	1.5	黒曜石	完	錐部磨耗
7		溝7(M-31)		(2.44)		0.73	(2.15)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
8		S 90W90	II・上	(1.18)		0.32	(0.3)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明、錐部磨耗
9	5	S 87W108	II b	2.55		0.57	1.55	黒曜石	完	錐部磨耗
10	6	S 84W93	II・上	2.49		0.4	0.85	黒曜石	✳	錐部磨耗
11	7	S 93W87	II・上	3.03	0.62	0.85	2.15	黒曜石	✳	つまみ、巨虫
12	8	S 72W72	II・中	2.62		0.75	1.55	黒曜石	✳	
13		溝7		(1.26)		0.35	(0.3)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明、錐部磨耗
14		S 84W102	II・中	2.5	0.46	0.48	1.15	黒曜石	完	つまみ
15		S 81W92		(1.54)		0.53	(0.5)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
16	9	S 72W72	II・下	4.3	0.83	0.6	4.35	砂岩	完	つまみ
17	10	S 90W108	II・中	2.24		0.63	1.15	黒曜石	✳	錐部磨耗
18	11	S 84W96		3.19	0.67	0.37	0.95	黒曜石	✳	つまみ
19		S 81W90	II b	(1.99)		0.44	(0.55)	黒曜石	頭部欠	
20		S 87W78	II	(1.86)		0.7	(1.35)	黒曜石	頭部欠	
21		溝7		3.33		0.66	1.55	黒曜石	完	
22	12	S 78W84		3.22		0.72	2.15	黒曜石	✳	
23	13	S 78W81	II・中	4.16	0.68	1.2	2.6	黒曜石	✳	
24	14	S 84W81		3.4		0.55	2.1	チャート	✳	
25	15	S 90W102	II・中	3.87		0.82	4.2	黒曜石	✳	
26	16	S 75W75	II・中	2.47		0.66	1.35	黒曜石	✳	錐部磨耗
27		S 84W93		(2.31)		0.58	(1.0)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
28		S 84W96		(1.91)		0.61	(0.75)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
29	17	S 84W90		2.96		0.64	1.85	黒曜石	完	
30		S 72W66	II・中	(1.84)		0.48	(0.8)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
31	18	S 84W93		3.89		0.64	1.9	黒曜石	完	

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	線部幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
32	19	S75W72	II・中	3.61	0.94	0.91	2.5	黒曜石	〃	つまみ
33		S75W75	II・中	(3.17)	(0.66)	0.84	(2.9)	黒曜石	線部欠	つまみ
34	20	S90W102	II・中	(3.34)	(0.76)	0.74	(2.7)	黒曜石	線部欠	つまみ
35	21	S72W75	II・中	2.21		0.64	1.0	黒曜石	完	
36	22	S72W75	II・中	1.92		0.59	0.95	黒曜石	〃	線部磨耗
37	23	S72W75	II・中	1.89		0.44	0.75	黒曜石	〃	
38	24	S78W96	II	2.07		0.43	0.6	黒曜石	〃	線部磨耗
39	25	S78W93		3.8		0.5	2.2	黒曜石	〃	線部磨耗
40	26	S75W87	II・上	2.97		0.65	1.6	黒曜石	〃	
41	27	S75W84	II・上	2.29		0.52	1.1	チャート	〃	
42	28	S90W87	II	3.33		0.53	2.15	黒曜石	〃	
43										欠番
44		S81W90	II・上	2.32	0.66	0.45	1.25	黒曜石	完	つまみ
45		S84W78		(2.31)		0.65	(1.4)	黒曜石	頭部欠	
46	29	S69W69	II・III	2.41		0.61	1.05	黒曜石	完	線部磨耗
47	30	土器集中区3		2.96		0.54	2.3	チャート	〃	未製品か?
48	31	S69W72		2.55		0.65	1.6	黒曜石	〃	
49	32	S69W72		3.94		0.58	2.0	黒曜石	〃	線部磨耗
50	33	土塊23		2.24		0.62	1.3	黒曜石	〃	線部磨耗
51	34	S69W72		2.41		0.83	1.9	黒曜石	〃	
52	35	S81W84	II a	2.79		0.54	1.5	黒曜石	〃	
53	36	S87W96	II・上	(3.26)		0.65	(2.5)	黒曜石	頭部欠	
54	37	S90W96	I・II・上	(2.67)		0.8	(1.9)	黒曜石	線部欠	
55	38	S78W90	II・上	(2.9)		0.53	(1.5)	黒曜石	頭部欠	
56	39	S81W84	II a	3.02		0.71	2.3	黒曜石	完	頭部、線部ともに磨耗
57	40	S75W90	II・上	2.76		0.6	1.2	黒曜石	〃	
58	41	土塊28		(2.73)		0.67	(1.3)	黒曜石	頭部欠	
59		S87W93		(2.18)		0.38	(0.75)	黒曜石	頭部欠	
60	42	土塊37		2.73		0.44	1.0	黒曜石	完	石磨か?
61	43	S84W84	II・上	2.54		0.49	0.75	黒曜石	〃	
62	44	S84W96	II a・上	(2.41)		0.63	(1.4)	黒曜石	線部欠	
63		S87W87	II	(2.5)	(0.69)	0.48	(1.25)	黒曜石	頭部、線部欠	つまみ
64	45	S78W93		1.71		0.53	0.6	黒曜石	完	
65		S81W96		(1.99)		0.56	(0.63)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
66	46	S69W66	II・上	2.53		0.53	1.19	黒曜石	完	
67		S81W84	II a	(1.95)		0.53	(1.25)	黒曜石	頭部欠	つまみ不明
68		S72W72	I	(1.42)		0.52	(0.5)	黒曜石	線部先端欠	つまみ不明
69	47	S78W78	I・II	(1.92)		0.41	(0.59)	黒曜石	頭部欠	線部磨耗
70	48	S69W75	II・上	(2.07)	(0.59)	0.61	(0.88)	黒曜石	線部先端欠	線部磨耗、つまみ
71	49	S69W75	I・下、II・上	2.61		0.55	1.38	黒曜石	完	
72		S69W75	I・下、II・上	2.09		0.74	1.97	黒曜石	〃	つまみ不明、線部磨耗
73	50	S87W81	II	2.61	1.07	0.68	1.6	黒曜石	〃	つまみ
74	51	S90W96	II a	2.75		0.58	1.69	黒曜石	〃	線部磨耗
75		S90W90	I・II・上	1.32		0.39	0.25	黒曜石	〃	
76		S87W90	II b・下	(3.09)		0.62	(2.27)	黒曜石	頭部欠	
77		S90W84		2.15		0.82	2.04	黒曜石	完	線部磨耗

No	図 No	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
78		S 90W84	II	1.87		0.62	1.01	黒曜石	#	端部磨減
79		S 84W90	II b	(2.29)		0.51	(1.22)	黒曜石	側部欠	端部磨減
80		S 63W69		(1.85)		0.5	(0.96)	黒曜石	端部欠	端部磨減
81	52	S 93W81	II・上	2.38	0.56	0.49	1.57	黒曜石	完	つまみ
82		S 96W105	I	2.54	0.71	0.78	2.18	安山岩	#	つまみ、石鏝か?
83		S 87W90	II a	1.23		0.53	0.5	黒曜石	#	端部、側部磨減
84		S 67W90	II a	1.34		0.31	0.24	黒曜石	#	端部磨減
85		S 72W75	II	2.33		0.42	0.95	黒曜石	#	

石 匙

No	図 No	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	S 93W102	II	3.48	(6.65)	0.83	15.60	硬砂岩	側端欠	
2	2	S 67W81	II	1.49	2.85	0.42	1.20	黒曜石	完	

ピエス・エスキュー

No	図 No	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	11号住		2.34	(1.98)	0.72	3.7	黒曜石	側端部欠	
2	2	S 75W84	II	2.00	2.00	0.63	3.0	黒曜石	完	
3	3	S 84W96		2.44	2.02	0.65	2.2	黒曜石	#	
4	4	土鏝52		2.29	2.21	0.63	2.9	黒曜石	#	
5	5	土鏝13		2.79	(1.60)	0.91	3.2	黒曜石	半身部欠	

スクレーパー

No	図 No	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	13住南側		4.48	10.64	1.70	86	硬砂岩	完	自然面 横長割片
2	2	S 63W9		5.75	9.11	1.31	90	硬砂岩	#	自然面 横長割片
3	3	S 81W81	II・上	4.02	8.23	0.69	30	砂岩	側端部欠	自然面 横長割片
4	4	溝5に切られる土鏝		5.32	0.78	1.23	82	砂岩	完	自然面 横長割片
5	5	S 81W93		3.96	(5.31)	0.94	30	ホルン フェルス (砂岩)	欠	自然面 横長割片
6		不明		5.07	6.81	1.12	45	粗粒砂岩		自然面 横長割片
7	6	E 3 S 45 N E		8.58	10.89	1.25	160	チャート	完	自然面 横長割片
8	7	S 75W84	II・中	6.04	(7.33)	1.00	54	砂岩	欠	自然面(側端部)横長割片
9	8	S 96W102	I	6.66	(8.40)	1.10	75	砂岩	側端部欠	
10		不明		4.25	(6.20)	1.12	29	砂岩	欠	磨耗
11	9	13住南側出土面		6.94	10.51	2.10	140	硬砂岩	完	
12	10	S 78W90	II・上	6.44	6.93	1.18	50	砂岩	#	
13	11	S 72W81	II・中	7.28	8.23	1.41	86	砂岩	側端部欠	
14	12	溝1		9.56	10.92	3.16	314	砂岩	完	自然面
15	13	S 78W81	II・中	(4.84)	4.84	1.00	26	砂岩	側端部欠	
16	14	S 72W81	II・中	8.34	10.93	2.06	186	硬砂岩	完	自然面(両面)
17	15	S 81W84	II・中	6.64	6.36	0.73	42	砂岩	欠	
18		土鏝53		4.21	7.47	1.66	45	石英閃緑 岩		磨製石斧か?
19	16	11住		7.58	6.78	0.53	53	千枚岩	完	
20	17	S 84W84	II *	6.24	7.39	1.22	79.49	砂岩	欠	自然面打製石斧か?

打製石斧

No.	出 土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形態	石 質	使用痕	自然面	観察部 位	備 考
1	S4W70NE	II+中	12.13	5.12	2.14	165	III-B	硬砂岩			下から片	—
2	S72W70NE	II上	11.25	4.26	1.9	116	III-A	砂岩				—
3	S4W96E		12.14	5.83	1.66	119	III-A	*				—
4	S4W96E		11.07	5.19	2.31	144	III-B	ホルンフェルス(砂岩)			基部面	—
5	S4W95SW	II中	14.12	5.57	2.07	194	III-B	硬砂岩				—
6	S47W61SW	II	9.25	4.53	1.56	79	I-A	*			基部付近	—
7	S41W63E	I・II(上)	10.93	6.09	2.14	217	III-B	*			方部付近	—
8	V区半検出層		7.42	5.49	1.44	76	III-B	砂岩				—
9	S69E91E		7.71	6.58	2.54	140	I-B	ホルンフェルス(砂岩)				—
10	十美7		18.69	4.88	2.33	225	III-B	千枚岩				風化
11	S78W35E	II上	11.78	3.64	1.5	73	II-A	ホルンフェルス(砂岩)	方部磨痕		上半片	—
12	美十検出層		11.54	3.32	1.14	69	II-B	砂岩			片	—
13	S90W92NW	II上	12.82	6.24	1.86	194	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			基部	風化
14	S41W96NE	II上	11.67	4.76	1.91	145	III-B	硬砂岩	基部面、方部磨痕		全面	—
15	S41W96-ベルトNW		12.95	5.81	2.78	278	III-B	砂岩				風化
16	S47W81NE	II	10.31	4.54	1.75	135	III-B	*	方部、片部面一部磨痕		基部面	—
17	S44W96E		12.12	4.83	1.14	84	II-B	均質	方部片部磨痕			—
18	S44W96E		10.43	6.51	3.2	320	III-B	硬砂岩				—
19	S46W95SW	I	8.64	4.98	1.72	86	III-B	*				—
20	土庫裏中区3周辺		6.79	4.34	1.69	62	III-B	頁岩	方部片部磨痕		基部	—
21	S78W95SW	II上	11.02	5.38	1.53	132	III-C	砂岩				欠切れ
22	S75W81SE	II中	10.29	5.6	1.73	165	I-C	ホルンフェルス(砂岩)	方部磨痕		両面	—
23	S41W96NE	II上	11.84	5.14	2.65	144	III-C	硬砂岩			基部付近、方部付近	—
24	S63W63SE		12.88	5.11	1.9	156	II-C	砂岩	方部磨痕		下から片	—
25	S90W70SE	II上	10.86	4.45	1.75	109	II-C	ホルンフェルス(砂岩)	方部磨痕		基部面	—
26	S78W95E		8.78	4.33	1.22	67	III-C	砂岩				風化
27	S72W81SW	II中	14.64	3.29	1.82	183	III-C	硬砂岩				—
28	S47W96SW	II	16.30	7.42	2.66	452	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			基部-方部	—
29	S47W96	II	15.99	5.94	2.66	186	I-B	石英閃緑岩			片部	—
30	土庫裏下層		13.68	5.71	2.07	144	I-B	硬砂岩	方部片部磨痕		下から片	欠切れ
31	S47W96SE	IIc・下	11.12	4.80	1.72	105	I-B	砂岩	方部磨痕			—
32	S41W96E		12.88	5.33	1.72	151	II-B	緑色火山岩			全面	—
33	S72W77SW	II上	12.0	5.15	1.5	110	I-B	砂岩			下片	—
34	S69W72美半生岩上面		11.04	5.36	1.72	142	II-A	硬砂岩			基部-方部	—
35	S47W81NE	II	12.62	6.09	1.13	188	I-A	ホルンフェルス(頁岩)			基部付近	—
36	S47W81SW	II	14.90	4.75	2.26	158	I-B	硬砂岩			基部側面付近	—
37	S47W102SE	II上	14.57	5.37	2.25	226	I-B	ホルンフェルス(砂岩)				風化
38	S47W81SW	II	12.51	4.65	2.22	148	II-B	硬砂岩			基部-方部	—
39	S46W95E		12.38	4.48	1.15	95	II-A	千枚岩	側部側面磨痕		片	—
40	S41W96E		14.2	5.96	2.45	209	I-B	硬砂岩			方部	—
41	S43W72SW	I	13.21	5.81	2.23	195	I-B	砂岩			基部-方部	—
42	S49W87SW	II上	10.92	5.14	1.58	119	I-B	実山岩			方部付近	風化
43	S72W75SE	II中	10.86	4.36	1.49	128	I-B	砂岩			方部	—
44	S78W99SE	II上	13.34	6.24	1.32	150	I-B	硬砂岩				—
45	十美7		12.15	5.76	2.31	164	I-B	*			基部、方部片	—
46	S90W81NW	II上	12.82	5.37	3.17	226	III-C	*			下半片	—
47	不明		12.11	6.1	1.64	170	I-C	*			基部付近	—
48	十美7		13.19	5.92	1.23	119	I-C	ホルンフェルス(砂岩)			基部-方部	—

No.	図 号	出 土	土 層	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	高さ (m)	形態	石 質	使用状況	自然面	破壊部 位	備 考
49	33	S81W35S W	Ⅱ上	12.21	5.46	2.11	133	I-C	ホルソフェルス(砂岩)	万部磨削		—	—
50	35	S50W36S E	Ⅱ上	12.67	8.72	1.85	130	I-C	砂岩		別	—	—
51	16	未詳		11.56	6.20	3.12	319	I-B	ホルソフェルス(砂岩)			—	—
52		S81W35E		12.26	5.19	1.64	125	I-C	ホルソフェルス(砂岩)		全面	—	—
53		S72W72N E	Ⅱ中	10.91	6.11	2.12	187	IV-C	粘板岩		上半片	—	—
54	38	S90W11N E	Ⅱ	10.68	5.56	1.67	144	I-C	砂岩		基部~万部	—	—
55	8	S70W36N E	Ⅱ中	12.02	5.03	2.32	173	I-B	安山岩			—	—
56	18	S93W136S E	Ⅱ上	10.65	3.97	1.26	64	I-B	砂岩	万部磨削		—	—
57		S72W72N E	I	9.52	3.95	0.97	59	I-B	ホルソフェルス(頁岩)	基部一部磨削	全面	—	—
58	49	S84W135N W	Ⅱa	7.97	3.21	1.27	38	II-B	ホルソフェルス(砂岩)			胴部~万部片	—
59		S69W75S E	I下・Ⅱ上	8.47	2.83	1.07	29	I-B	ホルソフェルス(砂岩)	万部磨削		—	—
60		S66W36N E	I	9.12	4.34	1.74	95	I-B	硬砂岩			基部~万部	—
61	9	S60W72E土南西半		10.88	4.44	1.25	88	II-B	ホルソフェルス(砂岩)			—	—
62		S75W37N E	I	8.31	4.89	2.17	105	II-B	硬砂岩			—	—
63		S60W72E土南西半		8.60	3.82	1.03	30	I-A	砂岩			基部~万	—
64	30	S84W36E		6.63	3.93	0.99	32	I-B	硬砂岩			—	—
65		S84W36S W	Ⅱ*上	9.27	4.56	1.28	60.1	I-C	砂岩	万部磨削		—	—
66		S79W75N W	Ⅱ中	9.3	4.14	0.94	41	II-B	*			—	—
67		S87W39S E	Ⅱc	9.61	4.69	1.22	73	II-B	*			—	—
68	36	S84W3E		10.47	4.89	1.61	96	I-B	硬砂岩	万部、基部磨削	側縁部	—	—
69	17	S84W36E		9.59	4.71	1.56	98	I-B	*	万部磨削		—	—
70		S87W3E		10.59	5.05	2.62	177	I-B	*			胴片	—
71	14	S84W136N W	Ⅱ上	11.65	7.62	2.04	235	I-B	砂岩			全面	—
72	19	S90W132S E	Ⅱ上	7.79	6.15	1.58	100	I-B	ホルソフェルス(砂岩)		*	—	—
73		S81W78N W	I・Ⅱ	9.58	7.13	2.46	173	I-B	砂岩			—	—
74	20	S90W36N E	Ⅱ中	7.58	5.49	1.85	105	I-B	ホルソフェルス(砂岩)			胴部	—
75	21	土塊27西		8.43	6.46	1.81	99	I-B	硬砂岩	縁水成	万部片側面	—	—
76		S81W36E		11.8	6.74	1.33	164	I-B	砂岩			両面	—
77	43	V区跡土		11.87	4.71	1.25	88	II-B	ホルソフェルス(砂岩)			全面	—
78		S72W72S E	Ⅱ中	7.86	7.33	1.69	139	I-B	砂岩			胴部	—
79		S93W72S E	I	10.72	8.91	3.2	248	I-B	硬砂岩			—	—
80	22	S63W75S W		12.71	8.01	2.50	256	I-B	砂岩			基部~万部	—
81	24	土塊27		9.04	5.44	2.42	139	I-B	ホルソフェルス(砂岩)		*	—	—
82	23	S87W36N E	Ⅱb上	10.09	6.17	1.55	115	I-B	硬砂岩			—	—
83	25	S72W75S E	Ⅱ中	97.1	5.24	1.48	99	I-B	石英閃緑岩			—	—
84	36	S54W135S E		14.29	7.41	3.10	338	I-C	硬砂岩			両面	—
85	37	S90W36N E	Ⅱ	16.19	6.91	2.38	256	I-C	*			—	—
86	1	S63W36N E	Ⅱ中	12.08	5.37	2.45	217	I-A	ホルソフェルス(砂岩)			—	—
87	12	S78W36E		15.1	6.16	2.58	255	I-B	硬砂岩			両面	—
88	59	S72W72N W	Ⅱ中	12.16	5.21	1.6	122	IV-B	緑色火山岩	縁水成		基部~万部	—
89		S81W70E		(8.68)	6.45	1.93	(140)	III-B	硬砂岩	万部磨削		基部~万部	A ₁
90	27	S78W36E		(7.12)	5.37	1.08	(61)		*	万部磨削、縁水成			C ₁ C ₂
91		S78W36E		13.74	(5.22)	1.74	(146)	I	緑色凝灰岩	万部、側縁部磨削	万部、側縁一部		C ₁
92		S81W36E		(8.92)	(5.21)	(2.52)	(186)	III	硬砂岩			側縁部	A ₂
93		S66W36E		(4.84)	(4.88)	(1.36)	(36)	III-C	牛牧岩(頁岩)				A ₁
94		S84W36E		(7.73)	5.16	1.51	(74)		硬砂岩			基部、側縁部	B ₁
95		S81W36E		(7.15)	6.82	1.89	(146)	I	*				C ₁ 風化
96		S84W36E		(7.44)	6.45	1.76	(134)		ホルソフェルス(砂岩)				C ₁ C ₂
97		S78W36E		(8.68)	6.82	3.01	(209)	III-B	硬砂岩	万部磨削			A ₁

No.	所 上	上 層	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重さ (t)	形 態	石 質	使用機	自然産	採掘位	備 考
98	S4W9C2		(4.62)	5.41	1.07	(40)		砂岩				
99	S41W9D1		(6.20)	5.47	1.26	(52)		片岩				欠番
100	S41W9C2		(7.48)	(4.86)	1.62	(58)		安山岩		基部		
101	S7W9C2		(9.24)	(5.37)	(2.45)	(100.7)	II	*		基部	A ₁	
102	S41W9C2		8.1	(4.82)	0.87	(36)		砂岩				
103	S7W9C2		(8.99)	6.88	2.82	(216)	III	*		両面	A ₂	
104	S4W9C1		(8.44)	4.28	1.2	(44)		片岩				
105	S81W9C2		(8.66)	5.09	2.15	(126)	III	ホルンフェルス(砂岩)				A ₁
106	S41W9C9		(12.00)	6.99	2.5	(260)	III	*		基部	C ₁	異化
107	S41W9C2		(8.15)	4.49	1.42	(45)	B	*				C ₁ C ₂
108	S41W9C3		(8.95)	5.86	1.68	(82)	II	緑色火山岩				
109	S41W9C2		11.88	4.69	2.03	169		ホルンフェルス(砂岩)				— 手製品
110	S7W94NW	II上	(11.36)	(8.26)	(4.07)	(368)	I	硬砂岩		両面	C ₁ C ₂	2段と兼合
111	S41W9C2		(11.20)	7.47	1.9	(163)		千枚岩				
112	S41W9C2		(8.86)	(2.8)	(1.87)	(46)	B	硬砂岩				C ₁ C ₂
113	S4W9C2		(7.9)	(4.74)	(2.18)	(82)		ホルンフェルス(砂岩)				C ₁ C ₂
114	S41W9C2		(6.17)	(2.43)	0.88	(13)	III	砂岩				A ₁
115	S5W12SW		(9.21)	(5.88)	1.21	(72)		砂質泥岩				
116	S7W12SW	I	(10.70)	7.21	2.28	(165)	II-B	ホルンフェルス(砂岩)				C ₁
117	S6W4NW		(9.26)	(4.82)	(1.74)	(86)	II-B	*				A ₁
118	S6W7S	I	(7.73)	5.74	2.05	(119)	III-B	*				A ₁
119	S6W7S E	II上	(8.23)	4.74	1.94	(102)	III-B	*	万箇断片			A ₁
120	V区跡土		12.81	4.4	1.59	113	II-B	砂岩				—
121	S5W12SW		(7.22)	(2.92)	0.88	(26)	I-C	頁岩				C ₁
122	10号生		(10.30)	7.26	1.73	(136)	I	砂岩				C ₁ C ₂
123	S7W13SW	I・II上	(6.71)	(4.57)	(1.1)	(43)	III-C	*		両部		A ₁
124	S7W11NE	II中	(9.1)	6.91	2.85	(215)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)				A ₁
125	S19W1SW	I	(8.18)	(7.18)	(1.7)	(142)	I	硬砂岩				C ₁ C ₂
126	18号NW		(5.87)	(7.4)	(0.96)	(58)	B	*	万箇断片			C ₁ C ₂
127	S41W72NE	I・II上	(9.32)	(7.15)	(2.24)	(126)		*		両部一部		C ₁ C ₂
128	S6W10NE	I	(5.99)	(4.88)	(2.27)	(82)		*				C ₁ C ₂
129	S7W10SW	II上	(5.74)	(6.28)	(1.7)	(80)	B	*		万箇、側断		C ₁ C ₂
130	S7W14NW	II上	(8.11)	(3.15)	(0.96)	(28)		砂岩				C ₁
131	S7W11NE	II中	(6.21)	6.92	1.82	(76)		安山岩				
132	S9W72NW	I・II(ト)	(13.2)	9.64	2.97	(286)	I-C	安山岩				C ₁
133	19号		(6.18)	(4.43)	(1.4)	(37)		砂岩				
134	S9W10NE		(8.46)	6.37	1.26	(81)	I-C	ホルンフェルス(砂岩)				C ₁
135	S7W10SE	II上	(13.58)	5.98	1.42	(143)	I-A	*	(*)	万箇-断片		C ₁
136	S72W72NE	II中	(6.74)	5.43	1.93	(93)	I-C	*	(*)	万箇断片	万箇、側断	A ₁
137	S72W1SW	II中	(12.4)	(5.94)	1.8	(120)	I	硬砂岩				C ₁
138	S47W4SE	II中	8.45	2.28	1.23	35	I-B	*	万箇断片	片断		—
139	S6W10SW	I	(5.56)	4.45	1.15	(35)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)	万箇断片			A ₁
140	S72W72SE	I	(5.07)	(6.88)	(1.2)	(44)	B	*				C ₁ C ₂
141	S72W72NE	II	(6.23)	(6.1)	(1.76)	(70)	B	硬砂岩	万箇断片、断片	万箇		C ₁ C ₂
142	S9W72NE	15号	(4.88)	(6.83)	(1.15)	(33)		砂岩				
143	S72W72NW	I	(8.5)	7.57	1.42	(112)	III-B	緑色火山岩	万箇断片			A ₁
144	S72W10SE	II上	(13.48)	(5.15)	2.14	(185)	I	ホルンフェルス(砂岩)				C ₁
145	S72W1SW	II中	(8.84)	5.62	1.77	(186)	I-B	*	(*)			C ₁

国 No.	出 上	土 層	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	高さ (#)	形数	石 質	使用機	自然面	破壊高 位	備 考
107	S70W75NW	II中	(5.46)	(4.1)	(1.19)	(34)		砂岩				風化
108	S60W60NE	II上(I)	(7.32)	6.67	1.96	(134)	I-B	ホルンフェルス(頁岩)			A ₁	
109	S81W60CW	II上	11.05	4.71	1.35	76	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			—	
110	S70W84SE	II上	11.97	6.94	1.64	139	III-B	硬砂岩			—	
111	S70W84SE	II中	(3.40)	(3.42)	(1.68)	(119)		砂岩	万能掘削機		D ₁	
112	V区跡土内		(7.43)	(5.71)	2.45	(147)		ホルンフェルス(砂岩)				
113	S72W84SW	I	(8.77)	(8.25)	(2.83)	(196)	I	緑色火山岩			A ₂	
114	S75W81NW	II中	(7.92)	8.88	1.46	(146)	I-B	硬砂岩	万能掘削機		A ₁	
115	S90W72NW	I・II(上)	(7.59)	4.85	1.52	(76)	I-B	*			A ₁	
116	S70W90SE	II上層	(8.98)	5.19	2.06	(93)		*			C ₁ C ₂	
117	S75W78SW	II中	(6.62)	4.09	(1.02)	(38)	III-B	ホルンフェルス(砂岩)	万能掘削機		A ₁	
118	S60W78SW	II上	(3.36)	(7.77)	(1.48)	(52)		硬砂岩				
119	V区跡土		(9.2)	5.59	2.32	(142)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁	
120	S70W78SW	II中	11.98	5.18	1.94	127	III-C	砂岩		河面	—	
121	S81W81NE	II中	(9.82)	(6.55)	(0.84)	(74)	I	硬砂岩		片岩面	C ₁	
122	S78W72NE	II中	(8.84)	7.79	(1.97)	(185)		*			C ₁ C ₂	
123	不明		(4.51)	5.96	(1.99)	(72)		*			C ₁ C ₂	
124	V区SE	I	11.76	5.16	1.35	109	III-C	*			—	
125	S78W90SE	II上	(8.64)	6.1	1.04	(72)		*				
126	S90W72NW	I	(8.38)	(5.23)	(1.82)	(160)	II-C	火山岩			A ₁	風化
127	S78W80NE	II上	(8.88)	(7.62)	(3.37)	(303)		硬砂岩				
128	S90W66NE	I	19.85	4.85	1.72	111	III	*			A ₂	
129	S72W78SW	II上	(6.76)	(5.14)	1.38	(61)	I-B	*			A ₁	
130	S72W81NE	II中	(9.30)	5.91	2.63	(165)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
131	S72W81SW	II中	(6.30)	(5.17)	(1.32)	(43)		硬砂岩				
132	S78W84SE	II中	(7.72)	(4.79)	(2.0)	(93)	II	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁	
133	S81W78NW	I・II	11.94	5.46	1.23	97		*	(*)	製錬部	—	未製品
134	S84W60SW	II上	19.65	5.56	1.39	96		硬砂岩		製錬部	—	未製品
135	S57W21SE		(3.82)	7.33	(2.23)	(250)		母岩				
136	S81W78SW	I・II	(5.57)	(7.86)	(1.56)	(80)	C	硬砂岩			C ₁ C ₂	
137	S78W90NW	II上	(6.33)	(6.30)	(1.3)	(65)	B	*			C ₁ C ₂	
138												欠損
139	S70W72SW	II中	(5.22)	(5.63)	0.85	(34)	I-B	硬砂岩				
140	S70W87NE	I	(9.25)	(4.53)	1.71	(95)		硬砂岩			C ₁ C ₂	
141	S70W90SE	II上	(9.3)	9.48	(2.84)	(343)	I-B	硬砂岩	万能掘削機		A ₁	
142	S72W84SE	I	(11.96)	(4.74)	(1.81)	(187)		*			B ₁	
143	S78W78	I・II	(6.90)	(6.45)	2.33	(96)		頁岩		基岩付近		
144	S72W95SE	II中	(6.30)	3.59	0.92	(27)	I-B	火山岩	万能掘削機		C ₁	
145	S60W78SE	II上	(3.52)	(6.85)	(1.55)	(47)	A	硬砂岩			C ₁ C ₂	
146	S60W89NE	II	(7.15)	(3.85)	2.05	(103)	I	火山岩		基岩		風化
147	S72W72SW	I	(5.33)	(5.25)	(1.82)	(44)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
148	S72W85NE	II中	10.7	5.42	1.8	117	III-C	*	(*)		—	
149	S72W72SW	I	(6.86)	6.9	(1.85)	(106)	B	硬砂岩			A ₁	風化
150	不明		(9.6)	4.68	1.32	(77)	III-B	*		線条状	C ₁	
151	S60W78SE	II上	(9.79)	5.39	1.55	(98)	I-B	*			C ₁	
152	S60W72線土面西半		(7.59)	6.01	2.05	(168)	B	*			A ₁	
153	S63W72NW	I	(8.8)	4.32	1.35	(66)		砂岩				
154	S54W60NW		(9.21)	6.22	(1.85)	(187)		ホルンフェルス(頁岩)				
155	S84W68SW	II中	(7.77)	5.44	(1.97)	(75)	I-B	砂岩			A ₁	

No.	区画	出 土	土 層	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重さ (kg)	形態	石 質	使用痕	自然図	破損部 位	備 考
106		S69W72南半位置土層		(5.24)	4.19	1.56	(90)	I-A	硬砂岩			A ₁	
107		S75W75 E	II中	(7.51)	4.97	1.78	(75)	I-B	*			A ₁	
108		S81W64 S E	II中	(8.49)	(5.88)	2.57	(156)	I	*			A ₂	
109		S73W87 S E	II上	(5.41)	(5.94)	(3.43)	(245)	I-B	砂岩			A ₂	
110		S72W72 S W	II中	(11.2)	5.38	(1.83)	(198)	I-B	砂岩			C ₁	
111		S79W60 N E	I	10.08	7.24	2.63	274	I-B	硬砂岩			—	
112		S75W67 N E	I	(9.34)	4.46	1.73	(102)	II-C	*			C ₁	
113		S78W60 N W	II上	(9.51)	(6.82)	(3.13)	(243)	I	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
114		S66W69 S E・S W	I	(5.82)	(5.36)	(1.85)	(52)	I-C	砂岩			A ₁	
115		S90W72 N W	I	(7.21)	(5.7)	2.28	(132)		灰山竹		河沿		
116		S78W60 N E	II上	(7.21)	(5.95)	2.1	(90)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
117		S69W72 N W	I	(6.97)	4.3	1.94	(68)	I	硬砂岩			A ₂	
118		S69W68 N W	II	(7.31)	(5.97)	(1.76)	(65)	B	頁岩			C ₁ C ₂	
119		S69W75 S W	I(T)-II上	(5.1)	(3.53)	(1.1)	(25)		砂岩			C ₂ C ₁	
120		S61W6 S W		(7.85)	(3.43)	(1.7)	(25)	B	*			C ₁ C ₂	
121		S63W65 N E	II中	(5.60)	(4.95)	(1.6)	(55)		*			C ₁ C ₂	
122		S72W75 S W	I・II上	(9.14)	(6.18)	(1.82)	(107)		硬砂岩			C ₁ C ₂	
123		S72W75 S E	II中	(7.22)	6.4	1.4	(79)	II-B	砂岩			A ₁	
124		S81W61 N E	II中	6.65	3.35	0.82	32	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		基部～先端	—	
125		S72W72 S E	II中	(8.91)	(3.3)	1.11	(42)	I-A	砂岩	片側面一部磨耗		C ₁	
126		S78W61 S W	II上	(7.74)	(6.83)	(1.46)	(59)	II-B	*			A ₁	
127		S78W60 N E	II上	(5.62)	(3.2)	(0.86)	(20)	II-B	石灰質砂岩			C ₁	
128		S14位・ベクト内		(5.11)	(6.31)	(0.79)	(33)	C	砂岩			C ₁ C ₂	
129		S66W75 S E		(6.39)	5.51	(1.9)	(173)	C	*			A ₁	
130		S69W65 S E	I	(5.21)	(6.45)	(0.87)	(40)	I	*			C ₁ C ₂	
131		S78W64 N E	II上	(6.21)	(4.89)	(1.56)	(33)		*			C ₁ C ₂	
132		S69W60 N W	II上	(5.83)	(4.3)	(1.91)	(27)		*			C ₂ C ₁	
133		S75W72 N E	II中	(6.81)	8.12	2.56	(307)	I-A	ホルンフェルス(頁岩)			C ₁	
134		S71W61 N E	II中	(11.20)	(5.96)	2.08	(130)	B	*	(砂粒)		C ₁	
135		S78W64 N W	II中	(9.52)	7.68	(2.40)	(176)		砂岩				
136		S90W72 S E	I	(4.64)	(5.12)	(1.43)	(45)	I-B	*		基部端	C ₁ C ₂	
137		S51W9 N W		(9.34)	(7.84)	(2.97)	(245)		*			C ₁ C ₂	
138		S78W63 S E	II上	(7.66)	5.41	1.89	(198)	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁	
139		S75W65 S E	II上	(5.20)	(5.66)	(2.7)	(77)		砂岩			C ₁ C ₂	
140	42	V区出土内		(8.90)	4.01	(1.46)	(70)	II-B	*	基部端	河沿	C ₁	
141													欠番
142		S78W62 S E	I	(6.90)	(4.6)	1.25	(32)		砂岩				
143		S78W63 S E	土層下	(7.08)	5.16	(0.97)	(43)	II-B	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁	
144		S78W61 N W	II上	(8.36)	(3.22)	(1.0)	(38)		砂岩			D ₁ D ₂	
145		S78W61 N E	II上	(4.07)	(4.21)	(6.89)	(36)	C	砂岩			A ₁	
146		S78W65 S E	II上	(6.42)	(4.14)	(1.14)	(24)		*				
147	42	10号土		(6.91)	(5.76)	(1.29)	(73)		*				
148		S49W72 N E	I	(4.46)	(5.57)	(1.54)	(39)		硬砂岩				
149		S78W61 S W	II上	(8.6)	(3.6)	(1.4)	(35)		硬砂岩				
150		14号		(5.51)	(4.85)	(0.83)	(14)	A	*			C ₁ C ₂	
151		S49W75 S E	II上	(3.61)	(8.07)	(0.95)	(38)		頁岩				
152		S66W72北土位置土		(6.24)	(5.45)	(1.98)	(72)		ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
153		S75W75 N W	II中	(6.9)	(5.5)	(1.46)	(75)	II-B	*	(*)		A ₁	
154		S69W69 N E	I	(7.36)	(2.9)	(0.9)	(31)	I-B	*	(*)		C ₁	

図 No	出 土	土 層	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	高さ (#)	形態	石 質	使用機	自然面	破砕部 位	備 考
36	S72W22SW	II中	(5.72)	(5.01)	(2.51)	(140)	I	＊ (＊)			A ₂	
36	S75W11SW	II中	(5.64)	(5.02)	(5.64)	(71)		硬砂岩				
36	土器集中663		(5.67)	(5.52)	(1.1)	(32)	I	千枚岩(頁岩)			A ₁	
36	S75W90SE	II上	(8.20)	(4.09)	(8.70)	(34)		＊ (＊)				
36	S66W72NW	I	(8.98)	(4.70)	(1.4)	(102)	III	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
36	S75W72SW	II上	(4.65)	(5.37)	(1.67)	(37)	B	硬砂岩			C ₁ , C ₂	
36	S72W96NW	II中	(0.45)	(5.57)	(2.30)	(70)	I	石英閃緑岩			C ₂	
36	S84W90E		(6.80)	(3.59)	(1.10)	(34)	II	珪岩			C ₂	
36	S84W90E		(9.45)	(5.22)	(2.28)	(102)		砂岩				
36	S84W90E		(5.56)	(5.64)	(1.81)	(90)	I	＊			C ₂	
36	VR土55		(4.70)	(4.45)	(8.82)	(34)		＊				
36	S84W11SW	II上	(7.46)	(5.11)	(1.51)	(71)	III-C	硬砂岩			A ₂	
36	S84W11SE	II上	(7.30)	(5.09)	(1.10)	(93)		＊		断面一部		
36	S84W90NE		(7.01)	(5.60)	(1.42)	(70)	I-A	ホルンフェルス(砂岩)			A ₁	
36	S84W10NE	II a	(6.75)	4.37	1.22	(57.5)	III-A	頁岩			A ₁	
36	S84W90NW	II b	(5.45)	(5.43)	(1.75)	(53)		硬砂岩		断面	C ₁ , C ₂	
36	S84W84NW	II上	(7.57)	(7.56)	(6.91)	(71)		砂岩				
36	S84W102SE	II中	(7.52)	(8.45)	(3.21)	(201)	I	＊			C ₁ , C ₂	
36	S84W102SE	II中	(7.36)	(5.15)	(2.25)	(95)		ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ , C ₂	
36	S87W90NE	I中	(9.71)	(5.33)	(2.96)	(180)	III-C	＊ (＊)			A ₁	
36	S87W90NE	II下	(7.66)	(6.27)	(2.22)	(136)		硬砂岩				
36	S87W11NW	II	(11.86)	5.81	1.14	(82)	I-B	砂岩			C ₁	
36	S90W72SE	I・II上	(7.23)	(4.70)	(1.47)	(74)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
36	S84W108SE	II上	(8.82)	(9.26)	(4.97)	(902)		砂岩			頂と整合	
36	S87W71NW	II b	(5.36)	(6.58)	(2.25)	(264)	I	石英閃緑岩			C ₂	
36	S84W84NE	I	(7.43)	(2.85)	(1.05)	(37)	III-B	砂岩			C ₁	
36	S81W90SE	II	(8.08)	(6.78)	(3.40)	(280)		ホルンフェルス(頁岩)			C ₁ , C ₂	
36	S81W90SW	II上	(9.94)	(6.82)	(1.78)	(145)	I	＊ (砂岩)			A ₂	
36	S81W96NE	II上	(5.83)	(6.50)	(2.19)	(187)	B	千枚岩(頁岩)			C ₁ , C ₂	
36	S81W96NE	II上	(8.96)	(5.18)	(2.10)	(93)	I	硬砂岩			A ₂	
36	S84W96NE	II中	(3.01)	(5.11)	(1.26)	(35)		＊			C ₁ , C ₂	
36	S84W91		(8.16)	(5.22)	(1.90)	(125)	I-B	＊			C ₁	
36	S69W72黄土		(7.71)	(8.64)	(3.11)	(260)	A	砂岩		断面一部	C ₁ , C ₂	
36	S72W99NE	I	(4.90)	(5.23)	(1.16)	(93)	C	頁岩			C ₁ , C ₂	
36	S81W96NW	II上	(8.80)	(6.42)	(3.22)	(280)	II-B	砂岩			A ₁	
36	S78W94SE	II上	(4.13)	(4.90)	(1.73)	(47)		＊			C ₁ , C ₂	
36	不明		(7.97)	(4.67)	(2.52)	(71)		＊			C ₁ , C ₂	
36	S90W90	II a	(11.86)	(5.12)	2.23	(190)	I	＊			C ₂	
36	S90W90	II a	(7.25)	6.41	1.41	(86)	I-B	＊			A ₁	
36	S90W90	II a	(2.40)	8.59	(1.82)	(254)	I-B	＊			A ₁	
36	S90W102NE	II中	(7.48)	(4.18)	(1.30)	(36)	III-A	＊			C ₁ , C ₂	
36	S90W96	II a	(8.25)	(4.32)	(1.41)	(56)	II	＊			A ₂	
36	S90W96	II a	(11.90)	8.36	(1.52)	(182)	I-B	＊			A ₁	
36	S90W11SE	II	(5.64)	(4.64)	(2.22)	(95)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
36	S87W90NE	II b上	14.46	(4.83)	(1.72)	(145)		砂岩	刀削機		C ₁ , C ₂	
36	S90W102SW	II上	(8.65)	3.54	1.32	(37)	III	緑色粘頁岩			C ₂	
36	S90W98SE	II上	(8.78)	(4.72)	(1.48)	(71)	I	硬砂岩			A ₂	
36	S90W108SE	II上	(6.02)	(4.95)	(1.30)	(41)	C	硬砂岩			C ₁ , C ₂	
36	S90W102NE	II	(2.90)	(5.28)	(1.65)	(145)	I	ホルンフェルス(砂岩)		刀削-基部	C ₂	

No.	図 No.	出 土	土 層	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重さ (kg)	形制	石 質	使用痕	自然断	破損部 状 態	備 考
24		S90W6NW	II上	(5.15)	(3.41)	(1.43)	(45)	III-B	硬砂岩			A ₁	
25		S87W90S E	I下	(8.12)	(4.46)	(1.45)	(94)	III	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
26		S47W6S E	II上	(7.75)	(5.63)	(1.43)	(76)	I-B	硬砂岩		万部付流	A ₁	
27		S87W90NW	I	(7.96)	5.69	1.96	(105)	III-A	*	万部磨削	万部	A ₁	
28		S90W90S E	II上	(6.81)	(6.82)	(1.80)	(95)		*			C ₁ C ₂	
29		S90W90S E	II上	(7.89)	(3.93)	(1.74)	(75)	III-B	*			A ₁	
30		S90W96NW	II中	(6.36)	(4.68)	(1.85)	(84)	I-B	ホルンフェルス(砂岩)		基部	A ₁	
31		S90W90S E	II上	(4.66)	(3.01)	(1.18)	(39)		砂岩				
32		S87W90S W	II	(3.76)	4.89	1.79	(116)	II	ホルンフェルス(砂岩)		万部-基部	C ₁	
33		S90W90S E	II	(4.65)	(3.42)	(1.19)	(34)		硬砂岩				
34		S81W64N E	II中	5.51	3.15	1.98	36	I-B	ホルンフェルス(砂岩)			—	
35		S81W64N E	II中	(7.01)	(3.68)	(1.80)	(38)	I-C	* (*)		胴部	C ₁	
36		S81W90NW	II上	(3.86)	(3.19)	(1.23)	(32)	B	硬砂岩			C ₁ C ₂	
37		S56W79S E	I	(3.28)	(4.23)	(1.94)	(18)		*				
38		S81W87NW	II中	(4.91)	(4.98)	(1.34)	(68)		ホルンフェルス(砂岩)				
39		S78W81S W	II中	(7.79)	(5.73)	(1.30)	(83)		* (*)		基部		
40		S81W87S W	II	(5.33)	(3.35)	(1.88)	(54)		硬砂岩				
41		S84W87NW	I	(5.80)	(6.83)	(6.83)	(35)		砂岩			C ₁ C ₂	
42		S90W81NW	II	(4.80)	(3.89)	(1.80)	(82)	I-A	安山岩			C ₁ C ₂	
43		S72W72N E	II	(6.61)	(4.89)	(2.81)	(79)		砂岩			C ₁ C ₂	
44		S72W72S E	II	(7.01)	(2.83)	(6.66)	(28)	III-B	*		万部-胴部	C ₁	
45		S69W90S E	I	(8.22)	(4.48)	(1.54)	(88)	I	ホルンフェルス(砂岩)		基部	C ₁	
46		S90W90N E	II中	(8.96)	(4.91)	(2.82)	(185)	III	砂岩			A ₂	
47		S78W90S W	II上	(8.99)	(5.58)	(1.46)	(164)	II-B	石英閃緑岩		胴部	A ₁	
48		S78W90S W	II上	(9.77)	(7.56)	(2.40)	(229)	II-B	砂岩		胴部	A ₁	
49		S78W90S W	II上	(8.00)	(3.86)	2.25	(156)	I	*			C ₁ C ₂	
50		S90W79N E	II上	(3.77)	(3.14)	3.06	(3.38)		*		河面		
51	54	S90W90N E		16.19	8.15	4.73	(765)	II-A	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁	
52		S69W90S W	II中	(7.27)	(6.79)	(2.75)	(1.12)		砂岩				
53	61	S72W90S E	I	(7.14)	(3.28)	(1.11)	(34)	III-B	ホルンフェルス(砂岩)	縁条痕		C ₁	
54		S72W90NW	I	(6.88)	(5.74)	(2.25)	(109)		硬砂岩				
55		S69W90S W	II中	(8.40)	(4.92)	(6.96)	(35)	I-C	ホルンフェルス(砂岩)		万部	C ₁	
56		S75W91NW	I・II上	9.93	6.68	2.18	206	I-B	砂岩			—	
57		S87W90S W	II中	(4.46)	(4.59)	(6.94)	(21)	B	硬砂岩			C ₁ C ₂	
58		S84W87N E	I	9.84	3.26	1.25	92		砂岩			—	横刃?
59		S90W94S E	II	(8.37)	(5.64)	(1.65)	(85)		*				
60		S90W87N E	II中	(8.24)	(4.84)	(1.51)	(65)		安山岩			C ₁ C ₂	
61		S87W90S E	II上	(7.14)	(5.94)	(6.72)	(33)	I	砂岩			A ₂	
62		S90W87S E	II	(4.37)	(4.84)	(1.51)	(37)	B	ホルンフェルス(砂岩)	万部磨削		C ₁ C ₂	
63		S90W87N E	II	(7.33)	(5.39)	(2.80)	(85)	A	砂岩			A ₁	
64		S90W87NW	II下	(5.85)	(4.56)	(2.27)	(36)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
65		S87W90S W	II中	(5.13)	(6.28)	(1.95)	(1.64)	III-B	砂岩			C ₁ C ₂	
66		S87W90S E	II上	(6.09)	(4.19)	(1.65)	(63)	III	*			A ₂	
67		S48W83N E		(4.30)	(8.85)	(2.30)	(285)	I	*		基部-胴部	C ₁	
68		S72W72N E	II下	6.01	(2.96)	(6.72)	(15)		硬砂岩			D ₁	
69		S72W90N E	I	(4.17)	(4.87)	(6.78)	(25)		ホルンフェルス(砂岩)				
70		S49W72N E		(9.48)	(6.87)	(2.84)	(183)	I	砂岩		基部-胴部	A ₁	欠番
71		土壌層		(3.08)	(5.75)	(1.42)	(45)		頁岩				

No.	国 号	出 土	土 層	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重さ (kg)	形態	石 質	使用痕	自然面	破損部 位	備 考
34		S84W94E		(5.26)	(6.32)	(1.65)	(82)	I	砂岩			A ₂	
34		S78W84E		(6.67)	(4.49)	(1.01)	(45)	I	ホルンフェルス(砂岩)			A ₂	
34		S78W84E		(6.64)	(5.74)	(1.22)	(54)	I-C	火山岩			A ₁	
34		S84W94E		(7.87)	(7.35)	(1.63)	(116)	I-A	均岩			A ₁	
34		S78W84E		9.27	(2.49)	(1.36)	(27)	III-B	火山岩			B ₁	
34		S84W94E		(7.12)	(5.34)	(1.43)	(65)	III-B	砂岩			A ₁	
34		20区		(6.46)	(4.15)	(1.32)	(46)	I	*			A ₂	
34		土層33		(3.30)	(4.29)	(0.96)	(33)		*				
34		土層35		(3.58)	(5.33)	(1.67)	(45)		火山岩			C ₁ C ₂	
34		跡土IV区		(2.60)	6.62	2.19	(265)		チャート		両面		
34		土層36		(5.62)	(6.51)	(2.65)	(134)	III-B	砂岩			A ₁	
34		IV区溝4		(9.10)	5.06	1.04	(39)	I-C	千枚岩(頁岩)			C ₁	
34		III区溝2		(9.91)	5.94	0.96	(91)	III-C	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁	
34		V区溝1		(8.24)	5.65	1.52	(75)	I-B	硬砂岩		片側付近	A ₁	
34		V区溝1(N3)		(5.66)	(3.63)	(1.04)	(32)	III	ホルンフェルス(砂岩)		基部先端	A ₁	
34		土層23		(5.56)	(5.37)	(1.92)	(35)	B	チャート		側縁部	C ₁ C ₂	
34		土層25		(4.95)	(4.28)	(1.52)	(34)		ホルンフェルス(砂岩)				
34		土層26		(8.32)	(5.94)	(2.15)	(144)	III-B	* (#)		両側面	C ₁ C ₂	
34		土層22		(7.41)	(3.61)	(1.60)	(68)	III	硬砂岩		基部付近	C ₂	
34		土層27		(6.84)	(4.27)	(1.72)	(62)	III	*		両側	C ₁ C ₂	
34		溝14		(9.69)	(4.65)	(1.75)	(75)	I-C	*			C ₂	
34		土層29		(5.16)	(5.31)	(2.15)	(164)	III-A	*			B ₁	
34		土層49		(7.42)	(4.91)	(1.72)	(96)	III	均岩		基部	A ₂	
34		土層27		(6.11)	(3.65)	(0.66)	(16)		褐色火山岩				
34		土層27		(6.67)	(5.12)	(2.0)	(76)	II-B	砂岩			A ₁	
34		土層27		(4.64)	(5.30)	(1.46)	(44)		*				
34		土層27		(6.42)	(7.64)	(2.97)	(169)	B	硬砂岩			C ₁ C ₂	
34		跡土		(10.0)	(5.71)	(2.43)	(148)	I-B	*		片側部	C ₁	
34		跡土		(9.75)	(5.96)	(2.67)	(99)	I	ホルンフェルス(砂岩)		脚部	C ₂	
34		跡土		(3.26)	(7.24)	(1.82)	(199)	I-B	砂岩		先端一面	C ₁	
34		S87W96E	目<下	(3.26)	(5.27)	(1.65)	(20)		石英閃緑岩				
34		S87W96E	目<下	(8.95)	(5.58)	(1.95)	(119)	I-B	*			A ₁	
34		S87W84S	目上	(7.46)	(5.27)	(1.79)	(64)	II	砂岩			A ₁	
34		S87W122E	目上	(5.01)	(9.06)	(1.15)	(60)	B	硬砂岩			C ₁ C ₂	
34		S93W122NW	目上	(5.23)	(9.09)	(1.86)	(121)		砂岩		片側部	C ₁	
34		S75W72SW	目中	(8.55)	(4.51)	(1.64)	(64)		*		両面		
34		S75W72E	目中	(8.27)	(5.76)	(1.61)	(42)	A	頁岩			A ₁	
34		26区NW		(3.37)	(3.61)	(1.15)	(70)		均岩			B ₁	
34		S57W9NW		(7.16)	(4.96)	(1.34)	(46)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
34		S69W8E	I	(6.16)	(4.83)	(1.64)	(66)	II-C	* (#)			A ₁	
34		V区土層集中区3		(5.33)	(4.82)	(2.66)	(53)	III-B	* (#)			A ₂	
34		S87W84S	目上	(9.42)	(4.93)	(1.36)	(80)	III-C	千枚岩			C ₁	
34		S78W96SE	目上	(5.05)	(3.94)	(1.34)	(34)	III-A	硬砂岩			C ₁ C ₂	
34		S87W96NW	目中	(5.23)	(6.6)	(1.54)	(46)	B	砂岩			C ₁ C ₂	
34		S69W72NW	目下	(6.51)	(6.31)	(2.67)	(84)		*				
34		S93W7SE	目上	(4.62)	(6.83)	(2.23)	(46)	II-B	*			C ₁ C ₂	
34		S95W122E	目上	(3.26)	(4.03)	(0.77)	(15)	B	*			C ₁ C ₂	
34		S87W122SE	目上	(5.25)	(3.96)	(0.96)	(13)	B	ホルンフェルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
34		S96W122E	I	(5.82)	(4.00)	(1.92)	(66)	III-B	砂岩		下半部	C ₁ C ₂	

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	形数	石質	使用痕	自然変	破損部 位	備考
37		S50W95E	Ⅱ上	(2.80)	(5.57)	(2.06)	(120)	I	硬砂岩		写部-基部	C ₂	
38		S87W93SW	Ⅱ上	(3.27)	(6.40)	(2.81)	(226)	I	砂岩		基部付足	C ₂	
39		S87W93NW	Ⅱ上	(3.99)	(5.88)	(2.30)	(174)	I	硬砂岩		胴部-基部	C ₂	
40		S87W96SE	Ⅱ上	(9.25)	(5.33)	(1.49)	(90)		砂岩				
41		S90W84NW	Ⅱ	(8.0)	(3.13)	(0.92)	(39)		*			D ₁ D ₂	
42		S87W93NE	Ⅱ上	(8.00)	(3.0)	(0.77)	(31)		*				
43		S87W93NE	I	12.23	4.45	1.06	37	Ⅱ-C	緑色火山岩				スライ バーホ?
44		S87W96SE	I	(5.10)	(5.71)	(2.21)	(66)	Ⅱ-B	ホルソファルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
45		S90W84SE	Ⅱ	(7.41)	(4.10)	(1.65)	(63)	Ⅲ	砂岩			C ₁ C ₂	
46		S87W96SW	Ⅱb上	(5.37)	(7.18)	(2.88)	(135)		*			C ₂	
47		S87W99SW	Ⅱ上	(6.56)	(4.70)	(1.63)	(43)	Ⅲ-B	燧石岩			C ₁ C ₂	
48		S90W87NE	Ⅱ	(4.48)	(3.15)	(1.11)	(14)		砂岩			C ₁ C ₂	
49		S54W32SE		(5.45)	(5.83)	(2.18)	(70)	I	*			C ₂ C ₃	
50		S87W93NE	Ⅱ中	(4.26)	(5.34)	(1.17)	(39)	Ⅱ-B	ホルソファルス(砂岩)			C ₁ C ₂	
51		S87W99SW	Ⅱ上	(6.85)	(4.80)	(1.67)	(64)	I-C	砂岩			A ₁	
52		S78W96SW	I	(6.41)	(4.32)	(1.82)	(70)	Ⅲ-B	*			A ₁	風化
53		S87W93NW	Ⅱb相持	(9.47)	(6.25)	(1.81)	(119)	Ⅱ-C	*			A ₁	
54		S87W96(3)NE	I	(8.28)	(9.48)	(2.92)	(280)	I-B	*		胴部	A ₁	
55		S87W99NW	Ⅱ中	(6.14)	(4.90)	(1.83)	(80)	Ⅲ-B	火山岩			A ₁	
56		S87W93NW	Ⅱ中	(9.92)	(6.41)	(1.31)	(90)	Ⅲ-C	千枚岩(頁岩)			A ₁	
57		S87W96SW	Ⅱ上	(8.26)	(4.64)	(1.04)	(40)	I	硬砂岩			A ₂	
58		S90W96	Ⅱb	(7.61)	(4.40)	(1.83)	(76)	I	砂岩			A ₂	
59		S87W93SW	Ⅱb上	(8.39)	(5.99)	(1.72)	(112)	Ⅲ-A	*		写部-胴部	A ₁	
60		S87W84NE	Ⅱ上	(7.46)	(5.98)	(1.17)	(110)	Ⅱ-B	ホルソファルス(砂岩)			基部付足	C ₁ C ₂
61		S93W106NE	Ⅱ上	(9.46)	(5.24)	(2.92)	(150)	Ⅲ	石英閃緑岩			A ₂	

磨製石斧

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	1	S78W93	Ⅱ	(4.35)	(2.37)	(1.0)	(12)	硬長岩	写部の一部欠	
2	2	S69W81	I	(11.54)	(4.21)	(2.05)	(160)	石墨片岩	胴-胴部の一部欠	
3	3	S72W78	Ⅱ・上	(2.41)	(4.85)	(0.99)	(17)	燧石片岩	胴-胴部欠	
4	4	S90W90	I・Ⅱ・上	(12.97)	(4.1)	(2.03)	(156)	燧石片岩	胴部の一部写部欠	未製品か?
5	5	S84W93		(9.97)	(5.53)	(3.96)	(315)	閃緑岩	胴・写部欠	
6	6	S84W84	I	(10.7)	(4.14)	(2.81)	(210)	閃緑岩	胴-胴部欠	上半欠
7	7	18住		(2.8)	(4.29)	(0.95)	(16)	閃緑岩	胴-胴部欠	
8	8	S69W78	Ⅱ・上	(5.52)	(3.8)	(1.06)	(34)	閃緑岩	一様欠	
9	9	S84W90	Ⅱ・上、I・下	(5.67)	(3.77)	(0.77)	(21)	閃緑岩	一様欠	
10	10	S81W96		(3.81)	(4.93)	(1.02)	(13)	石墨片岩	胴-胴部欠	
11	11	S72W78	Ⅱ・中	(7.29)	(4.28)	(2.44)	(111)	閃緑岩	下半欠	
12	12	S93W78	Ⅱ・上	(13.92)	(5.01)	(3.19)	(386)	閃緑岩	写部-胴片欠	
13	13	S87W96	Ⅱ・b・上	(8.06)	(4.29)	(3.43)	(182)	閃緑岩	写部欠	上半欠
14	14	S75W81	I・Ⅱ・上	(5.81)	(4.36)	(1.73)	(51)	閃緑岩	写部欠	
15	15	S87W81	Ⅱ・上	(8.93)	(5.55)	(3.79)	(282)	閃緑岩	上半欠	
16	16	S81W87	Ⅱ	(11.86)	(4.87)	(2.59)	(233)	閃緑岩	写部の一部欠	
17	17	S66W89	I	(8.38)	(4.12)	(2.23)	(116)	閃緑岩	胴部の一部欠	
18	18	S87W96	Ⅱ	(9.18)	(5.78)	(2.86)	(255)	閃緑岩	胴-胴部欠	

No.	図 No.	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
19	19	S78W81	II・上	(12.28)	(5.07)	(2.54)	(154)	砂岩	縦に半欠	
20	20	S84W93		(11.1)	(2.85)	(1.93)	(110)	文武者質 安山岩	刃部欠	
21	21	V区	II・下	(12.01)	(4.13)	(3.2)	(255)	閃緑岩	刃部欠	
22	22	土層13		(12.54)	(5.14)	(3.59)	(382)	閃緑岩	刃部欠	
23		S75W72		(2.91)	(2.41)	(0.33)	(2)	一部焼		
24	23	S66W66	I・II・上	(9.66)	(5.49)	(3.39)	(263)	砂岩	縦・刃部欠	

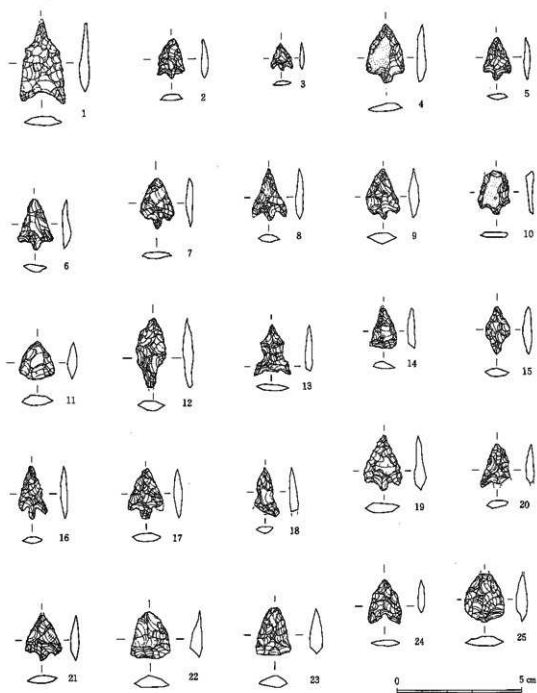
鼓・磨・凹石・石皿

No.	図 No.	出土	土層	凹部	磨打痕	磨面	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1		S78W96		○	○		(11.74)	(3.93)	(2.79)	(156)	砂岩	片欠	
2		S81W93		○			(8.74)	(5.13)	(2.1)	(100)	砂岩	片-片欠	
3		S81W93		○(×2)	○		(8.75)	(4.83)	(2.8)	(106)	砂岩	片欠	
4		S87W81				○(×2)	(8.00)	(5.64)	(1.75)	(119)	砂岩	一部焼	
5		20件		○(×2) 両面	○	○	7.31	5.96	1.56	86	砂岩	完	
6		S87W78				○	(6.91)	(2.85)	(1.57)	(50)	砂岩	一部焼	
7		S66W78	II上			○(×2)	(7.54)	(4.69)	(3.97)	(98)	閃緑岩	一部焼	磨盤石岸?
8		S81W93			○		(6.07)	(2.48)	(1.57)	(28)	石英閃緑岩	一部焼	
9		S81W93			○		(8.12)	(5.58)	(1.44)	(78)	砂岩	一部焼	
10		S81W93			○		(9.81)	(4.63)	(5.56)	(259)	磨石英閃緑岩	片欠	
11		S81W93			○	測定不可	(10.37)	(3.67)	(7.65)		砂岩	片欠	
12		S84W78			○		(4.56)	(4.38)	(9.92)	(23)	石英閃緑岩	一部焼	
13		S81W96			○		(5.35)	(5.14)	(1.64)	(62)	磨石英閃緑岩	片欠	
14		S81W96			○		(6.17)	(5.27)	(2.65)	(114)	砂岩	片欠	
15		S78W87			○		5.9	4.94	1.66	47	砂質頁岩	完	
16		S78W87			○		(4.31)	(2.72)	(0.9)	(11)	砂岩	一部焼	
17		S78W87			○		(6.67)	(3.79)	(2.86)	(102)	石英閃緑岩	片欠	
18		S78W87		○	○	○	(5.0)	(4.1)	(1.14)	(26)	砂岩	一部焼	
19		S84W96			○		(6.48)	(4.78)	(1.8)	(97)	石英閃緑岩	片欠	
20		S78W87			○		(7.16)	(4.18)	(2.11)	(50)	砂岩	一部焼	
21		S78W87			○		(9.6)	(5.56)	(5.57)	(247)	石英閃緑岩	片-片欠	
22		S78W87			○		(9.29)	(7.74)	3.35	(368)	不磨	片欠	
23		S78W87			○		(6.88)	(4.59)	(2.92)	(102)	砂岩	片欠	
24		S78W93			○		(8.55)	(4.51)	(1.33)	(50)	砂岩	一部焼	
25		S78W93			○		(5.79)	(5.45)	(1.96)	(57)	硬砂岩	一部焼	
26		S78W93			○		(9.31)	(4.83)	(4.02)	(254)	砂岩	片欠	
27		S78W93			○		(8.15)	(7.6)	(3.14)	(200)	砂岩	一部焼	
28		S78W93			○		(9.56)	(8.13)	(2.9)	(274)	磨石質	一部焼	
29		S81W96			○		(7.52)	(5.13)	(2.82)	(92)	砂岩	一部焼	
30		S81W96			○		(10.52)	(5.12)	(1.9)	(92)	砂岩	一部焼	
31		S81W96			○		(5.13)	(3.45)	(1.39)	(42)	砂岩	一部焼	
32		S81W96			○		(6.6)	(5.67)	(2.85)	(75)	石英質砂岩	一部焼	
33		S81W96			○		(6.78)	(4.77)	(1.11)	(32)	砂岩	一部焼	
34		S84W96			○		(7.99)	(5.34)	(3.96)	(220)	磨質砂岩	片欠	
35		S81W96		○(×2)	○	○	9.54	4.68	4.58	318	砂岩	完	
36		S81W93			○		(11.49)	(6.23)	2.03	(180)	砂岩	片-片欠	
37		S84W96			○		(9.13)	(9.27)	(2.55)	(302)	砂岩	片-片欠	石皿
38		S81W93			○		7.48	7.64	6.98	434	砂岩	完	

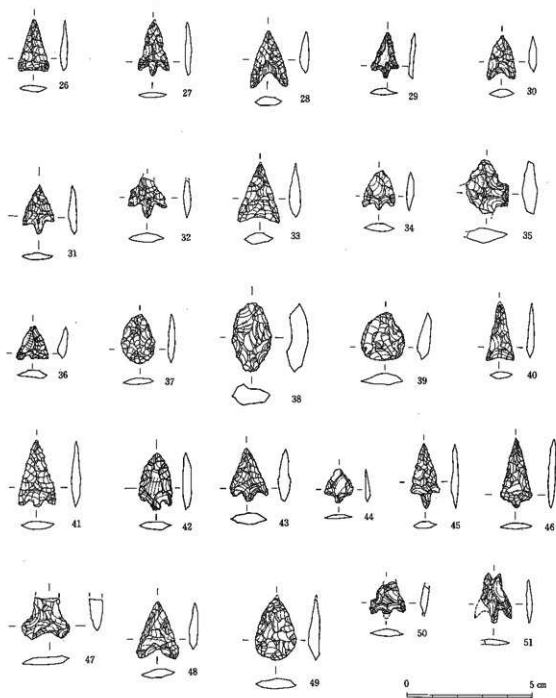
No.	出土	上層	凹部	取付面	断面	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
40	S76W95				○	(9.0)	(9.11)	(3.28)	(383)	砂岩	欠欠	
41	土層37		○(×2) 凹部			7.22	2.68	6.63	16	砂岩	欠	
42	1 S90W87		○(×2)			(7.75)	(7.26)	(5.13)	(475)	石英閃緑岩	欠欠	
43	2 S72W75	II上	○			(12.43)	(9.68)	(2.92)	(461)	砂岩	欠欠	
44	3 S81W84	II中	○			(5.33)	(5.14)	(1.77)	(78)	砂岩	欠欠	
45	4 S76W90	II上	○(×2) 凹部	○		5.53	4.17	2.66	87	砂岩	欠	
46	5 14位		○(×2)	○		15.36	6.91	6.43	798	砂岩	欠	
47	6 S81W87	II		○		13.98	4.95	2.85	373	砂岩	欠	
48	7 S76W78	II*	○		○	(8.47)	(6.04)	(4.74)	(342)	砂岩	欠欠	
49	8 S81W90		○(×2) 凹部			8.53	8.23	3.05	280	安山岩	欠	石皿小?
50	9 溝7	II*上	○(×2)			7.72	6.62	6.46	238	石英閃緑岩	欠欠	
51	10 S76W96	II	○	○		(12.64)	(8.16)	(4.67)	(474)	砂岩	欠欠	
52	11 S87W88	II*	○			(11.65)	(11.25)	(2.19)	(378)	安山岩	欠欠	
53	12 土層37		○			(6.14)	(4.63)	(2.82)	(86)	砂岩	欠欠	
54	13 S76W84	II上		○		(7.90)	(5.37)	(3.44)	(106)	砂岩	欠欠	
55	14 S84W96		○(×2)	○		16.00	8.12	6.29	615	砂岩	欠	
56	15 S90W86		○(×2)			18.00	16.50	3.62	1200	砂岩	欠	
57	16 S76W93		○(×2)	○		(10.67)	(7.25)	(6.86)	(733)	砂岩	欠欠	
58	17 S90W96	I・II上	○(×2)			(9.40)	(5.80)	(3.69)	(322)	石英閃緑岩	欠欠	
59	18 S93W78		○(×3) 凹部			(8.98)	(4.40)	3.89	(215)	砂岩	欠欠	
60	19 S75W99	II*上			○	11.40	3.75	2.46	154	砂岩	欠	
61	20 S69W75	II上	○			(10.78)	(9.85)	(4.16)	(596)	砂岩	欠欠	
62	21 S76W81	II上				(9.46)	(5.66)	(2.70)	(182)	砂岩	欠欠	
63	22 S76W78	II*	○	○		(9.66)	(5.54)	(3.42)	(256)	砂岩	欠欠	
64	23 S72W78	II中	○(×2) 凹部			(8.77)	(6.36)	(1.77)	(156)	砂岩	欠欠	
65	24 S72W72	II中		○		(20.46)	(6.73)	(2.54)	(121)	砂岩	欠欠	
66	25 S81W87	II		○		(6.85)	(6.77)	(2.90)	(154)	砂岩	欠欠	
67	26 S84W99	II上		○	○	(5.81)	(4.78)	(4.38)	(176)	砂岩	欠欠	
68	27 S76W96	I		○		(11.30)	(7.21)	(6.83)	(756)	安山岩	欠欠	
69	28 S76W78	I・II		○		(7.89)	(3.99)	(2.61)	(131)	砂岩	欠欠	
70	29 S81W90	II上		○		(8.83)	(5.05)	(2.44)	(142)	砂岩	欠欠	
71	30 S90W84	II上		○		(7.74)	(6.26)	(2.90)	(261)	砂岩	欠欠	
72	31 S76W96			○		(10.85)	(6.43)	(6.09)	(684)	砂岩	欠欠	
73	32 3位			○		(11.53)	(11.49)	(2.61)	(576)	砂岩	欠欠	被熱
74	33 S72W78	II上		○		(10.28)	(4.26)	(4.21)	(296)	砂岩	欠欠	
75	34 5位		○			(7.60)	(7.60)	(3.99)	(275)	砂岩	欠欠	
76	35 S87W81	II	○	○		7.80	7.42	2.64	229	砂岩	欠	
77	36 S81W87	II		○		(10.37)	(8.86)	(2.77)	(225)	砂岩	欠欠	
78	37 溝5		○			(14.35)	(5.22)	(5.00)	(395)	砂岩	欠欠	
79	38 S69W72	II上	○			(11.19)	(6.68)	(4.77)	(549)	砂岩	欠欠	
80	39 S90W84	II上		○		(5.82)	(4.99)	(3.36)	(132)	閃緑岩	欠欠	磨蝕石弁?
81	S69W69	II中		○		(9.12)	5.14	(4.60)	(311)	石英閃緑岩	欠欠	
82	5位		○			(14.35)	(5.22)	(5.00)	(595)	砂岩	欠欠	

その他の石器

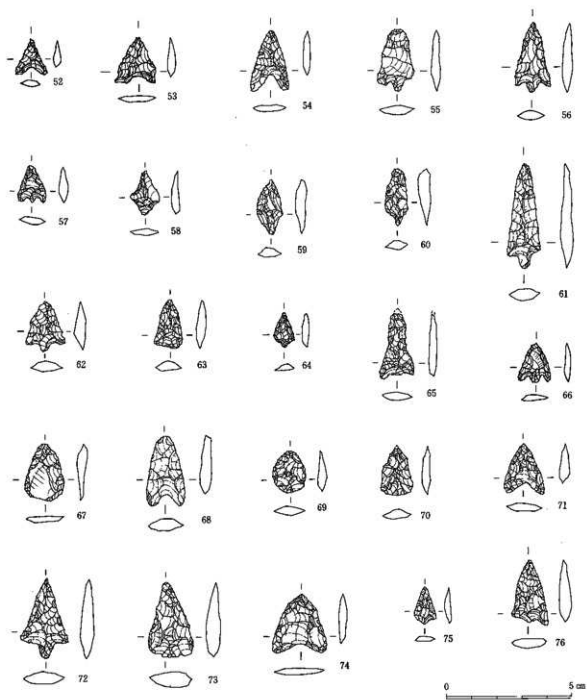
No.	器種	出土	土層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備 考
1		S78W72	II層中	3.98	1.38	0.51	3.35	砂岩	先端部欠	
2		S87W99	II層上NE	3.93	2.40	0.81	3.30	珸岩	先端部欠	磨製石斧の転用
3		S78W96	II層中	1.34	2.61	0.50	1.20	黒曜石	完	縁辺部つぶれ
4	石刃状剥片	S84W105	II層(遺構中)	11.44	3.87	1.21	45.50	黒曜石	*	縦長剥片
5	環状石器	S78W84	II層	8.90	(5.79)	2.03	(164.90)	花崗閃緑岩	約1/2欠	
6	*	S81W93		5.14	(6.10)	1.36	(45.30)	砂岩	*	
7	*	S84W90		5.37	(3.53)	1.88	(44.80)	砂岩	*	
8	*	土質13	フタ土	3.20	(3.34)	0.83	(10.60)	砂岩	*	
9	*	換土内		2.98	(4.71)	0.90	(14.85)	砂岩	*	



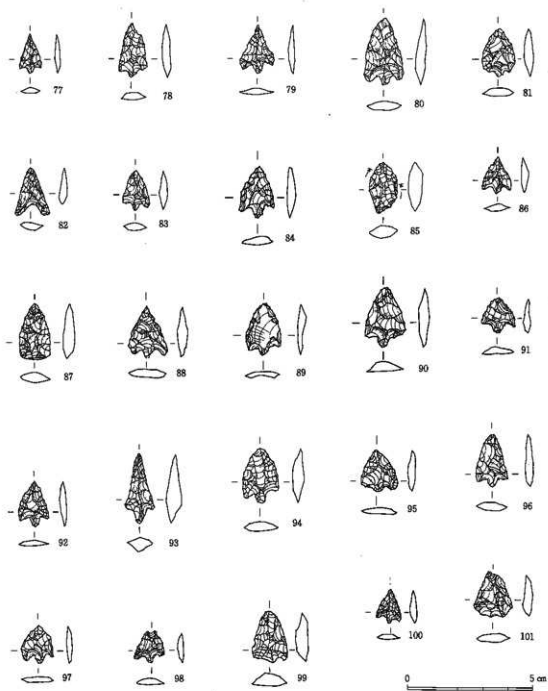
第57図 石器(1)(石鏃1~25)



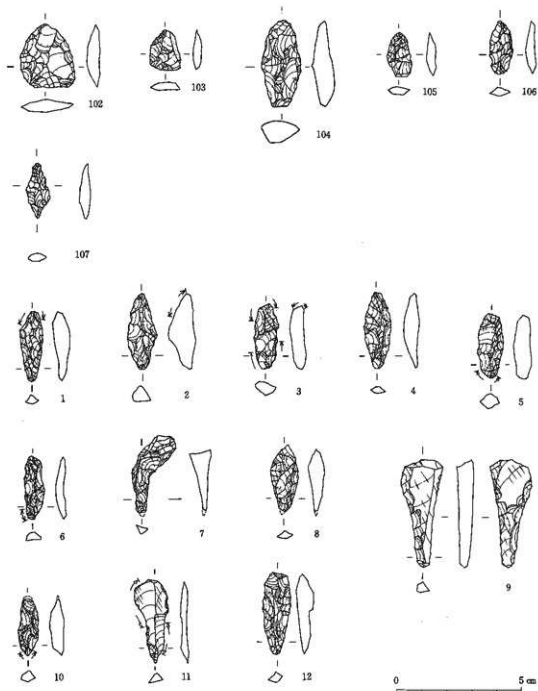
第58圖 石器(2) (石鏃26~51)



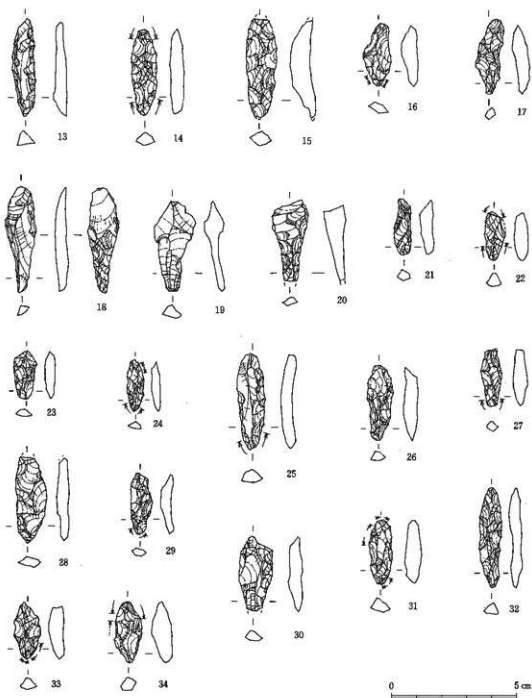
第59圖 石器(3) (石鏃52~76)



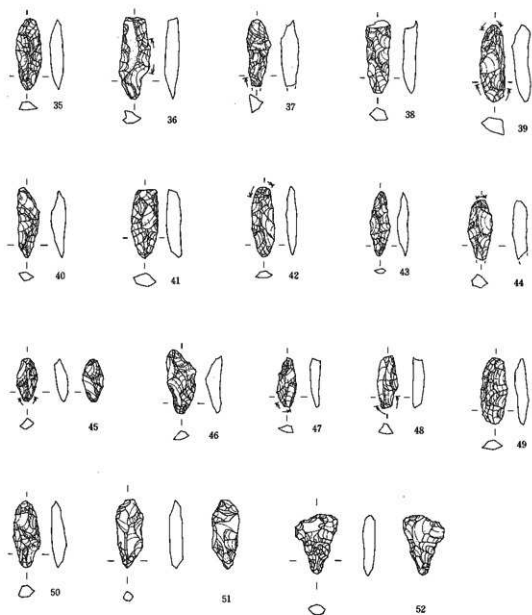
第60図 石器(4) (石鏃77-101)



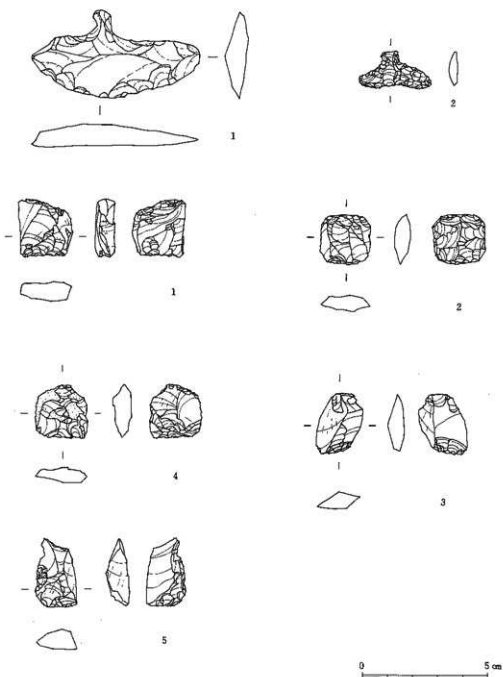
第61圖 石器(5)(石鏃102~107
石鏃1~12)



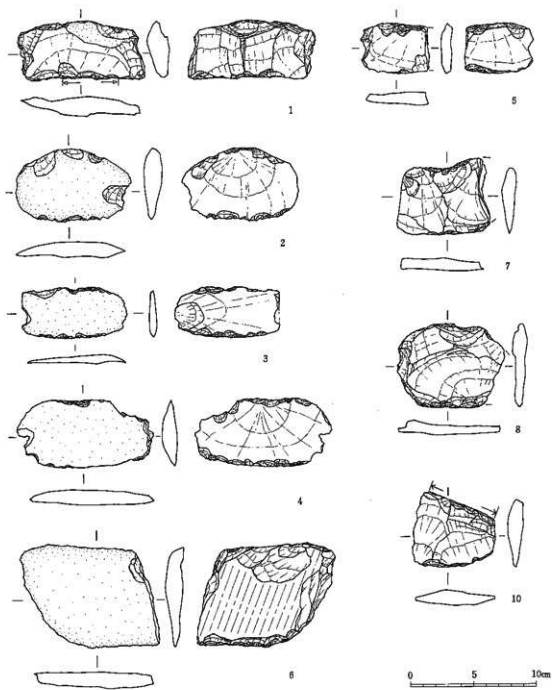
第62圖 石鏢(6) (石鏢13-34)



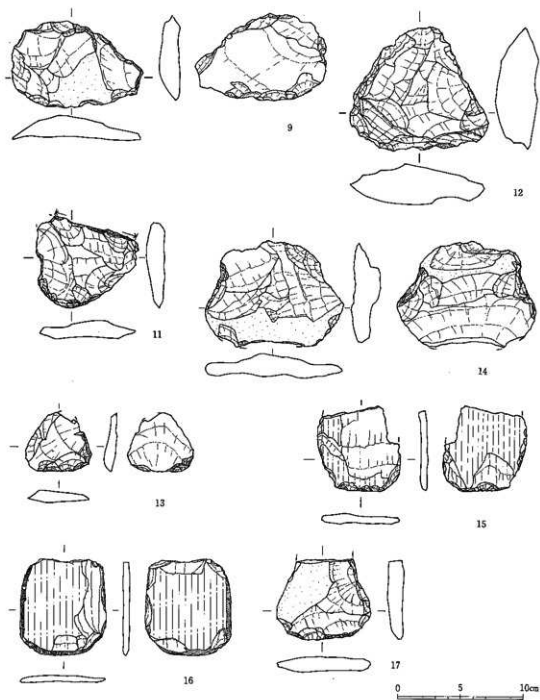
第63图 石器(7) (石35-52)



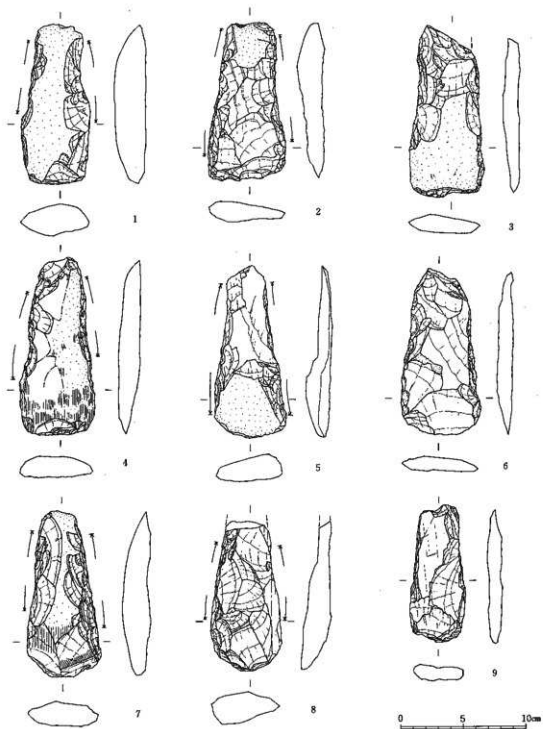
第64図 石器(8) (石匙1・2, ピエス・エスキューユ1~5)



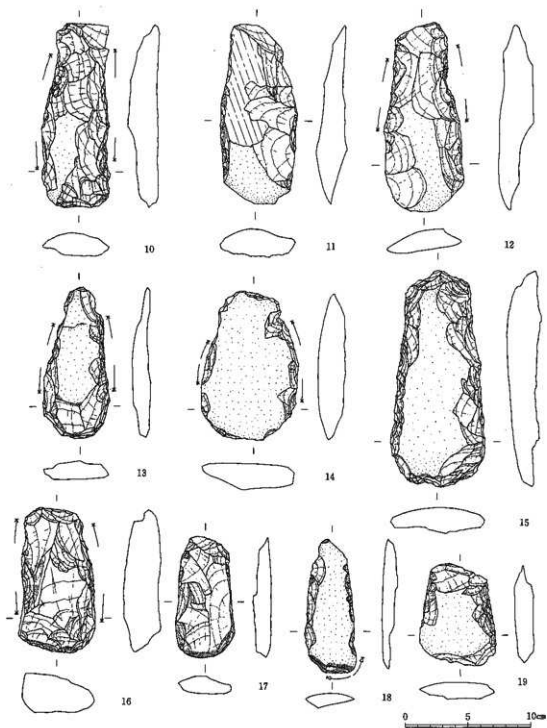
第65図 石器(9) (スクレーパー1~8・10)



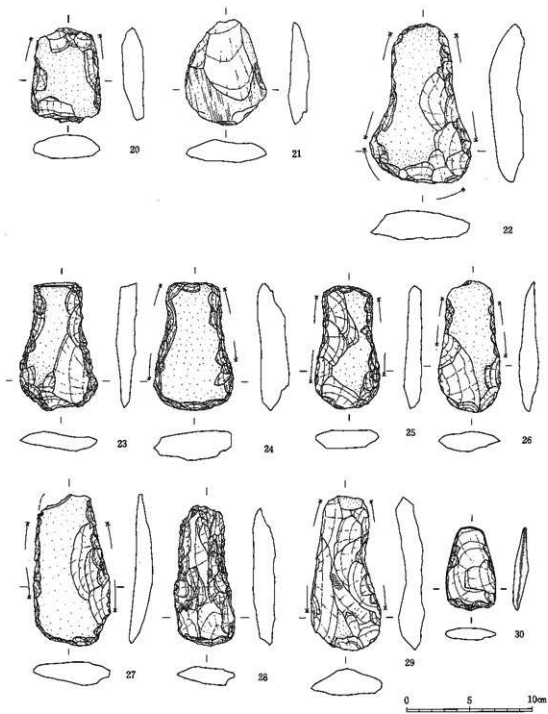
第66図 石器10 (スクレーパー 9・11~17)



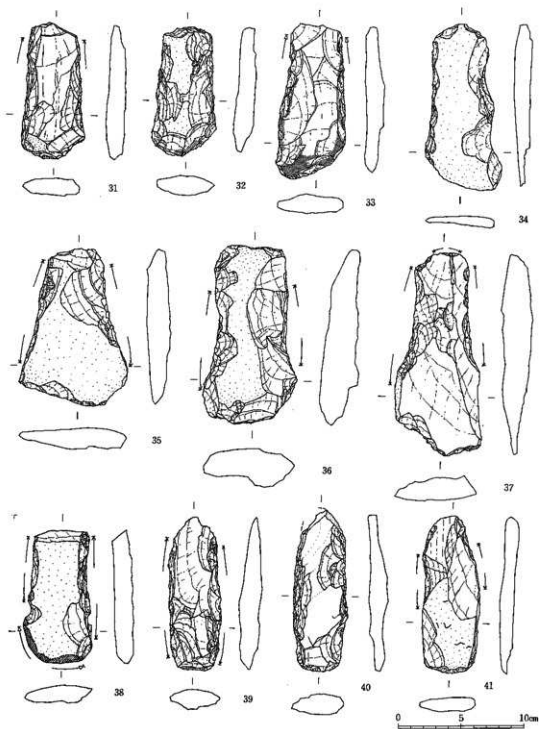
第67圖 石器 10



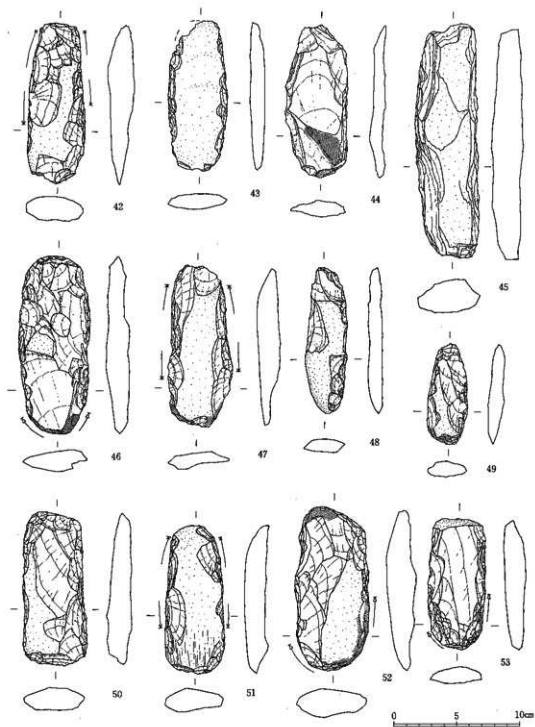
第68图 石器 (2)



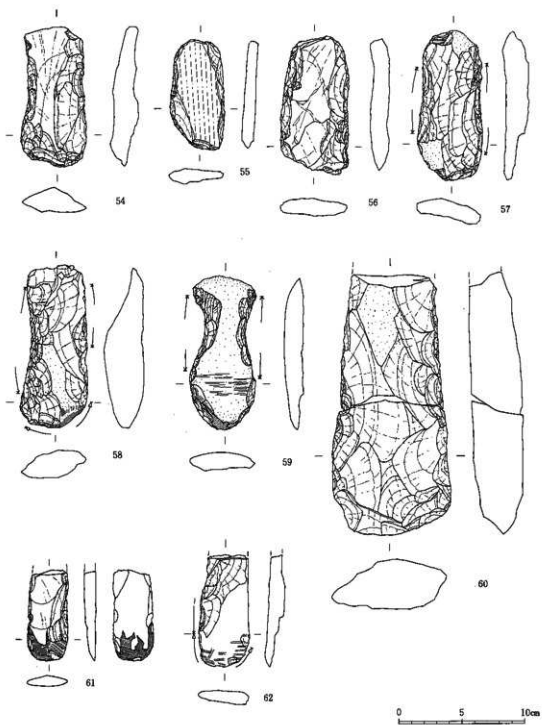
第69圖 石器 (10)



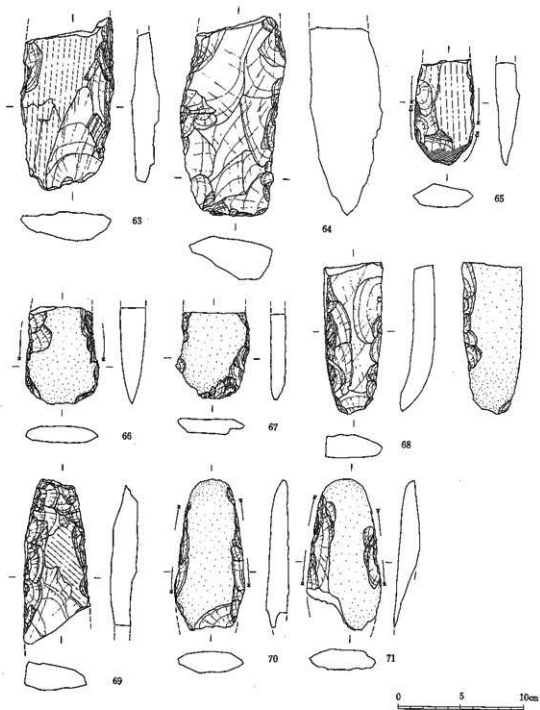
第70図 石器 (14)



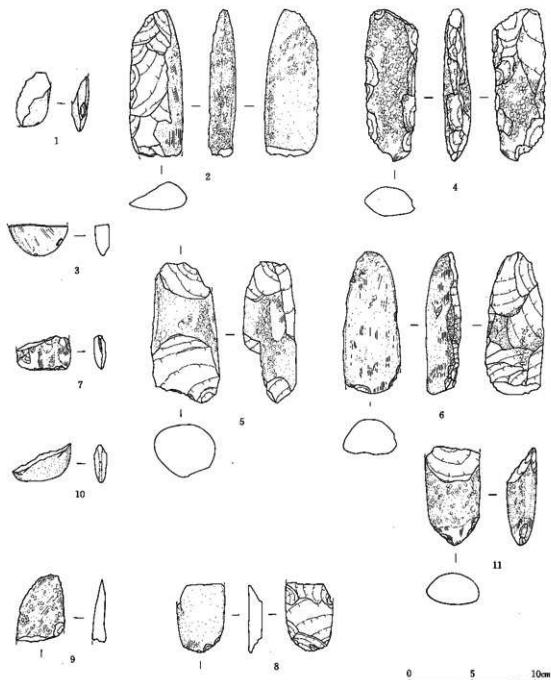
第71圖 石器 (15)



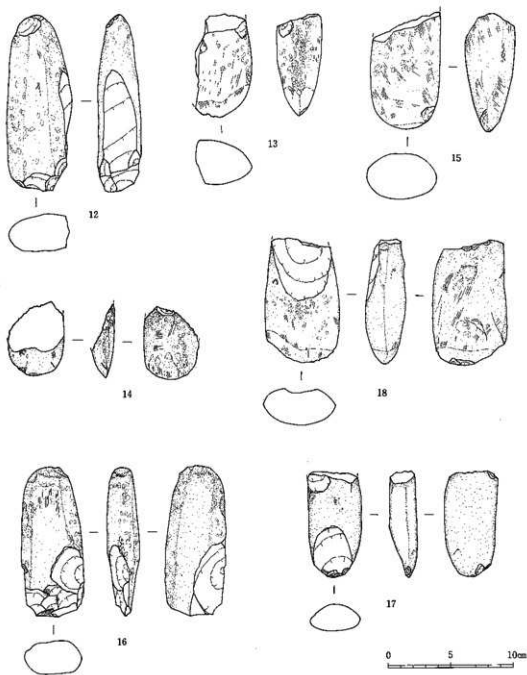
第72図 石器 (16)



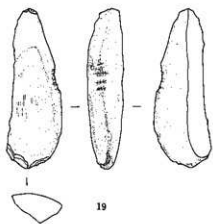
第73回 石器 07



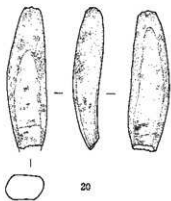
第74図 石器(磨製石斧 1~11)



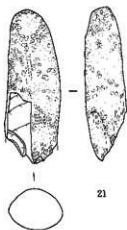
第75圖 石器(磨製石斧12~18)



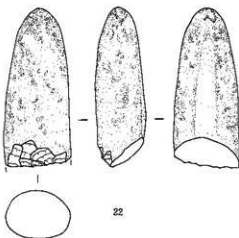
19



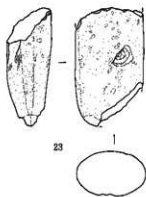
20



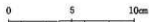
21



22



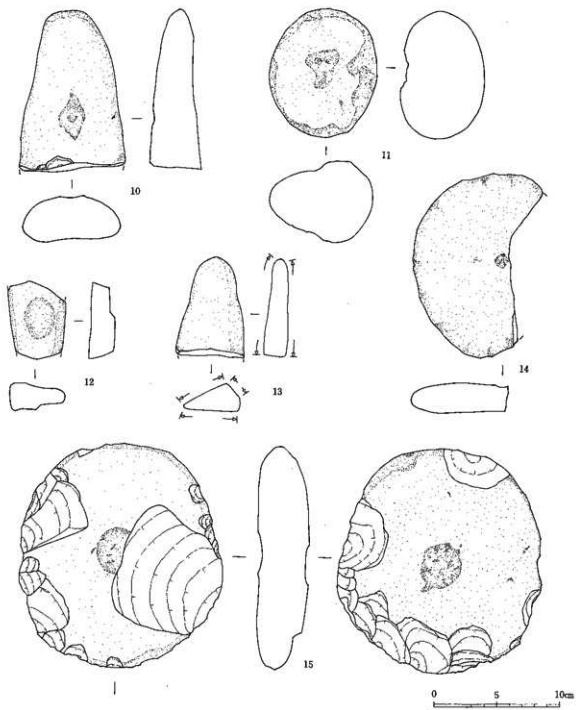
23



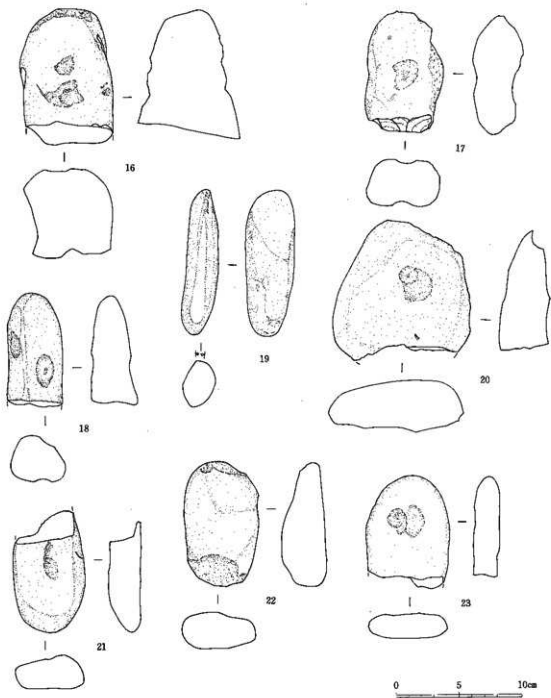
第76图 石器20 (唐製石斧19~23)



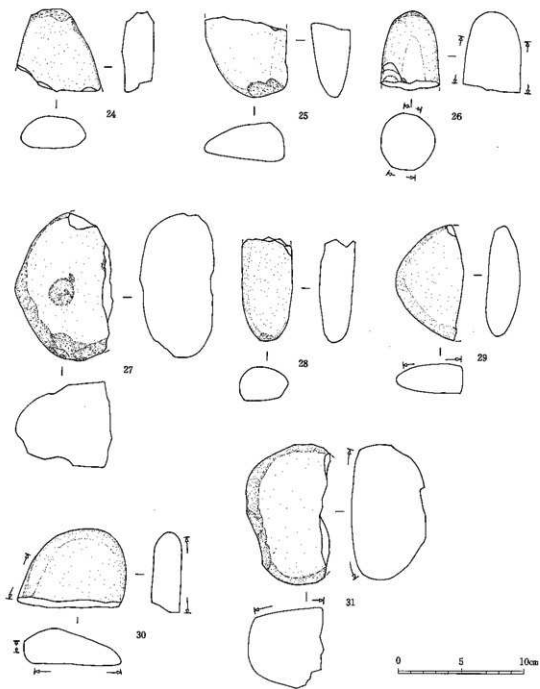
第77図 石器20(敲・磨・凹石1~9)



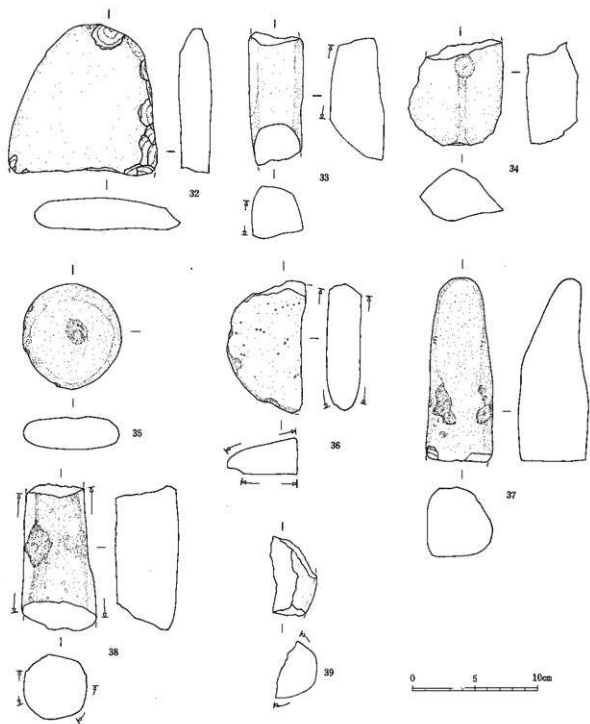
第78図 石器22 (敲・磨・凹石10~15)



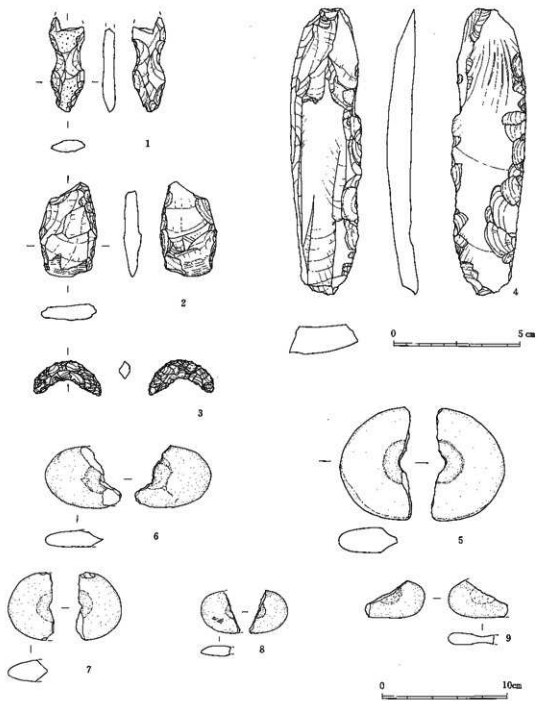
第79図 石器23 (敲・磨・凹石16~23)



第80図 石器24 (敵・磨・凹石24~31)



第81圖 石器25(敲·磨·凹石32~39)



第82図 石器26 (その他1~9)

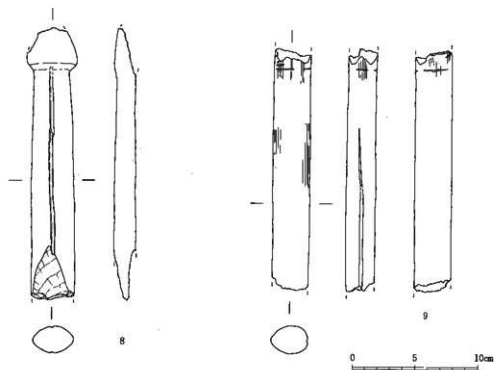
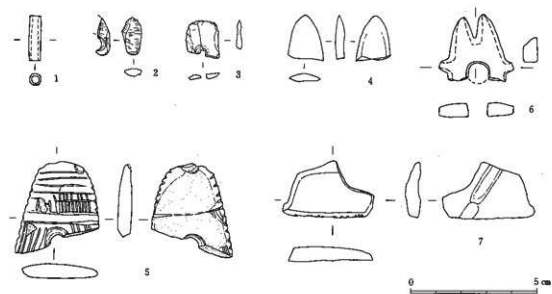
(4) 石製品 (図83)

10点出土し、9点を図化した。1は凝灰岩製の管玉。表面はよく研磨されている。上・下端とも端部から穿孔部にかけて凹んでいる点特徴的である。淡緑灰色を呈する軟質の凝灰岩製である。縄文時代には管玉はあまりみられないこと、弥生～古墳時代にかけて緑色凝灰岩製の管玉が多くみられることから、時期が下がる可能性をもつものである。2は装身具の一種と考えられるもの。器形はC字状を呈していたと考えられる。研磨は非常にあらく、成形剝離時の稜線を残している。めのう製。3は有孔の石製品。孔は両面からの回転穿孔である。周縁には成形と考えられる調整剝離が施されている。砂岩製。4は剣状の先端をもつ石器。研磨がよく施され、鋭い刃部を呈している。横断面は低いカマボコ状を呈する。裏面は周縁にそって鈍い稜がみられる。千枚岩製。5は装身具又は呪具と考えられるもの。孔の部分で破損しており全体形はわからない。孔は両面からの回転穿孔である。扁平な碟を素材とし、側縁部には浅い刻み目を施し、体部両面には線刻を施している。線刻はタテ・ヨコ方向を組み合わせたモチーフである。裏面の線刻文様は器面の剝落によりよくわからなかった。砂岩製。6も有孔の石製品である。孔はおそらく片面からの回転穿孔であろう。上方にはV字状の切り目が施され、両側には突出部をもつ。裏面は平坦である。全体形は推定できなかった。泥質砂岩製。7は刻み目をもつもの。表面の下端部、右側に凹状を呈する縁辺の一部に細かな刻み目が施されている。裏面は斜めに浅い凹状の溝が施されている。砂岩製。8は石剣。一部を欠いているが亀頭状の頭をもち、頭部から下は断面紡錘形の棒状の体部が伸びている。体部の両面には中央に沈線が施されている。緑れん片岩製。9は石刀。断面が偏紡錘形を呈する棒状のもので反りはない。頭は折れて失われているが、頭部寄りのところには横走る沈線が施されている。

表4 石製品一覧表

点	器種	出土	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	欠損状況	備考
1	管玉	S69 W78	II層上	1.79	0.47	0.47	0.45	凝灰岩	完	
2	装身具	S75 W75	II層下	(1.52)	(0.71)	(0.57)	(0.65)	めのう	1/2欠	
3	剣形石製品	S84 W96		(2.88)	(2.63)	(0.55)	(4.70)	砂岩	◇	
4	石剣	S81 W93		(3.60)	(2.76)	(0.72)	(1.65)	千枚岩	先端残	
5	装身具?	S81 W93	II	(3.61)	(3.21)	(0.54)	(8.10)	砂岩	1/2欠	
6	◇	土壙13	覆	(2.76)	(2.98)	0.61	(4.40)	泥質砂岩		
7	不明	土壙27		2.27	3.50	0.60	5.20	砂岩	ほぼ完	
8	石剣	S84 W90	III	(21.50)	(3.29)	(1.99)	(247)	緑れん片岩	先端・下端欠	
9	石刀	S66 W66	II	(19.20)	(2.86)	(2.23)	(235)	?	下端欠	
10	石刀?	S84 W90	II層上部	(10.52)	(3.01)	(1.81)	(96.10)	珎岩	下半欠	

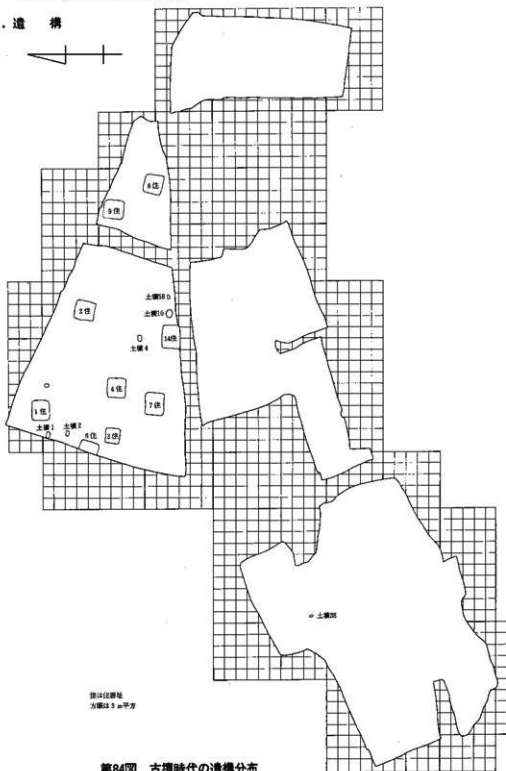
また、刃のない背部の下半には1条の沈線が施されている。石質は不明。10は図示していないが、石刀の可能性をもつもの。先端の一部、下半を大きく失っているが、横断面が偏紡錘形、外反りの棒状のもの。研磨痕が一部に推察される。



第83図 石製品

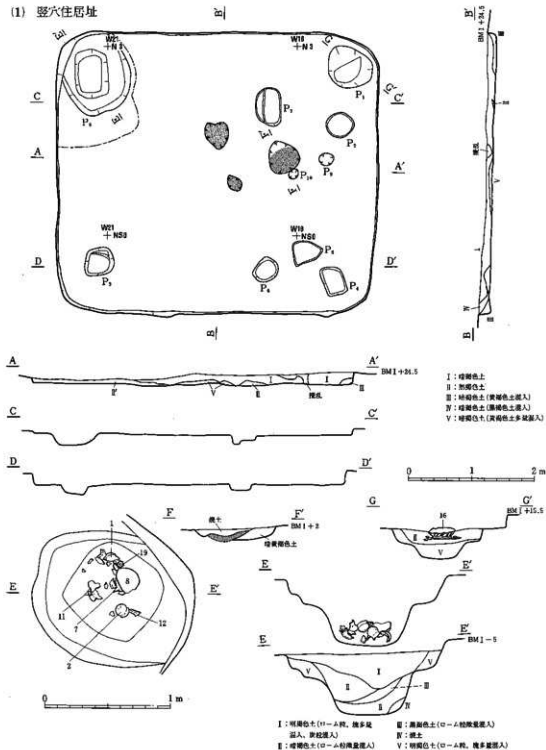
3 古墳時代の遺構と遺物

1. 遺構

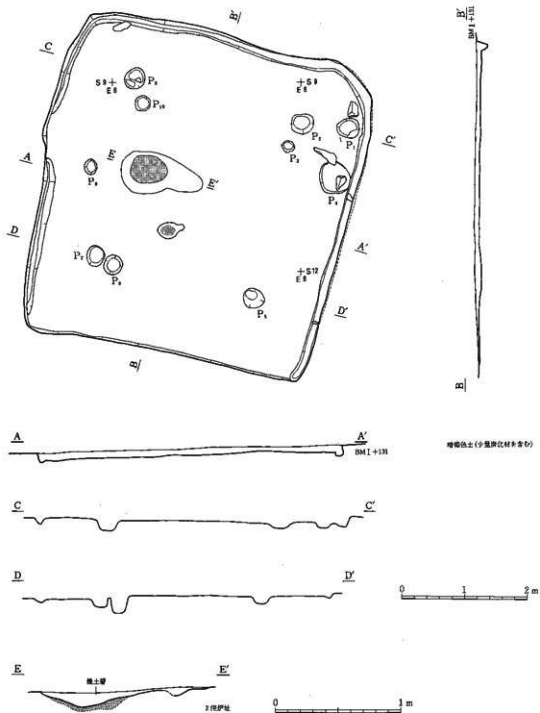


第84図 古墳時代の遺構分布

(1) 竖穴住居址

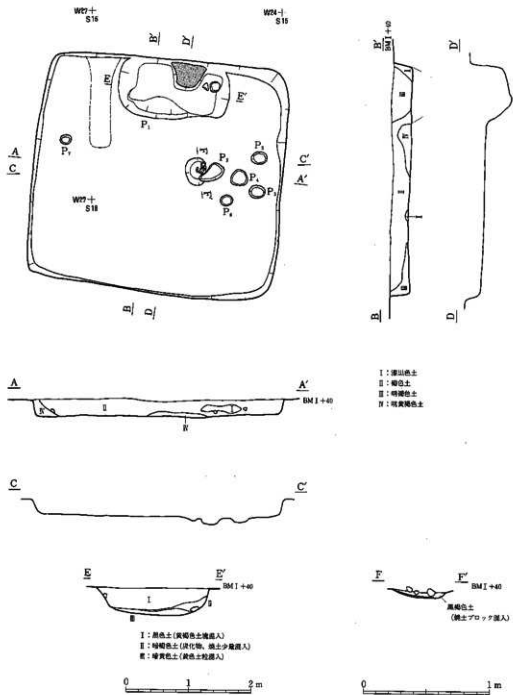


状況壁上部削平 床地山直床軟弱 床面積21.7m² 貯蔵穴北西隅P₆・周囲に間並状の堅い床 出土遺物P₁06、P₂(1・2・7・8・11・12・19)一括遺物、他は覆土中から小片となり出土(〜18)鉄線1(1)、刀子1(2) 時期古墳時代前期



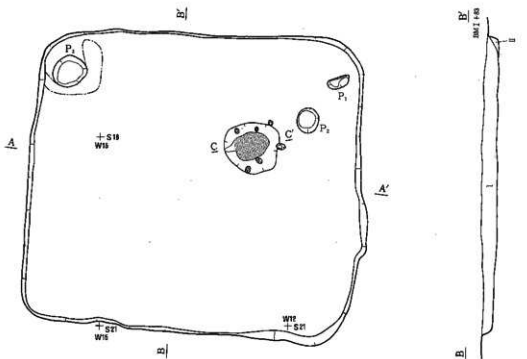
状況壁上部削平擾乱、覆土は耕作の影響をうける 床地山直床軟弱、直上から炭化材少量、柱穴配置より基浜の可能性、棟持ち柱？
 (P₄) 出土遺物耕作のため破損小片となって多数(20~36)、磁石(6) 床面積22.3m² 時期古墳時代前期

第96図 第2号住居址

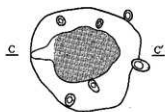


状況良好残存 床地山直床 貯蔵穴 P₁内部に炭化物・焼土の面・P₁南外に同築位の堅く高い床 柱穴不明 出土遺物覆土中・床上から少量散見 (37~40) 床面積13.3m² 時期古墳時代前期

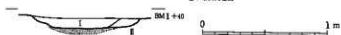
第87図 第3号住居址



I : 埴輪色土 (黄褐色土アロックス含む)
II : 黄褐色土

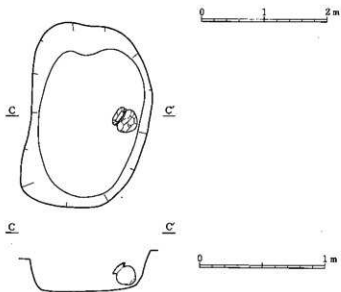
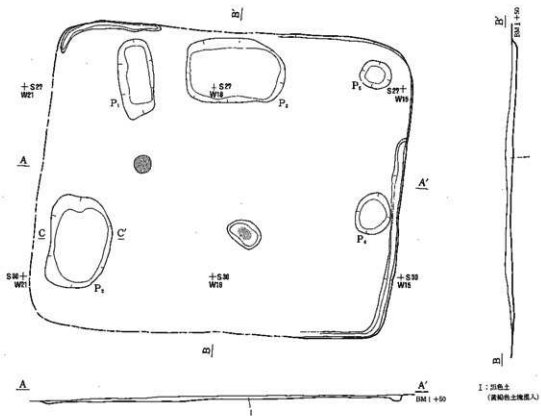


I : 埴土
II : 埴黄褐色土



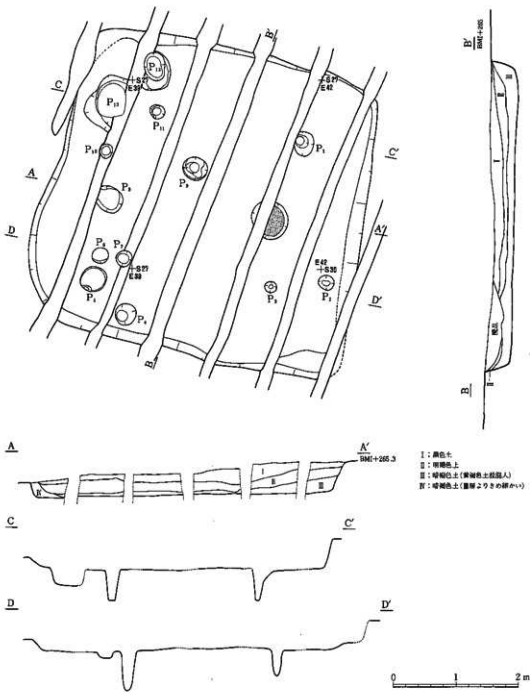
状況壁上部削平 床地山直床、中央部に2ヶ所良好堅緻な部分、床上に少量炭化材 貯蔵穴P₁周縁状に高く高い床 床面積23.4 m² 出土遺物埴土・床上から小片多数出土 (41~55) 器種鉢・器台・壺・甕・平底甕・丸底甕・台付甕 時期古墳時代前期

第88図 第4号住居址



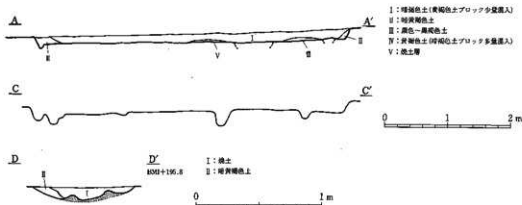
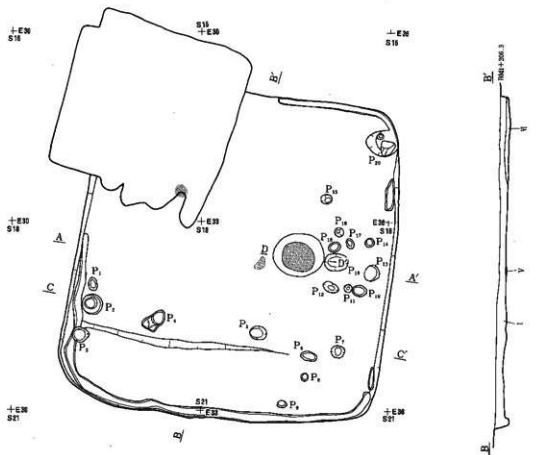
状況屋・床のほとんどが削平 床残存なし 貯蔵穴 P₁~P₄ 推定床面積27.1m² 出土遺物 P₁より完形土器6個、他は少量、器種は平底瓦 時期古墳時代前期

第90図 第7号住居址



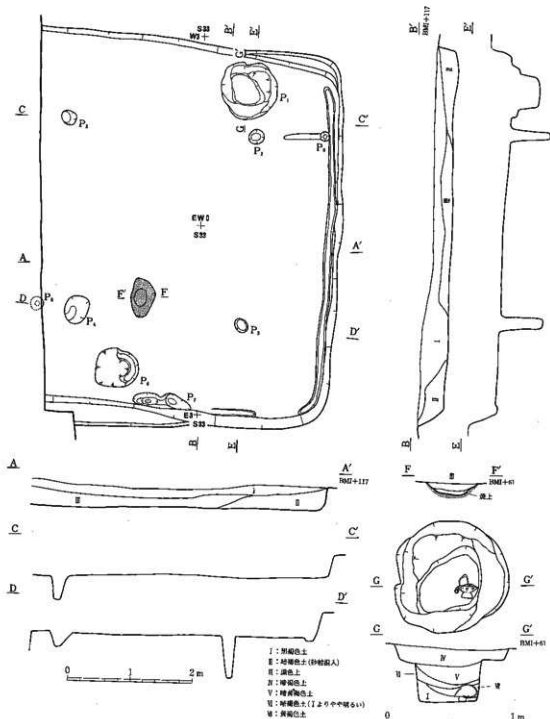
状況深耕によりズタズタに破壊、壁上部はほとんど攪乱、床地山直床、部分的に良好 貯蔵穴 P₁₀、床面積21.8m² 出土遺物 P₁₃より一括土器68、他は床近くから少量出土(62~67) 磨石鉢・直口壺・有段口羅壺・丸底甕・平底甕、磁石(9) 時期古墳時代前期

第91図 第8号住居址



状況北西部大きく破壊、壁上部若干削平 床地山直床、北西部若干高くなる部分あり床上に炭化材少量 出土遺物床上一括土器 (69・71)、他は (68・74) 小片、72は 8 住と遺構間接合 器種短須壺・器台・台付壺・壺・丸底壺 推定床面積23.6m² 時期古墳時代前期

第92図 第9号住居址



状況壁上部側平 床地山直床軟弱、北西隅一帯に高く堅い床 貯蔵穴 P₁ 床上僅かに炭化材 出土遺物 P₁内一括土器の7、他も床上に細片だが一括 (75-79) 器種短頸壺・鉢・台付甕・甕 時期古墳時代前期

第93図 第14号住居址

(2) 土 壌 (表7:P173参照)

土 壌 1
W25
+ N58



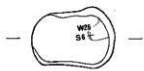
- I: 深褐色土(ローム粒混入)
- II: 黒〜深褐色土(ローム粒混入)
- III: 深黒褐色土(ローム粒混入)

土 壌 4



- I: 淡褐色土(或褐色土)少量混入
- II: 黒褐色土(ローム塊混入)
- III: 黒色土(ローム粒少量混入)

土 壌 2



- I: 黒〜深褐色土(ローム粒混入)
- II: 暗土
- III: 深褐色土(ローム粒混入)

土 壌 38



深褐色土(粘土粒少量混入)

土 壌 58



- I: 暗褐色土
- II: 暗褐色土(ローム粒少量混入)
- III: 褐色土

土 壌 5



- I: 黒褐色土(ローム粒混入)
- II: 黒〜深褐色土(ローム粒混入)
- III: 深黒褐色土(ローム粒混入)

土 壌 10



- I: 暗褐色土
- II: 明黒褐色土
- III: 暗褐色土(2より稍siv)
- IV: 暗黒褐色土
- V: 黄褐色土



第94図 古墳時代の土壌

2. 遺物

(1) 土器

表5 古墳時代土器一覽表

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調整	備考	
住居址			器高		胎土	外面		
土器			口径		焼成	内面		
区			底径					
1	鉢	片破片	8.0	暗褐色	砂粒多混	口縁部ヨコナテ後ミガキ 体部ヘラナテ後やや粗雑なミガキ 底部—無調整		
1			11.5					
95			2.7					
1	鉢	体部中位以上写欠損	8.2	淡褐色	やや緻密	体部以下ヘラナテ—体部中位以上ヘラナテ→口縁部ヨコナテ→ミガキ (底部を含む)	内外面にスス付着 二次焼成をうける	
2			9.1					
95			5.3					
1	小型壺	口唇部を除く片破片	4.9	橙褐色	砂粒多混 軟質	ヘラ又は指によるナテ→胴部中位及び胴部付近ハケ→ミガキ 底部—無調整 胴部ヘラカ指によるナテ→底部及び胴中位ハケ 口唇部ヘラナテ (→スビナテか?)		
3								
95								
1	小型直口壺	口縁部片破片	11.3	濃褐色	砂粒多混 石英多量に混入 軟質	口縁部ヨコナテ→全面ミガキ 口唇部はヨコナテにより内弯する		
4								
95								
1	小型直口壺	口縁部写	10.4	暗灰黄色	緻密	ハケ→口唇部ヨコナテ→口唇部入念なミガキ→口縁部粗雑なミガキ 堅緻		
5								
95								
1	鉢	体部中位以上写破片	14.7	黒褐色	小砂粒、石英多混	器面荒れて不明 *	二次焼成を受ける 在地品か?	
6								
95								
1	甕	口縁部完存 胴部以上写破片	13.3	淡橙黄色	砂粒多混	ハケ→胴部下位方向へのハケ→口唇部ヨコナテ 胴部ハケ→中位以上ヘラナテ→口縁部ハケ→上半のみヨコナテ	煮沸時以外の二次焼成を受ける	
7								
95								
1	壺	胴部写破片		橙褐色	砂粒多混	下位付近スビナテ→中位以上ハケ→上低下位方向へのハケ 下位付近輪襷部ヨコ方向ハケ 下位ヘラナテ→中位ハケ→全体を指カヘラによるナテ	外面スス付着 二次焼成を受ける	
8								
95								
1	壺	胴部写破片		暗黄褐色	砂粒多混 堅緻	胴部中位ハケ・頸部付近下方向へのハケ→全体をヘラナテ 下位をハケ→全体をヘラナテ (一部ケズリ状になる) 指頭圧痕を顕著に残す		
9								
95								
1	平底甕	胴部中位以上写欠損	23.2	橙褐色	砂粒多混	・底部一方方向へのケズリ 胴部ハケ→底部付近指ナテ 上低下位方向へのハケ 口縁部ハケ→ヨコナテ ・胴部ヘラナテ 指頭圧痕を顕著に残す 口縁部ハケ→ヨコナテ	胴部中位及び底部付近の 外面全体にスス付着 二次焼成を受ける	
10			15.4					
96			7.5					
1	丸底甕	片破片	16.7	茶褐色	小砂粒多混	胴部以下細密かつ柔単位がやや不明瞭なハケ 口縁部ヨコナテ	煮沸時以外の二次焼成を受ける 在地品	
11			14.0					
96			—					
					軟質	胴部以下ヘラナテ 口縁部ヨコナテ		

図番号	形種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考
住居址			器高		胎 土	外 面	
土器			口径		焼 成	内 面	
器			底径				
1	壺	胴部上位以上 写破片	15.0	橙褐色	砂粒多混	胴部下位方向へのハケ 口縁部ハケ→ヨコナデ	外面全体、口縁部内面に スス付着
12					軟 質	胴部ヘラカ指によるナデ 口縁部ヨコナデ	
96							
1	壺	胴部上位以上 写破片	17.1	橙黄褐色	砂粒多混	胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	外面片に厚くスス付着
13					軟 質	胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	
96							
1	平底壺	底部破片	6.8	暗黄褐色	砂粒多混	底部 回転ヘラケズリ 胴部ハケのも底部近くをヘラナデ	
14					堅 緻	ハケ→ユビナデ 中央に指頭によるユビオキエ痕	
96							
1	丸底壺	胴部上位以上 写破片	11.2	暗灰黄色 褐色	砂粒多混	胴部細密なハケ 口縁部ヨコナデ	外面にスス付着、口縁部 内外面に丸く肥厚 輸入品かは不明
15						胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ	
96							
1	S字壺	口唇部写、肩 部写及び胴部 欠損	17.3	茶褐色	小砂粒多混 金雲等微混	胴部ハケ→胴脚接合部 口縁部ヨコナデ	輸入品か
16					堅 緻	口縁部上段に波線を伴うヨコナデ 肩部指痕ナゲ痕 胴部ヘラナデ 胴脚接合部上下ともヘラおきえ	
96							
1	台付壺	胴部破片	8.3	暗黄褐色	砂粒混入	ハケ 胴脚接合部ユビナデ	胴部の外面中位と内面下 端にスス付着
17					やや堅緻	ハケ	
96							
1	台付壺	胴部破片	8.8	橙褐色	砂粒多混	ハケ 胴脚接合部ユビナデ	外面の一部にスス付着
18					やや軟質	ヘラナデ	
96							
1	小台付壺	胴部破片	5.1	橙褐色	砂粒多混	ユビナデか?	内、外面にスス付着 煮湯時以外の二次焼成を 受ける
19					軟 質	ヘラナデ	
96							
2	広口壺	胴部中位以上 写破片	10.8	濃橙褐色	小砂粒混	口縁部ヨコナデ→全体を入念なミガキ	内、外面にスス付着
20					やや緻密	口縁部ヨコナデ→入念なミガキ 胴部中位以下ヘラケズリ→中位以上ヘラナデ	
97							
2	受口壺	胴部以上写破片	15.2	橙褐色	砂粒、石屑 粒多混	胴部ハケ→胴部付添ユビナデ→平行線描文→右回り指 線液状文→ミガキ 口縁部ハケ 受口部ヨコナデ→指 痕状工具による刺突文の痕、口唇部面取り ヘラナデ→受口部ヨコナデ	二次焼成を受ける 在地品
21							
97							
2	壺		15.8	橙黄褐色	大粒の 砂粒多混	ヘラナデ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	全体に器面が荒れている
22					軟 質	ヘラナデ→口唇部ヨコナデ	
97							
2	壺?	底部破片	6.9	暗茶褐色	砂粒多混	底部不定方向のヘラケズリ 胴部ヘラナデ→ミガキ	二次焼成を受ける
23						ヘラナデ	
97							
2	壺	胴部破片		黄褐色	やや緻密	ヘラナデ→ミガキ	内、外面及び断面にスス 付着 二次焼成を受ける 下方の欠損レベルが同じ
24						ヘラナデ	
97							

図番の 住居址 土器 期	器種	残存度	数量	色調		胎土・底成	調 整		備 考	
				器高 口径 底径			胎 土	外 面		内 面
2	鉢?	底部下位以下 写破片		暗赤褐色	砂粒混	胎土	外面	底部回転ヘラケズリによる上げ底 底部ヘラナデ→底部付近をヘラケズリ	内、外面及び断面にスス付着 二次焼成を受ける	
25			3.3							ヘラナデ
97										
2	甕	胴上位以上写 破片		19.1	砂粒及び石 英粒多量	胎土	外面	胴部ハケ→中位近くをユビナでないヘラナデ 口縁部 桑間隔の粗いハケ→ヨコナデ→下平ケズリ	煮沸時以外の二次焼成を 受けるか?	
26										胴部ヘラナデ→胴部付近ヘラケズリ
97										口縁部 桑間隔の粗いハケ→ヨコナデ→ハケ
2	丸底甕	胴部以上写欠 損	24.2	砂粒少混	胎土	外面	底部ヘラケズリによる丸底 胴部下位ハケ→ユビナ →成形第1段階部分ヨコ方向のハケ→中位以上ハケ→ 胴部近くをユビナ	底部を除く外面全体及び 口唇部内面の一部にスス 付着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける 在地位		
27			14.4						やや緻密	口縁部ハケ→ヨコナデ全体 ハケ→成形第1段階部分 ヘラナデ 口縁部上半ヨコナデ
97										
2	平底甕	写破片	16.3	砂粒多混	胎土	外面	底部一方のヘラケズリ→縁部回転ヘラケズリ 胴部以上ハケ→胴部ヘラケズリ 口唇部ヨコナデ	外面にスス付着 煮沸時以外の二次焼成を 受ける 口唇部はヨコナデにより 若干内湾		
28			14.4						淡茶褐色	胴部以下底部桑間隔の粗いハケ→全体ヘラナデ 口縁部ハケ→口唇部ヨコナデ
98			6.2						やや緻密	
2	平底甕	胴部の中位以 上写口縁部を 欠損	24.2	小砂粒混入	胎土	外面	底部は一方のヘラケズリ→縁部回転ヘラケズリ 胴部ハケ→底部付近ユビナ 胴部ヨコナデ	胴部中位以上の外面全体 に厚くスス付着		
29			14.4						黄褐色	胴部ハケ (のちにユビナが入るか?)
98			7.0						堅 緻	胴部ハケ→ヨコナデ
2	甕	胴部写及び底 部を欠損	11.5	緻密 砂粒食まず	胎土	外面	胴部ユビナか? 口縁部幅広の桑織を残すヨコナデ 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	外面全体にスス付着 胴部下位の内面に焦げつ き痕あり		
30										
98										
2	甕	胴部上位以上 写破片	14.3	砂粒混入 やや緻密	胎土	外面	胴部ヘラナデ→胴部以上ヨコナデ 胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	外面全体にスス付着 煮沸時以外の二次焼成受 ける 口唇部はヨコナデにより 若干内湾する		
31										
98										
2	甕	口縁部写破片	12.6	砂粒少混 やや緻密	胎土	外面	口唇部ヨコナデによる面取り ハケ→全面を幅広の桑織を残すヨコナデ ハケ→全面を幅広の桑織を残すヨコナデ	外面にスス付着 在地位か?		
32										
98										
2	丸底甕	胴部以上写破 片	11.9	石灰粒小石混 入	胎土	外面	胴部網密なハケ 口縁部ヨコナデ 胴部不明 口縁部ヨコナデ 口唇部面取りし狭く内 傾させるも、ほとんど厚車せず	在地位か? 外面にスス付着		
33										
98										
2	丸底甕	胴部下位以下 破片		砂粒多混	胎土	外面	ハケ→ユビナ (部分的に光沢を帯びることからさら にミガキが入るか?) 底部ユビナ (内面は平担) 胴部ハケ→ユビナ	底部外面磨耗 在地位		
34										
98										
2	甕	胴部上位以上 写破片	15.7	大粒砂粒及 び白色砂粒 混入	胎土	外面	胴部 桑間隔の粗いハケ→下方の粗いハケ 口縁部ヨコナデ 口唇部面取り	輸入品か?		
35										
98										
2	S字 三連甕	写破片	8.5	金雲母少混	胎土	外面	胴部 短絡線状のハケ 胴部 横織を欠くハケ 口縁部ヨコナデ 各個体接合はハケ調整後に行われる	6号住居址より同一個体 片出土 輸入品か?		
36			6.7						茶褐色	胴部以上ユビナ 口縁部ヨコナデ 胴部折返し
98			5.8						緻密かつ堅緻	

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考	
住居址 上器 器			器高 口径 底径		胎 土 焼 成	外 面 内 面		
3	有段口縁 壺	口縁部片及び 胴部片破片	12.9	橙褐色	砂粒多混	胴部以下ヘラナテ 口縁部上段ヨコナテ→全体を粗雑なミガキ 口縁部 ヨコナテによる軽い面取り		
37					軟 質	ヘラないし指によるナテ→口縁部上段をヨコナテ		
99								
3	鉢	口縁部片欠損	3.9		小砂粒多混	ヘラナテ→口縁部ヨコナテ 底部リング状を呈す	内面にモミ圧痕あり	
38				10.3	橙褐色			
99				5.3		軟 質		
3	甕	胴部中位以上 破片	10.8	淡黄褐色		胴部ハケ→胴部以上ヨコナテ 胴部下位ユビナテ 胴部に断続的なヘラ層沈殿有り	外面全体にスス付着	
39								
99						緻 密 胴部ヘラナテ 口縁部ヨコナテ		
3	S字壺					胴部ヘラケズリ→乱雑なハケ 口縁部ヨコナテ	在地品か?	
40				11.2	淡黄褐色	やや緻密かつ堅緻		胴部ユビないしはヘラによるナテ 中位に指痕によるナテ圧痕有り 口縁部上段の一部に沈殿を有するヨコナテ
99								
3	テヅクネ	口唇部片欠損	2.0		砂粒多混		外面の一部にスス付着	
41				3.0	茶褐色			
99				2.4				
3	甕	胴下部片破片			砂粒、白色 粒子多混	ハケ→ミガキ	二次焼成を受ける	
42					茶褐色			
99						堅 緻 ハケ→ミガキ		
4	鉢	体部以上片欠損	6.1		砂粒多混	体部以上ヘラナテ 底部リング状を呈す		
43				12.8	灰黄褐色			
99				5.9		軟 質 ユビナテ→ハケ		
4	不明	下段部破片			砂粒少混	ユビナテ→下段部ミガキ	内、外面の一部にスス付着	
44					淡黄褐色			
99				7.8		堅 緻 ヘラナテ		
4	器台	片破片	6.6		砂粒多混 小石少混	ヘラナテ→口縁部ヨコナテ		
45				8.4	橙黄褐色			
99				8.6		軟 質 ヘラナテ→口縁部ヨコナテ		
4	壺	胴部中位以上 破片			白色粒子混	底部リング状を呈す 胴部ハケ→成形第1段階部分ケズリ→ユビナテないしはヘラナテ		
45					橙褐色			
99				6.6		軟 質 ヘラナテ		
4	平底壺		20.2			ヘラナテ→口縁部ヨコナテ 底部リング状を呈すか?	内、外面にスス付着 底部外面にモミ圧痕有り	
47				15.6	暗灰黄褐色	やや緻密		
99				6.6		軟 質 ヘラナテ→口縁部ヨコナテ		
4	甕	胴部上位片及び 胴部中位以下欠損			緻 密	胴部ユビナテ 胴部以上ヨコナテ	外面全体スス付着 煮湯時以外の二次焼成痕有り	
48				14.7	淡灰黄色			
100						軟 質 胴部ヘラナテ 口縁部ヨコナテ		
4	甕	口縁部片破片			砂粒多混	ハケ→口縁部ヨコナテ	外面にスス付着	
49				14.7	淡茶褐色			
100						胴部ヘラナテ 口縁部ハケ→ヨコナテ		

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考
住居址			器高		胎 土	外 面	
土 器			口径		焼 成	内 面	
図			底径				
4	壺	胴部上位以上 写破片			緻 密	胴部ハケ→ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	蓋み顕著
5			9.8	暗茶褐色	軟 質	胴部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	
100							
4	平底壺	底部破片			砂 粒 混	底部 不定方向ヘラケズリ 胴部ヘラナデ→底部付近 ユビナデ	外面にスス付着
51				茶褐色			
100			4.9		堅 緻	ヘラナデ	
4	丸底壺	胴部中位以上 写破片			やや緻密	胴部やや緻密なハケ 口縁部間隔の粗い条線を有すヨ コナデ	胴部付近を除く外面全体 にスス付着 煮沸時以外の二次焼成痕 在地品か？
52			12.4	灰黄色			
100						胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ 口唇底部に水平面 を有す	
4	平底壺	底部破片			やや緻密	底部磨調整 胴部ユビナデ	外面にスス付着
53				暗茶褐色			
100			5.5			ヘラナデ	
4	台付壺	胴部写破片			小石混入	不 明	外面にスス付着 内面に黒げ付き顕著
54				橙褐色			
100			8.7		軟 質	ヘラナデ	
4	台付壺	胴部以上写破片			砂粒、白色 粒多量	胴部ハケ→中位を除きユビナデ 口縁部ヨコナデ	外面全体にスス付着
55			17.3	暗茶褐色			
100						胴部ハケ→中位ユビナデ 口縁部ハケ→ヨコナデ	
6	椀	口唇部写欠損	5.5		石英粒多量	ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	外面の一部にスス付着 内面中位に黒色で光沢を 帯びるもの付着 全面赤部
56			7.1	暗赤褐色			
100			—		堅 緻	口唇部ヨコナデ→ミガキ	
6	瓶 壺	ほぼ完形	11.6		砂 粒 混 入	底部ヘラケズリ→ミガキ 底部は粘土を貼り足して丸 底とする	外面片にスス付着
57			8.2	橙黄褐色			
100			—			ユビナデ→口縁部ミガキ	
6	壺	胴部下位以下 破片			砂 粒 多 量	ミガキ	
58				橙褐色			
101			—			ヘラナデ	
6	S 字 壺	胴部写破片			緻 密	ハケ→ユビナデし短絡線状とする	在地品か？
59				灰黄色			
101			7.8		軟 質	ユビナデ→底部折返し	
7	平底壺	完 形	16.0		やや緻密	底部前縁ヘラケズリ 胴部底部付近ヘラケズリ→ハケ →胴部付近ユビナデ 口縁部ハケ→ヨコナデ	胴部外面の中位を中心に スス付着 胴部内面下位に黒げ付き 顕著
60			12.5				
101			5.7		堅 緻	胴部ハケ→中位以下ヘラケズリ 口縁部ハケ→ヨコナ デ	
7	平底壺				緻 密	底部ハケ 胴部 底部付近ヘラケズリ→ハケ	内外面の一部にスス付着
61				黄褐色			
101			6.3			ヘラナデ	
8	鉢	体部中位以上 写破片			石英粒多量	体部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ	外面の一部にスス付着 在地品か？
62			16.7	暗 灰 茶 褐色			
101						体部ヘラナデ 口縁部ヨコナデ→ミガキ	

図番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	製 整	備 考
住居址			器高		胎 土	外 面	
土 器			口径		焼 成	内 面	
図			底径				
8					砂 粒 混 入	ハケ→口唇部ヨコナデ→入念なミガキ 口唇縁部に水平面を有す	
63	直口壺	口縁部写破片	14.1	灰黄褐色	堅 緻	ハケ→口唇部ヨコナデ→入念なミガキ	在地品か?
101							
8					緻 密	ハケ→ヨコナデ→ミガキ 口唇縁部面取り	
64	直口壺	口縁部写破片	9.1	灰黄褐色		ハケ→ヨコナデ→ミガキ	
101							
8					砂 粒 多 混	ユビナデ→上段部のみヨコナデ	
65	有段口罍	口縁部破片	10.4			ユビナデ→上段部のみヨコナデ	
101							
8					砂 粒 多 混	ヨコナデ 端部わずかに肥厚	外面にスス付着 在地品
66	丸底壺	口縁部写破片	12.6	暗黄褐色	軟 質	ヨコナデ	
101							
8					砂 粒 多 混	底部ヘラケズリー→粘土貼付けにより補強→ミガキ 胴部ハケ	
67	平底壺	胴部下位以下 写破片	8.3	暗 黄 褐 色		ハケ→ユビナデ	
101							
9					やや緻密	ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	二次焼成痕有り
68	短頸壺	胴部写、底部 欠損	15.3		堅 緻	胴部ハケ 口縁部ハケ→口唇部ヨコナデ→ミガキ	
102							
9					砂粒・石英 粒多混	胴部ハケ→ミガキ 器受部・口唇部ヨコナデ→ミガキ 口唇縁部面取り	器受部内面の一部にスス 付着
69	器 台	脚部写欠損	9.2		堅 質	胴部上半部ヘラケズリー→下半部ハケ→胴部ヨコナデ 器受部・口唇部ヨコナデ→ミガキ	
102			13.0				
9					砂粒・白色 粒子多混	ヘラナデ	
70	台付壺	胴・脚接合部 破片			軟 質	ヘラナデ	
102							
9					砂粒・白色 粒子小石混	底部 無調整 胴部ミガキ	底部外面にモミ残有り タキ割れ痕顯著
71	壺	胴部上位以上 欠損	8.5			ヘラナデ→胴部中位以上ミガキ	
102							
9					石英粒・赤 色粒多混	胴部以下ハケ→胴脚接合部ユビナデ 口縁部ヨコナデ	煮沸以外の二次焼成痕 有り
72	台付壺	胴部・口縁部 の一部欠損	11.2 8.0				
102			6.1			胴脚接合部ユビナデ 口縁部ヨコナデ	
9					緻 密 白色粒・石 英粒多混	細密なハケ	煮沸時以外の二次焼成痕 有り 在地品か?
73	丸底壺	底部破片			堅 緻	細密なハケ 底部しぼり痕らしきもの有り	
102							
9					緻 密 赤色粒混	胴・底部ハケ 口縁部 ハケ→ヨコナデ	外面全体にスス付着
74	丸底壺	胴部上位以上 底部写破片	23.3 15.0	淡灰黄色		底部ヨコナデ 胴上位ハケ 口縁部ヨコナデ	
102			6.4				
14					砂粒・白色 粒多混	底部無調整 胴下位ヘラケズリー 胴中位→胴部ハケ ユビないしヘラナデ 口縁部ハケ→口唇部ヨコナデ	
75	短頸壺	口唇部写、胴 部写欠損	27.9 13.0	橙 褐 色			
103			7.5			胴部ハケ 口唇部ハケ→ユビないしヘラナデ→口唇部ヨコナデ	
14					石英粒多混	体部ヘラナデ→胴部以上ヨコナデ	二次焼成を受けるか? 在地品
76	鉢	体部上位以上 写破片	14.0	暗 黄 茶 色		体部ユビナデ 口縁部ヨコナデ	
103							

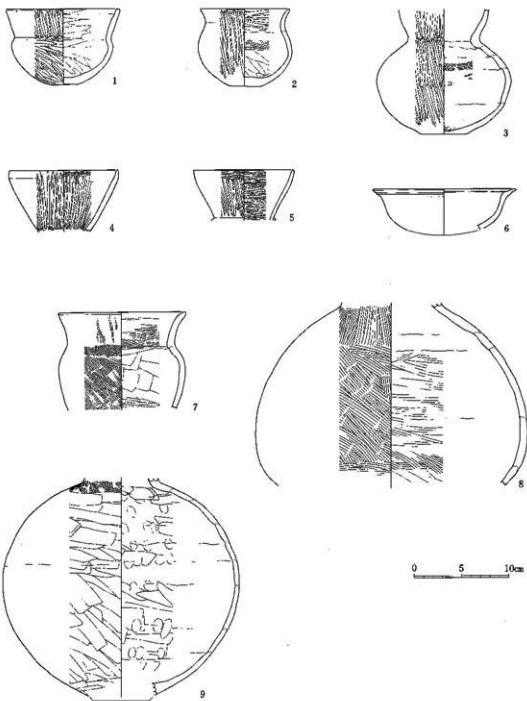
国番号	器種	残存度	法量	色調	胎土・焼成	調 整	備 考
住居址	土 器		器高		胎 土	外 面	
土 器			口径		焼 成	内 面	
器			底径				
14	台付甕	胴部以上写破片	13.9	橙茶褐色	やや緻密	ハケ→成形第1段階部分及び胴部ユビナデ→ユビナデ	胴部中位外面を中心にスス付着
77					赤色粒多量	範囲に細密なハケ ヨコナデは口唇部のみ	
103						ハケ→口縁上半ヨコナデ	
14	甕	胴部中位以上写破片	11.4	暗褐色	砂粒多量	胴部ハケ→中位を除くユビナデ 口縁部ヨコナデ	胴部中位以上の外面全体にスス付着
78					軟 質	胴部下位方向のヘラナデ→成形第1段階部分ハケ→中位以上ヘラナデ	
103							
14	台付甕	胴部上位以上欠損	10.6	暗茶褐色	赤色粒、白色粒混	胴部ヘラナデ→胴部ヨコナデ 胴部ヘラナデ（一部ヘラケズリ）	胴部中位以上の外面にスス付着
79					堅 質	胴部ヘラナデ→推部ヨコナデ 胴部ヘラナデ（一部ケズリ状）	
103							
土壊1	S字甕	胴部上位以上写破片	17.8	橙茶褐色	緻 密	胴部横線を欠くハケ 口縁部ヨコナデ	外面全体にスス付着
80					金雲母微混		
101					堅 緻	胴部ユビナデ 口縁部上段に洗線を伴うハケ	
土壊2	壺	底部写破片	6.5	淡黄褐色	砂粒、白色粒混入	底部無調整 胴部ハケ類似具（植物の茎を束ねたものか）によるナデ	底部外面モミ圧痕 二次焼成有り 同一個体の胴破片及び底部の破片あり
81					堅 緻	ヘラナデ	
101							
土壊38	短頸壺	胴部上位以上写破片	13.6	灰黄色	緻 密	ハケ→口縁部ヨコナデ	外面の一部にスス付着 同一個体の胴部及び底部の破片あり
82					軟 質	胴部ハケ→ユビナデ 口縁部ヘラナデ→ヨコナデ	
101							
土壊38	台付甕	胴部上半破片	8.4		砂粒多量	ハケ→胴・胴接合部ユビナデ	
83					軟 質	ハケ→ユビナデ	
101							
土壊38	壺台？	胴部上半破片		淡黄褐色	緻 密	不 明	
84					軟 質	ヘラナデ	
101							

(2) その他

表 6 礫石鑑一覧表

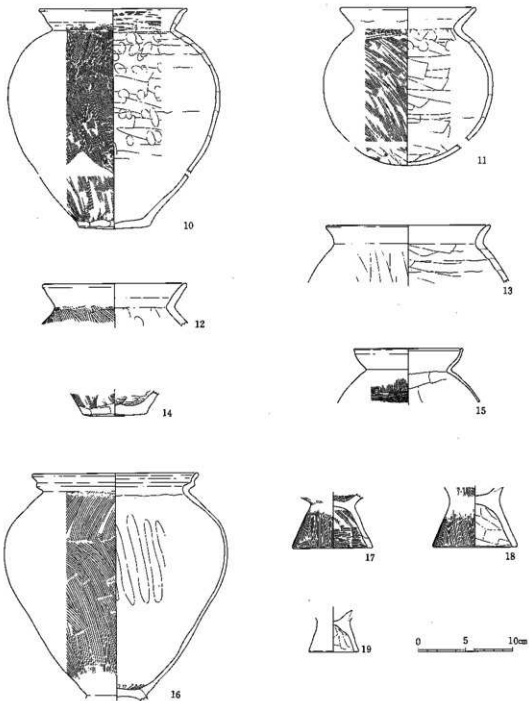
順	註記	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	欠損状況	備考
1	6住	18.40	8.82	5.92	1100	砂岩		
2	◇	19.20	9.42	6.45	1080	石英閃緑岩		
3	◇	18.80	8.57	7.98	1500	砂岩		
4	◇	18.20	8.05	6.64	1095	石英閃緑岩		
5	◇	(15.27)	(8.53)	(5.14)	(1064)	礫岩	1/5欠?	
6	◇	15.23	6.36	6.38	1093	砂岩		
7	◇	18.20	8.18	4.87	1400	ホルンフェルス(砂岩)		
8	◇	14.67	7.47	6.13	1012	礫岩		
9	◇	(15.36)	8.27	4.45	(849)	砂岩	上端 下端欠?	
10	◇	12.37	7.89	7.30	959	砂岩		
11	◇	21.00	6.78	3.56	689	砂岩		
12	◇	20.80	8.16	5.55	1092	礫岩		

第1号住居址



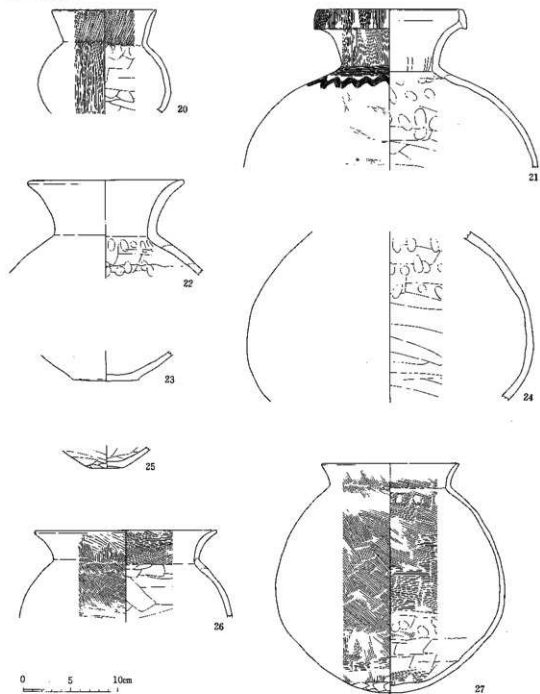
第95图 古墳時代土器(1)

第1号住居址



第96図 古墳時代土器(2)

第2号住居址

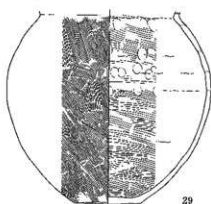


第97图 古墳時代土器(3)

第2号住居址



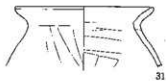
28



29



30



31



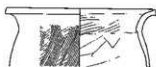
32



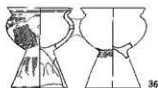
33



34



35

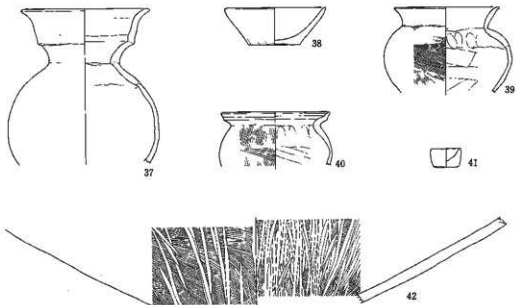


36

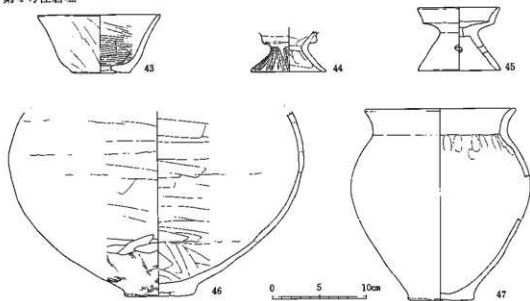


第98図 古墳時代土器(4)

第3号住居址

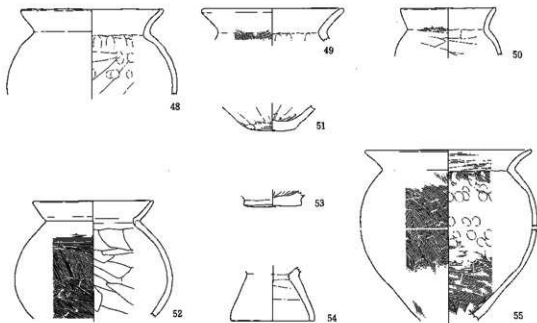


第4号住居址

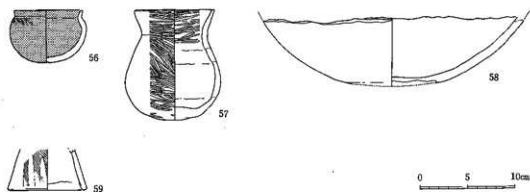


第99图 古墳時代土器(5)

第4号住居址

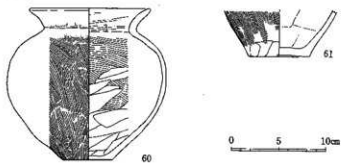


第6号住居址

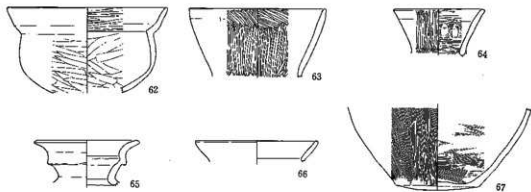


第100圖 古墳時代土器(6)

第7号住居址



第8号住居址



土壇 1



土壇 2

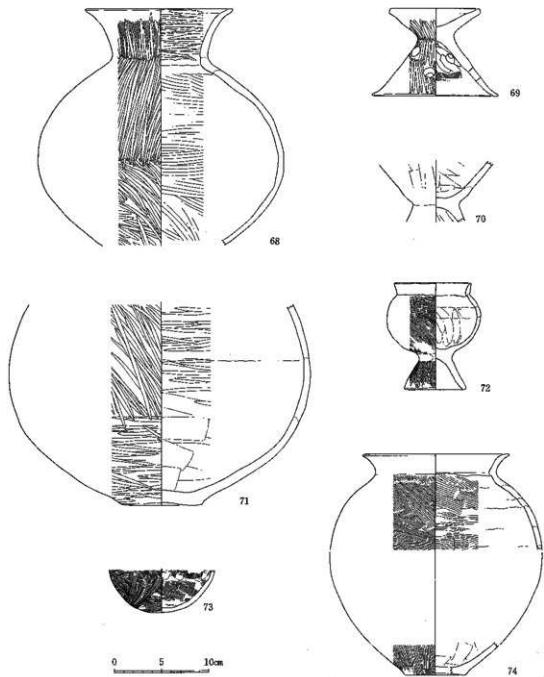


土壇38



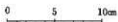
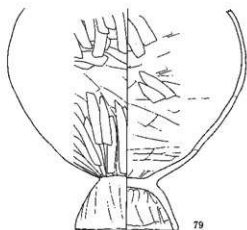
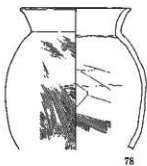
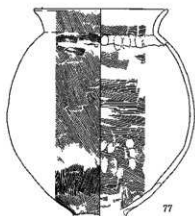
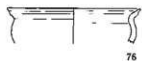
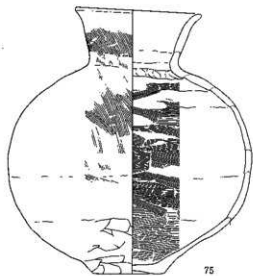
第101圖 古墳時代土器(7)

第9号住居址



第102図 古墳時代土器(B)

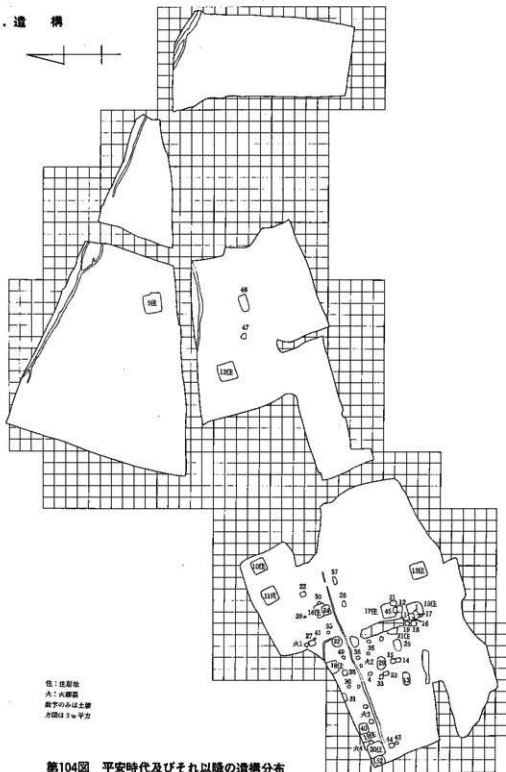
第14号住居址



第103图 古墳時代土器(9)

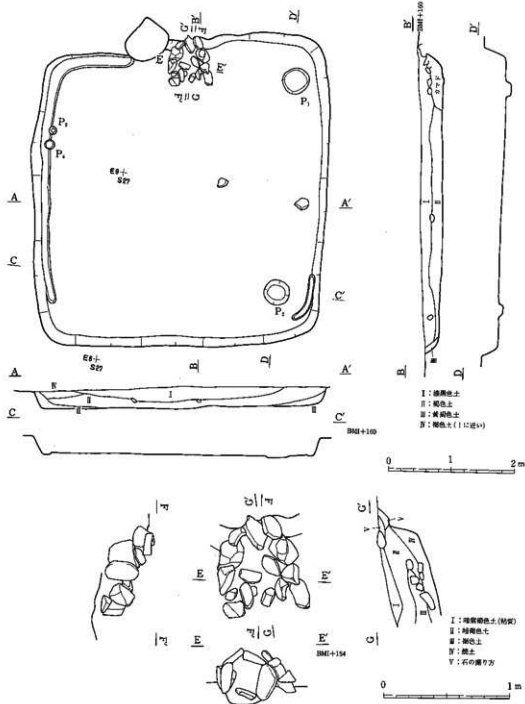
4 平安時代およびそれ以降の遺構と遺物

1. 遺構



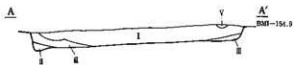
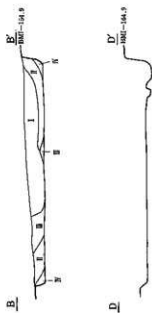
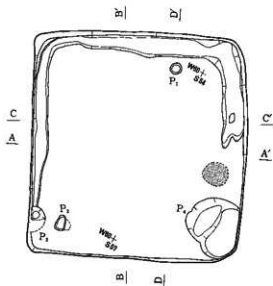
第104図 平安時代及びそれ以降の遺構分布

(1) 竪穴住居址



状況良好残存、カマド跡攪乱 床地山直床平相良好 柱穴不明 床面積19.5m² 出土遺物覆土から数発的に出土 (81~88) 器種 土師器杯・埴、磁石(5) 刀子1(4) 不明鉄器106 時期平安時代

第105図 第5号住居址

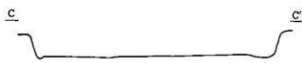
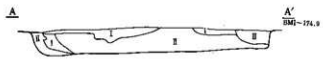
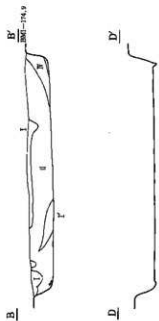
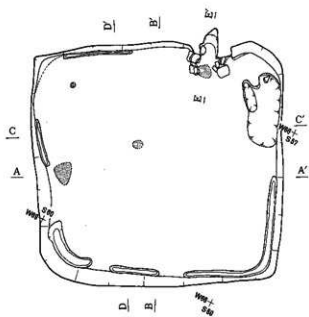


- I : 埋藏土
- II : 築地土 (ローム柱礎入)
- III : 築地土
- IV : 埋藏土 (ローム柱礎入)
- V : 築土



状況壁は良好に残存 床地山直床、平組堅床で良好、部分的に周溝あり 柱穴なし カマドなし、東壁下の築土が該当か？ 床面積11.4m² 出土遺物覆土中から少量の縄文土器・土師器が散発的に出土・図化できるものなし、火打金具100 時期平安時代

第106図 第10号住居址



- I : 粘付土
- II : 暗褐色土(砂質)
- III : 雑土
- IV : 黒褐色土
- V : 黄褐色土(ローム産土)

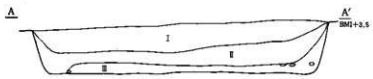
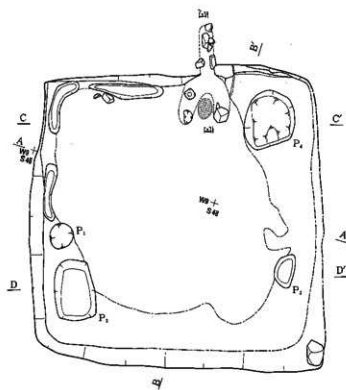


- I : 黄褐色土(ローム産土)
- II : 暗褐色土
- III : 雑土

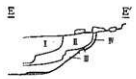


状況良好残存 床地山直床、壁敷、周溝あり カマドあり、西壁下の黄土第1次のカマド跡? 床面積12.9m² 出土遺物土師器1段・小形壺・灰釉甕(89~92)、覆土中から散発的に出土・鉄滓130 刀子1(5) 時期平安時代

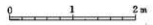
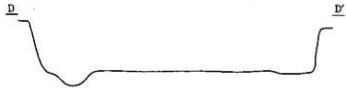
第107図 第11号住居址



- I : 黒色土(やや灰色っぽい)
- II : 暗褐色土
- III : 暗黄褐色土(ローム混入)

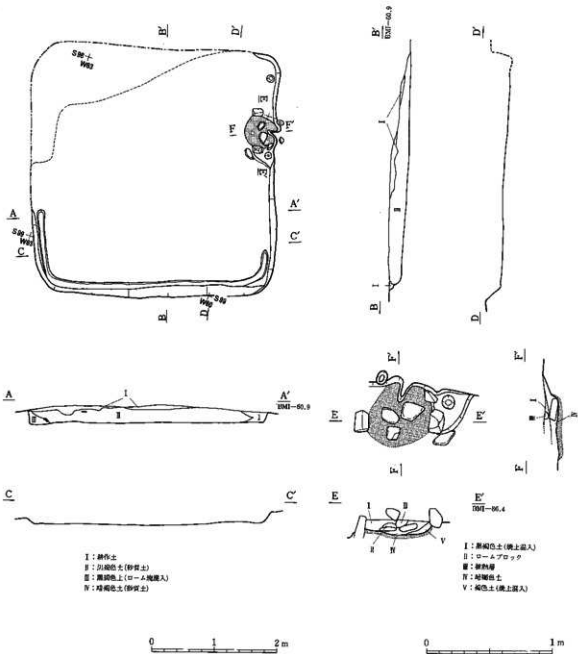


- I : 暗褐色土
- II : 暗黄褐色土(ローム混入)
- III : 暗黄褐色土(黄土混入)
- IV : 暗褐色土(厚道より混入)



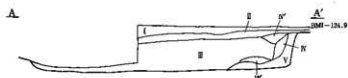
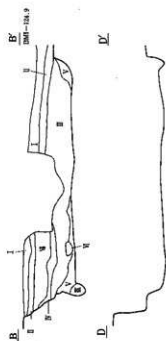
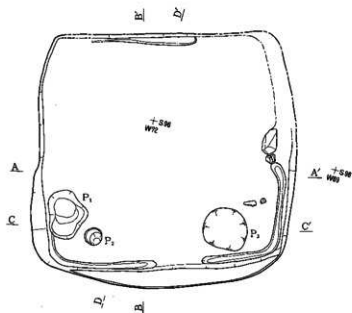
状況北・東・西壁良好残存、南壁は黒色土中のため不明瞭 床地山部分は良好、一部黒色土に黄色土貼り床 カマド既破壊、石材
 除去の穴あり 床面積18.7m² 出土遺物土器器坏・埴・小形器・羽釜、灰釉碗(95-110) 覆土下層・床面より一拵品出土 時期
 平安時代

第108図 第12号住居址



状況北西部一帯削平、壁全体の上部削平 床地山直床、残存部分は非常に堅固良好 カマド既破壊石材散乱、床面積14.3m²
 出土遺物土師器、灰釉瓶(93・94) 壺はカマド内から一括出土 時期平安時代

第109図 第13号住居址

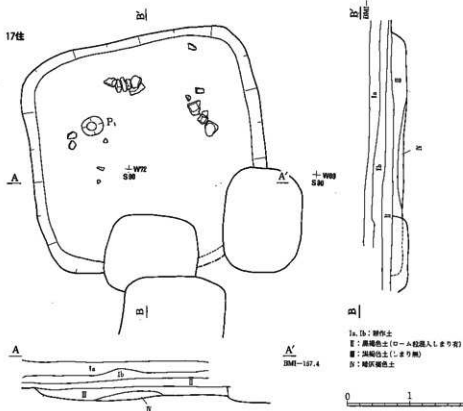
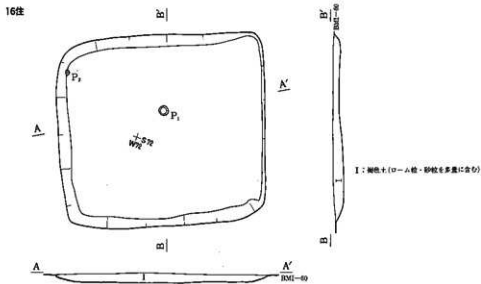


- I: 暗褐色土(砂、ローム微粒子少量混入)
- II: 暗褐色土(Iよりやや細かい、ローム微粒子微量混入)
- III: 黒褐色土(ロームアロップ少量混入)
- IV: 暗褐色土
- V: 暗褐色土(IVよりやや明るい)
- VI: 暗褐色土(IVより細かい、やや粘質)
- VII: 灰色ロームアロップ
- VIII: 暗褐色土(やや粘質)
- IX: 暗褐色土(層より明るい、ロームアロップ微量混入)
- X: 黒色土(ローム粒子ロームアロップ多量混入)



状況土横16・17西壁上部を破壊、北東へ調査して削平、他の壁は良好。床黒色土を叩き堅めて良好。カマド東壁に残骸あり。出土遺物土師器杯・埴、灰釉皿(112-114)、刀子(6)、鉄滓(2)、磁石(2)、灰釉(112)はP₂と本址周辺出土のもの整合、完形。時期平安時代。

第110図 第15号住居址

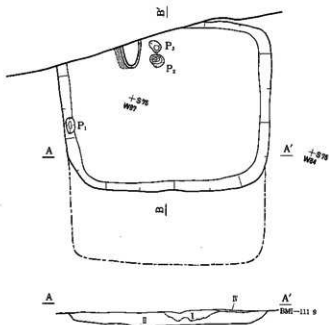


16住 状況土塊37・24の上部を切り、壁なだらか 床地山直床北西部堅軟 カマドなし 床面積6.9㎡ 出土遺物若干の縄文土器片、古墳時代土器片のみ固化した 時期平安時代以降

17住 状況土塊21・45に南東部を切られる。壁傾斜緩く良好 床黒色土を叩き堅軟良好 カマドなし 床面積11.5㎡ 出土遺物若干の縄文土器・平安時代土器片散見 時期平安以降

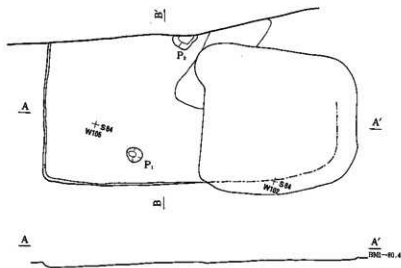
第111図 第16・17号住居址

18住



- I : 褐色～暗褐色土 (腐葉)
- II : 暗褐色土 (粘土粒塊混入)
- III : 暗褐色土 (IIよりやや粘質)
- IV : 黄褐色土 (砂質)

19住



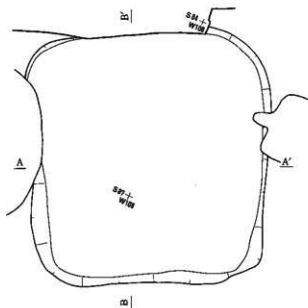
0 1 2 m

18住 状況壁低いが良好 床地山直床堅緻良好 カマド北壁方面の焼土と高まりが該当？ 出土遺物若干の縄文土器片のみ図化なし 調査部分床面積6.6m² 時期平安以降

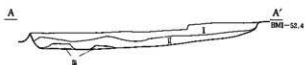
19住 状況北半区域外、ほとんど南平、土壌40・48に切られる。床黒色土中にあり歌洞 出土遺物若干の縄文土器片のみ図化なし 調査部分床面積12.8m² 時期平安以降

第112図 第18・19号住居址

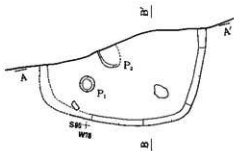
20住



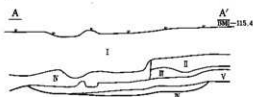
I : 黒色土
 II : 暗褐色土(しりみ跡)
 III : 明褐色土(しりみ跡)



21住



I : 耕作土
 II : 暗黄褐色土
 III : 暗色土(砂質)
 IV : 暗褐色土(砂質)
 V : 耕作土(7m以内掘り層、Iに目ガブロック状に混入)
 VI : 黒褐色土
 VII : 暗褐色土(7m以内掘り層砂多反応土)



0 1 2 m

20住

状況上層に近世基・土填51、壁やや不明瞭 床黒色土中にあり軟弱不明瞭 床面積12.7m² 出土遺物縄文土器多数(晩期包含層を掘り込んでいたため) 時期平安以降

21住

状況東半区域外北壁全く削平、他は良好 床黒色土を叩いて堅硬 出土遺物若干の縄文土器片、北壁外に灰釉皿2枚一拵出土(117・118)、刀子(3) 調査部分床面積2.6m²

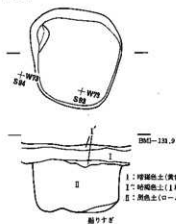
第113図 第20・21号住居址

(2) 土 壌

表7 土壌一覽表

番 号	地 区 名	位 置 代 表	平面形 規 模 (cm)	断面形 深 さ (cm)	層上の 特 徴	備 考 (透水性の割合、陽 影>日)	番 号	地 区 名	位 置 代 表	平面形 規 模 (cm)	断面形 深 さ (cm)	層上の 特 徴	備 考 (透水性の割合、陽 影>日)
1	94	S1 W26 古 墳	長方形 162×96	長方形 37	b	S字壁(80)	31	119	S78 W94	長方形 183×280	長方形 7		
2	94	S4 W25 古 墳	長方形 132×84	長方形 35	b	埴師造(81)	32	116	S77 W81	楕円形 (270)×203	長方形 36	b	
4	94	S25 WEO 古 墳	長方形 152×102	長方形 43	b		33	116	S88 W89	長方形 107×85	長方形 14	a	
5	94	NSO W13 古 墳	円 形 120×110	長方形 20	b		34	115	S85 W90	長方形 111×75	長方形 30	b?	
6	6	S40 W64 縄 文	円 形 315×299	円 形 145	b	土器(1-2-4-5)	35	116	S84 W83	円 形 87×86	長方形 17	a	
8	6	S119 W83 縄 文	円 形 125×100	長方形 30	b		36	116	S81 W84	長方形 103×82	長方形 25	b	
9	6	S113 W85 縄 文	円 形 115×112	長方形 58	b		37	6	S70 W73 縄 文	半円形 285×135	台 形 95	b	土器(6-20, 303-309)
10	94	S32 E7 古 墳	円 形 201×168	長方形 34	b		38	94	S63 W73 古 墳	楕円形 113×36	円 形 23	b	埴師土製品(57)
11	114	S85 W73	楕円形 156×135	長方形 83	a	銭(1-2)	39	116	S68 W73	長方形 70×82	長方形 29	a	
12	114	S82 W71	長方形 165×143	長方形 50	a		40	119	S84 W102	長方形 202×217	長方形 4		
13	117	S95 W90	長方形 333×202	長方形 16	a	鏡身具?(5)	41	116	S70 W79	長方形 68×41	長方形 35	a	
14	114	S91 W85	長方形 126×117	長方形 36	a	磁石(1)	42	116	S71 W81	長方形 197×72	長方形 7		
15	114	S91 W83	長方形 125×114	長方形 40	a		43	116	S92 W106	長方形 94×84	台 形 32	b	
16	114	S82 W74	長方形 184×130	長方形 42	a	銭(3-4)	44	115	S90 W106	長方形 146×168	長方形 40	b	
17	115	S82 W78	長方形 198×184	長方形 19	a	灰桶(115) <土壁16, >15住	45	115	S91 W70	長方形 148×124	長方形 40	a	<土壁12, >18住
18	114	S96 W75	長方形 138×130	長方形 43	a	銭(5-6-7)	46	119	S51 E1	長方形 427×177	長方形 37		
19	114	S95 W75	長方形 107×104	長方形 30	a		47	117	S92 EWO	楕円形 130×126	台 形 70		
20	115	S95 W75	楕円形 83×(65)	長方形 19	a	<土壁18	48	117	S83 W103	長方形 (100)×75	長方形 15		<土壁40
21	114	S91 W67	長方形 168×127	長方形 32	a	>18住	49	116	S78 W84	長方形 95×65	長方形 22	a'	
22	114	S68 W67	楕円形 156×130	長方形 50	a		50	116	S71 W70	円 形 90×78	長方形 15	a'	<18住
23	115	S89 W88	長方形 142×110	長方形 43	a	土俵(4)	51	118	S88 W106	長方形 216×135	長方形 17		19住の下部
24	119	S74 W72	長方形 243×203	長方形 16		>18住	52	118	S88 W111	円 形 260×(256)	長方形 28	b	
25	117	S92 W81	長方形 (200)×160	長方形 10	a		53	115	S88 W79	長方形 94×81	長方形 35	a	
26	115	S77 W70	長方形 140×81	長方形 17	a		54	118	S82 W80	長方形 289×190	長方形 23		
27	115	S69 W80	長方形 187×139	長方形 48	a	不明(石)(7)	55	116	S74 W77	円 形 78×77	長方形 14	a'	
28	115	S78 W88	長方形 140×129	長方形 50	a		56	6	S87 W93 縄 文	円 形 326×323	台 形 115	b	不明(土)(67) 土器(30-38, 319-317)
29	117	S87 W85	楕円形 302×235	長方形 22	a	有孔埴師土製品 (46)	57	117	S75 W83	長方形 192×103	長方形 56	c	
30	116	S79 W92	長方形 79×70	長方形 11	a		58	94	S33 E10 古 墳	楕円形 121×70	長方形 40	b	

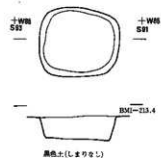
土壌11



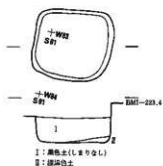
土壌12



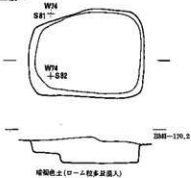
土壌14



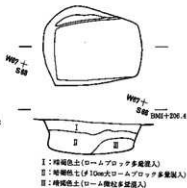
土壌15



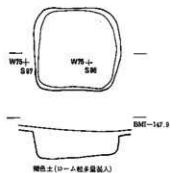
土壌16



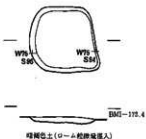
土壌22



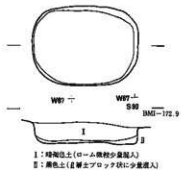
土壌18



土壌19

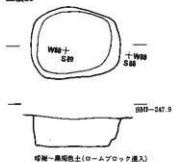


土壌21



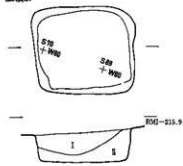
第114図 平安時代以降の土壌(1)

土壌23



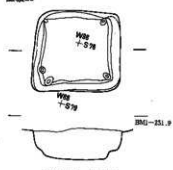
暗褐色～黒褐色土(ロームブロック混入)

土壌27



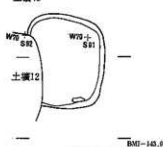
I: 暗褐色土(ローム粒混入)
II: 黒色土(ローム塊多量混入)

土壌28



暗褐色土(ローム粒混入)

土壌45

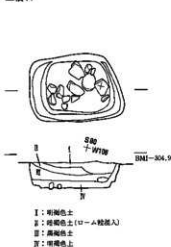


土壌12



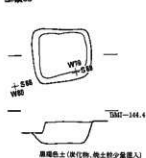
I: 暗褐色土
II: 暗褐色土(灰色砂をびる)
III: 暗褐色土(灰色砂をびる)
IV: 暗褐色土(ローム約微量混入、しまりなし)
V: 暗褐色土(黒よりロームブロック多い)
VI: 黒褐色土(ローム塊多量混入)
VII: 27世紀土

土壌44



I: 暗褐色土
II: 暗褐色土(ローム粒混入)
III: 黒褐色土
IV: 暗褐色土

土壌53



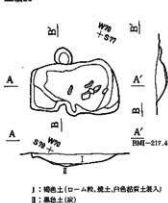
黒褐色土(炭化物、焼土粒少量混入)

土壌17



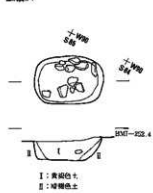
暗褐色土(ローム粒、焼土粒少量混入)

土壌26



I: 暗褐色土(ローム粒、焼土、白色結核土混入)
II: 黒色土(炭)

土壌34

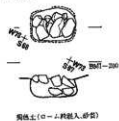


I: 黄褐色土
II: 暗褐色土



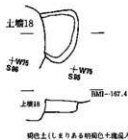
第115図 平安時代以降の土壌(2)

土壌39



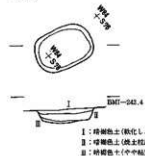
褐色土(ローム堆肥入, 砂質)

土壌20



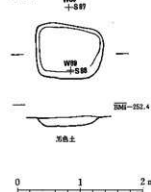
褐色土(しりりある明褐色土堆肥入)

土壌49

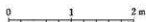


I : 暗褐色土(熟化した炭, 雑土アロップ混入)
II : 暗褐色土(雑土粒混入)
III : 暗褐色土(やや粘質)

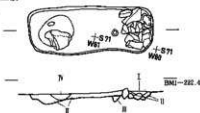
土壌33



灰色土

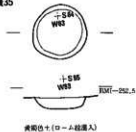


土壌42



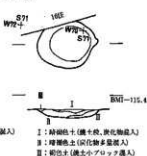
I : 灰黄色土(ローム堆まばらに混入)
II : 暗褐色土(ローム粒混入)
III : 黒褐色土
IV : 暗褐色土

土壌35



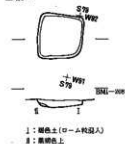
黄褐色土(ローム粒混入)

土壌50



I : 緑褐色土(腐七粒, 炭化物混入)
II : 暗褐色土(炭化物多量混入)
III : 暗褐色土(雑土小アロップ混入)

土壌30



I : 暗褐色土(ローム粒混入)
II : 黒褐色土

土壌36



I : 暗褐色土
II : 暗褐色土(ローム粒混入)
III : 暗褐色土

土壌43



I : 暗褐色土(しりりあり)
II : 暗褐色土(しりりあり)
III : 暗褐色土(黄褐色土堆肥入)

土壌55



I : 暗褐色土(雑土アロップやや多量炭化物混入)
II : 暗褐色土

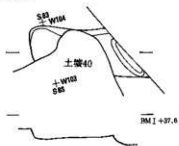
土壌41



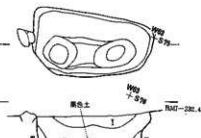
I : 黄褐色土(ローム堆肥入, 砂質)
II : 暗褐色土(ローム粒混入, 硬質)
III : 暗褐色土(粘質)
IV : 暗褐色土

第116図 平安時代以降の土壌3)

土坑46

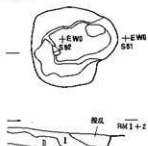


土坑57



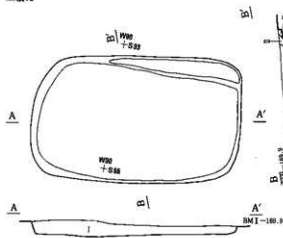
I : 褐色土 (口より黄色が濃く緑い色)
 II : ローム
 III : ローム質土 (暗褐色土層入)

土坑47



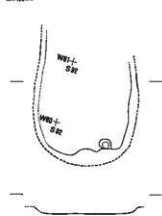
I : 暗褐色土 (口より黄色が濃く緑い色)
 II : 暗褐色土 (口の少し少減入)
 III : 暗褐色土 (口より黄く濃い)
 IV : 褐色土 (暗褐色土層入)

土坑13

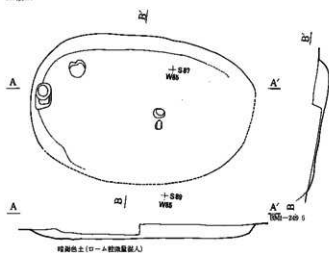


I : 褐色土
 II : ローム
 III : 暗褐色土
 (黄色土と並び)

土坑25

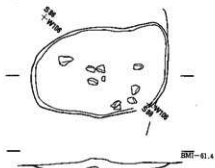


土坑29



第117図 平安時代以降の土坑(4)

土壘51

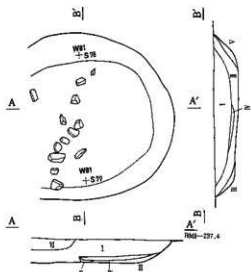


明褐色土(粘土質,黄(白)粉,少量混入,中(中)砂質)

土壘54

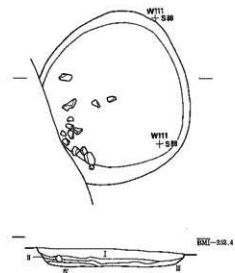


土壘32



I : 暗褐色土
II : 黄褐色土
III : 暗黄褐色土
IV : 明黄褐色土(砂質)
V : 褐色土
VI : 灰褐色土(黄褐色土混入)

土壘52

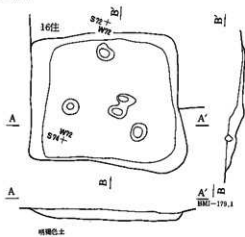


I : 暗褐色土(上部,細礫混入)
II : 暗黄褐色土(砂質)
III : 暗褐色土
IV : 褐色土(粘質)

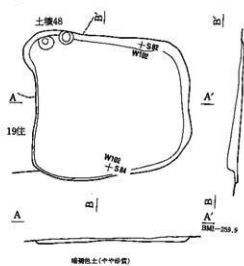
0 1 2 m

第118図 平安時代以降の土壘(5)

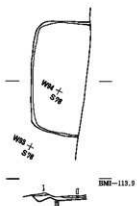
土壌24



土壌40

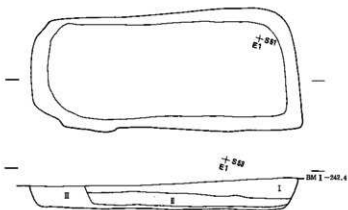


土壌31



- I : 暗褐色土
- II : 灰色土(硬質)
- III : 褐色土(ローマン的燐灰混入)

土壌46

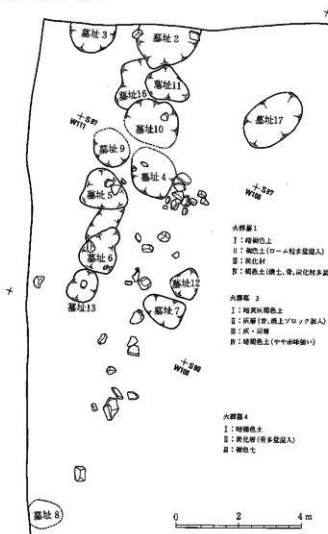


- I : 暗褐色土
- II : 暗褐色土(灰多量に混入)
- III : 褐色土(18住あり)

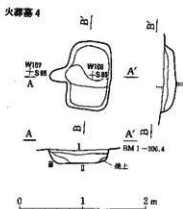
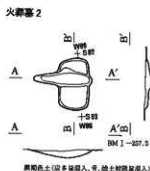
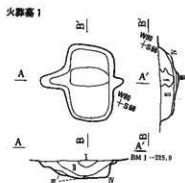


第119図 平安時代以降の土壌(6)

(3) 火葬墓・墓址



- 火葬墓 1
 I: 暗褐色土
 II: 褐色土(ローム粘土層混入)
 III: 炭化材
 IV: 褐色土(燻土、炭化材多量混入)
- 火葬墓 3
 I: 暗褐色土
 II: 灰層(骨、焼上ブロック混入)
 III: 灰・炭層
 IV: 暗褐色土(ヤサヤサ味強い)
- 火葬墓 4
 I: 暗褐色土
 II: 炭化材(骨多量混入)
 III: 褐色土



近世墓 V区西端、検出層位 I b 層(粘土下黒褐色土)上面一層中
 平面形円形を基調とする不整形で断面形浅い銅底状。重複が著し
 い。多量の火葬骨片・木炭・灰の層を下部にもち、古銭を多量に出
 土した。古銭は遺存の良いものと被熱損傷しているものがある(表)
 火葬墓 4 基発見、いずれも隅丸長方形を基調、長辺中央の片側
 に張り出しをもつ。覆土下部に木炭・灰・焼土ブロック・骨片を伴
 う層があり、周囲の壁も焼けている。遺物は火葬墓 2 から古銭 5 枚
 分(10・11)、3 から 6 枚(14~16)、4 から 4 枚分(17・18~表)が出土。
 いずれも被熱損傷が著しい。

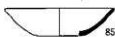
第120図 火葬墓、近世墓の分布

2. 遺 物
(1) 土 器

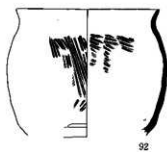
表 8 平安時代土器一覽表

品 番	出土地点	種別	器形	寸 法 (cm)			焼成度 口 徑 (底径)	色 調		成形・調整・修整の特徴	備 考			
				口径	底径	器高		外 面	内 面					
												1/5	1/10	1/6
81	5 住	灰 輪 碗	碗	14.2			1/5	灰白	(白)	ロクロナデ				
82	+	土師器 罎	罎	10.8	4.0	3.2	1/10	黄灰～黄褐色	黄灰～黄褐色	ロクロナデ, 底部回転成形				
83	+	+	+	11.5	4.8	4.5	1/6	黄褐色	黄褐色	ロクロナデ, 底部回転成形				
84	+	+	+	10.8	5.6	3.5	1/5	暗褐色	黄灰～黄褐色	ロクロナデ, 底部回転成形				
85	+	+	+	11.2	4.6	2.4	1/6	黄灰～黄褐色	暗褐色	ロクロナデ, 底部回転成形				
86	+	+	罎	14.2			2/5	黄褐色	暗褐色～赤褐色	ロクロナデ, 底部回転成形ヘミギキ, 内側ヘミギキ, 側面回転成形				
87	+	+	+	7.1			(実)	赤褐色	暗褐色	底部内面, ロクロナデのもみ生地の厚板状の付け高台のもみコナデ, 底部回転成形				
88	+	+	+	6.6			(2/3)	暗褐色	黄灰	底部内面, ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 底部回転成形				
89	11 住	灰 輪 碗	碗	7.8	7.2	5.4	2/5	灰～灰白	灰～灰白	ロクロナデ, 底部回転成形, 付け高台のもみコナデ, 底部回転成形	白色不透明釉			
90	+	土師器 罎	罎	14.4			2/5	黄褐色～黄褐色	暗褐色～赤褐色	ロクロナデ, 口縁内面ヘミギキ・外側コナデ	口縁外側スス付着			
91	+	+	+	14.8	7.5	5.3	1/2	赤褐色～黄褐色	黒～暗赤褐色	ロクロナデ, 底部内面厚板状ヘミギキ, 内側内面ヘミギキ, 付け高台, 底部回転成形	内裏			
92	+	+	小形罎	14.8			2/5	黄褐色～黄褐色	黄褐色～黄褐色	底部内面厚板状ヘミギキ・外側コナデ				
93	13 住	灰 輪 碗	碗	16.2	5.7	4.7	1/3	灰白	灰白	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 底部回転成形	遣けかけ, 透明釉 赤褐色			
94	+	土師器 罎	罎	14.6	10.2	17.2	2/3	黄褐色	黄褐色	底部内面・内面上下ハケ桶のもの, 口縁取り, 底部回転成形・ナデ	器下二次的 磨削			
95	12 住	灰 輪 碗	碗	7			(2/3)	灰白	灰白	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 底部回転成形ヘラケズリ・ナデ	底面磨削 軸なし			
96	+	+	+	12.3	5.2	4.3	1/6	灰白～白	(黄緑透明)	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 底部回転成形	底面磨削			
97	+	+	+	14.4	6.5	5.4	1/3	灰白	(黄緑)	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ	遣けかけ 赤褐色			
98	+	土師器 罎	罎	11.8	5.0	3.5	1/6	暗赤灰～黄褐色	赤褐色	ロクロナデ, 底部回転成形				
99	+	+	+	11.5	5.2	3.1	完	暗褐色	暗褐色～暗褐色	ロクロナデ, 底部回転成形	板状痕			
100	+	+	+	11.5	5.0	3.1	1/5	薄褐色	薄褐色	ロクロナデ, 底部回転成形				
101	+	+	+	10.9	5.4	3.1	1/3	薄褐色	薄褐色	ロクロナデ, 底部回転成形	器下にスス付着			
102	+	+	+	11.8	5.7	3.0	2/5	暗褐色	黄褐色	ロクロナデ, 底部回転成形	ターコ状のスス 付着			
103	+	+	+	10.7	6.3	3.2	1/6	暗黄褐色	黄灰	ロクロナデ, 口縁コナデ, 底部回転成形				
104	+	+	罎	14.3	7.7	4.7	2/3	黄褐色～黄褐色	暗褐色	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 内側に薄板状のらせん痕, 底部回転成形のもみコナデ				
105	+	+	+	13.5				黄褐色	黒	ロクロナデ, 底部内面ヘミギキ・外側コナデ	内裏			
106	+	+	小形罎	9.0	5.6	6.1	1/3	暗褐色	暗褐色	ロクロナデ, 底部内面工具によるロクロナデ 底部回転成形				
107	+	+	罎	6.6			完	黄灰	黄灰	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 底部内面 ロクロナデのもみコナデ・外側コナデ				
108	+	+	罎(皿)	12.1			1/5	薄褐色	薄褐色	ロクロナデ	底部の可能性あり			
109	+	+	罎	16.4			1/8	黄褐色～黄褐色	黄褐色～黄褐色	ロクロナデ				
110	+	+	羽蓋	15.2			1/6	暗褐色	暗褐色	ナデ・部分的にヘケ目, 口縁コナデ				
111	14 住	灰 輪 碗	碗	7.6			完	灰白～白	(黄緑)	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 底部 回転ヘラケズリ	底面磨削 赤褐色			
112	15 住	+	罎	12.9	6.6	2.9	完	灰白	(透明)	ロクロナデ, 底部内面ヘラケズリ, 付け高台のも みコナデ, 底部回転ヘラケズリ	遣けかけ・透明釉 赤褐色			
113	+	土師器 罎	罎	10.8	4.0	3.5	1/6	赤褐色～暗褐色	黄褐色～黄褐色	ロクロナデ, 底部回転成形				
114	+	+	罎	6.7			1/3	黄褐色	黄褐色	付け高台, 底部内面ロクロナデ・外側 薄板状のらせん痕				
115	土師17	灰・輪 碗	碗	13.4	5.2	4.3	1/6	灰白～白	灰白～白	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ 底部コナデ	軸なし			
116	Ⅱ区 S10-WBNE	+	+	15.2	6.1	4.8	1/8	暗褐色	(灰白～白)	ロクロナデ, 底部内面ヘラケズリ, 付け高台 のもみコナデ, 底部回転ヘラケズリ, 遣けかけ	底面磨削・土師17 層と一致			
117	Ⅱ区 S10-WBNE	+	罎	11.4	6.8	2.4	1/3	+	(白)	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 底部 回転ヘラケズリ	遣けかけ 赤褐色			
118	Ⅱ区 S10-WBNE	+	+	12.1	6.8	2.9	2/3	+	(黄緑)	ロクロナデ, 付け高台のもみコナデ, 底部 回転ヘラケズリ, 遣けかけ	底面磨削・土師17 層と一致			

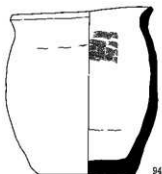
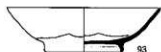
第5号住居址



第11号住居址



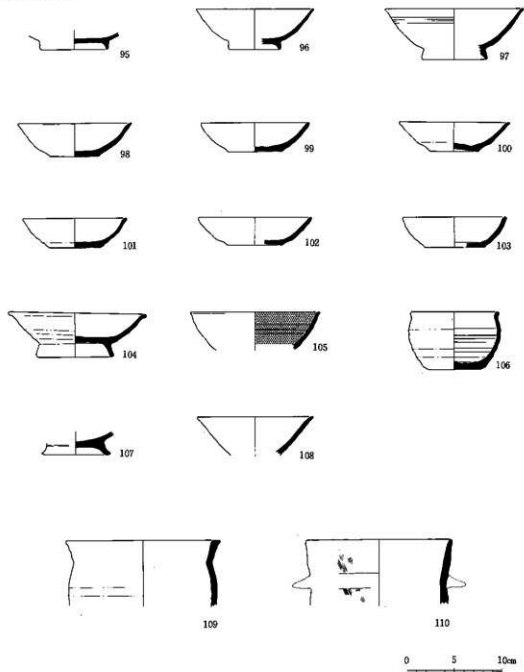
第13号住居址



0 5 10cm

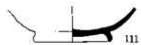
第121图 平安時代土器(1)

第12号住居址



第122图 平安時代土器(2)

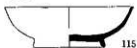
第14号住居址



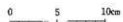
第15号住居址



土城17



S89-W78 NEⅡ層上

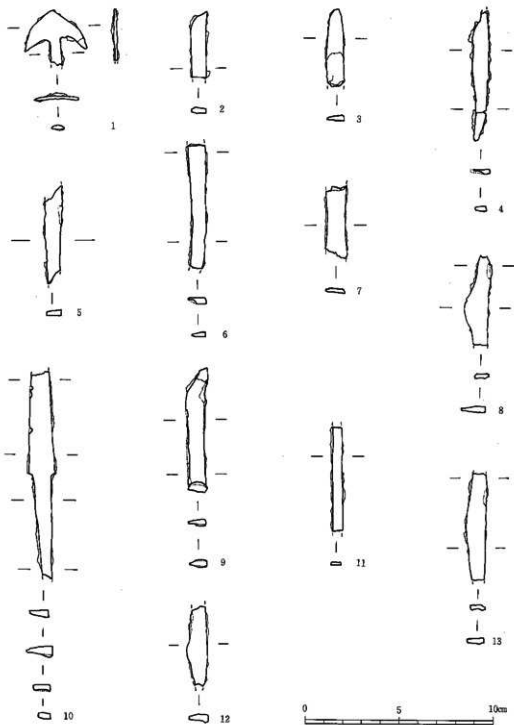


第123図 平安時代土器(3)

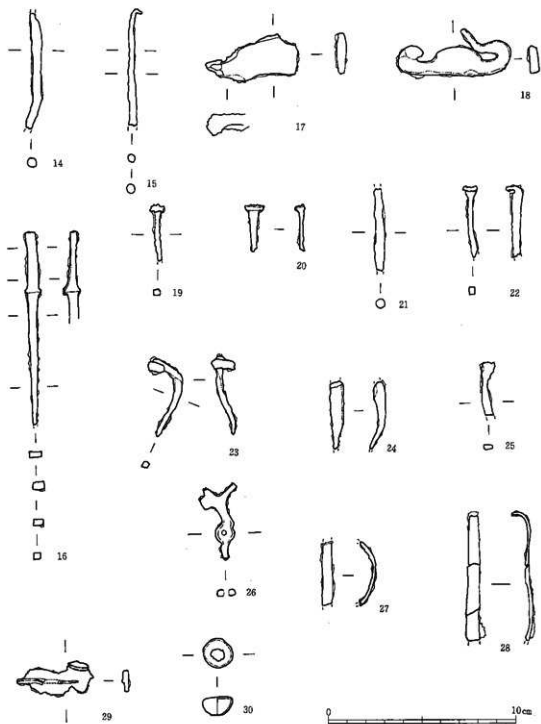
(2) 金属製品

表9 金属製品一覧表

番号	器種	出 土	長さ (cm)	軸 (cm)	厚さ (mm)	重さ (g)	欠損状況	備 考
1	鉄 鏃	I住 No29	(2.89)	3.19	0.42	(2.51)	下部欠損	
2	刀 子	I住 No34	(3.59)	(0.86)	(0.37)	(2.34)	上・下部欠損	
3	*	2I住	(4.06)	(1.04)	(0.70)	(3.68)	下部欠損	
4	*	5住 No10	(6.85)	(1.25)	(0.34)	(4.06)	上部及刀部欠損	
5	* (茎)	1I住覆土	(5.27)	(0.92)	(0.48)	(4.91)	上・下部欠損	
6	*	15住 No 4	(6.54)	(1.09)	(0.51)	(5.58)	*	
7	*	S93 W72・I	(3.87)	(1.18)	(0.41)	(3.48)	*	
8	* (?)	S63 W69	(4.67)	(1.35)	(0.30)	(5.85)	*	
9	*	S78 W87・II	6.49	1.35	0.64	7.88		上・下部屈曲
10	*	S81 W60・II	(10.96)	(1.59)	(0.58)	(15.22)	上・下部欠損	
11	* (?)	S90 W81・II	(5.42)	(0.71)	(0.35)	(2.75)		
12	*	S93 W69・I	(4.28)	(1.11)	(0.50)	(4.99)		同一個体の一部あり
13	*	Ⅲ区検出面	(5.56)	(1.01)	(0.36)	(5.88)	上・下部欠損	
14	紡錘車(軸)	S69 W78・II	(6.01)	^(備) (0.61)	—	(5.98)	*	
15	* (*)	S72 W75・II	(6.10)	^(備) (0.45)	—	(3.03)	下部欠損	
16	不 明(茎)	5住 No 9	(10.18)	(0.94)	(0.94)	(10.64)	上部欠損	
17	火打金具	10住覆土	(4.85)	(2.21)	(1.21)	(24.84)	両端欠損	火打金具(?)
18	*	S78 W81・II	5.97	2.54	0.72	(19.51)	一部欠損	
19	釘	S72 W78・II	(3.04)	(0.82)	(0.38)	(1.39)	上・下部欠損	
20	*	S78 W84・II	(2.39)	(1.16)	(0.28)	(1.34)	下部欠損	
21	*	S81 W81・II	(4.27)	^(備) (0.59)	—	(3.54)	上・下部欠損	同一個体の一部あり
22	*	S93 W69・I	(3.72)	(0.78)	(0.38)	(2.38)	下部欠損	
23	*	Ⅲ区検出面	4.18	1.32	0.86	3.49		軸部屈曲
24	* (?)	S96 W105・I	(3.71)	(0.71)	(0.65)	(4.04)	上・下部欠損	刀子の一部(?)
25	不 明	S90 W66・I	(2.83)	(0.78)	(0.38)	(2.08)	*	同一個体3片あり
26	*	S93 W72・II	(3.89)	(2.22)	(0.99)	(6.55)	不 明	鉋り金具?
27	*	溝?	(3.34)	(0.64)	(0.24)	(1.42)	上・下部欠損	
28	*	S93 W72・II	(6.71)	(1.07)	(0.48)	(3.48)	*	
29	*	Ⅲ区検出面	(4.11)	(1.96)	(0.45)	(5.69)	一部残	
30	キセル		1.64	1.47	(0.91)	(1.81)	頸部の一部のみ	銅 製
31	鉄 滓	11住覆土				2.23		
32	*	15住 *				3.99		
33	*	* *				3.86		
34	*	S69 W69・I				3.05		
35	*	S75 W75・I				95		
36	*	S75 W90・II				5.08		
37	*	S78 W81・II				5.88		
38	*	S87 W57・I				4.10		同一個体5片
39	*	S87 W69・II				128.0		
40	*	S90 W78・I・II				125.0		
42	*	S90 W72・I				2.85		
43	*	S93 W69・II				6.79		
44	*	S93 W87・II				9.95		



第124図 鉄器 (1)

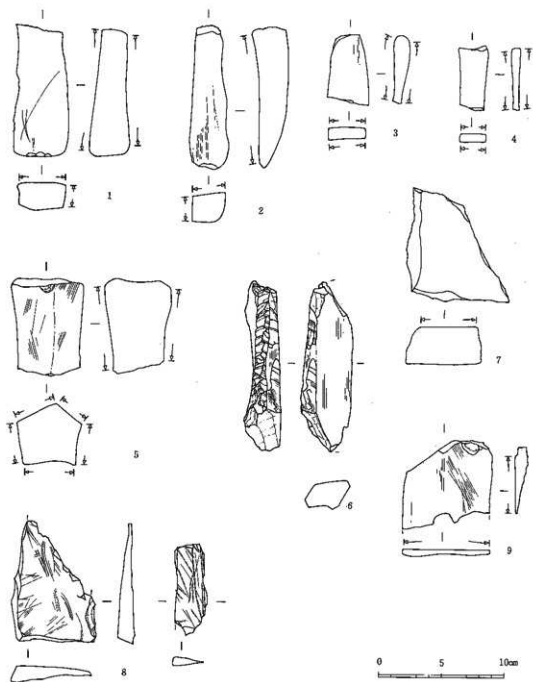


第125图 铁器 (2)

3) 石製品

表10 礫石一覧表

№	出土	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石質	砥面の数	欠損状況	備考
1	土壌14		(10.27)	4.00	2.60	(169.00)	凝灰岩	4	約1/4欠	
2	15住	覆土	11.30	3.10	2.36	119.00	砂岩	2	完	
3	S75 W72	Ⅱ	(5.68)	(3.42)	(1.30)	(30.80)	粘土質岩	4	約1/3欠	
4	S93 W69	I・Ⅱ	(5.10)	(2.34)	(0.73)	(12.45)	*	4	上・下欠	
5	5住№.13		(7.26)	5.41	6.99	(298.00)	石英質砂岩	5	約1/4欠	
6	2住№.61		(13.49)	4.29	2.24	(163.50)	砂岩	2	ほぼ完	製作痕(タガネ?) 顕著に残る
7	S78 W75	Ⅱ	8.92	8.21	3.05	—	*	1	約3/4欠	
8	S81 W84	溝?覆土	(9.52)	(6.79)	(1.36)	(69.51)	頁岩	1	約2/3欠	他に同一個体が 2片
9	8住№.3		(6.77)	(6.95)	(1.04)	(49.10)	砂岩	3	約3/4欠	



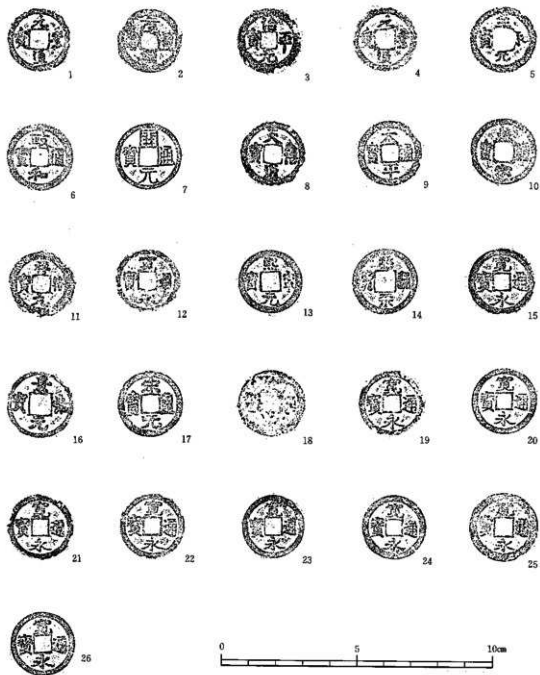
第126图 砭石

(4) 銭貨

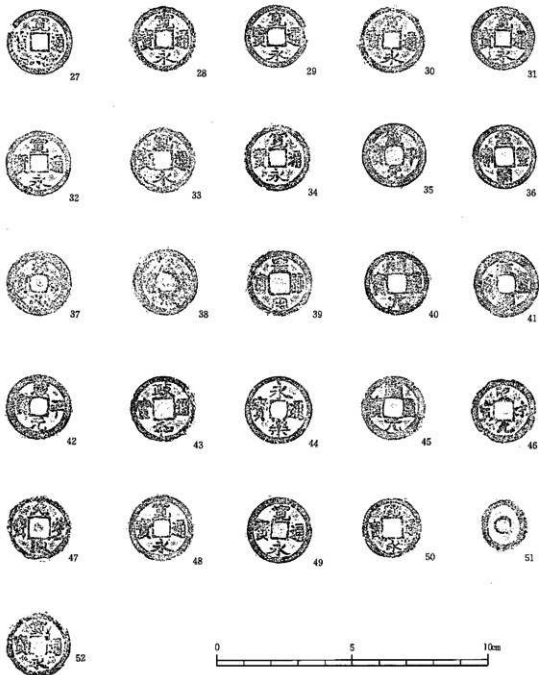
表11 銭一覧表

順	出土地	名称	初鋳年	径(mm)	重量(g)	拓本番号	備 考
1	土壌11	元豊通宝	1078	23.5	1.74	1	外周りが少々腐蝕している
2	土壌11	不明	—	24.0	2.19	2	腐蝕が激しい 元○○○か
3	土壌16	勝 銭	—	21.0	1.01		腐蝕が激しい
4	土壌16埋土	治平元宝	1064~7	24.0	2.41	3	腐蝕がすすむ
5	土壌18	貞享元宝	1233~5	(24.0)	1.69		2片割れ
6		治平元宝	1064~7	24.0	2.47		通宝の字が内側へ変形している
7	土壌18	元豊通宝	1078	23.5	2.49	4	腐蝕がすすんでいる
8	溝5	至道元宝	995~7	24.0	2.22	5	中央の穴の部分欠損して大きくなっている
9	S93 W72 15住埋土SE	政和通宝	1111	24.0	1.98	6	外周りが少々腐蝕している
10	火葬墓2	不明	—	24.0	7.81		二枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銭名判読不可能
11		開元通宝	621	24.0	3.25	7	完存
12		天禧通宝	1017~21	23.5	2.36	8	外周りが少々腐蝕している
13		咸平元宝	998	(25.0)	2.56		2片に割れた状態で出土
14	火葬墓3	不明	—	25.0	8.36		三枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銭名判読不可能
15	火葬墓3	不明	—	24.0	1.88		±量残 腐蝕激しく銭名判読不可能
16		不明	—	25.0	4.72		二枚付着の状態で出土、腐蝕激しく銭名判読不可能
17	火葬墓4	不明	—	(24.0)	4.05		四枚付着の状態で出土 ±量残 腐蝕激しく銭名判読不可能
18	火葬墓4	不明	—	(24.0)	3.35		四枚付着の状態で出土 ±量残 腐蝕激しく銭名判読不可能
19		不明	—	—	0.65		±量残 腐蝕激しく銭名判読不可能
20	墓址1	太平通宝	976	24.0	2.52	9	外周りが少々腐蝕している
21		皇宋通宝	1038	24.0	2.53	10	字が可成り磨れている
22		祥符元宝	1008	24.5	2.48	11	外周りが少々腐蝕している
23	墓址2	寛永通宝	1626	24.0	1.99	12	腐蝕すすむ
24		熙寧元宝	1068	23.5	3.78	13	字が少々磨けている
25		治平通宝	1064~7	24.0	3.91	14	字が少々磨けている
26		寛永通宝	1626	23.5	3.47		変形
27	墓址3	不明	—	24.0	5.25		二枚付着の状態で出土、両面裏面のため銭名判読不可
28		寛永通宝	1626	24.0	12.38	15	四枚付着の状態で出土
29	墓址4	寛永通宝	*	(24.0)	1.58		3片に割れた状態で出土、±欠損
30		景祐元宝	1034	24.0	2.93	16	腐蝕がすすんでいる
31	墓址5	宗通元宝	971	24.0	2.96	17	完存
32		不明	—	(24.0)	1.08		±量残 ○量通○か 腐蝕が激しい
33		寛永通宝	1626	25.0	14.39	18	四枚付着の状態で出土 ○永通○、寛永通○なので両面 寛永通宝と思われる
34	墓址6	寛永通宝	*	24.0	2.73	19	外周りが腐蝕している
35	墓址6	寛永通宝	*	24.0	2.79	20	完存
36		寛永通宝	*	24.5	2.21	21	外周りが腐蝕している 宝の字の横に穴が空いている
37		寛永通宝	*	24.0	2.26	22	外周りが腐蝕している
38		寛永通宝	*	23.0	2.15	23	
39		寛永通宝	*	24.0	6.92	24	二枚付着の状態で出土
40		寛永通宝	*	(24.5)	1.19		4片に割れ±欠損

41	墓址7	不明	—	24.5	17.66		六枚付帯の状態出土
42	墓址8	寛永通宝	1626	25.0	2.74	25	
43	墓址9	寛永通宝	+	23.5	2.82	26	欠存
44		不明	—	(24.5)	2.06		3片に割れた状態で出土、半量残、腐蝕が激しく銭名判読不可
45		寛永通宝	1626	24.0	4.06	27	宝の字の左上少々欠損
46		寛永通宝	+	23.5	1.97	28	寛と宝の字の間に亀裂
47		寛永通宝	+	23.0	2.04	29	中心の穴の外側が磨れている
48		寛永通宝	+	24.5	2.92	30	外回りが少々腐蝕している
49		寛永通宝	+	23.0	2.10	31	欠存
50	墓址10	寛永通宝	+	24.0	13.37	32	四枚付帯の状態出土
51		寛永通宝	+	24.0	2.12	33	腐蝕がすすんでいる
52	墓址10	不明	—	(24.0)	1.56		半量残 寛○○宝
53		不明	—	(24.0)	1.60		2片に割れた状態で出土、十欠損 寛永○○
54		皇宋通宝	1038	(25.0)	2.11		3片に割れた状態で出土、腐蝕が激しい
55		寛永通宝	1626	24.0	9.79	34	三枚付帯の状態出土
56	墓址11	咸平元宝	998	23.5	5.06	35	二枚付帯の状態出土、片面は裏が出ている
57		元豊通宝 祥符元宝	1078 1008	23.5 24.0	6.48	36 37	二枚付帯の状態出土
58		皇宋元宝	1253~8	24.0	2.43	38	字が可成り磨れている
59		皇宋通宝	1038	24.0	2.04	39	
60		開元通宝	621	23.5	3.17	40	字が可成り磨れている
61		元豊通宝	1078	24.0	2.71	41	
62		咸平元宝	998	24.0	2.20	42	元の字の左が欠損
63	墓址14	永樂通宝	1411	(25.0)	1.74		2片に割れた状態で出土
64		政和通宝	1111	24.0	2.63	43	外回り少々腐蝕
65		不明	—	—	2.29		4片に割れ十欠損、○通光○、又は○元通○か？ 腐蝕激しい
66	墓址14 東隣	永樂通宝	1411	25.0	5.63	44	二枚付帯の状態出土
67	墓址15	不明	—	—	1.07		細かい破片の状態出土、銭名判読不可
68	墓址15	開元通宝	621	24.0	2.81	45	裏表何かで磨っている
69	土18, 19, 20 検出面	不明	—	23.0	1.44		腐蝕激しく銭名判読不可
70		皇宋元宝	1101	24.0	2.24	46	
71	S75 W90 II層上SE	開元通宝	621	(24.0)	1.77		3片に割れている
72	S78 W81 SE~II層上	不明	—	—	0.34		半量残 腐蝕激しい
73	S84 W108 Ib層下NE	元豊通宝	1078	23.5	1.96	47	腐蝕激しい
74	S93 W105 NW II層上	寛永通宝	1626	24.0	2.76	48	外回り少々腐蝕
75		不明	—	24.0	20.18		五枚付帯の状態出土、両面裏側が出ているので銭名判読不可
76	S93 W108 II層上面SE	寛永通宝	1626	24.0	1.94	49	寛の字の右、永の字の左が欠損
77	S84 W93 I層SE	開元通宝	621	(25.0)	2.75		3片に割れた状態で出土、腐蝕がすすむ
78	W48 S78 ES 第I層	寛永通宝	1626	22.0	1.73	50	腐蝕がすすむ
79	S81 W90 NE I層	鎔 銭	—	17.0	1.91	51	
80	S84 W93 I層SE	皇宋通宝	1038	(25.0)	2.62		2片に割れた状態で出土
81	黒色土	不明	—	(25.0)	1.12		半量残、成○○宝 成豊元宝又は成寧通宝か
82	S75 W69 II層上SE	寛永通宝	1626	23.5	1.68	52	寛の字の右が欠損



第127圖 古 錢 (1)



第128圖 古 錢 (2)

Ⅱ 調査のまとめ

1 縄文時代の土器について

縄文晩期土器については既述の如く分類を行った。土器群の位置付けについてはおおよそ水Ⅰ式終末を主体とする事を述べたが、ここでは特定の器種等を挙げ、再度まとめをしておく。

i) 浅鉢について

本遺跡での特徴としては、①浅鉢Aは少なく、主要な構成要素ではない。②代って浅鉢Cが増加することが挙げられよう。

浅鉢Aは網状文モチーフb・cのみ見られ、器形も5を主体とする。この内容は水Ⅰ式の新しい段階を示しており、松本平ではトチガ原遺跡等で見られる。

浅鉢Cでは器形5の存在が目立っている。口外帯を欠き、頸部のくびれも形骸化、すなわち幅広の沈線文に近くなっている。

この2つの特徴は相関するものと受けとってよく、浅鉢A5から浮線文を省略したC5への変化が考えられよう。そして浅鉢Dは浮線文の消失と関連して新たに出現するものと受けとれる。

ii) 壺・深鉢について

本遺跡での特徴は①両器種ともCが主体となる②B類ではB2が多いことが挙げられる。

壺・深鉢B2は手法的にB1の省略・変化として捉えられよう。詳細な検討をする余裕はないが、B1の1条隆線→B2の1条沈線の変化が考えられないだろうか。多条の沈線帯も同様に技法の省略の可能性が高い。

壺・深鉢Cにおいては、組成に占める割合が増し、特にC'cの存在が目立っている。口外帯は消失の方向へ向うものの依然強く残る。壺は全般に体部の張りが弱く、器形3が現れる。

以上の特徴は壺・深鉢は基本的に無文化の方向をたどる。器形的には壺体部の張りが弱まり、深鉢との差がなくなりつつある過程が読みとれよう。特に壺の器形3は刈谷原遺跡に類例を求めることができ、水Ⅰ式以後につながるものと理解できないだろうか。深鉢の器形4は水神平式の壺と類似し、新しい要素であろう。

iii) 壺について

壺は本遺跡においても量的に少なく、器形の把握が困難である。今回あえて細分を試みたが問題点を残す。基本的には1から2への変化、2・3から4の派生を考え行ったが、他遺跡との比較や、資料数の増加を待って再検討する必要がある。

壺も壺や浅鉢同様、無文化をたどり、また精製品が減少するようである。器形の変化と合せ、朱槇文系土器等との関連の中で検討しなければならない。

iv) 第2類土器について

本類土器は第1類土器とは胎土・技法等、明瞭に異なる土器群である。中网信地方を中心に、水I式に伴出するものであるが、その出自・変遷等実体の不明な部分が多い。今回出土のものを御社宮司遺跡出土例と比較すると、沈線文を付す口端部が水平に取り付く。口頸部文様帯、特にレンズ状付帯文が細長く、立体感を失う・全体に整形（ミガキ）が雑になる点に違いが認められよう。第1類土器の位置付けより見て、この相違はおそらく時間差によるものと見られる。詳細な分類は今後の課題として、①口端部は内傾→水平に変化②レンズ状付帯文の退化する点のみ指摘しておく。

東海地方を含め、広範囲での資料集が必要とならう。

v) 第3類土器について

本文で述べた様に、榎王式～水神平式に位置付けられよう。そのほとんどは搬入品と思われるが地域の特定は困難である。口縁部突帯に貝殻背面による圧痕を付すものは、木曾川中流域(岐阜県)で認められるようである。内陸部で模倣されたものが搬入されていることも考えられよう。

vi) 土器組成について

土器組成については本文で触れたが、ここではまとめとして他遺跡と比較しておく。本遺跡では水遺跡や御社宮司遺跡と比べ、浅鉢の比率が3分の1程である。壺や第3類土器は各遺跡ともあまり変わらない。従って壺・深鉢の占める割合が他遺跡より大きい事が言える。

この様に組成上からも浅鉢の減少が示すように本遺跡の土器群がより新しい様相のものであることが言えよう。壺は他遺跡と変化なく、浅鉢の減少とは相関を示さない。新しい傾向を示しているものの基本的な構成は水I式のそれと変わらないと見てよいだろう。

vii) 針塚遺跡出土土器について

最後に、本遺跡の土器群に後続する資料として、針塚遺跡出土土器を取り上げ、晩期土器の観点に従って分類をしておく。尚針塚遺跡出土土器については先に『長野県史』に掲載したものの他、今回新たに実測したのもも呈示している。また、図の番号は『長野県史』に対応するものである。

①第1類土器

壺A'b 1点認められる。9は口縁部に小突起をもち、肩部の丸く張る器形2である。肩部は太い沈線を横走させ、段をつくる。体部外面の整形はケズリの後、2条1単位の原体により粗大な条痕を施す。整形の方向はB型である。内面は横ケズリの後ナデを行う。

壺Ca 4は器形2の特徴を示す。体部は肩の張り、ふくらみをもって底部に至るが、全体に歪みが大きい。底部は口径より小さく不安定である。体部の整形は、内面は口頸部を除き横にナデ、体部外面は縦方向にケズリを行う。口頸部は内外面ともケズリを行い、後ナデする。外面はケズリ・ナデ共に不十分で、輪積成形痕が残る。器厚も1cm前後で厚手である。

壺Cb 6・7の2点ある。7は器形3で、体部中位が屈曲して張り、菱形を呈する。小突起は上端に圧痕が付加され、4単位取り付く。外面の整形はケズリの後縦位に粗いミガキ、内面は横位ナ

デを行う。6は器形2ないし3で、肩が張る長胴の体部を有する。小突起は4単位設計、押圧を加える。肩部には深い非彫刻的な沈線を施し、上下を画す。肩部以上にはLRの縄文を9段前後横位に転がす。体部外面は縦方向ケズリの後、縦ミガキを行う。下半部は明瞭にケズリ痕を残す。

壺Cc 2・5・Aが該当する。2・Aは器形2で、肩部がやや張り、下半部は直線的に収束する。圧痕は2は口端面に深く工具を押しつけ、Aは口端側面にへら状具により刻む。内面は口縁部はケズリのちナデ、体部はナデを横位に行う。外面の整形はどちらも、3条1単位前後の条痕による。2の工具は先端の間隔が一定しない。方向は下半で縦位ないし斜位、肩部以上は左上り斜位～横位に施す。5は器形4で、体部は中位で強く張る。口端側面には刻目を連続させ、第3類土器に似せる。整形は内外面粗くケズリ(横～斜位)を行い、後ナデる。外面は最初2条前後の太い条痕を体部に施し(斜～横位)、さらに3cm巾前後の、間隔の一定しない櫛状具により縦位の整形を行う。

壺D 3は口頸部を欠く。体部上位に最大径をもつ器形2と思われる。肩部には2本の沈線を引き、その間に3本1単位の沈線文を山形に数単位連続させ、木葉文風のモチーフをつくり出す。沈線は彫刻的でない。外面は文様帯内外をミガキ仕上げ(縦位)する。

壺E 1は器形2を呈し、やや肩の張る体部を有する。口縁部は断面逆L字状に突起を貼付し、端側面には工具により深く圧痕をつける(口縁部圧痕a手法)。又、突帯上面には工字文風の沈線文を配する。沈線は深く刻まれ、沈線間、沈線内側縁にはミガキを施すが、沈線底面は未調整である。体部外面の調整はケズリの後、3条前後の間隔の一定しない条痕を縦位→斜位に施す。

Bは口頸部を欠するが、本類の器形2と思われる。体部は強く張り、長く直線的に収束する。外面の整形はケズリの後、6本歯の櫛状具により縦位～斜位に条痕を施す。

②第3類土器

壺A Dは太い頸より外反する口縁がつく。口縁端面は外傾し、浅く凹ませる。突帯は断面三角形を呈し、工具により深く圧痕を施す。体部は3条前後の、貝殻に似せた条痕を施す。方向は底部付近で縦位、それ以上を横ないしやや左上りに施す。胎土は第1類と同様、在地系である。

壺B1 11は肩部に区画文を有する。頸部及び肩部に横位の断面四角形の隆帯を横走させ、4ヶ所で縦位の隆帯により連結する。隆帯上には貝殻による押し引きを施し、区画内は波状文を貝により施す。口頸部及び体部は横位に貝殻条痕を施す(右→左)。突帯は下向きで、深く押圧する。胎土は東海系ではない。

Cは突帯をもたない。全面を貝殻条痕により整形するが、体部中位～頸部は羽状条痕となる。条痕は右→左、下→上に施される。胎土は東海系とは異なる。

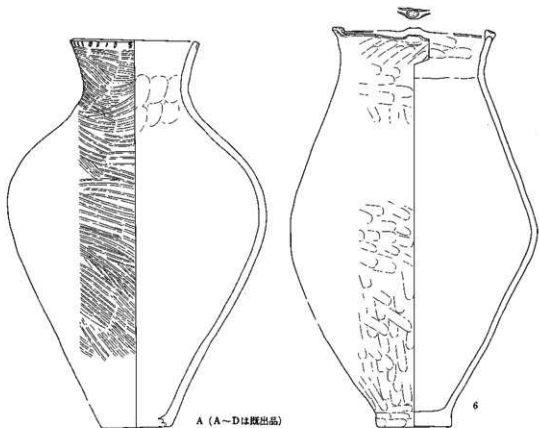
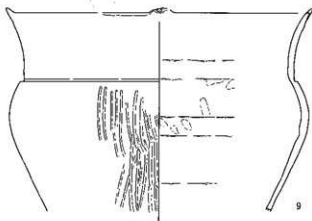
③第4類土器

石行遺跡晩期土器にはない類で、遠賀川系土器を扱う。12・13の2点がある。

壺 頸部及び肩部に突帯、沈線帯をおく。12は頸部に削り出し突帯を設ける。突帯上には沈線を1条付加する。肩部は3条の沈線帯をおく。

13は12より体部上半が上方にのびる器形であり、大きく外反して開く口縁部が取り付くと思われる。頸部・肩部にはそれぞれ9条の沈線帯がおかれる。それぞれの上端の沈線は、上側の側縁を削り取り、削り出しの名残をとどめる。

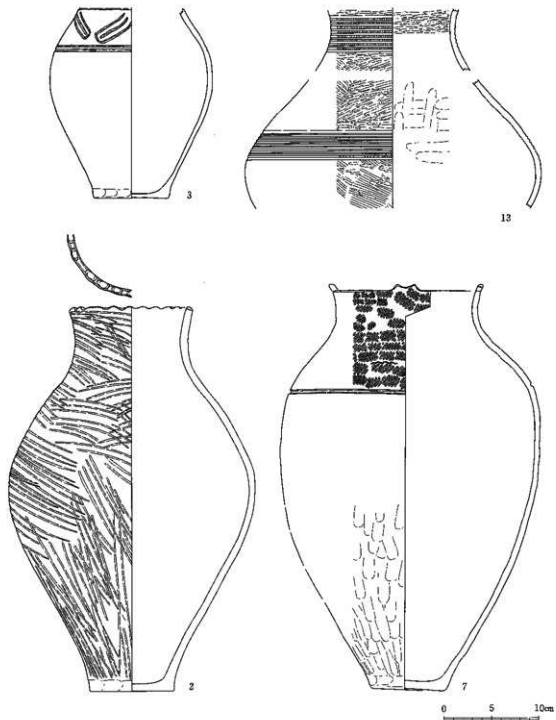
12・13ともにハケ整形→施文→ミガキを施す。下半部ではミガキは甘い。内面はナデ整形をする。



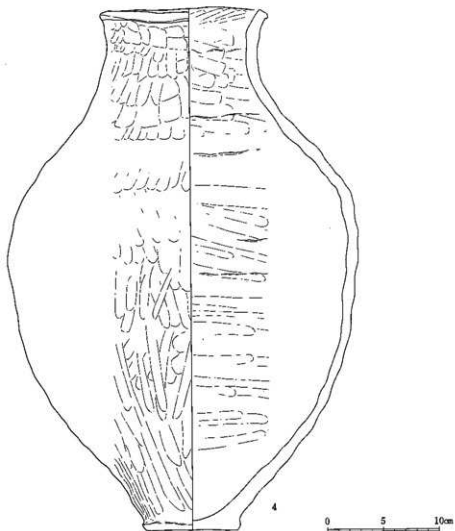
A (A～Dは既出品)

第129図 針塚遺跡出土土器(1)

0 5 10cm



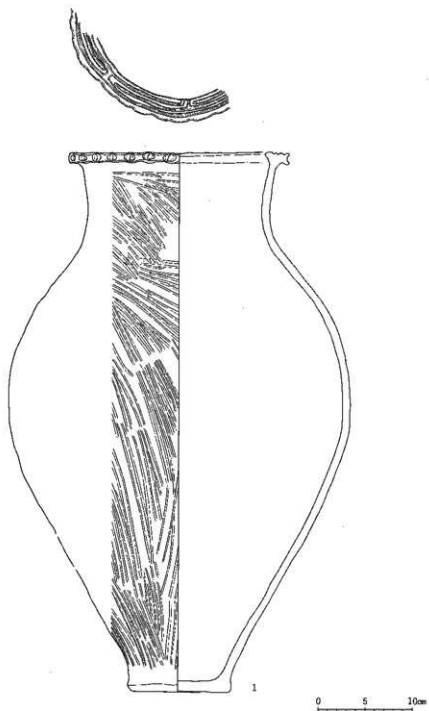
第130図 針塚遺跡出土土器(2)



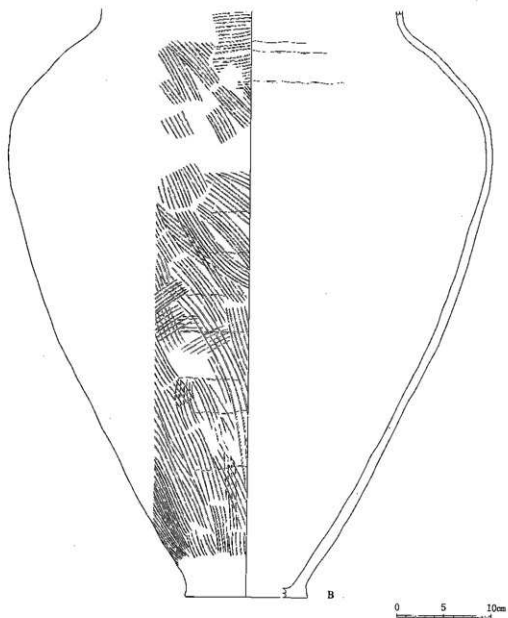
第131図 針塚遺跡出土土器(3)

④各類土器の位置付け

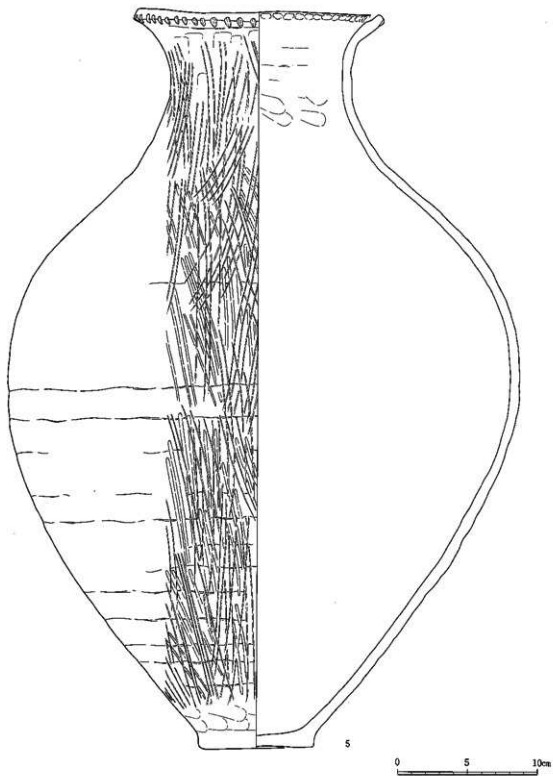
第1類土器 甕・壺ともに石行遺跡土器群の技法を踏襲するが、若干の変化も見られる。器形的にはほとんど変化はない。5は器形3であるが、第3類土器壺Bと類似し、影響を考えなくてはならない。刻目の施し方にもその傾向がうかがえる。整形については、ケズリの不徹底で器面の凹凸が消されないものが多く、細密条痕とは呼べない太い条痕や櫛状具を用いている。全体に氷I式の整形が省略・退化していると言えよう。施文では工字文のモチーフを彫刻的でない沈線により施文するものがあり(8)、氷II式に見られる有り方である。縄文の施文については北日本との関連を考えなくてはならないだろう。壺D(3)のモチーフは石行遺跡第2類に類例が見られる(305)。



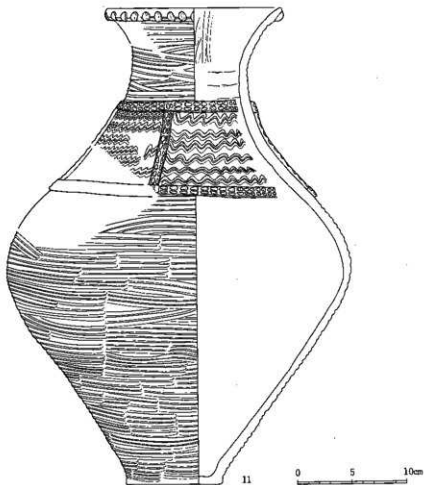
第132圖 針塚遺跡出土土器(4)



第133圖 針塚遺跡出土土器(5)



第134圖 針塚遺跡出土土器(6)



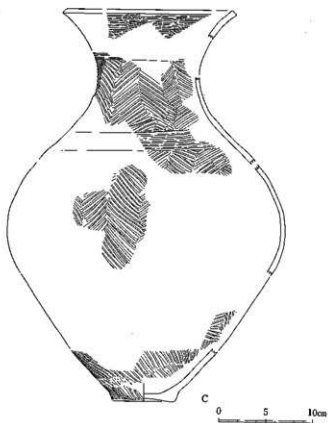
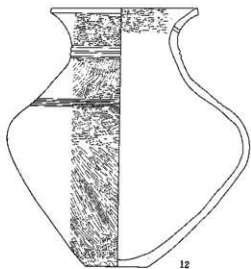
第135図 針塚遺跡出土土器(7)

第3類土器 東海系胎土の特徴を示すものがなく、在地あるいは比較的近接した地域での模倣品の可能性がある。工具は貝殻と、貝殻に似せた原体があり、後者は在地的な胎土であった。時期的には羽状条痕、波状文、押引文より水神平式併行と見て相違ないだろう。11の隆帯の有り方は、遠賀川系土器に類例を求められるかもしれない。水神平式にはない手法である。

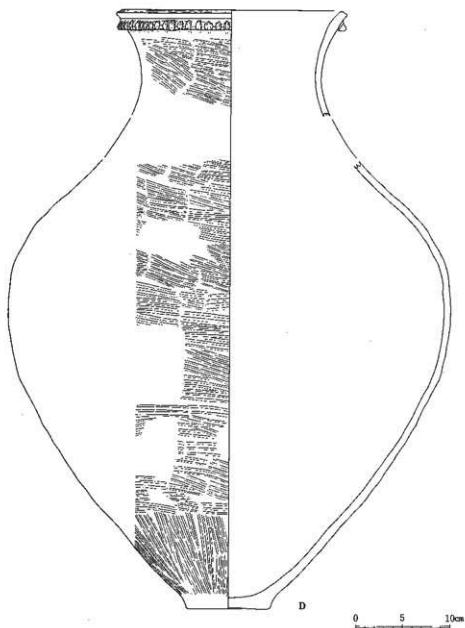
第4類土器 遠賀川系土器は、2点とも東海の「赤艶き土器」と異なり、畿内でのあり方に近い。畿内での編年を適用すれば、12は器形、手法よりみて第1様式中段階、13は同新段階の多条沈線を付すタイプである。12は胎土に多量の砂粒を混入する点でも、畿内のあり方に似ている。

以上各類についてまとめたが、第1類は水Ⅱ式、第3類は水神平式として良いだろう。従って、石行遺跡の新しい段階の土器とは併行か前後する時間関係を考えてよいと思われる。

今回は晩期土器については、時間のなささと筆者の力不足もあり、十分に吟味することはできなかった。まとめにあたり問題点と可能性を列記したが、今後の解明課題としたい。

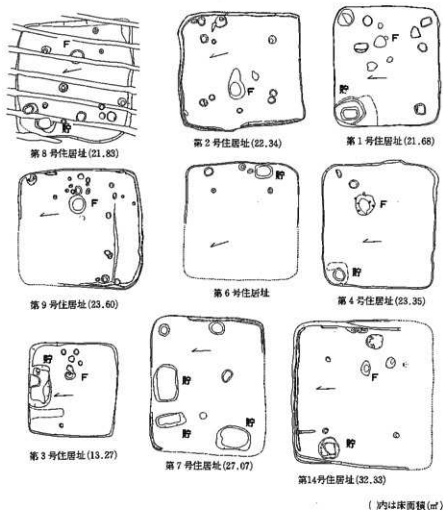


第136図 針塚遺跡出土土器(8)



第137図 針塚遺跡出土土器(9)

2 古墳時代の遺構について



Fが伊址、貯が貯蔵穴、貯蔵穴のまわりの一点線は円提状の凸堤である。2・6住を除き東西方向に主軸を有し伊が西奥柱穴間付近という構成で、貯蔵穴のあり方は北西隅によるもの(1・4・8・14住-9住?)と北壁中央下のもの(3・7住)の2通りである。3・9住は伊と奥壁間に小ピットをいくつかもち、2住は柱穴配置よりみて拡張の可能性が指摘できる。

第138図 古墳時代の住居址一覧

3 古墳時代前期の土器について

古墳時代前期の遺構は竪穴住居址9棟・土壌7基を数える。いかなる要因に基づくものかは不明だが、古墳時代に入ると、竪穴住居址内に残存する遺物の絶対量が突如として増大する傾向にあり、石行遺跡もその例外ではなかったようである。遺存器種に偏りを認めるものの、それぞれの住居址より良好な資料を得ることができた。弥生時代後期末から古墳時代前期にかけて、全国的規模で土器が移動し、それらの器種・系譜・数量等を比較・検討すれば、社会情勢や地域的特質をある程度まで推測し得るといわれるが¹⁾、これまで当該期集落址の調査例が極めて少かった松本平にとっては地域的特質の一端を解明する上での恰好な資料になり得ることは言うまでもない。ここでは、竪穴住居址出土資料を主として各器種毎に検討を重ね、その系譜及び土器群の編年の位置を明らかにし、今後の松本平、ひいては長野県全体の古式土器研究における問題点を2・3抽出することで古墳時代前期調査報告の結びとしたい。

1 各器種の検討

変形土器

ハケ具を主要な調整工具とし、口縁を「くの字」に鋭く外反させ端部を丸く、あるいはやや尖り気味に終らせるものを基本形式とするようであるが、他に畿内・東海・北陸系の土器が含まれる。

在地で主に製作されたものは、大きく平底甕と台付甕との二種に分けられる。底部形態の判別可能なもの20個体を見ると、平底甕が11個体、台付甕が9個体とほぼ同じ割合で併存している。こういった現象は、本遺跡に限らず長野県全体の傾向として看取できるが²⁾、「全国的斉一性」の波に乗りながらも「地方的特殊性」が残るひとつの表れであると考えられる。他に、2号住28、4号住48のように口唇部をやや彎曲させるヨコナダ調整は、弥生時代の手法を受け継ぐものであろう。

畿内系の甕は、1号住11・15、2号住27・33・34、4号住52、8号住66、9号住73の計8個体が出土した。いわゆる「布留形甕」を模倣して在地で製作したものが多く、その中で1号住15のみが、畿内地方のそれと何ら技法的違いをみせないものである。但し、胎土の内容物から勘案すると、在地品ともいい難いが、少くとも畿内地方より直接搬入されてきたものではない。2号住33、4号住52は比較的良好に似せているが、後者の方は内面にヘラケズリを施しているにもかかわらず器壁を薄く仕上げておらず、また前者も頸部内面と口唇部調整に若干の差異を認める。その他、単に底部外面をヘラケズリすることで丸底状に仕上げ「布留形甕」に似せようとしている1号住11、2号住27等も存在する。

東海系の甕はS字状口縁台付甕に限定した。5個体出土している。1号住16は、茶褐色を呈し、かつ焼成堅敏な土器で、金雲母の混入が微量である点を除けば「藤井原S字」とも称される東海東部地方のS字状口縁台付甕に酷似している³⁾。2号住36も同様な色調及び焼成からなるが、非常に小形でしかも同種のものを最低3個体は連ねるといった特異な形態を呈している。類似資料は、静岡県

富士宮市野中向原遺跡で出土しており、神奈川県平塚市御所ヶ谷遺跡でも認められるという。したがって、単に例外的存在として片付けるわけにはいかず、確固たる何らかの機能的役割を果たしていたに違いない。3号住40の外面調整は粗雑で、ヘラケズリの後乱雑なハケ調整を施している。ヘラケズリ痕を確認できた資料はこれだけであるが、1号住16・土壌1の80のハケ調整はハケ目痕が浅くかつ一重で終らせる部分も随所でみられることから、器壁を薄く仕上げるために用いられたものではないと考えられ、やはりハケ調整前のヘラケズリを想定せざるを得ない。あわせて、口縁部及び胴部の形状、三連甕の存在から、これらS字状口縁付甕の系譜は東海西部地方の濃尾平野に求めるよりも、むしろ東海東部地方にあるのではないかと考えられる。

北陸系の甕は2号住35が該当する。口縁部を「くの字」状に強く外反させ端部を面取りする点を特徴とするもので「能登系甕」あるいは「くの字口縁甕」と呼ばれている。北陸地方東北部（能登・越中・越後・佐渡）に分布している。搬入品の可能性がある⁴⁾。

壺形土器

口縁部形状により、有段口縁壺・直口壺・短頸壺・広口壺・受口壺に分けることが可能である。

有段口縁壺は、3号住37と8号住65の2個体である。ともに頸部から二段に外反する口縁形態をとる中形品で、また、ミガキ調整が入念でなくその他の要素においてもあまり入念さを感じ得ない土器である。口唇端部に面を有し端部外側がやや尖り気味になっている点は、2号住32の甕と等しいが、この種の手法の系譜は不明である。

直口壺は大形・小形に分かれ、大形のものに8号住63、小形のものに1号住4・5が該当する。8号住63は、口唇端部に平坦面を有し、また、口唇部をヨコナデすることで端部に向かうにつれて器壁が薄くなり最終的にはわずかに外反している。これは、畿内地方の直口壺にしばしばみられる手法であり、加えて東海西部地方には大形直口壺自体の存在が極めて客体的であることから、畿内地方に系譜が追えそうである。1号住4・5は小形直口壺としたが、胴部形状を知り得ないもののむしろ長頸の中形壺の部類に該当する可能性の方が大きい。いずれにしても、系譜はやはり畿内地方に求められる。

口頸部が「ハの字」状に外反する短頸壺が在地大形壺の主体になるようである。2号住22、9号住68、14号住75計3個体を図示したが、他に同種の口縁部小破片を多数認め得た。この種の壺は普遍的に分布するため、一概に系譜地を決定することはできない。弥生時代後期末に始まる在来土器の胴部球形化・頸部縮小化・口頸部短縮化・無文化は、東海東部地方以東地域の共通現象であり、中部高地もその例外ではない。案外、箱清水式の壺からのスムーズな型式変化として扱えられるのかもしれない。但し、その場合においても、該期における畿内・東海地方の影響を軽視できないことはいうまでもない。

受口壺は2号住より出土している。受口壺は、飯田・下伊那地方に限らず松本平南端に至るまで確実に分布しているが、受口部外面の寛刺突文を意識した櫛描文から察すれば、やはり飯田・下伊

那地方の影響としか考えざるを得ない。在地で製作したものと思われ、「中部高地型」の櫛描波状文で飾られている。独自の発展を遂げる東海西部地方を除いて壺の無文化現象が著しくすすむ中、装飾された受口壺が該期に至るまで残る例を他に知らないが、駿河から相模川西岸にかけての地域においても装飾壺の残存例を示す報告がいくつかなされている。比較的大形のものが目立ち、本遺跡出土資料も通常のものに比べ一回り大きい。特殊な機能を果たすためには、「加飾する」だけでなく「大形」でもなければならなかったのではないだろうか。

鉢形土器

鉢には、弥生時代から系譜が追えるもの、小形丸底土器に類するもの、口縁が二段に屈曲するもの、その他がある。

先行形式の残存と思われる土器は、3号住38と4号住43である。但し、該期に至っては赤色磨研されることはない。

小形丸底土器に類するものは1号住1のみである。口頸部が短かく、かつ、欠くことのない筈の口縁部内面のミガキ調整が認められないものの、体部の形状を重視して一応小形丸底土器の範疇で考えておきたい。典型的なものは、2号住覆土中より小破片が1片出土しているのみである。

口縁部が短かく二段に屈曲する鉢の出自が畿内地方にあり、小形精製土器群のひとつに数えられていることは自明のことである。しかしながら、本遺跡で出土した1号住6、8号住62、14号住76は、いずれも粗製品であり形面的にも大きな差異を認める。完全な模倣品であることは胎土の上からも明らかである。

器台形土器

2個体出土している。一般に該期の小形器台には、器受部が皿状のもの、口唇部を短かく直立させるもの、口縁部を二段に屈曲させるもの、長く外反する口縁を有し器受部を深くさせるもの等の種類があり、後二者は東海西部地方の元屋敷式に出現するようである。4号住45は、脚部形状に趣きを異にする点があるものの器受部形状からすれば最後に挙げた形式に該当させても差支えなく、また、9号住69は、広範に分布する形式であるが、千鳥状の透孔を有する点から同様に東海西部地方に系譜を求めることが可能であろう。

2 編年の位置

石行遺跡の古式土師器が、畿内地方の布留様式・東海西部地方の元屋敷様式のある時期と時間を共有することは明白である。長野県ではというと、かつて岩崎卓也・桐原健両氏による編年研究⁽⁶⁾以後、それらが踏襲されることなく現在の盛んな細別の編年研究に至っており、明確な様式名が付されないまま、各研究者独自の考えによる「期別」が氾濫している状況にある。また、細別の対象となる時期が古墳出現前後の時期に集中しているため、小形丸底土器出現以後の細分研究は、山下誠一氏に目を見張る論考がある以外積極的に行われていない⁽⁶⁾。ならば、様式論的見地のもとに時間軸を再構成し、石行遺跡の古式土師器の編年の位置を措定しなければならないのであるが、資料的に

問題があり分析に費す時間も残されていない。したがってここでは、正式ルートを踏まずに、編年の確立しつつある畿内及び東海地方の研究成果を参考にし、当該地方に系譜があるとした菱形土器の形式的特徴から、あくまでも〇〇式併行期という表現に留めることにする。尚、畿内・東海地方の編年は寺沢薫・加納俊介両氏の編年観に準ずる¹⁷⁾。

まず、布留形菱の口縁形態をみると、1号住15は矢部分類「f手法」、2号住33は「g手法」、4号住52は「h手法」により作出されたものと思われる¹⁸⁾。「f手法」及び「h手法」は、その占める比率に増減こそあれ布留〇式以降長期に渡って存続するため、単体を比較して見ての時期決定は許されない。決め手となり得るのは「g手法」であり、これは布留2式以降に登場する。さらに石行遺跡の土器群が「小形精製土器群崩壊後」の布留3式まで下る管がないから、布留2式に併行する可能性が大きいといえよう。S字状口縁台付甕に目を転じてみると、肩部横へけ調整が消え失せ、口唇内面には一条の凹線を伴うことから月の輪分類「A₅類」の属性を具備している¹⁹⁾。「A₅類」は「A₄類」とともに月の輪新段階(=大郭式新段階)、東海西部地方に対応させれば元屋敷式新段階に時間を共有する場合が多いという。寺沢編年「布留2式」と加納編年「元屋敷式新」段階が併行関係にあることを勘案すれば、外来系土器二者の時間的矛盾のない石行遺跡の土器群が当該期に併行するという結論を得ることができる。

3 二・三の問題

東海東部系土器の問題

石行遺跡出土のS字状口縁台付甕の系譜が、東海東部地方にあることを指摘した。同系統と考えられるものが、岡谷市新井南遺跡2号住・諏訪市本城遺跡31号住・茅野市下蟹河原遺跡・伊那市堂外垣遺跡1号住においても出土している。また、下蟹河原・堂外垣遺跡例では大郭式に比定できる菱形土器が共伴している点からも、より東海東部地方との結び付きを裏付けている。類例に乏しいものの、諏訪盆地が分布域の中心になるのではないかと思われる²⁰⁾。

東海東部地方に系譜を求めたが、直接的には、東海東部地方色の濃い甲府盆地を当てた方が自然であり、それが妥当であるならば現在の甲州街道に平行する伝播ルートが想定できよう。詳細な検討は資料の増加を待たねばならないが、甲府盆地の影響力は決して微小なものではなく、県内で諏訪盆地だけがひとり独特な地域圏(大郭式土器圏)を形成していたことは想像に難くない。そして諏訪盆地に通ずるいくつかの峠道を越えて、松本平や伊那谷北部、あるいは上田・佐久平にも少なからず影響を及ぼしていたものと思われる²¹⁾。

北陸東部系土器の問題

北陸東部系「くの字口縁菱」の出土は、松本平においては初例のことであり、県内に限れば分布域の南限としておさえられる。多くは東北信地方に分布しており、遺構単位では甕の主体をなす場合もある。長野県を離れると、畿内・東海地方には見当らず、神奈川県伊勢原市久門寺遺跡の例²²⁾を除けば埼玉県岩槻市平林寺遺跡を南限とする関東地方(主体は石田川式分布圏)に多数認め

られる。広範囲での一方的な土器の流出として看取でき、そこには比較的規模の大きい人間の移動を認めざるを得ない。その社会的背景には興味深いものがあるものここでは触れない。

上記の移動は明らかに北信→東信→関東地方という単線の経路が流れ、その場合の長野県の役割は、經由地であったと同時に、一堅穴住居址出土遺物の主体になることもあるから入植地でもあったことがうかがえる。この種の土器は、現在のところ多時期に渡って存在するが、時期毎の分布密度を明らかにすることで、入植の在り方を推測し得るのではないかと考えている。また、北陸東北部地方の集団が東北信地方に与えた影響を考えなければならず、まずは土器に表象化される諸様相を細かく観察することが先決となってくるであろう。

4 まとめ

石行遺跡の古式土師器が、おそらくは布留2式および元屋敷新段階に多くは併行するとした。しかしながら個体単位でみるならば、新旧関係が成立しそうなものも少なくない。型式的把握と様式的把握といった立場の違いによって起こる現象として捉えたいが、土器の製作技術の流れを型式学的に序列することは欠くことのできない作業であり、それとは逆に、型式の変遷を見極めた上で新しい技術と古い技術により製作された土器がある時期併行して製作・使用されたという事実をつかむことも文化内容を推察するのに重要である。この二点を明らかにするためには比較資料の増加を待たなければならないが、良好な一括資料を得た石行遺跡の意義は、様式構造の不明瞭な長野県において大きいといえよう。またS字状口縁台付壺及び北陸東北部系壺の分布より導出した内容については決して憶測の域を出たものではない。しかしこれらの土器が、地域社会の構造を理解するひとつの手掛りになることはまちがいない。批判的となることによって、より正当な評価がなされることを期待したい。

以上、焦点を絞って簡略にまとめてみたが、紙数に限りがあるため出土例の提示はおろか引用文、註文においても最少限に留めさせていただいた。先学の業績を充分生かしきれず、また誤解を生む点も多々あったのではないと思う。御寛容の上、御批判、御教示がいただければ幸いである。

註 1 岩崎卓也 1984 「古墳出現期の一考察」[中部高地の考古学] 長野県考古学会

2 直し、飯田・伊那地方では台付壺の比率がやや高いようである

3 小川貴司 1983 「特別展図録 西〜四世紀の東国」八王子市郷土資料館

4 佐沢忠氏御教示

5 木代泰一 岩崎卓也 1981 「城の内」[史学研究] 東京教育大学文学部紀要XXXI

6 網原隆 1967 「常陸における古式土師器の位置」[俗義] 19-8

7 山下誠一也 1965 「信川遺跡群 I」飯田市教育委員会

8 西氏のそれぞれの編年作業は、方法論的に納得でき、畿内地方の様式変化をも意識した東海地方の加納編年と畿内地方の寺沢編年は自ずと矛盾なく整合している。

9 寺沢康雄 1985 「穴屋遺跡」奈良国立歴史考古学研究所

10 高柳野行雄 加納俊介他 1981 「月の輪遺跡群」富士宮市教育委員会

11 諏訪地方にS字状口縁台付壺が主体的に存在することは、既に山下誠一氏が指摘している。

12 上田市神木遺跡5号住より東海東部系の壺形土器が出土している。上田平はS字状口縁台付壺の出土例も比較的多いようであるが、発見していないため高柳についての言及は避けたい。

13 現在整理中、立花氏氏の教示によれば供養途中の状態にありながらも壺を合せて既に100片以上認められているという。周辺地域には今のところ出土例がなく理解し難い。

Ⅳ 結 語

紙敷の都合で本文中で触れられなかったことについて述べて結びとしたい。

遺跡の層序のこと。Ⅰ～Ⅲ区は耕作土下にすぐ二次堆積ロームをもっており、その面で縄文～平安までの遺構が捉えられた。しかしⅣ・Ⅴ区は谷状地形で検出面まで深く、時期毎の重複もあった。Ⅴ区西部では50～100cm 耕作土を剥ぐと近世墓址が現われ、30cm 下層で中世～平安の遺構検出、更に縄文晩期の包含層はこの下部にあたり土器集中区はその深さではじめて発見できた。しかもこれらの土層は黒褐～暗褐色腐植質土で、層中に切り込む同質の土を覆土とする遺構の検出は非常に困難なもので、小規模なピット等の見落しは充分考えられる。

晩期土器集中区のこと。8ヶ所の発見があったが、7を除くと他は小規模で整理にいたって図示できる土器のないものまでであった。とは言え調査中は、周辺とは明らかに異なる土器片の集中を示していたのだが、この中で6は整理を通じて特異なものであることが判明した。小形の一括品が多いのである。これは7などの単なる廃棄箇所とは若干性格を異にしていると考える。7についてみればとにかくその集中度はすさまじいもので調査時に一度土器片を露呈させると次には足を踏み込めないという状態であった。

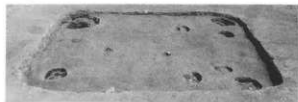
縄文時代の遺構、焼土面とピット群のこと。焼土面は文字通り地山が焼けていたものでその一帯から多数の晩期遺物が出土したこと、それ以降の土壌・ピットすべてに切られていたことにより縄文時代晩期と判断した。近くの土壌37がやはり同期の土器を多量出土し、覆土下層に多量の焼土をもつことから、双方一体のものかもしれない。ピット群は谷（Ⅴ区）の南方やや高いところにあり、その一帯は地山がロームでこれに掘り込まれていた。中央部に土壌8・9をもちこの中からは晩期土器が出土したが、周辺で他の時期の遺物は皆無だったので概ね時期を示すものと理解した。

Ⅳ区からⅤ区にかけて自然流路の跡があったこと。同区の中世～平安の層の上下に断続的に存在していたとみられるものが何本か発見された。最古のものは溝7に通ずると推定される。断面観察を行ったが紙敷の都合で掲載していない。

溝について。Ⅰ～Ⅲ区を通るもの、Ⅳ区北端を通るもの、Ⅴ区の中に何本か、溝があった。Ⅴ区のものの中世～平安の遺構と関連するものと自然流路の最古のもの、他は溝中から縄文時代の遺物を微量出土したが時期不詳である。

以上に述べた他にも調査中に発見・観察できたことは多くあった。それだけ大規模で複雑な遺跡であり調査であった訳だが、本書がそれをどの程度伝えられるものになっているのか、不安は常に念頭を去らない。

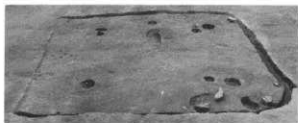
最後になりましたが、この大規模な調査が無事終了できたことはひとえに地権者の皆様、寿土地改良区他地元関係各位の御理解と御尽力の結果であります。記して感謝申し上げるとともに今後の調査においてもよろしくご願ひ申し上げる次第であります。



第1号住居址



同左貯蔵穴



同 上



同遺物出土



第2号住居址



同左遺物出土



第3号住居址



同 左



第4号住居址 (奥は3住)



同左 (奥はロームマウンド)



第6号住居址



同左炭化材出土



同上



同上



第7号住居址



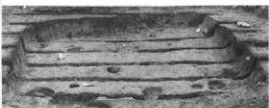
同左遺物出土



第6号住居址柱材？



第8号住居址



同左



第9号住居址

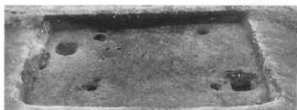


同左

第2图版



第14号住居址



同上



第5号住居址



第11号住居址カマド



第5号住居址



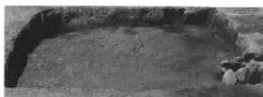
同左貯蔵穴



第5号住居址カマド



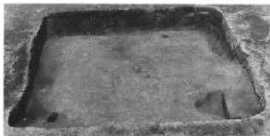
同上



第11号住居址



同左



第10号住居址



同左

第3図版



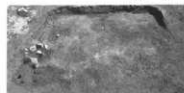
第12号住居址



同左



第13号住居址



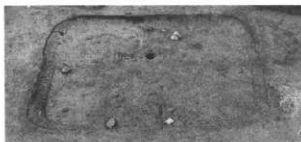
同左カマド



第17号住居址



第15号住居址



第16号住居址



第19号住居址

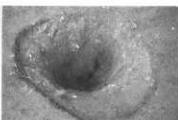
第4図版



土城56



土城9



土城6



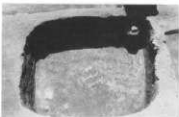
土城1



土城2



土城4



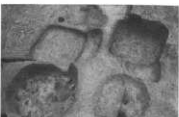
土城12



土城13



土城、14右・15左



土城、11・14・18・19



土城16



土城11



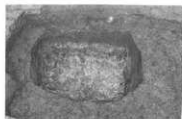
土城18



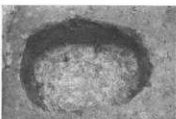
土城17



土城21



土坑22



土坑23



土坑25



土坑27



土坑28



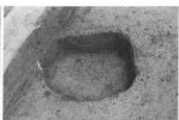
土坑32



土坑32陪



土坑34



土坑36



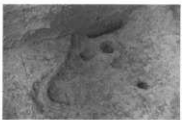
土坑36陪



土坑39



土坑44



土坑48



土坑51



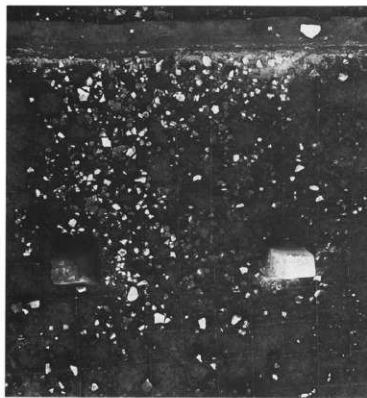
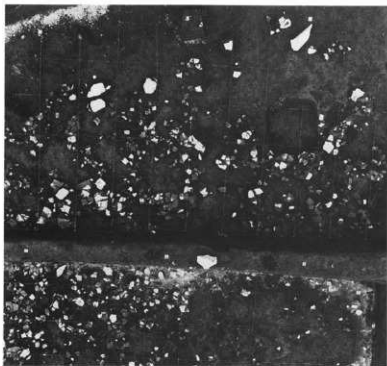
土坑52

第6图版



第7图版

土器集中区7



土器集中区7

第8図版



石行通跡表土除去



岡住居址掘り下し



調査風景



調査風景



写真測量



写真測量



土器集中区7



土器集中区7



108



70



113



110



267



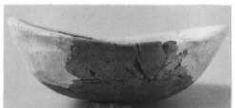
274



282



11



111



270



172



171

第10図版



295



268



252



273



259



271



258



75



72



28



60

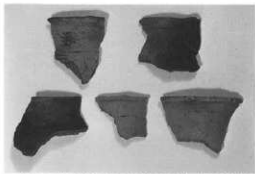


69

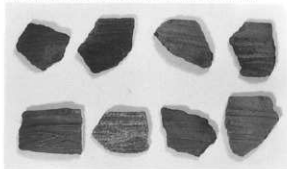
第11図版



第1類 浅鉢A(上)・浅鉢D(下右)・壺A(下中)・甕A(下左)



第1類 壺A(上左)・B2(上右)・C(下右)・C'(左)



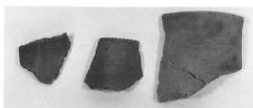
第1類 浅鉢A



第1類 壺E



第1類 深鉢B1(上右)・B2・B3(下右)



第1類 壺B3・C'(右)



第1類 壺D(左)・第2類(右)



第3類土器



舟形土器(上左)・耳付筒形土器(右)・注口土器(下左)



深鉢C'e(左)・C'(右)



深鉢C'(左)・深鉢C'e(右)



甕B 2



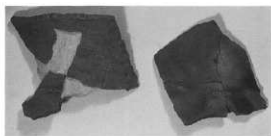
甕C'(片口形)



深鉢B 2'e



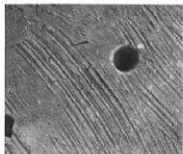
甕B 2(左)・C(右)



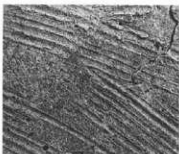
甕E 1(肩部夾帯)



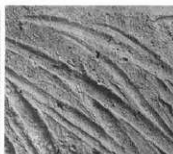
甕C



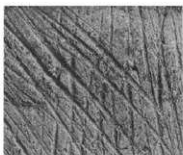
細密条痕(密)



同左(粗)



棒状工具による条痕



棒状工具による条痕



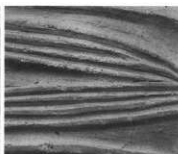
墨糸文



浅鉢Aの浮線文



浅鉢Aの浮線文



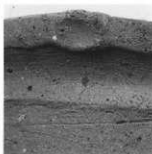
浅鉢の浮線文(彫刻時の痕跡残す)



浮線文(沈線文に近いものか)



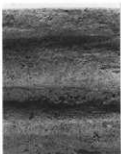
浅鉢B1の沈線



浅鉢B2の沈線(1条)

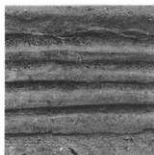


同左(2条)



同左(2条)

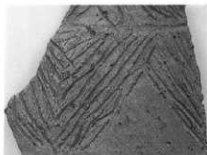
第14図版



甕B2の沈線



甕B3の沈線



甕Dの沈線



甕Eの突帯・圧痕



同左



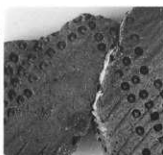
同左



口縁部圧痕a手法



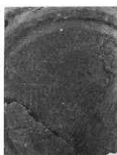
甕Bの刺突文



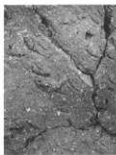
同左



甕Dの刺突文



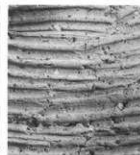
第2類土器の成形
(ハケ状工具による調整)



第2類土器内面
(爪の圧痕?)



第2類土器の沈線



第3類土器貝殻象痕



同左

第15図版



第3類土器波状文(貝殻)



第3類土器羽状条痕(櫛状具)



第3類土器突帯(ヘラ押圧)



第3類土器突帯
(貝殻原体による押圧)



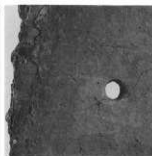
同左(指による押圧)



同左 貝殻背面押痕



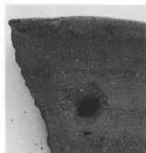
同左



深鉢C(200)の穿孔、粘土の塗られた破断面



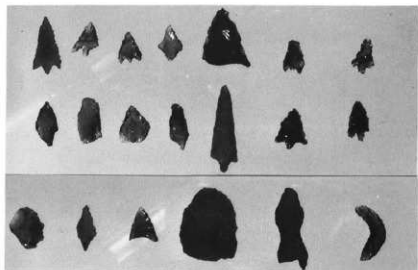
壺・浅鉢の穿孔(焼成前刺突穿孔)



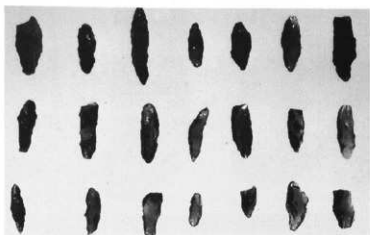
甕の穿孔(焼成前回転穿孔)



第16図版



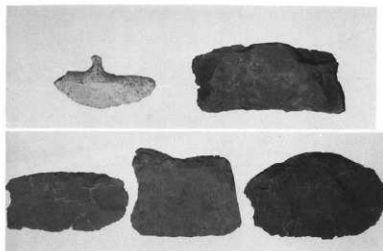
石 類
異形石器



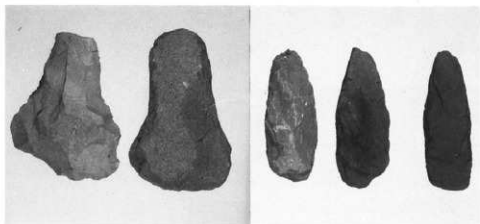
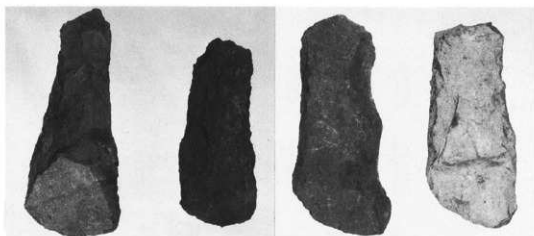
石 錐



ピエス・エスキーユ

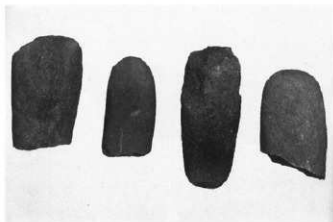


石 匙
スクレーパー



打製石斧

第18図版



磨製石斧

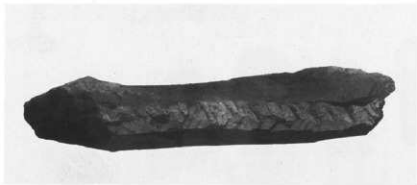


凹状石器



石製品

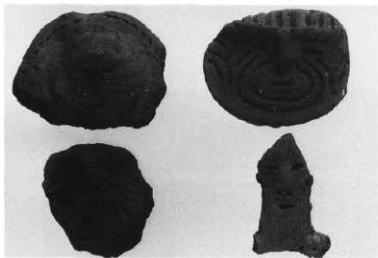
第19図版



砥石製作痕



土 偶



第20図版

松本市文化財調査報告№47

松本市赤木山遺跡群Ⅱ

昭和62年3月20日印刷

昭和62年3月31日発行

発行 長野県松本地方事務所
松本市教育委員会
印刷 電算印刷株式会社

